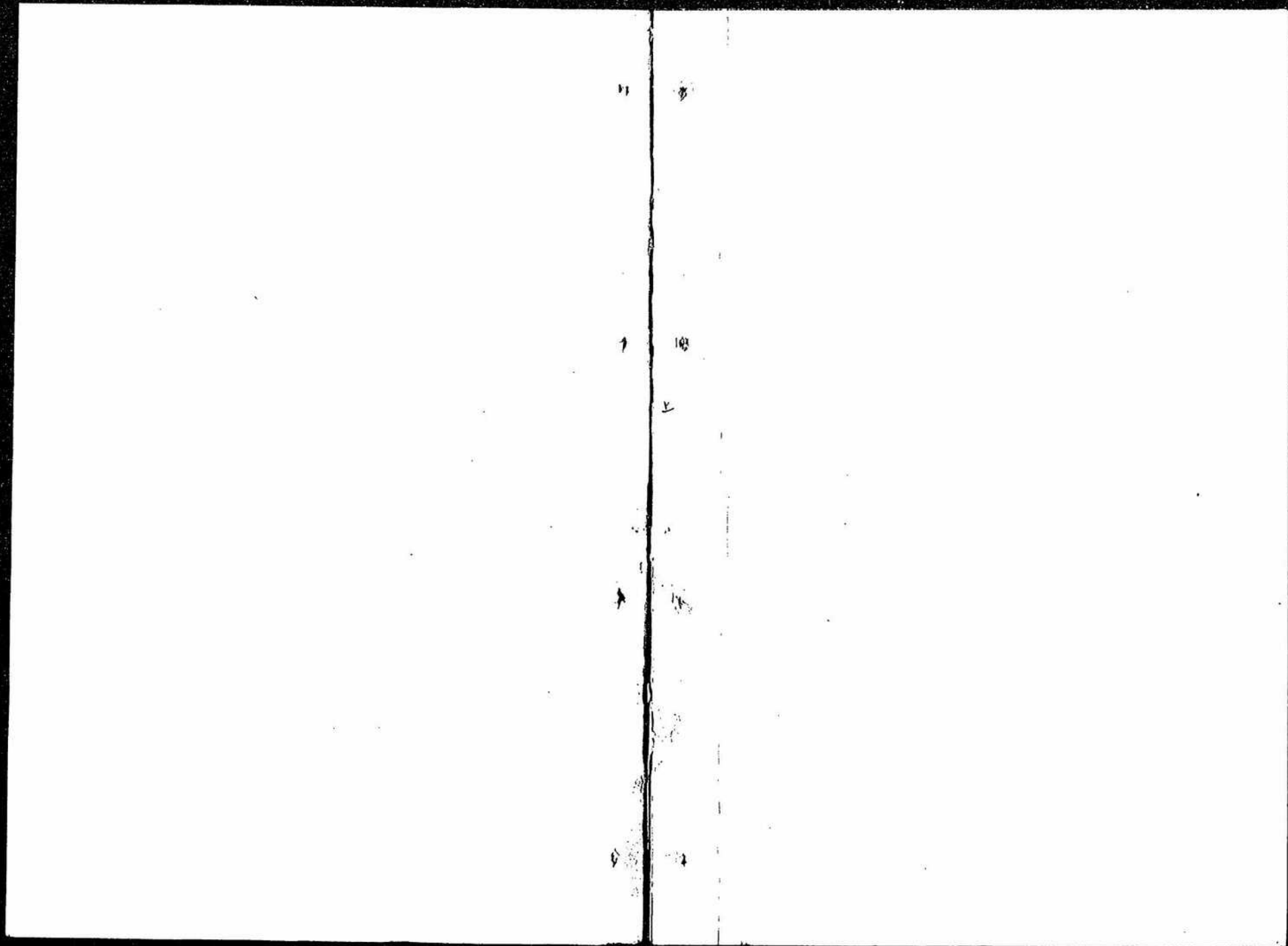


聯邦通商戰日誌

全畫院總裁官房
調查課編纂





333 (8)1111 祕

ソ・通商-No.1
(P. 1-P. 138)

333
148

第二次世界大戦日誌

國別戰時日誌之部
ソ聯邦篇 其ノ二 通商戰日誌

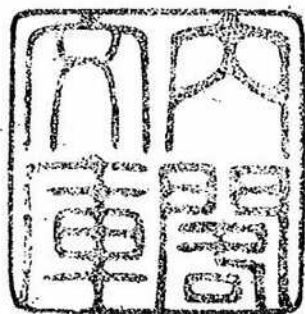
91129 ソ 聯邦通商戰日誌

第一號

(一九三九年八月—十二月)

企畫院總裁官房調査課編纂
昭和十八年三月

内閣文庫
九一五九号
和書
冊



ソ 聯 邦 通 商 戰 日 誌

(一九三九年八月—十二月)

第 一 號

八月	九月	十月	十一月	十二月
.....
(一)	(三)	(六)	(九)	(二七)

凡 例

- 一、本日誌は外情研究協議會所定の研究實施要綱に據り企畫せられた第二次世界大戦日誌編纂事業の一部を成すものである。
- 二、本日誌は始めて爲される新しい試みであるが、資料の系統的整理より深き研究の爲の素材及手掛り、諸政策の経緯又は事件發展連鎖の把握、之等の諸點に於て本日誌が貢獻を與する所は決して尠くないであらうことを信ずる。
- 一、本日誌は各國別に政治外交軍事日誌、通商戰日誌及國內經濟日誌の三部作を以て構成される。
- 一、通商戰日誌に於て収録せらるべき主要内容事項は次の如くである。
- 1 通商戰に對する戰時機構の動き
 - 2 經濟封鎖措置(物資の輸出入措置等)
 - 3 海外市場獲得及物資確保策
 - 4 敵國の海外市場攪亂
 - 5 通商交渉及協定
 - 6 通商交通線を繞る戰ひ(凡ての交通通信關係事項を含めしむ)
 - 7 船舶の動き——圍船、建造、擊沈、拿捕、喪失等
 - 8 通商戰の第三國に及ぼす影響
 - 9 國際金融戰——外國爲替證券の動き及それに對する措置等
 - 10 支拂方法、對外借款
- 一、本日誌は夫、逐次繼續して完成を期するものである。

ソ聯邦通商戰日誌

一九三九年八月

八月記事索引(一九三九年)

八月一日	英の訪露軍事使節……(三)	八月十一日	モロトフ、勃代議員團を引見……(二)	八月十八日	を引見……(二七)
八月二日	全ソ農業博覧會開く……(三)	八月十二日	北樺太石油労働契約調印……(二)	八月十九日	東亞包含説をソ聯否定……(二七)
八月三日	米ソ通商協定更新さる……(三)	八月十三日	北樺太石油労働契約調印……(二)	八月二十日	獨ソ通商協定調印……(二)
八月四日	ソ聯艦隊東ソへ……(三)	八月十四日	北樺太石油労働契約調印……(二)		支材料借款成立説……(二)
八月五日	英佛軍事代表モスクワへ……(三)	八月十五日	ソ聯の對露財政援助擴大説……(二)		ソ聯、駐支通商代表任命……(二)
	東樺大使北樺太問題解決を要請……(三)	八月十六日	英佛軍事代表モスクワ着……(二)		獨ソ新通商協定調印……(二)
	米ソ通商協定更新……(三)	八月十七日	東ソ赤軍司令部チタへ……(二)		獨官選新協定の意義を強調……(二)
	北樺太石油労働團體契約約成る……(三)		ソ聯當局の不法拘禁……(二)		獨ソ通商協定と英の觀測……(二)
	米ソ通商條約の效力延長……(三)		英佛軍事會議開催……(二)		對獨包圍陣への一大痛撃……(二)
八月六日	英佛ソ交渉失敗か……(三)		獨逸農業代表モスクワ訪問……(二)		ソ聯紙の獨ソ協定評……(二)
八月八日	ソ聯對露借款設……(三)		ソ聯艦隊カナダ寄港……(二)		米紙の獨ソ協定評……(二)
八月九日	駐ソ米大使着任……(三)		ソ聯軍東ソ東部へ移動……(二)		獨ソ不侵條約締結決定……(二)
	ソ聯側軍事委員任命さる……(三)		英は三國會議の成立期待……(二)		外國爲替市場への影響……(二)
	モロトフ、米大使を引見……(三)		ソ聯、スロバキア政府承認……(二)		株式市場への影響……(二)
八月十日	支那使節モスクワ着……(三)		モロトフ、土耳古大使承認……(二)		ソ聯土耳古へ軍需品提供……(二)
	英佛軍事代表入露……(三)				北樺太問題の交渉……(二)

ソ聯通商條約日誌索引

八月一日 (火)	●英の訪露軍事使節 ロイテル通信社の報道によれば、モスクワに向ひつゝある英國軍事使節中に次の如き人々を加はつてゐる。即ちレヂナルド・ドラングス將軍、チャールズ・バルネット航空元帥、ヘイウッド陸軍少將等である。尙、モスクワ訪問のフランス軍事使節はドウマン將軍を筆頭とする由(世界政治)	●全ソ農業博覽會開 全ソ農業博覽會は一日からモスクワで盛大に開會された。博覽會開會式は一日午後二時モロトフ人民委員會議々長以下政府首腦部多數出席の下に開かれたが、席上モロトフ議長はソ聯邦集農團體組織が過去十一年間に挙げた成果を禮讃し注目を惹いた。(モスクワ)	●米ソ現行通商協定は一九四〇年八月まで一ヶ年延期された。(世界政治)	●ソ聯船隊東ソへ レニングラードより東ソへの廻航の途にあるソ聯海軍掃海艇四隻は去る七月二十八日バナムよりサンフランシスコに入港したが、同船隊は二日後サンフランシスコを出發、アリューシヤン群島のダツチ・ハーバー經由留港ウラジオストクに赴く豫定。	●右ソ聯船隊の廻航の目的は不明であるが、ミハイロフ司令官は純然たる平時の廻航に過ぎぬと語つてゐる。	●英佛軍事代表モスクワへ ドウマン將軍以下ソ聯に派遣されるフランス軍事使節一行は英國側と協議の爲四日後パリ發ロンドンに赴く事となつたが、ドウマン將軍はロンドンに着の上フランスの方針を英國に傳達協議するものと見られる。かくて英佛兩國軍事代表は来る五日海路モスクワに赴く豫定で、モスクワ軍事使節は來週中には開始される筈。	●東郷大使、北樺太問題解決を要望 東郷駐ソ大使は四日後四時外務人民委員部にロツフスキー次長を訪問、北樺太石油會社の團體契約問題を始め緊急を要する諸懸案に就き至急解決方を要す。
八月二日 (水)	●ソ聯最高會議召集 ソ聯最高會議は八月二日召集され、獨ソ通商協定細目、獨ソ接近の經濟的必然性、モロトフ外相英佛を難詰、獨ソ不侵略條約批准完了、獨政府も條約の批准完了、	●獨ソ通商協定細目 獨ソ通商協定細目は八月二十九日モロトフ外相英佛を難詰、獨ソ不侵略條約批准完了、獨政府も條約の批准完了、	●獨ソ接近の經濟的必然性 獨ソ接近の經濟的必然性は八月三十日モロトフ外相英佛を難詰、獨ソ不侵略條約批准完了、獨政府も條約の批准完了、	●モロトフ外相英佛を難詰 モロトフ外相は八月三十一日獨ソ不侵略條約批准完了、獨政府も條約の批准完了、	●獨ソ不侵略條約批准完了 獨ソ不侵略條約は八月三十一日批准完了、獨政府も條約の批准完了、	●獨政府も條約の批准完了 獨政府も條約の批准完了、	●獨ソ不侵略條約の批准完了 獨ソ不侵略條約の批准完了、
八月三日 (木)	●獨ソ不侵略條約批准完了 獨ソ不侵略條約は八月三十一日批准完了、獨政府も條約の批准完了、	●獨政府も條約の批准完了 獨政府も條約の批准完了、	●獨ソ不侵略條約の批准完了 獨ソ不侵略條約の批准完了、	●獨ソ不侵略條約の批准完了 獨ソ不侵略條約の批准完了、	●獨政府も條約の批准完了 獨政府も條約の批准完了、	●獨ソ不侵略條約の批准完了 獨ソ不侵略條約の批准完了、	●獨ソ不侵略條約の批准完了 獨ソ不侵略條約の批准完了、
八月四日 (金)	●獨ソ不侵略條約の批准完了 獨ソ不侵略條約の批准完了、	●獨政府も條約の批准完了 獨政府も條約の批准完了、	●獨ソ不侵略條約の批准完了 獨ソ不侵略條約の批准完了、	●獨ソ不侵略條約の批准完了 獨ソ不侵略條約の批准完了、	●獨政府も條約の批准完了 獨政府も條約の批准完了、	●獨ソ不侵略條約の批准完了 獨ソ不侵略條約の批准完了、	●獨ソ不侵略條約の批准完了 獨ソ不侵略條約の批准完了、

八月一日 (火)	●獨外相訪ソ説 獨逸の對日態度………(三三) モロトフ、リツベント ロツフ第一次會議………(三三) 獨ソ不侵略條約全文………(三三) 獨ソ條約成立の經濟的 事情………(三三) 巴里市場へ大衝動………(三三) ソ聯紙の獨ソ不侵略條 約評………(三三) 獨ソ條約の獨政界調測 ………(三三) 獨外相モスクワを出立 ………(三三) ソ聯の對蘇援助強化………(三三) 獨ソ條約に關する各國 論調發表………(三三) 日本政府の對獨抗議………(三三) 獨ソの對蘇支持説………(三三) ソ聯艦隊百三十五隻關 州着………(三三) ソ聯艦隊浦墾入港………(三三) 日本の對獨ソ外交方針 決定………(三三) 三國交涉決裂の原因………(三三) 獨ソ不侵略條約の密約	八月二日 (水)	●獨外相訪ソ説 獨逸の對日態度………(三三) モロトフ、リツベント ロツフ第一次會議………(三三) 獨ソ不侵略條約全文………(三三) 獨ソ條約成立の經濟的 事情………(三三) 巴里市場へ大衝動………(三三) ソ聯紙の獨ソ不侵略條 約評………(三三) 獨ソ條約の獨政界調測 ………(三三) 獨外相モスクワを出立 ………(三三) ソ聯の對蘇援助強化………(三三) 獨ソ條約に關する各國 論調發表………(三三) 日本政府の對獨抗議………(三三) 獨ソの對蘇支持説………(三三) ソ聯艦隊百三十五隻關 州着………(三三) ソ聯艦隊浦墾入港………(三三) 日本の對獨ソ外交方針 決定………(三三) 三國交涉決裂の原因………(三三) 獨ソ不侵略條約の密約	八月三日 (木)	●獨外相訪ソ説 獨逸の對日態度………(三三) モロトフ、リツベント ロツフ第一次會議………(三三) 獨ソ不侵略條約全文………(三三) 獨ソ條約成立の經濟的 事情………(三三) 巴里市場へ大衝動………(三三) ソ聯紙の獨ソ不侵略條 約評………(三三) 獨ソ條約の獨政界調測 ………(三三) 獨外相モスクワを出立 ………(三三) ソ聯の對蘇援助強化………(三三) 獨ソ條約に關する各國 論調發表………(三三) 日本政府の對獨抗議………(三三) 獨ソの對蘇支持説………(三三) ソ聯艦隊百三十五隻關 州着………(三三) ソ聯艦隊浦墾入港………(三三) 日本の對獨ソ外交方針 決定………(三三) 三國交涉決裂の原因………(三三) 獨ソ不侵略條約の密約	八月四日 (金)	●獨外相訪ソ説 獨逸の對日態度………(三三) モロトフ、リツベント ロツフ第一次會議………(三三) 獨ソ不侵略條約全文………(三三) 獨ソ條約成立の經濟的 事情………(三三) 巴里市場へ大衝動………(三三) ソ聯紙の獨ソ不侵略條 約評………(三三) 獨ソ條約の獨政界調測 ………(三三) 獨外相モスクワを出立 ………(三三) ソ聯の對蘇援助強化………(三三) 獨ソ條約に關する各國 論調發表………(三三) 日本政府の對獨抗議………(三三) 獨ソの對蘇支持説………(三三) ソ聯艦隊百三十五隻關 州着………(三三) ソ聯艦隊浦墾入港………(三三) 日本の對獨ソ外交方針 決定………(三三) 三國交涉決裂の原因………(三三) 獨ソ不侵略條約の密約
-------------	--	-------------	--	-------------	--	-------------	--

望した。
之に對してロフスキー次長は外務人民委員部としては十分斡旋すべき旨を約し、東郷大使は同六時辭去した。
●米ソ通商協定更新の事
ソ聯政府は四日タス通信を通じ、米ソ通商協定は一ヶ年延長される旨發表した。即ちミコヤン外務人民委員及びグラモシ米國代理大使は現行米ソ通商協定を一九四〇年八月迄向ふ一ヶ年延長に關する書簡を交換し、交換書簡は四日ソ聯人民委員會議及び米國大統領の署名を了し即日實施された。米ソ通商協定に就ては、一九三五年七月十三日に期限一ヶ年の米ソ通商關係に關する書簡が交換され、一九三六年七月十一日に該通商關係は更に一ヶ年延長され、而して一九三七年八月四日には毎年一ヶ年延長されるべき米ソ通商新協定が交換されて今日に至つたのであるが、その骨子は左の通りである。

一、ソ聯は少くとも一ヶ年に四千萬弗の米製品を輸入することを約す
一、右代償としてソ聯は對し米國は無條件最惠國待遇を與へる
●(第一表) 今次歐洲大戰勃發以前に於ける米ソ貿易(單位百萬弗)
年 度 ソ聯より輸出 ソ聯へ輸入 計

一九三〇年	一七五	一、三三〇	一、五〇五
一九三一年	一八五	一、四〇〇	一、五八五
一九三二年	一九五	一、四七〇	一、六六五
一九三三年	二〇五	一、五四〇	一、七四五
一九三四年	二一五	一、六一〇	一、八二五
一九三五年	二二五	一、六八〇	一、九〇五
一九三六年	二三五	一、七五〇	一九八五
一九三七年	二四五	一、八二〇	二、〇六五
一九三八年	二五五	一九〇〇	二、一五五

右表によつて明かなのは、米ソ貿易に於てソ聯側が常に入超であつたことである。これは、ソ聯が國內經濟復興を迅速に遂行しようとして米國より必要な機械、設備を多量に輸入する一方、米國に對しては差別的待遇の下に少量の商

商協定成立
△獨政府更に豫備兵召集説

品を輸出してゐた事による。
(第二表) 今次歐洲大戰勃發直前の數年に於ける米ソ商品別貿易
(一) 米國の對ソ輸出(品種別及重要商品別) (單位百萬弗)

品名	數量		金額(千弗)	
	一九三六年	一九三七年	一九三六年	一九三七年
輸出品、再輸出品を含む總計	—	—	—	—
動物產品及非食用動物產品總計	—	—	—	—
山羊及羊の皮(平方呎)	—	—	—	—
植物性品、非食用品合計	—	—	—	—
紫ウマゴヤシの實(千ポンド)	—	—	—	—
非金屬礦物合計	—	—	—	—
ガソリン其他の主要發動機燃料(積液量一、〇〇〇、ガレル)	—	—	—	—
磨碎用自動式機軸(トポンド)	—	—	—	—
熔鑄又は電氣工場用電力用素線(千ポンド)	—	—	—	—
其他の非金屬礦物	—	—	—	—
金屬及加工品合計	—	—	—	—
鐵板及鋼板(千ポンド)	—	—	—	—
鋼條、鋼帶、鋼板狀鐵(千磅)	—	—	—	—

ソ聯邦通商戰日誌

ソ聯邦通商概況

品名	数量				金額(千弗)			
	1935年	1936年	1937年	1938年	1935年	1936年	1937年	1938年
機 械								
鐵 工 機 械								
球 入 製 轉 軸 受 輪 及 部 分 品								
空 氣 壓 縮 機 (個 數)	5	23	2	58	195	1,950	2,000	1,700
自 動 車 及 部 分 品 並 に 附 屬 品								
飛 行 機 及 部 分 品								
其 他 機 械 及 乘 用 物								
化 學 品 及 醫 藥 品 合 計								
遺 送 化 合 物 (千 磅)								
雜 品 (外 國 品 の 再 輸 出 を 含 む)								
科 學 及 職 業 用 器 具								
(ロ) 米 國 の 對 ソ 輸 入								
消 耗 品 の 輸 入 總 額	1,600	2,000	1,900	2,200	1,900	2,200	2,200	2,200
動 物 産 品 及 食 用 動 物 産 品 合 計								
ソ ー セ ー ジ (千 磅)	500	500	500	500	500	500	500	500
パ タ タ (千 石)	500	500	500	500	500	500	500	500
鮮 魚 及 其 他 魚 類	500	500	500	500	500	500	500	500
鮮 肉 ソ ー ス 及 其 他	500	500	500	500	500	500	500	500
其 他 主 要 鮮 魚 産 品 合 計	500	500	500	500	500	500	500	500
其 他 主 要 鮮 魚 産 品 合 計	500	500	500	500	500	500	500	500
其 他 主 要 鮮 魚 産 品 合 計	500	500	500	500	500	500	500	500

黒 鋼 薄 板 (千 石)	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
錫 板 及 薄 鋼 板 (千 石)	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
汽 種 用 導 管 (千 石)	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
條 線 及 其 製 品 (千 石)	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
車 輪 ゴ ム 輪 及 其 他	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
車 輪 ゴ ム 輪 及 其 他	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
鐵 合 金	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
ア ル ミ ニ ユ ー ム 板 薄 鋼 板 及 其 他 鋼 材	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
精 製 鋼 塊 狀 (千 石)	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
鐵 鋼 及 其 他 金 屬 の 殘 餘 産 品 及 製 品	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
機 械 及 乘 用 物 合 計	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
工 業 用 電 氣 燈 及 燈 等 (個 數)	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
無 電 用 機 械	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
建 造 及 運 輸 用 機 材	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
油 井 及 精 油 機 械	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
ボ ン プ 用 品	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
金 屬 工 作 機 械	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
旋 盤 (個 數)	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
穿 孔 機 及 切 削 機 械	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
上 環 (個 數)	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
錐 錐 螺 絲 上 品 (個 數)	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
金 屬 研 磨 機 及 部 分 品	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
薄 葉 板 及 金 屬 工 作 機 械 及 部 分 品	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
鍛 造 機 及 部 分 品	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
壓 延 工 場 用 機 械	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700

ソ聯邦通商概況

木村及紙合計	7,800	2,600	1,300	1,900	5,100
紙板及丸材(針葉)	8,100	2,900	1,400	2,000	5,600
製紙材料用(千ポンド)	5,600	1,900	1,000	1,500	4,000
製紙用屑物(千ポンド)	2,500	1,000	400	500	1,600
其他の木村及紙	500	100	100	100	500
非金屬礦物合計	4,000	1,300	600	1,100	3,400
無煙炭(千トン)	3,000	1,000	500	800	2,500
未加工石棉(トン)	1,000	300	100	200	1,600
其他非金屬礦物(主に磁石)	500	200	100	200	1,000
金屬(其加工品、機械(乗物を除く))	3,500	1,200	600	800	3,100
マンガン含有(千ポンド)	3,500	1,200	600	800	3,100
プラチナ(オンス)	4,500	1,500	700	1,000	3,700
塊状棒状(トロイ)	3,000	1,000	500	700	2,700
イリヂウム(ク)	1,500	500	200	300	1,500
鉄(千ポンド)	2,000	700	300	400	1,600
其他の金物及加工品	1,000	300	100	100	800
計	1,000	300	100	100	800
其他の金物及加工品	1,000	300	100	100	800
計	1,000	300	100	100	800
固形ナフタリ(千ポンド)	5,000	1,700	800	1,100	4,000
原料グリセリン(ク)	2,000	700	300	400	1,600
酸アンモニア(千ポンド)	1,000	300	100	100	800
ソ(千ポンド)	9,000	3,000	1,400	1,900	7,600

山羊及羊の皮(千枚)	1,500	500	200	300	1,500
未調整毛皮(ク)	1,000	300	100	100	800
銀黒以外の狐(ク)	500	100	50	50	400
羊、仔羊、綿羊の皮、毛皮(ク)	400	100	50	50	350
山羊の皮、毛皮(ク)	300	100	50	50	250
山鼠(モルセツ)(ク)	200	50	20	20	150
栗鼠(ク)	100	30	10	10	80
毛皮の加工品	800	250	100	150	600
剛毛(千ポンド)	500	150	50	70	470
其他非食用動物産品	300	100	40	50	250
擦染用ゴム(千ポンド)	300	100	40	50	250
甘草の根(ク)	200	70	30	40	170
葉(草)茎を除きたるもの)	100	30	10	10	80
其他の非食用植物産品	100	30	10	10	80
纖維素及加工品合計	1,000	350	150	200	800
棉花原料(千ポンド)	800	250	100	150	600
棉花の短纖維(ク)	700	200	80	100	520
未加工亞麻(千ポンド)	200	70	30	40	170
屑を含む)	100	30	10	10	80
亞麻製品(千ポンド)	100	30	10	10	80
亞麻の家庭用品、大麻、麻、麻草	100	30	10	10	80
其他の纖維素、主に動物の毛皮其他(纖維加工品)	100	30	10	10	80



ソ聯邦通商戦日誌

品名	数量	1936年	1937年	1938年	1939年
花(千ペール)	1,100	1,000	1,200	1,300	1,400
ガソリン及其他モーター用燃料油(千バレル)	1,200	1,100	1,300	1,400	1,500
研磨ホイール(千ポンド)	1,300	1,200	1,400	1,500	1,600
電機用炭素電極(千ポンド)	1,400	1,300	1,500	1,600	1,700
鋼板(千ポンド)	1,500	1,400	1,600	1,700	1,800
鉄及鋼線ストリップ(千ポンド)	1,600	1,500	1,700	1,800	1,900
ワイヤー及鋼品(千ポンド)	1,700	1,600	1,800	1,900	2,000
アルミニウム(千ポンド)	1,800	1,700	1,900	2,000	2,100
精製銅(インゴット)	1,900	1,800	2,000	2,100	2,200
銅(千トン)	2,000	1,900	2,100	2,200	2,300
青銅(千トン)	2,100	2,000	2,200	2,300	2,400
電気熔煉(千トン)	2,200	2,100	2,300	2,400	2,500
内燃機(台)	2,300	2,200	2,400	2,500	2,600
エンジン部分品及付属品	2,400	2,300	2,500	2,600	2,700
油田及精油用機	2,500	2,400	2,600	2,700	2,800
工作機械合計	2,600	2,500	2,700	2,800	2,900
総計	2,700	2,600	2,800	2,900	3,000

品名	数量	輸出額に對する%		輸入額に對する%	
		1936年	1939年	1936年	1939年
クロロイド原料(ボクシニウム)	9,500	100	100	100	100
其他の藥品及化學品	3,000	100	100	100	100
其他の雜品	3,000	100	100	100	100
右表について見るに、米國の對ソ輸出に於ては機械設備類が重要な地位を占め、其他各種金屬製品、金屬、發動機用ガソリンも夫々優位を占めてゐる。ソ聯の對米輸出に於ては、一九三八年に粗毛(未調整毛皮)が第一位、マンガン鐵が第二位、次が無煙炭、その他各種原料となつてゐる。					
(第三表) 歐洲大戰勃發より獨ソ親までの米ソ貿易(單位千弗)					
米の對ソ輸出					
米の對ソ輸入					
輸出合計	1,938年	1,939年	1,940年	1,941年	1,942年
輸入合計	1,938年	1,939年	1,940年	1,941年	1,942年
批用皮革(千ポンド)	1,938年	1,939年	1,940年	1,941年	1,942年
小麦(千ブッシェル)	1,938年	1,939年	1,940年	1,941年	1,942年

（第五表）米國の對ソ輸入（單位千弗）

品名	數量				價格			
	一九三八年	一九三九年	一九四〇年	一九四一年	一九三八年	一九三九年	一九四〇年	一九四一年
ボーリング、チエキ ナック、スレッドカ ンダ、ミリング機	—	—	—	—	—	—	—	—
鐵孔機	—	—	—	—	—	—	—	—
平削及成形機	—	—	—	—	—	—	—	—
研磨機及部 品	—	—	—	—	—	—	—	—
シット及プレ ット用	—	—	—	—	—	—	—	—
工作機及部 品	—	—	—	—	—	—	—	—
フォーチン グ機及部 品	—	—	—	—	—	—	—	—
ローリ ング、ミ ル機	—	—	—	—	—	—	—	—
航空機及部 品	—	—	—	—	—	—	—	—
鐵道貨車	—	—	—	—	—	—	—	—
再輸出 品	—	—	—	—	—	—	—	—
生ゴム(千 ポンド)	—	—	—	—	—	—	—	—
精製銅及製 品	—	—	—	—	—	—	—	—
錫(パイ フロック及 ピツク)(千 ポンド)	—	—	—	—	—	—	—	—
輸入合計	—	—	—	—	—	—	—	—
輸出合計	—	—	—	—	—	—	—	—
淨輸出	—	—	—	—	—	—	—	—
蠟燭及魚肝 油	—	—	—	—	—	—	—	—
毛皮類合計	—	—	—	—	—	—	—	—
狐毛皮(千 ポンド)	—	—	—	—	—	—	—	—
羊皮(千 ポンド)	—	—	—	—	—	—	—	—
鹿皮(千 ポンド)	—	—	—	—	—	—	—	—
兔皮(千 ポンド)	—	—	—	—	—	—	—	—
其他毛皮	—	—	—	—	—	—	—	—

八月五日 (土)

ソ聯邦通商日誌

(註)以上の表は左の資料に據る。

品名	數量		價格	
	一九三八年	一九三九年	一九三八年	一九三九年
毛(千ポンド)	—	—	—	—
草(根)	—	—	—	—
葉(根)	—	—	—	—
葉(葉)	—	—	—	—
ホップ	—	—	—	—
亞麻(ト ン)	—	—	—	—
亞麻(千 ポンド)	—	—	—	—
無煙炭(千 トン)	—	—	—	—
鐵(千ポ ンド)	—	—	—	—
白(オ ンス)	—	—	—	—
イリヂ ウム(ク ラ)	—	—	—	—
クレ オット 油	—	—	—	—
ナフ タリン (千ポ ンド)	—	—	—	—
グリ セリン (ト ン)	—	—	—	—
硫 酸アン モニ ア	—	—	—	—

第一表「國際貿易とソ聯の外國貿易」デ・ミシユチン監輯、モスクワ、一九四一年。

第二表「陸軍省作成統計(企畫院第一部)ソ聯邦重要研究資料彙報(十二)」

第三表「本邦財務省情三變經濟研究所、昭和十六年十一月。

第四表「貿易週報」日刊工業新聞社、昭和十六年七月十七日。

●北樺太石油労働協約の成る

紛糾を重ねて来た北樺太石油利権問題の中、ソ聯側が最重要視し懸案解決の前提として最も難關と目された開港協約交渉は五日モスクワ駐在の會社代表高萩氏と四日オハより來着した極東石油労働組合議長のパガルジンの間に契約の各項目に互り最後の決定に到達し近日中に正式調印を見ることとなつた。昨

△パナマ運河擴張案米上院を通過

△スペイン、一黨治國制確立、フランコ將軍名實共にカウテイヨ(統治者)

八月六日 (日)

八月七日 (月)

八月八日 (火)

二二
の稱號を取
得

年十一月交渉開始以來回を重ねること六十五回、幾多の曲折を経て遂に折合を見たものである。

●米ソ通商條約の效力延長
八月二日外國貿易人民委員ニコヤン及び在モスクワ米國大使クラモン間に一九四〇年八月六日迄一年間現行米ソ通商條約の效力延長に關する書翰交換され、右は四日人民委員會議及び米國大統領により夫々確認され效力を發生した旨、ソ聯各紙は發表した。(ソウエツチ)

●英佛ソ交渉失敗か
モスクワに於ける英ソ交渉は依然行きづまりを續けて居り、ストラング英特使は六日交渉経過報告の爲モスクワ出發一旦歸還の途に於て、ロマ政界では、右ストラング特使の歸還を以て英佛ソ交渉が殆ど失敗に歸した譯左だと思はれてゐる。而して交渉挫折の原因は、英國の東亞政策轉換に失望してソ聯が孤立政策に立戻つた結果であるとして解してゐる。右側面は左の通りである。六日歸還の途に於て、これこそ英佛ソ交渉の依然たる困難を示すものであり、或ひは寧ろ同特使の協定締結の使命が既に失敗に歸した譯左とも云へよう。蓋し英國は現在の歐洲情勢の絶えざる緊張に當面して對日交渉に於て從來の執拗、頑冥なる態度を取り得ざるに至り日本の要求を許容することに於てソ聯の期待を裏切る結果になつたからである。現在英國が日本の要求と斷乎たる態度に直面して權益放棄の政策に迫り込まれて行くことは當然豫見される。英國海軍が北海と地中海と東亞水面とを同時に支配する事は絶対に不可能だからである。かくて、ソ聯は再び曾ての孤立政策に逆行せんとし、而して英佛兩國を將に來らんとする歐洲危機の渦中へ投せんとしてゐる。(註同)

●ソ聯對蔣借款說
八日ニューヨークに達したUP重電によれば蔣政権は今回ソ聯政府より總額の七億圓(邦貨約四億八千三百萬圓)に達する巨額の借款供與を受けることになつたとの報道を確認した。

●向、八日重慶よりの報道によれば、ソ聯政府及びモスクワに於ける支那當局は何れも借款に關し否定も肯定もせず一切言明を避けてゐるといふ。但し消息筋では本年六月十六日調印のソ支通商協定に關聯してソ聯政府が相當多額の借款を蔣政権に供與することは考へ得られることとしてゐる。

●駐ソ米大使消息
新任駐ソ米大使ロレンス・スタインハルトは八日モスクワに着任した。駐ソ米大使の地位は昨年六月デヴィス前駐ソ大使が駐日大使に轉任以來十四ヶ月に亘つて空席を續けて來たものである。

●ソ聯側軍事委員任命さる
ソ聯側軍事委員會議は英佛軍事代表との交渉のため次の如き軍事委員を任命した。

●國防人民委員、元帥 ウオロシロフ(代表)
參謀總長、一等大將 シヤポシニコフ
海軍人民委員、二等艦隊司令官 クズネツコフ
空軍司令官、二等大將 ロクチオノフ
參謀次長、軍團長 スモロヂノフ(世界經濟)

●モロトフ、米大使を引見
ソ聯邦人民委員會議々長モロトフはモスクワに着任した米の特命全權大使スタインハルト氏を引見した。(世界經濟)

●支那使節モスクワ着
蔣政権からソ聯に派遣された軍事使節の一行は最近モスクワに到着した。同使節はモスクワに於てソ聯の對蔣援助に關しソ聯政府と打合せを行ふが、モスクワには相當長期滞在する。一方英佛ソ軍事會議も、近くモスクワに開催される事となつてゐるので、ソ聯政府はこの機曾を利用、右軍事會議の一議題として英佛ソ三國の對蔣援助問題をも協議する意向と見られる。

●英佛軍事代表入露

△日、東亞海運會社設立
△米上院外交委員長ピットマン在支權益を保證せずば復讐手段を採るべき事又東亞新秩序をも承認出來ずと意志表示す
△ポーランド獨立二十五周年記念祭に當りスミゲリ元帥ダンテツヒ問題に關する強硬態度を表明す

△ホロンバイルで日ソ空軍交戦
△米、支那現銀六百萬元を財務省買入
△重慶政府財政部當局法幣幣券防止應急對策なき旨

八月十日 (水)

八月九日 (水)

ソ聯邦通商戰日誌

●表明すと傳へらる
△獨、ヒトラーダンテツヒナチ黨に新訓令を發す

△米陸海軍兩省は民間軍需資源委員會を新設する旨發表
△メキシコ政府は英米よりの收用油田權益を第三國に讓渡するものと觀測さる

△佛フアン、米ドゥマン兩駐日代理大使法幣問題に付中入れあり、我方介入拒絶

△ダンテツヒ、ナチ黨指導

八月十一日(金)

来る十一日モスクワに於て英佛ソ政治會議と併行して開催さるべき英佛ソ三國軍事會議に出席すべきブラソケット英海軍大將及びドゥマン佛將軍以下英佛軍事代表團一行十七名は十日午前一時英國特別仕立の汽船シテイ・オブ・エクスセター1號でレニングラードに到着する。尙今回の英佛ソ三國軍事會議に對するポーランドの参加如何が注目されたが、ソ聯當局はこれを否定した。(モスクワ)

●モロトフ、勃代議員團を引見
ソ聯邦人民委員會議々長モロトフは、全蘇邦農業者博覽會參觀のためモスクワに着いたマルコフを主班とするブルガリヤ議會の代表團を引見した。(世界政治)

●北樺太石油労働契約調印
去る五日大綱の決定を見た北樺太石油會社と極東石油労働組合との團體契約交渉はその後細目に互る事務的整備を急いでみたが今回愈々終了し、十一日午後六時半モスクワ労働會館に於て兩者代表間に新契約の正式調印を了した。

●北樺太石油労働契約細目内容
ソ聯政府燃料工業人民委員部は十一日マス通信を通じて新契約の内容その他につき左の如く發表した。

新契約は労働者の福利増進のため左記諸項に關する規定を設けた。

- 一、労働資金を一分五厘増額する。
- 二、油田地帯に浴場三、シャワ浴場六を新設する。
- 三、労働者児童のためオハに幼稚園を新設する。
- 四、カタングリに労働者児童五十名を收容し得る食堂及託兒所を新設する。
- 五、新契約は溯及的に一九三八年十二月一日より有效とする。

尙燃料工業人民委員部は日本側の要求を容れ、北樺太石油會社に對し新たに三百名の日本人労働者の入國及び社員、技師三十名の交替、北樺太鐵業會社に對して更に百五十名の日本人労働者の入國を夫々許可するに決した。

●ソ聯の對蔣財政援助擴大
十一日ニューヨークに達したA.P.重慶電は、ソ聯の對蔣財政援助の強化策としてソ支通商協定の擴大が行はれるであらうと次の如く報じてゐる。即ち、去る六月十六日成立したソ支通商協定が擴大されソ聯はこれにより蔣政権に對し

一四

者フェルスターは、ダンチツヒはドイツへ復讐すべしと演説
△ルーマニア、最近十ヶ年間に豫備役編入の豫備兵大員召集を發表

△印度國民會議派派戰爭準備に反對決議
△米國務省英佛へ軍用機三千萬機供給、對日輸出柱絶を發表

八月十二日(土)

八月十三日(日)

ソ聯邦通商戰日誌

て七億留(邦債約四億八千三百萬圓)を限度とするクレジット並に其他の物資援助を行ふこととならう。更に蔣政権財政當局の語る所によれば、且下ソ支兩國代表者間にモスクワに於て經濟交渉が進行中であり、右交渉はバーター協定の存続にあるものといはれる。

●英佛軍事代表モスクワ着
英佛兩國の軍事代表一行は十一日レニングラードからモスクワに到着した。驛頭にはソ聯赤軍のスマルゲノフ大將が出迎へたが、外國駐在武官の中トルコ大使館付武官のみが一行の到着を出迎へた。

●尙右一行は同日午後三時國防人民委員部に於てウオロシロフ元帥と會見、英佛ソ軍事會議代表成初の顔合せを行った。(世界政治)

●東ソ赤軍司令部チタへ
最近第一東ソ赤軍司令官タリシニエチルン二等大將の動靜に關聯して東ソ赤軍の動向が注目されてゐるが、情報によれば最近ソ聯政府は東ソ赤軍の變更を企圖し全軍作戦の中心部をチタに置く事になつたと云はれる。

●ソ聯當局の不法拘變
北樺太石油會社とソ聯石油労働者組合間の労働團體契約は十一月モスクワに於て調印を見たが、ソ聯側の發表は事實を歪曲したものとの理由の下に、わが外務、陸軍、海軍、商工各省關係官は十二日外務省に聯合會議を開き左の如くソ聯の不都合な態度を指摘した。

△外務省情報部發表
北樺太石油會社とソ聯石油労働者組合との間に十一月團體契約の調印が行はれた。ソ聯は今回會社側が多額の讓歩を行つて團體契約の調印を完了することとなつたと突然態度を約變し十一月燃料人民委員部外國課長はモスクワ駐在會社代表に對し大要左の如き不都合極まる文書を手交するに至つた。

燃料工業人民委員部は會社提出の本年度事業計畫を審査した結果左記の通り枝に通告す

- 一、エハビ第一試掘區の探掘範圍への編入並にカタングリ第一區及びエハビ第二區の探掘場に於ける探油を許さず

△天津其他に反英民衆大會
△英航空母艦イノグル以下香港の英艦隊新嘉坡に集結

一五

八月十四日 (日)

八月十五日 (火)

八月十六日 (水)

一、カタンケリに於ける海底鐵道の敷設及びエハビ、オハ、礦場間の軌道並に送油管の敷設はその建設に必要な十分な根拠を認むる能はず
 一、又ソ聯人労働者の提供は團體契約の締結を遅延せるにつき之が募集を行ふこと能はず。然れ共同社の困難を察し例外として日本人労働者三百名及び社員三十名の現地輸送を許可す
 本年當初に提出した自社事業計畫を今頃になつて漸く審査し、且自社の利益確保上當然の權利に屬する重要事業の實施を全面的に拒否して来たことは不都合千萬な措置であつて、ソ聯政府の態度に對しては到底容認し得る限りではなく、之が對策につき本十二日午後外務、陸軍、海軍、商工各關係官に於て重要な協議を行つた次第である。

●英佛ソ軍事會議開催

獨逸軍に對抗する英佛ソ三國軍事會議は十三日午前十一時からモスクワ労働會館に開催された。會議は約三十分の後終了したが、午後三時半英佛代表のみの會議があつた後、午後五時三十分再び三國會議を遂げた。尙十三日の會議の結果今後毎日二回宛會議を開いて議題の進捗を圖ることに決定したと云はれる。

●獨逸農業代表のモスクワ訪問

モスクワに開催中の農業博覽會に代表を派遣するやうソ聯政府よりドイツ政府に招待状が發せられたが、ドイツ側では之を受諾し、農業關係者及び農業研究所等の代表者が十四日モスクワに到着した。ベルリンに於て進行中のソ聯農産食糧品購入問題と關聯して注目される。

●ソ聯艦船カナダ寄港

去る七月十八日水雷敷設艦四隻を含むソ聯艦船十一隻がパナマ運河を通過して浦羅に向ひつゝありとの情報があり、時節注目されたが、右の艦船は最近ヴァンクーヴァ島のユニオン灣に寄港して且下石炭積込中なることが判明した。艦船は碎氷艦一、曳船二、貨物艦三、淺水艦一、計七隻で、乗組員は約二百名といはれる。

●ソ聯軍東部へ移動

▲波蘭政府 英國から總額八百十六萬三千三百磅のクレヂット設定を許可する大統領令公布

▲波蘭政府 英國から總額八百十六萬三千三百磅のクレヂット設定を許可する大統領令公布

▲我軍突如出動深圳沙頭角

八月十七日 (木)

八月十八日 (金)

ソ聯政府は滿蒙國境衝突事件に關しては時々事實を歪曲した發表を行ふ以外極力報道を抑へ真相の陰蔽に努めて来たが、モスクワよりの情報によれば、ソ聯政府はノモンハン事件に關聯して相當範圍に互り東ソ軍兵力の東部移動並に集中を行つてゐると傳へられる。シベリア地方よりモスクワに到着する旅行者も東部シベリアからウラル山中のスウェルドロフスタに至る間に於て各地の駐屯兵が續々移動してゐる事實を目撃したと言つてゐる。但しウラル山脈以西の中部ロシア及び歐露より新部隊が増遣されてゐる模様はない。

●英は三國會議の成立期待

英佛ソ軍事會議については英官場は右は至極順調に進行して居り、これが進行に伴ひ政治部門の交渉も近く最後の段階に到達し得るものと期待してゐる。これに關聯し獨逸がその進捗状態を無視して歐洲危機回避のため四國會議(英佛獨伊)説等を流布するに於てはそれこそ大なる誤算と云はざるを得ないとしてゐる。

●ソ聯、スロバキア政府承認

十七日在獨ソ聯大使シュクワルツエフは在ベルリン、スロバキア國公使に對しソ聯政府はスロバキア政府を法律上並に事實上承認し之と外交關係を結ぶことを決定せる旨通知した。(通外)

●モロトフ、土耳古大使を引見

ソ聯邦人民委員會議々長モロトフはトルコ特命全權大使アリ・ハイダル・アタタイ氏を引見した。(世界政治)

●東亞包含説をソ聯否定

こ、數日間ポーランド各紙は、モスクワ軍事會議に於てソ聯側が東亞戰爭勃發の際に於ける英佛の軍事援助を要求したことからソ聯、英佛兩軍事代表間に意見の對立を來したとの報道を行つて来たが、タス通信は十八日公式聲明を以て右報道を次の如く否定した。即ち、最近ポーランド各紙は東亞に於ける英佛の軍事援助を要求したことから英佛ソ軍事會議は暗礁に乗り上げたたと盛に報道してゐるが、斯る報道は徹頭徹尾捏造に過ぎない。現にモスクワ軍事會議に於てはソ聯代表と英佛代表との間に意見の相違があることは事實だが、右の報道

ソ聯邦通商戦目誌

▲占領
 ▲歐洲政局感、逼迫、ブルクハルト高等事務官の調停でダ市參議院長クライザーと波蘭代表チヨダツキー會見

▲英支クレヂット三百萬磅と傳へらる

▲伊、アルバニア駐屯軍に待機命令

▲米、丁協定締結さる

▲ポーランド、上部シレジア地方でドイツ人大量檢舉を報す

▲獨、スロバキア間に軍事同盟調印さる

▲フランス、ポーランド間借款協定調印

▲米、ウエルズ國務次官法幣問題に付英米連絡表明

▲比島經濟調整法案可決

▲メキシコ政府銀及びアン

八月十九日

八月二十日

とは全く別個の問題に關するものであり、如何なる意味に於ても東亞問題には全然關係がない。(英)

● 獨ソ通商協定調印

獨ソ通商協定はベルリンに於て調印された。(世界經濟と)

● ソ支材料借款成立説

孫科に隨行ソ聯を訪問中の元中央航空學校長陳慶雲は昨十八日香港に歸着陳が語る所によれば豫て成立を傳へられてゐた一億五千萬元のソ支材料借款は既に調印を了しソ聯側より一億五千萬元を限度として飛行機其他軍需品を供給し之に對し支那側は茶、アンチモニー、桐油等の特産物を交付するものであるといふ。

● ソ聯、駐支通商代表任命

ソ聯政府は過般モスクワに於て成立したソ支通商協定實施に伴ふ連絡係として今回アレクサンドル・セミョーノフ・グイッチ・パニョシキンを臨時駐支通商代表に任命し重慶に派遣することに決定した旨發表した。

● 獨ソ新通商協定調印

今一九三九年初頭以來ベルリン及びモスクワに於て斷續的に繼續されてゐた獨ソ新通商協定は十九日ベルリンに於て正式調印されたが、右に關し二十日ベルリンに於て左の如く公表された。

獨ソ間通商關係の増進方に關し先般來兩國間に交渉進行中であつたが、八月十九日その妥結を見、獨ソ通商及びクレジット協定はドイツ側代表シュヌレ(外務省参事)及びソ聯側代表パーバリン(在獨通商代表)との間に署名を了した。本協定に於てドイツは二億馬克の物資信用をソ聯に供與し、ソ聯は右によりドイツ商品を購入し、ソ聯は今後二年間に一億八千萬馬克に相當する物資をドイツに供給することを約した。(通外)

● 獨官邊新協定の意義を強調

ドイツ官邊は、今回の獨ソ新通商協定の意義を次の如く語つた。即ち、獨ソ兩國政府代表は豫てよりベルリンに合同、獨ソ貿易促進につき交渉中だつたが、十九日無事調印を了した。新協定は獨ソ兩國關係促進に至大の貢獻をなす

であらう。蓋しドイツは大工業國であり、ソ聯商品に無限の市場を提供する一方、ソ聯はドイツ工業に取り好む加工物となるべき天然原料を無盡蔵に有してゐるからである。新協定によりドイツよりソ聯に輸出される工業製品は、主として修繕部品、工作機械、光学器械等である。云々。(英、同盟)

● 獨ソ通商協定と英の觀測

ロンドン政界では右協定は有事に際しポーランド領通過に際しポーランドに壓力を加へんとするソ聯の意圖を示すものであると、次の如き觀測を下してゐる。即ち、英國政府の對日態度の硬化と時を同じうして獨ソ通商協定の成立を見たことは英國にとつて遺憾の極みであるが、今回の獨ソ通商協定は政治的意義はさして重大なものではなく、唯ソ聯の企圖する所はポーランド及び西歐諸國に壓力を加へて有事の際に於けるソ聯軍のポーランド領通過に關する交渉を促進せんとするにあると見られる。英國側にもこのソ聯軍のポーランド領通過に關する問題解決の重要性は認めてゐるが、ポーランドが二十四時間内に蹂躪されることもないことを強調したい。云々。(英、同盟)

● 對獨包圍陣への一大痛撃

今回の獨ソ協定は純經濟的なものであるが、現下の國際狀勢から見て政治的な色彩を多分に帯びて居り英獨對獨包圍陣結成工作に一大痛撃を與へるものがある。最近モスクワにはイギリスの軍事代表を始めアメリカの通商代表及びドイツの官民からなる貿易代表が集まり夫々ソ聯の誘引に奔走してゐたが、英米を出し抜いてドイツがソ聯獲得に成功した譯で、ソ聯を少くとも中立狀態に牽制したことはドイツの歐洲に於ける地位を一段と強化したと云へる。ドイツとソ聯の貿易關係を見るに、從來ドイツ側が輸出超過になつて居り、例へば一九二九年にはドイツの對ソ輸出四億二千六百萬馬克、同輸入三億五千四百萬馬克、それがナチス政府成立以來急激に減少して反對に輸入超過となり、例へば一九三五年には二億一千五百萬馬克のソ聯からの輸入に對し對ソ輸出は僅か三千九百三十萬馬克に減退し、一九三七、八兩年度にはやゝ持ち直したとは云ふものの、對ソ輸出一億馬克、同輸入五千萬馬克の程度に過ぎなかつた。この事は尙ソ聯に對して十分なる經濟餘力を持つドイツにとつて儼らぬ所で、ソ聯の原料資源の自國工業への利用、貿易の獲得及び國際政治

ソ聯邦通商日誌

一八
チモノ一の輸出稅撤廢を發表

八月二十一日

上の理由の三つの動機から最近熱心にソ聯との提携を希望した事情にあつたのである。

●米紙の獨ソ協定評

八月二十一日附の米紙各紙は、十九日ベルリンに於て獨ソ間通商クレヂット協定が調印され、右によりソ聯はドイツより金額二億馬克、期限七年間五分利のクレヂットを受け、協定調印の日より二年間にドイツ商品を買付けると共に、ドイツはソ聯側より二年間に一億八千萬馬克の商品を買付けると云ふた旨のタス報を掲げると共に、ブラウダ及びイスヴェスチヤは論説を掲げて本協定を讃嘆し、新協定は従前のものと異り事實上金融的クレヂットの性質を帯びるものであると云ひ、尙從來兩國間の通商關係の萎縮沈滞は全く政治的關係の緊張に基づくものであるのに鑑み、新協定の成立は斯る緊張せる雰囲気を経和し、單に兩國間の經濟的關係のみならず政治的關係の今後の改善にとり重大なる礎石となるであらうと論じてゐる。

●米紙の獨ソ協定評

八月二十一日附の米國諸新聞は、獨ソ間通商協定成立に關するモスクワ及びベルリン電報を掲げ、右は經濟的よりも寧ろ政治的に重大な性質を帯びてゐるが、之により米國の對ソ輸出は相當買食される恐れがあることを報じてゐる。一、紐育タイムズ伯林特電 ドイツ側は本協定が純然たる商業的性質を帯び政治的のものに非ずと強調してゐるが、右はヒットラーがスターリン宛の巨歩を印したもので、ドイツは商業に於て何等の獨斷的障礙を有せずとの從來の論點を明確に表示したものと云ふべきである。協定の内容に就ては、ドイツ側より見て最も重要なのは今後二年間ソ聯をして一億八千萬馬克の物資をドイツに賣る義務を負はせた點で、何國と雖も近き將來戰爭の相手方になることを豫想される國に對し斯る巨額の金を貸すことのないことは勿論であるが、この點は別問題として、今や軍事的及び經濟的擴張のために過大の操業を續け居るドイツ工業がクレヂットに依る輸出を必要とせず原料品を必要としつゝあることは注目される。

一、紐育ヘラルド・トリビューン伯林特電 供與せるクレヂットの金額は新機械及びソ聯第一次五年計畫遂行の爲の工業設備の取換品の輸入に當てられる

べく、之と引換へにソ聯より獨の殆ど無制限に必要とする棉花、木材、石油、マンガンを輸入せんとする點に重大な意義が存する。今次協定はドイツ側にして從來陸軍が獨占して來た機械製作能力を若干割愛する用意あることを示したもので、最近數ヶ月間に於て漸烈な反ソ言論を殆ど封じて來たドイツ側としては、今次の對ソ態度の目覺しい轉換は寧ろ當然の歸結と云ふべく、多數ドイツ人は之を目して少くともドイツの潜在的敵國を有めんとする企圖であるとし、殊に右が英佛ソ商議進行中になされた點は最も効果的と信じてゐる。尤も、一九三五年の獨ソクレヂット協定を記憶して居る者は、新協定の將來を悲觀的に見て、ソ聯は本協定を以て反獨同盟に英を引込む挺子たらしめんとする魂膽ではないかと疑つてゐる。ビスマークの傳統的親露政策はナチス黨内にも支持者を見出した機であるが、之等の支持者と雖も、ソ聯が英と結託するため何時ドイツを抛り出すかも知れないと見てゐる實情である。

●獨ソ不侵略條約締結決定

ドイツ政府は昨二十日獨ソ通商條約の調印を發表し、ベルリン政界は勿論民主々義國を懸然たらしめたが、DNB通信社は二十一日夜更に獨ソ兩國政府は今回不侵略條約を締結するに決定した旨發表した。(ベルリン)

●外國爲替市場への影響

獨ソ不侵略條約の發表に伴ふ新國際政局の動向はロンドン外國爲替市場に大なる衝撃を與へ、二十二日にはドル貨に對する需要が急激に拍車をかけられたのが目立つたが、イギリスの爲替平衡資金が過早くポンド貨の買支へに用動したため英米爲替の現物レートは四弗六八仙一二と前日に保合ひ表面平衡を維持してゐる。又先物に對しても平衡資金が極力買向つてゐるので目下買物は局限されてゐる。而して大陸向爲替は軒並み低落し、英白九ポインツ半、英蘭八分五ポインツ、英佛二ポインツ方々前日に比し軟化を示してゐる。(ロンドン)

●株式市場への影響

獨ソ不侵略條約締結の報は本日のロンドン市場に非常な衝動を與へ、株式市場の暴落に對し逆に商品市場は昂騰を演じて全く戰爭氣槽への興奮状態を現出した。

ソ聯邦通商日誌

△日英會談決裂
△佛、六十萬の豫備兵召集
△ベルギー、來る二十三日よりブラッセルで、ベルギー、和蘭、ルクセンブルグ、丁珠、瑞典、諸國、芬蘭のオスロ協商國會議開催を發表
△ポーランド特殊兵召集
食料貯藏等 戰爭準備

八月二十日 (火)

株式市場に定刻に開場されたが形勢混沌として前途の豫想困難なため殆ど全手合せなく、正午より幾分冷静に戻り、午後に入つてから漸次相場は引戻した。金銀証券は一磅前後安に引けたが、軍事公債は一時八十六磅と一九三二年來の新安値に崩落、而してダンチヒ五分公債は二十磅乃至十六磅に暴落、ドイツは一磅前後低落了。(世界政治)

●ソ聯土古へ軍需品提供

目下モスクワで開議中の英佛ソ三國軍事會議は大體締結成り政治交渉は今週末より再開の運びとならう。而して同會議に於て開議の場合ソ聯よりトルコに軍需品を供給する件が決定された。次にソ聯がポーランド、ルーマニア兩國に空軍を送る件も討議され原則的には決定されたが、右兩國がソ聯の派遣する飛行隊を自國の指揮下に置かんとするに對し、ソ聯は飽くまで獨自の指揮權を維持することを主張し、この點は未解決で便法を考慮中であると傳へられる。北極海問題の交渉

●東郷大使は二十一日午後三時半外務人民委員部にロソフスキー次長を訪問

十九日の會談に引續き北極海石油並に石炭利權問題に關し交渉を續行した。東郷大使は特に物資及び人員の即時全般的供給許可方を要求し、會社の収益的經營を脅すが如きソ聯側の數々の不法行為は明かに條約違反なりとして猛省を促した。これに對しロソフスキー次長は條約の根本に觸れる不當な言辭を弄したので東郷大使はソ聯の見解を徹底的に反駁、重ねて我が方の要求の根據を詳細に説明し、至急解決方を要望した。

●獨外相訪ソ説

タス通信によれば、獨ソ通商クレディット協定締結について獨ソ間の政治關係に關する改善問題が提起された。これに關聯して獨外相リッペンロップの到訪が迫つてゐる。(世界政治)

●獨ソ不侵略條約締結に關しドイツ側の日本に對する態度は次の如くである。

ドイツはあくまで平和愛好の精神から今回ソ聯と不侵略條約を締結する事になつたが、これは防共協定の精神に抵觸するもの非難は當らない。何とならば防共協定は思想及び精神に對する共同防備の取極めであり、今回の獨ソ條約は互

- △英、重大開議の結果援護政策不變、二十四日議會召集、緊急國防全權法案提出決定
- △佛大使館在獨佛人へ引揚命令
- △伊、軍備完了を發表

八月二十日 (水)

に國境を侵さないといふ骨子の申合せであり、兩者は矛盾するものではない。今回の條約は日本にもその世界政策再檢討の機会を提供してゐる。即ち現在日本が東亞に於て採りつゝあるソ聯及び英國二正面の作戰が果して當を得たものかどうかを檢討する必要があるのではないか。ドイツはあくまで日本と友好親善の關係に立ち、日本の極東新秩序建設事業に絶大の支援を惜しまない。日本もドイツと歩調を合せて東亞に於ける國際關係を整理し、ドイツと共同の唯一の目的に向つて邁進せんことを望む。

●獨ソ不侵略條約の内容は次の通りである。

一、兩締約國は單獨たると第三國と共同たるとを問はず相互に不侵略を約す。
一、兩締約國の中一國が第三國の侵略を受けた場合他の一國は如何なる方法によつても侵略を支援せざることを約す。
一、兩締約國は兩國の重大利益に關する諸問題につき相互に通報を行ひ且協議を遂げること約す。

●獨ソ不侵略條約全文

一、兩締約國は直接たると間接たるとを問はず締約國の一國を敵對目標とする如何なる國家間の結合にも参加せざることを約す。
一、兩締約國間に意見の相違を來した場合専ら友好的審議乃至は仲裁委員會によつてこれを解決す。
一、本條約の有効期限は十ヶ年とし期限満了の上は兩締約國が規定の廢棄通告を行はざる限り自動的に更に五ヶ年間更新されるものとす。
一、本條約は割印と同時に即時效力を發生す。

- △英、各種金屬、纖維、ゴム、樹脂、グリセリン等を含む重要商品輸出禁止令公布
- △佛、緊急開議の結果、首相に獨裁權附與決定
- △佛、豫備兵二百萬動員
- △米農務省棉花會議に英、佛、ソ、伯、墨、秘、印、埃、スーダンの九ヶ國が代表を送る旨發表

ソ聯邦通商戰日誌

八月二十四日 (木)

● 獨ソ條約成立の經濟的事情

一九三三年ヒトラーのナチス政権が出現するや、従前多少の紆余曲折を見ながら、俄かに悪化の一途を辿ることとなつた。即ちナチスの聖典と言はれるヒトラーの「わが闘争」はその外交政策にナチス・ドイツの東漸政策を明示し、ソ聯領ウクライナへの進攻を示唆して居り、それを裏書きしてヒトラーの外交演説は必ずしも熱烈なるソ聯攻撃を含むことを恒例としてゐた程である。それが一九三六年日獨防共協定の成立を見るに及んで、俄、獨ソ關係は尖鋭化するに至つたのである。然るに注意すべきは、獨ソが經濟關係に於て極めて緊密な關係を維持してゐた點で、兩國は依然活潑な貿易關係、即ち實質的な關係を保持してゐた事である。

● 獨ソ條約の獨政界觀測

ドイツ外交界は獨ソ不侵條約成立の内容が意外に強硬な點から獨ソ兩國が新條約に期待する實效が那邊にあるかを問題視してゐるが、獨ソ兩國が各々次の如き異なる效果を狙つてゐるものと観測してゐる。一、ドイツは英佛包圍陣に對抗する爲少く共ソ聯を中立せしめるに成功した一、之と反對にソ聯は東部日獨兩國の反ソ聯條約を妨害したもので今後この方向に不侵條約を利用しよう。(ベリリン)

● 獨外相モスコワを出立

獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。(世界經濟)

△ソ聯政府は来る二十八日第四次緊急最高會議開催の旨發表

八月二十五日 (金)

● 獨ソ條約に關する各國論調發表

八月二十五、六日のソ聯紙は獨ソ不侵條約に關する獨、伊、英、米、佛、日、文、土、芬蘭その他の新聞論調を掲載してゐるが、日本に關しては同條約の報は日本政界に深刻な印象を與へたと前置して「東京日日」及び「帝都日日」の論

● 獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。

獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。(世界經濟)

● ソ聯の對蘇援助強化

ソ聯の西北北赤色ルートによる對蘇援助は依然執拗に続けられ、殊に最近一ヶ月間戰艦、爆撃機合わせて百十三機を關州に空輸したと報せられてゐる。即ち七月十二日から八月二十日に至る間ソ聯より空輸された飛行機は、△戰艦六十五機△輕爆撃機三十三機△長距離爆撃機十五機△計百十三機を算し、右の中戰艦機の大部分は既に空輸を完了して主力を重慶成都に配し、S B 十三機は目下成都にあり、その他は關州にあるといはれる。

● 獨ソ條約の獨政界觀測

ドイツ外交界は獨ソ不侵條約成立の内容が意外に強硬な點から獨ソ兩國が新條約に期待する實效が那邊にあるかを問題視してゐるが、獨ソ兩國が各々次の如き異なる效果を狙つてゐるものと観測してゐる。一、ドイツは英佛包圍陣に對抗する爲少く共ソ聯を中立せしめるに成功した一、之と反對にソ聯は東部日獨兩國の反ソ聯條約を妨害したもので今後この方向に不侵條約を利用しよう。(ベリリン)

● 獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。

獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。(世界經濟)

● ソ聯の對蘇援助強化

ソ聯の西北北赤色ルートによる對蘇援助は依然執拗に続けられ、殊に最近一ヶ月間戰艦、爆撃機合わせて百十三機を關州に空輸したと報せられてゐる。即ち七月十二日から八月二十日に至る間ソ聯より空輸された飛行機は、△戰艦六十五機△輕爆撃機三十三機△長距離爆撃機十五機△計百十三機を算し、右の中戰艦機の大部分は既に空輸を完了して主力を重慶成都に配し、S B 十三機は目下成都にあり、その他は關州にあるといはれる。

● 獨ソ條約に關する各國論調發表

八月二十五、六日のソ聯紙は獨ソ不侵條約に關する獨、伊、英、米、佛、日、文、土、芬蘭その他の新聞論調を掲載してゐるが、日本に關しては同條約の報は日本政界に深刻な印象を與へたと前置して「東京日日」及び「帝都日日」の論

● 獨政府緊急措置發表

獨政府緊急措置發表一、獨全船隻の即時本國歸還命令一、タンネンベルグ戰艦記念祭中止一、各國

● 獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。

獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。(世界經濟)

● ソ聯の對蘇援助強化

ソ聯の西北北赤色ルートによる對蘇援助は依然執拗に続けられ、殊に最近一ヶ月間戰艦、爆撃機合わせて百十三機を關州に空輸したと報せられてゐる。即ち七月十二日から八月二十日に至る間ソ聯より空輸された飛行機は、△戰艦六十五機△輕爆撃機三十三機△長距離爆撃機十五機△計百十三機を算し、右の中戰艦機の大部分は既に空輸を完了して主力を重慶成都に配し、S B 十三機は目下成都にあり、その他は關州にあるといはれる。

● 獨ソ條約に關する各國論調發表

八月二十五、六日のソ聯紙は獨ソ不侵條約に關する獨、伊、英、米、佛、日、文、土、芬蘭その他の新聞論調を掲載してゐるが、日本に關しては同條約の報は日本政界に深刻な印象を與へたと前置して「東京日日」及び「帝都日日」の論

● 獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。

獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。(世界經濟)

● ソ聯の對蘇援助強化

ソ聯の西北北赤色ルートによる對蘇援助は依然執拗に続けられ、殊に最近一ヶ月間戰艦、爆撃機合わせて百十三機を關州に空輸したと報せられてゐる。即ち七月十二日から八月二十日に至る間ソ聯より空輸された飛行機は、△戰艦六十五機△輕爆撃機三十三機△長距離爆撃機十五機△計百十三機を算し、右の中戰艦機の大部分は既に空輸を完了して主力を重慶成都に配し、S B 十三機は目下成都にあり、その他は關州にあるといはれる。

● 獨ソ條約に關する各國論調發表

八月二十五、六日のソ聯紙は獨ソ不侵條約に關する獨、伊、英、米、佛、日、文、土、芬蘭その他の新聞論調を掲載してゐるが、日本に關しては同條約の報は日本政界に深刻な印象を與へたと前置して「東京日日」及び「帝都日日」の論

● 獨政府緊急措置發表

獨政府緊急措置發表一、獨全船隻の即時本國歸還命令一、タンネンベルグ戰艦記念祭中止一、各國

● 獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。

獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。(世界經濟)

● ソ聯の對蘇援助強化

ソ聯の西北北赤色ルートによる對蘇援助は依然執拗に続けられ、殊に最近一ヶ月間戰艦、爆撃機合わせて百十三機を關州に空輸したと報せられてゐる。即ち七月十二日から八月二十日に至る間ソ聯より空輸された飛行機は、△戰艦六十五機△輕爆撃機三十三機△長距離爆撃機十五機△計百十三機を算し、右の中戰艦機の大部分は既に空輸を完了して主力を重慶成都に配し、S B 十三機は目下成都にあり、その他は關州にあるといはれる。

● 獨ソ條約に關する各國論調發表

八月二十五、六日のソ聯紙は獨ソ不侵條約に關する獨、伊、英、米、佛、日、文、土、芬蘭その他の新聞論調を掲載してゐるが、日本に關しては同條約の報は日本政界に深刻な印象を與へたと前置して「東京日日」及び「帝都日日」の論

● 獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。

獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。(世界經濟)

● ソ聯の對蘇援助強化

ソ聯の西北北赤色ルートによる對蘇援助は依然執拗に続けられ、殊に最近一ヶ月間戰艦、爆撃機合わせて百十三機を關州に空輸したと報せられてゐる。即ち七月十二日から八月二十日に至る間ソ聯より空輸された飛行機は、△戰艦六十五機△輕爆撃機三十三機△長距離爆撃機十五機△計百十三機を算し、右の中戰艦機の大部分は既に空輸を完了して主力を重慶成都に配し、S B 十三機は目下成都にあり、その他は關州にあるといはれる。

● 獨ソ條約に關する各國論調發表

八月二十五、六日のソ聯紙は獨ソ不侵條約に關する獨、伊、英、米、佛、日、文、土、芬蘭その他の新聞論調を掲載してゐるが、日本に關しては同條約の報は日本政界に深刻な印象を與へたと前置して「東京日日」及び「帝都日日」の論

● 獨政府緊急措置發表

獨政府緊急措置發表一、獨全船隻の即時本國歸還命令一、タンネンベルグ戰艦記念祭中止一、各國

● 獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。

獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。(世界經濟)

● ソ聯の對蘇援助強化

ソ聯の西北北赤色ルートによる對蘇援助は依然執拗に続けられ、殊に最近一ヶ月間戰艦、爆撃機合わせて百十三機を關州に空輸したと報せられてゐる。即ち七月十二日から八月二十日に至る間ソ聯より空輸された飛行機は、△戰艦六十五機△輕爆撃機三十三機△長距離爆撃機十五機△計百十三機を算し、右の中戰艦機の大部分は既に空輸を完了して主力を重慶成都に配し、S B 十三機は目下成都にあり、その他は關州にあるといはれる。

● 獨ソ條約に關する各國論調發表

八月二十五、六日のソ聯紙は獨ソ不侵條約に關する獨、伊、英、米、佛、日、文、土、芬蘭その他の新聞論調を掲載してゐるが、日本に關しては同條約の報は日本政界に深刻な印象を與へたと前置して「東京日日」及び「帝都日日」の論

● 獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。

獨外相リッペンロツツはベルリンへ向けモスコワを出立した。(世界經濟)

八月十六日(土)

説を掲げてゐる。又ローマ發タスとして、在ベルリン伊國記者は何れもその報道中に於て獨の行動は伊の助言と完全なる同意によるものであることを特筆してゐる旨を報じてゐる。(ソワタ)

●日本政府の對獨抗議
日本政府はソ聯との不睦條約締結に關しドイツに抗議を表明した。(世界政治)

●獨の對蘇支持説
モスクワからの報道によればドイツはソ聯の對支援助を支持することを約しソ聯は近く蘇政權の積極的援助に乗り出すこととなつたが、日本と友好關係にあつたにも拘らず支那使用武器の七割を供給してゐたドイツは之を公然と繼續するのみならず、ドイツの將官が支那軍參謀本部の顧問となる契約が成立したと云はれる。(ソワタ)

●ソ聯對獨百三十五架機
重慶よりの報によれば、ソ聯飛行機百三十五架が前後二回(第一回六十五機、第二回七十機)に互り甘肅省蘭州に到着した。右は久しくモスクワにあつた立法院長孫科及び之に隨行し最近香港經由重慶に歸つた中央航空學校長陳慶雲等が贈禮の結果ソ支間に成立した新協定に基づくものである。

●ソ聯艦艇浦羅入港
ブラウダの報道に依れば若干の艦艇が東ソ聯海軍強化のため二十五日ウラジオストツクに到着した。右はソ聯海軍の種々たるが、パナマ運河の記録によればウラジオストツク砲艦の艦艇は特に注意する程の勢力を有せず、水雷敷設艦四隻、軍用貨物船四隻、曳船三隻、渡洋艦一隻である。尚ウラジオストツク造船所で主力艦一隻の進水式が最近行はれたと傳へられる。(ソワタ)

●日本の對獨外交方針決定
日本政府は二十五日の閣議に於て日獨防共協定に今迄論議されて來た日獨防共協定問題に關する態度を決定し、右田外相は同日大島駐獨大使に訓令を發しドイツ政府に抗議を提出せしめると共に、同日午後オット駐日獨大使との會見に於て帝國政府の見解を率直に披瀝したが、之は日獨伊の防共協定を

強力な紐帯として來た從來の帝國外交の轉換を示唆するものとして注目される。而して現在情勢から推測される帝國の對獨外交方針は左の如くである。
●(對獨關係) 防共協定強化が一應打ち切りとなつて、帝國の對獨外交方針は白紙に還元した。然しこれで日獨關係が逆に進化するかと考へるは早計で、更に再出發して別個の觀點から出直す途は約されてゐるから、今後獨自な對獨外交が行はれるであらう。

●(對ソ關係) ドイツ政府は大島大使を通じて日ソ不睦條約の斡旋を示唆して來たが、帝國政府の防共精神は何等變更なく従つて之は取り合はなかつた。日ソ不睦條約等の問題は今のところ全く考へられない。従つて北極太利權附領、國境紛争問題等について帝國政府は強硬にソ聯の反省を促すといふ既定方針を推進して行くものと見られる。(日誌)

●英佛ソ三國交渉決裂の原因
二十六日附イメグエスタ紙は、同紙記者が英佛ソ軍事會議のソ聯側主席代表ウオシロフ元帥に對し三國軍事會議決裂の理由を質したところ、同元帥は右會議決裂の理由は、傳へられるが如き獨ソ不睦條約の締結にあり、ソ聯と英佛との間の軍事的意思の相違に基くものであると大要左の如く答へた。英佛ソ軍事會議が決裂したのは、ソ聯と英佛との間の意見の相違が意外に大きかつた爲である。英佛各軍事使節はモスクワを出發するに當り、英佛に對し、由來ソ聯は英佛の謂ゆる侵略國とは國境を接してゐないから、英佛に對し援助を與へる場合は只一つソ聯軍隊をしてポーランド領内通過が許容されない限りである。故にソ聯としてはソ聯軍のポーランド領内通過が許容されない限りも明瞭であるにも拘らず、英佛兩國軍事使節はその申出に同意せず、又ポーランド政府もポーランドはソ聯の援助を必要とせず、又將來一旦緊急の際と雖もその軍事的援助を欲したるので最早交渉の餘地は全然なくソ不睦條約締結の爲ではなく、むしろ逆に、ソ聯がドイツと不睦條約を締結したのはソ聯と英佛との意見の間に越ゆべからざる溝があつたことが理由の一つであると云へる。

ソ聯邦通商戰日誌

二六

- △の通信連絡遮斷、旅客航空便の停止
- △英波相互條約調印
- △獨ソ不睦條約で決裂した英佛ソ三國軍事會議の英佛代表モスクワ引揚げ
- △カナダ政府、戰爭勃發の場合ニツケル、銅、鉛、亜鉛、アルミニウム、アスベスト、小麦、その他の穀物等重要商品の輸出許可制を實施すべく研究中と傳へらる
- △オーストラリア政府國家安全保障令公布

- △獨 白耳義へ中立を條件に領土尊重通告
- △獨 各種日用必需品の切符購買制を發令に決定
- △英、香港新嘉坡で日本語

- △の打電禁止
- △英、二十七日より全商船を海軍省の統制下に置く旨發表
- △英、シンガポール、國防令により郵船の繫留禁止
- △印度政府臨時事態に應ずる爲軍需省を新設し、軍需物資を印度、ビルマ以外へ輸出禁止
- △英、外國證券取締令發布
- △佛國政府は大破省に對し軍需品買付の爲總額四億三千万フランを限度としてポーランドに融資方の権限を附與す

二七

八月二十七日

八月二十六日

● 獨ソ不侵略條約の締結

ロンドン情報によれば、獨ソ不侵略條約は單なる協定に止まらず、その秘密條約は殆ど同盟關係を取極めたものに等しいとされる。

● ソ聯最高會議召集

第一回召集ソ聯最高會議臨時第四會期がモスクワに開催された。(世界政治)

● 獨ソ通商協定細目

去る二十一日調印を見た獨ソ新協定の實施に關する細目が二十八日發表された。獨ソ通商協定は去る八月十九日ベルリンに於て兩國代表者間に調印を了し、それから四日後の二十三日には獨ソ不侵略條約がモスクワに於て調印されたことは既述の通りである。而して新通商協定は不侵略條約に至る一つの礎石と見られ、それが世界に及ぼす政治的意義は重大であるが、獨ソ接近の經濟的意義に就て述べれば次の如くである。

● 獨ソ接近の經濟的必然性

新獨ソ通商協定は去る八月十九日ベルリンに於て兩國代表者間に調印を了し、それから四日後の二十三日には獨ソ不侵略條約がモスクワに於て調印されたことは既述の通りである。而して新通商協定は不侵略條約に至る一つの礎石と見られ、それが世界に及ぼす政治的意義は重大であるが、獨ソ接近の經濟的意義に就て述べれば次の如くである。

● 大戦前の獨ソ經濟關係

ドイツは、イギリスが産業革命によつて歐洲に於ける工業國としての優位を保持したのに對し可なり後れて工業化の途を辿つた。然しイギリスの保守退嬰的なものに對し新興國家として勃興したドイツは、進取の氣象と不屈な研究のおかげでやがて工業先進國なるイギリスを凌駕するまでに發展した。而してこの間常にドイツの工業化を援助したのはロシアであつた。ロシアは文明の程度が

- △英國の最後の對獨回答決定(ヘンダーソン大使ヒットラー總統に手交)
- △和蘭、總動員令發令
- △和蘭、重要品の輸出禁止
- △スロヴァキア、獨軍プラティスラヴィアに進入
- △ニューヨーク外國爲替市場に於ける磅貨四弗二七仙に暴落
- △平沼内閣總辭職
- △伊政府緊急令公布並に羅馬市民に避難勸告
- △和蘭、和蘭領よりの石油輸出禁止
- △ユーゴスラヴィヤ及び諸國は磅へのリンクを停止
- △波蘭、獨軍のクロヴァキア進駐に嚴重抗議
- △ダンチヒ參議院はガソリン及び食糧品の臨時統制實施
- △米、ル大統領新聞記者團

遙かに低く、國は廣大にして天然資源が豊富に存してゐるにも拘らず、未だ工業的に十分な發展を遂げるに至らず、専ら歐洲の穀物倉庫としての農業經濟を國の基礎に置いた。然し歐洲に於ける機械工業の發展に刺激され、ロシアも機械文明の取入れを急いだ。そしてその大部分を隣接國のドイツに仰いだ。機械化學製品と共に、技師も多数ドイツから派遣された。かくてロシアはドイツ工業製品の最も有力な市場であると共に、一方ドイツに農産品を提供し、その工業原料並に食料品の補充を行つたのである。

● ソ聯の貿易政策

右の如き獨ソ兩國間の貿易關係は歐洲大戦によつて中斷された。大戦前のロシアの對外貿易は一九一三年に於て二十八億九千五百萬ルーブルに達したが、戦後新政府の樹立に伴ひ一九一八年から二ヶ年間に於て各國から經濟封鎖を蒙り、その對外貿易は全く杜絶した。その後貿易は漸次立ち直り始めたが、ソ聯としては荒廢した國民經濟を新たに建設する爲に資本主義諸國との對外貿易を利用せんとし、次の如き方針を採つた。

- 一、輸出の増大を図り、且つ極度の緊縮政策を斷行し、以て外貨の大量的吸收に努めた。
- 一、右の外貨を以て工業再建に必要な最新機械類を輸入し、消費材の輸入は之を削減した。
- 一、輸入の選擇より脱却する爲に國內經濟部門の發展に銳意努力する一方、海外諸國よりの長期並に短期クレジットの提供を策し、之が償却には能ふ限り國內物資を以て充當し、而してソ聯の對外貿易市場の獲得に努めた。右のソ聯の對外貿易政策に應じたのがドイツで、ソ聯との間にクレジットの簽定を行ひ始めたが、之が今回の獨ソ新通商協定の先驅とも見られるものである。

● 戦後の獨ソ經濟關係

大戦後に於ける獨ソの經濟關係は、ソ聯の工業化に伴ふ各種機械類に對する需要と、一方ドイツ側に於ける對ソ長期クレジットの供與によつて速かに展開を示した。ドイツ政府は當業者乃至銀行をしてソ聯に對するクレジット供與に盡力し、

ソ聯邦通商概目誌

- △に戰爭勃發の場合交戰國商船の檢索を行ふ旨發表
- △大命阿部大將に降下

一九三二年及び三三年には各三千万マーク、一九三五年十月には一億マークの各クレヂットを設立せしめた。一九二六年四月には對ソ取引損失保障制度を設け、同年末に締結された三億マークまでのドイツ生産品對ソ輸出に關して一九三〇年末までのその取極め期間中政府及び州が總額の六〇%まで損失を保障したが、一九三七年には更に三千万マークの追加保障をなした。

而して一九三一年頃ナチ政権成立までの間に獨ソ貿易促進に關して種々補強措置が採られた結果、獨ソ貿易は急激に發展し、一九三一年に於てはソ聯の對獨輸入は四億一千萬ルーブル、ドイツへの輸出は一億二千九百萬ルーブルとなり、ドイツよりの輸入は同年のソ聯全輸入額の三割七分、輸出は全輸出額の一割五分を占めるに至つた。而して同年に於けるドイツ工業品の輸出總額中ソ聯に對する輸出の割合をせば次の如くで、ドイツ工業部門のソ聯市場に對する依存關係の大なることを明瞭に物語つてゐる。

各種ポンプ	五七%
各種選機	五一%
貨物引揚機	六五%
送風機	二八%
電氣機械	二七%

〔ナチ政権成立と獨ソ關係〕

一九三三年一月ヒトラー内閣の成立以來、獨ソ兩國の貿易は萎縮しはじめた。ヒトラーは國內の共產黨に對して徹底的な彈壓を加へ、更に政府要人が公然と反ソ的言辭を弄したため、これがソ聯の對獨感情を害し、從來の獨ソ親善關係は悪化した。これに伴つてソ聯のドイツよりの輸入は一九三三年には前年の半額となり、一方ドイツ側のソ聯よりの輸入も、則ち、糧料、松材等の關稅引上げ、ソ聯よりバタ輸入量の減額並に燈物及び種子の輸入管理等によつて減少した。

然しドイツとしてはその對ソ貿易上の利益を失ふに忍びず、一九三三年三月議會に於てヒトラーは自國內に於ける反共產主義政策と獨ソ國交關係とは何等關聯するものでない事を聲明した。翌三四年三月には獨ソ經濟協定書が交換さ

れ、同年ソ聯側の約六億マークと推算される對獨債務は金及び外國爲替を以て支拂ふこと並に一部クレヂットの支拂期間を延長したのみならず、兩國貿易促進のためにドイツは同年中ソ聯よりの輸入を二億マークに達せしめることを約し、主として原料品の輸入に努めた。

越えて翌三五年四月にはベルリンに於て獨ソ經濟協定が締結された。而して本協定は一九三七年に失効し、これが去る八月十九日の新協定によつて更改されたのである。

〔最近に於けるドイツの對ソ貿易〕

最近に於けるドイツの對ソ貿易は左の如くである。(單位百萬マーク)

年	輸 入	輸 出	超 過
一九三四年	三九七	三九七	△
一九三五年	三九七	三九七	△
一九三六年	三九七	三九七	△
一九三七年	三九七	三九七	△
一九三八年	三九七	三九七	△
一九三九年	三九七	三九七	△

即ち一九三四、三五兩年に於けるドイツの對ソ貿易はその輸出力激減によつて貿易況は遂に入超を示し、その額は著しいものであつた。而して一九三四年の對ソ輸出は同年のドイツ總輸出四十一億六千六百萬マークの内僅か一・五%に過ぎず、三五年にはこの率は一%以下に低下したが、三六、三七年には世界貿易の好轉に伴つて多少改善された。又一九三四年に於けるドイツの對ソ輸入は總輸入額の四・七%を占め、三五年には五・一%に高まつたが、三六年以降は漸減傾向を示してゐる。尙一九三八年に於ける兩國の主要貿易品を示せば次の通りである。(單位千マーク)

合 計	三二二
金 屬	三二二
鐵	三二二
煤	三二二

八月三十日 (水)

●モロトフ外相英佛を難詰
 ソ聯最高會議は三十日討議無用の動議の後、獨ソ不侵略條約を滿場一致を以て可決したが、その前に外務人民委員モロトフは演説を行ひ、世界の形勢は改善されざるのみならず益々悪化してゐる。これは單に歐洲のみならず東亞に於ても同様であると述べ、更に獨ソ不侵略條約の意義を明かにするには本年四月からの英佛ソ聯間の對獨包圍策會談の經緯を檢討しなければならぬと稱して、英佛がドイツに對し各國の利益のみを擁護することに重點を置いてソ聯に偏務的義務を求めたが故に上記三國會談は流産したが、銘記されるべきは、英佛側が侵略を恐れて侵略に對する抵抗力を強化する爲にソ聯と提携せんとし、他方英佛ソ三國の軍事同盟によつてソ聯の國防力が増大するであらうことを英佛

化學製品	1,121
鐵製電線	3,045
鐵製管	1,308
其他鐵製品	1,596
工作機械	7,496
精密光學製品	4,911
▲ドイツの對ソ主要輸入品	
蘇その他纖維	2,300
外套用毛皮	1,744
寢衣用毛皮	1,280
マンガン鐵	2,699
燐灰	3,153
木材	1,876
油類	1,271
燃料油及び潤滑油	4,778
羊毛その他獸毛	1,253
帽子用皮革	1,450

(註)右に掲げた數字は同盟通信社資料に據る。

△獨、ゲーリング元帥を首班に最高國防會議創設
 △佛、ラジオ放送局を陸軍省管理下に置く
 △波蘭、午後一時半總動員下令

八月三十一日 (木)

が憂慮した事であると説明した。更にモロトフ外務人民委員は、英佛は自國の利益のみを考慮してゐるが、我々はソ聯の利益を考慮しなければならなかつた。我々は他國の利益の爲に火中の栗を拾ふことを斷乎拒否したと云ひ、更に獨ソ通商協定に就て次の如く述べた。即ち、獨ソ間の通商協定は先年成立しその後中斷されてゐるが、八月初めから通商新協定会談が開始され、去る十九日成立を見た。ソ聯は英佛とかくの如き協定を結ぶよりもドイツと結ぶことが適當であるとの結論に到達した。ソ聯はドイツから産業及び國防の設備に必要な物資を輸入し、ドイツに對して原料品を供給することとなつたが、更にドイツは物資の取引のみならず獨ソ間の政治的關係の改善の必要を暗示した。これも拒否すべき理由がないので、不侵略條約の形式にて之を具體化することにしたのである。ソ聯は資本主義國と諸種の協定を結んで来た。故にイデオロギーを異にするドイツと友好關係を結ぶことに不思議はない。殊に歐洲の形勢は次第に悪化しつつあり、この際ソ獨兩國が不侵略條約を締結することの必要はドイツも亦認める所であつた、云々。

●獨ソ不侵略條約批准完了
 ソ聯最高會議は三十一日午後八時四十五分懸案の獨ソ不侵略條約批准を滿場一致を以て可決した。
 ●獨政府も條約の批准完了
 獨逸政府は三十一日コンミュニケを以て獨ソ不侵略條約の批准を了した旨發表した。

△ソ聯、國民皆兵法採擇
 △獨の對波要求十六ヶ條公表
 △獨波兩軍邊に職端を開く
 △獨、午後九時十八分獨政府英、獨交渉の經緯發表
 △英國陸海軍に總動員下令
 △倫敦株式取引所明日より無期閉鎖決定
 △佛、緊急閣議で對波援助履行を再確認

ソ聯邦通商戰日誌
一九三九年九月

九月記事索引(一九三九年)

九月一日	ソ聯英佛へ警告説……(三三) 駐支ソ聯大使著任……(三三) ソ聯駐獨大使更迭……(三三)	九月十三日	獨ソ軍事同盟説……(三三) 米國に於けるソ聯のゴ ム買付……(三三)	九月二十日	出……(三三) 大戦勃發に重慶苦悶……(三三) ソ聯 獨羅援助を好ま ず……(三三)	
九月二日	新大使ベルリソ著……(三三) 英遂に對獨宣戰布告……(三三) 佛蘭西も戰爭状態に入 る……(三三)	九月十四日	英ソ通商上の危機……(三三) 駐日ソ聯大使任命……(三三) 日ソ停戰協定成立……(三三)	九月二十一日	駐ソ波大使館引揚……(三三) ソ聯白海立入禁止……(三三) 獨ソ經濟提携強化……(三三)	
九月三日	歐洲戰況にソ聯沈黙……(三三) ソ聯貿易の特色……(三三) ソ聯、獨波に物資供給 ソ聯民心不安……(三三) ソ聯の對歐策……(三三)	九月十五日	滿蒙國境紛争に關する 日ソ協定發表……(三三) 日ソ停戰協定の反響……(三三) 米政府米人引揚勸告……(三三)	九月二十二日	獨、シベリヤと飛行船 連絡計畫……(三三) 獨ソ兩軍分界線發表……(三三)	
九月四日	ソ聯貿易の世界貿易 に於ける地位……(三三) 日ソ査證問題解決……(三三) ソ聯國際青年デー……(三三)	九月十六日	日ソ停戰協定と重慶……(三三) ソ聯軍遂に波領進駐……(三三) 波領進駐は同胞救済……(三三)	九月二十三日	獨ソ兩軍相會す……(三三) 獨ソ共同聲明……(三三) 獨、對ソ「クレヂット」 擴張説……(三三)	
九月五日	ソ聯の對歐策……(三三) ソ聯貿易の世界貿易 に於ける地位……(三三) 日ソ査證問題解決……(三三) ソ聯國際青年デー……(三三)	九月十七日	日ソ停戰協定と重慶……(三三) ソ聯軍遂に波領進駐……(三三) 波領進駐は同胞救済……(三三)	九月二十四日	獨ソ兩軍相會す……(三三) 獨ソ共同聲明……(三三) 獨、對ソ「クレヂット」 擴張説……(三三)	
九月六日	日ソ査證問題解決……(三三) ソ聯國際青年デー……(三三) ソ聯通商關係維持……(三三) ソ聯方向轉換の意義……(三三)	九月十八日	獨ソ兩軍相會す……(三三) 獨ソ共同聲明……(三三) 獨、對ソ「クレヂット」 擴張説……(三三)			
九月八日	ソ聯新輸出制限令發表……(三三) ソ聯廣範圍に動員開始……(三三) ソ聯紙反英記事を發表……(三三)	九月十九日	波蘭分割と獨逸の企圖……(三三) ソ聯勢力バルカンへ進 出……(三三)			
九月九日	ソ聯新輸出制限令發表……(三三) ソ聯廣範圍に動員開始……(三三) ソ聯紙反英記事を發表……(三三)					
九月十日	ソ聯紙反英記事を發表……(三三) 獨技術顧問著……(三三)					
九月十二日	獨技術顧問著……(三三)					

九月一日 (金)	●ソ聯英佛へ警告説 獨逸戦端開始と共に歐洲情勢は極度に重大化し、而してソ聯の動向が注目されてある折柄、ベルリン情報として、ソ聯政府は既にロンドン及びパリに對し英佛兩國が對獨逸開戦する場合、ソ聯は西部國境(ソ波國境)の改訂を餘儀なくされ、獨逸兩國にてポーランドを分割する旨警告を發したと云はれる。尚ベルリン情報によれば、ドイツは現在の危機に於てはイタリアよりもソ聯の支持を頼みにしてゐることである。	▲午前五時四十分ハ獨逸統帥國防軍にポーランド進軍を命令 ▲伊、中立決定 ▲白耳義、瑞典、諸國、芬蘭、丁抹、和蘭、羅、中立堅持を表明 ▲カナダ、動員下令
九月二日 (土)	●ソ聯駐獨大使更迭 ソ聯政府は二日駐獨大使を更迭する旨發表した。即ちA.ト・メレカロフ現駐獨大使は某要職に轉出、その後任にはA.シユクワルツエフが任命された。	▲六百九十億法の對獨逸費支出の制限を與へる國防支出法案英兩院を通過 ▲英、十八歳以上四十歳迄の男子徴兵法議會通過 ▲英、金屬纖維皮革等に對する價格及び配給統制を含む重要物資統制令發布 ▲ユーゴ陸軍總動員下令
九月三日 (日)	●新任ソ聯駐英大使著任 新任ソ聯駐英大使アレクサンドル・セミヨノヴィツチ・パナウチエキンは、一日軍政府主席林森に對して信任狀を捧呈、ソ聯の對英援助はこれまで常に言葉の上でなく實際に於て爲されて来たが、自分の任務は兩國間の友好合作を繼續發展せしめるにあると聲明した。	▲英海軍海上封鎖を開始 獨逸もカテガット海峡に水雷敷設 ▲英空軍ビラを獨逸領内に撒布、ナチズム排撃を宣傳

ソ聯邦通商戦日誌

九月二五日	●派 獨逸經濟提携上の難關 ソ聯通商協定成立 エ國外相露都著 駐獨ソ聯通商部大曾員 ソエ間通商・政治協定交渉開始 エ國外相突如露國 土外相露都著 ソ聯の對土要求 ソ聯の親日態度 汽船二隻南米より浦鹽へ向ふ	九月二十九日	●ソ聯、英ソ戰時通商協定提議 ソ聯對獨擊さる 獨逸新協定調印 獨逸共同宣言 經濟問題に關する獨逸交換公文 獨逸新協定に關する諸觀測 ソエ相互援助條約並通商協定成立 ソリ間通商増加 獨逸經濟使節近クソ聯赴任 獨逸間經濟計畫要旨 ソ聯英國向石油禁輸説
九月二六日	●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想	九月三十日	●ソ聯、英ソ戰時通商協定提議 ソ聯對獨擊さる 獨逸新協定調印 獨逸共同宣言 經濟問題に關する獨逸交換公文 獨逸新協定に關する諸觀測 ソエ相互援助條約並通商協定成立 ソリ間通商増加 獨逸經濟使節近クソ聯赴任 獨逸間經濟計畫要旨 ソ聯英國向石油禁輸説
九月二七日	●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想		
九月二八日	●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想 ●獨逸新協定の豫想		

● 歐洲戰亂にソ聯沈黙
 英佛の對獨宣戰によつて獨逸戦争は遂に第二次歐洲大戰に擴大されたが、これに對してドイツとソ聯の相互援助條約ともいふべき不侵條約を締結したソ聯が如何なる態度に出るであらうかは極めて注目される折柄、ソ聯官報は控目の態度を保持し、ソ聯の大義に處する政策について堅く沈黙を守つてゐる。尙この際ソ聯貿易の特色に就て若干記してみよう。

● ソ聯貿易の特色
 ソ聯邦の外國貿易に於ては普通三つの特色が擧げられる。即ち、外國貿易の完全な國家獨占、輸出に對する輸入の優位、貿易の國民經濟並に世界貿易に占める比重の低位が之である。

① 貿易の國家獨占
 ソ聯邦外國貿易の國家獨占は、一九三二年三月十三日附全蘇中央執行委員會幹部會決定によつて確立し、外國貿易人民委員部により實施された。而して同法令により「トルグアレド」(ソ聯邦通商代表)が設置され、これが諸外國に於ける商取引の業務を擔當する事になつた。然し復興期の平和的建設期に於ては、外國貿易が擴張すると同時に、外國貿易は外國貿易人民委員部のみならず他の多くの人民委員部及び諸官廳に於ても行はれるやうになつた。

一九二九年黨中央委員會十月總會の決議により外國貿易人民委員部に商品別の特別な株式會社が數多組織され、これが他の機關より貿易機能を取引して、外國貿易人民委員部の單一な役割を強化した。更に一九三〇年に外國貿易は殆ど全く外國貿易人民委員部の輸出輸入聯合に集中され、これらの聯合が自己に託された商品につき貿易業務を管掌する事になつた。かくてソ聯邦貿易の國家獨占は決定的に確定し今日に及んでゐる。即ち輸出商品を生産する一切の生産機關は輸出商品を先づ輸出聯合に提供し、輸出聯合は獨立採算に基いてこれらの商品の外國市場に於ける販賣に従事する。輸入に於ても、輸入を必要とする機關又は企業は、政府機關の許可を得て先づ自己の註文を外國貿易人民委員部に提出し、外國貿易人民委員部内の當該輸入聯合がそれらの商品を外國市場に於て購入し供給するのである。

ソ聯邦外國貿易人民委員部管下の輸出入聯合は左の如くである。

- △英、敵國との商取引禁止令發布
- △英、金及び外貨國有令及び輸出禁止令發布
- △英、資本發行統制及び金融統制令發布、臨時農業委員會設立
- △英、情報部を情報省に改組
- △英、内閣改選、チャーチル及びハンケイ入閣、引續き第二回改選を行ひ、イーデン、スタナツプ及びビンスキヤツプ入閣
- △英汽船アセニア號(三三、四六五噸)スコツトランド西方で撃沈さる
- △香港政廳閉鎖を公布
- △エジプト對獨外交關係斷絶發表、同時にカイロ市に戒嚴令宣布され、獨人拘禁さる
- △オーストラリア對獨宣戰布告
- △スロヴァキア獨側へ參戰發表
- △米國、對中南米互惠貿易を促進すべく考慮中と傳へらる

ソ聯邦通商戰目誌

一、	聯邦石油輸出聯合
二、	木材輸出聯合
三、	建設材料輸出聯合
四、	雜品輸出聯合
五、	紙麻輸出聯合
六、	聯邦毛皮輸出聯合
七、	聯邦工業製品輸出聯合
八、	聯邦石炭輸出聯合
九、	技術輸出聯合
一〇、	機械輸入聯合
一一、	工作機械輸入聯合
一二、	雜品輸入聯合
一三、	聯邦金屬輸入聯合
一四、	技術工業用品輸入聯合
一五、	穀物輸出聯合
一六、	工業原料輸入聯合

(輸入の優位) ソ聯邦貿易に於て輸入が優位を占めてゐることは第二の特色とされる。即ち、ソ聯邦に於ては國內經濟建設を迅速に行ひ、國家の外國への依存關係を廢絶する爲に、貿易はソ聯邦國內に全く存在しないか或は不足してゐる物資を輸入することを主旨とし、その爲の外貨獲得に統制物資の輸出を利用して來たのである。平時有利な輸出に重きを置き、この輸出を行ふ爲に必要な物資を輸入することを建前とした諸外國とは反對な貿易政策であつて、ソ聯邦が外國貿易をして強力な國際的政治手段たらしめて來た理由も茲にあるのである。

ソ聯邦の輸出入の比較を示せば左記の通りである。(單位十萬圓)

年 度	輸 出	輸 入
一九一三年	六六	六〇
一九一八年	〇〇四	〇〇五
一九二〇年	〇〇〇	〇〇一

九月四日

九月五日

ソ聯邦通商戦日誌

尙、「ソ聯邦貿易の世界貿易に占める地位」に就ては別項に記すこととする。(九月五日)

●ソ聯、獨逸に物資供給

ドゥ・ジョーンス通信社ロンドン特電によれば、ソ聯政府は今の處全く中立態度を採り獨逸双方に對して物資の供給を行つてゐる。

●ソ聯民心不安

モスクワ市民は表面平静を保つてゐるが、戦争に關する私語が盛で、殊に大戦の経験ある中年以上の連中は再び戦禍に巻き込まれることなきやを懼れて暗澹たる面持ちである。一部には早くも食料買入れを始めたものもあると云はれ、燈火管制は勿論、防空訓練も行はれつゝある。但し獨逸不侵條約で市民は戸惑ひの形を呈してをり、殊に、從來反ナチスの訓練を受けて来た赤軍兵士を英佛側へ向けることは相當困難であらうといふのが外國人筋の一致した見解である。(九月五日)

●ソ聯の對戰策

歐洲戦争の擴大と共にソ聯の態度は最も注目されるが、ソ聯政府では五日夜特別軍事會議を開催して軍事態度を決定する模様だと云はれる。恐らく政府は緊急命令を發し昨週最高會議で採擇された法律及び兵役年限延長に關する諸法令發布の準備を開始すると見られる。而して今回の緊急命令によつて増加されるソ聯兵力は百萬以上に及び、従つて總兵力は三百萬に達するものと見られる。一般の觀測によれば、ソ聯は現在積極的軍事行動を企圖する様子はなく、資本主義國をして相互に戦はしむとのスターリンの原則に従つて、適切な時期の到來を待ち、以て兵力を養ふ方針の如くである。

●ソ聯貿易の世界貿易に於ける地位
ソ聯貿易はソ聯邦國民經濟の發展にとつて極めて多大な意義を持つて來たが、それが世界貿易に占める地位の低いことは、國民經濟に占める地位の低いことと共に、ソ聯貿易の一特色をなしてゐる。一九三九年を基準としてみるに、總消費量に占める輸入の地位は英國四〇・一五〇%、ドイツ二〇・二二五%、

- △伊政府中立堅持を聲明
- △英、不要不急商品の輸入禁止發表
- △天津英人に總引揚令
- △印度政府國防緊急令發表
- △敵國國民間の貿易を禁止する旨布告
- △スペイン政府中立發表
- △日本政府歐洲大戦不介入を聲明
- △獨逸時經濟緊急令公布
- △生活必需品の死傷取締
- △戰時特別増稅、戰時特別貨銀制、物價統制令公布
- △獨逸、獨逸及び例スロヴァキア國境を突如閉鎖
- △英、戰時經濟省新設
- △英、英蘭銀行磅の對米レート(四弗二仙買、四弗六仙賣)十四日買は四弗四仙に改むに公定
- △金買入値段をも八磅八志に公定
- △英、株式仲買取引再開
- △香港政府戰時運輸事業遂

年次	輸出品	輸入品	全品目
一九三五年	二・七	三・六	六・三
一九三〇年	四・七	四・六	九・三
一九三一年	四・七	四・三	九・〇
一九三二年	四・一	三・五	七・六
一九三三年	五・一	四・一	九・二
一九三四年	一・〇	八・八	九・八
一九三五年	一・六	八・二	九・八
一九三六年	二・四	六・七	九・一
一九三七年	三・一	七・三	一〇・四
一九三八年	三・〇	七・〇	一〇・〇
一九三九年	三・〇	八・二	一一・二

ソ聯邦は一九三五年以來金高に於ては南阿聯邦に次いで世界第二位となつたと稱されてゐるが、然し輸入のための外貨獲得の唯一の手段は輸出貿易以外にあり得なかつたのである。ソ聯邦は他の諸國の如く外國への資本の輸出を行つて居らず、従つてそれよりの収入も外債利子収入も皆無であつたし、更に戦前の英國の如く船舶収入も殆ど無かつたと言ひ得る。ソ聯邦自身の船舶を以てする輸出入品の割合は年々増加して居り、輸入品は殆ど直接ソ聯邦を以て輸入されて來たが、輸出貿易のために外國船舶が傭入される必要は次表によつて明かである。

米國八一九%であるにも拘らず、ソ聯邦に於ては一%に過ぎず、工業生産高(一九三七年一億九百億ルーブル)に對する輸出額の比重も、英國三五%、米國二六%、ベルギー五〇%に對してソ聯邦は一・八%に過ぎなかつた。

ソ聯邦の國民經濟總生産に占める輸出の比重は左の如くである。

一九三三年	二・六	一九三三年	二・二
一九三四年	三・二	一九三四年	一・八
一九三五年	三・五	一九三五年	一・八
一九三六年	二・五	一九三六年	〇・八
一九三七年	二・四	一九三七年	〇・八

而して世界貿易に占めるソ聯邦貿易の比重は、

一九三三年	三・九	一九三五年	一・三
一九三四年	一・四	一九三六年	一・三
一九三五年	一・〇	一九三七年	一・一
一九三六年	一・八		

輸入貿易の比重は

一九三二年	二・四	一九三五年	一・三
一九三三年	一・八	一九三六年	一・三
一九三四年	一・五	一九三七年	一・一

世界貿易に占める輸出貿易の地位もまた極めて低く、世界に於て第十二位乃至第十七位、八位を占めて来た(一九三六—三七年)。ソ聯邦及び列強の世界貿易に占める地位は左の通りである。(%)

國名	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年
ソ聯邦	四・二	二・一	二・三	一・七	一・三	一・〇
ドイツ	一三・一	九・九	一一・一	一一・三	九・一	九・〇
イギリス	二二・六	二二・五	二二・四	二二・八	二二・四	二二・四
フランス	七・三	六・一	六・五	六・五	五・四	四・四
米國	一三・四	一五・九	一四・六	二二・九	一一・八	一一・四
英國	一三・九	一〇・九	一〇・七	九・七	一一・一	一〇・三

四〇

行のため英吉利在籍の大商船に武装を命ず

△波蘭政府ソルツを放棄、ルブリンに遷都

△米、ル大統領歐洲戰爭に對するアメリカの中立法宣言、引續き中立法發動を正式に宣言す

△米、ル大統領關稅委員會の勸奨により外國棉府の輸入制限を布告す

△帝國、交戰英佛獨波四國大使に對し交戰措置を勸告す

△滿洲國政府歐洲動亂に對し中立を聲明

△タイ國政府中立宣言

九月六日 (水)

●ソ聯邦は國家建設のために機械類を多量に輸入し、それに銅、錫、ニッケル等の重要軍需資材を輸入に仰いで来たといへ、ソ聯邦貿易がソ聯邦の國民經濟及び世界貿易に占める地位の低かつたことは右の通りであつて、このことは一面に於てソ聯邦國家の自給率の高いこと、即ち、輸入軍需資材を別とすれば、長期戦への有利な體制を物語るものと云へる。

(註)右に挙げた數字は、前掲「企業院第一部編『ソ聯邦重要研究資料彙報』及び『國際貿易とソ聯邦の外國貿易』に據る。

●ソ聯邦青年デー

六日モスクワに於て第二十五回國際青年デーの大デモが舉行されたが、同デモに於てソ聯邦が歐洲戰爭に介入しないとの態度が強調され注目された。即ち同デモに於て最も代表的なスローガンは「我々を戰爭より救つたスターリンに感謝せよ」「外國が戰爭に捲込まれてゐる間に我々は我國の發展を期さう」等であつた。

●日ソ査證問題解決

北洋漁業の切揚げに際しソ聯側は又も函館港に待機中の石狩丸ほか八隻の切揚船に對し査證拒否の通告をなしたためその成行が憂慮されてゐたが、我外務當局より嚴重交渉を行った結果六日に至り同日昌貨丸ほか一隻に對し査證を行ひ殘餘の切揚船に對しても順次査證を行ふべき旨を回答し來つたので、ソ聯側の査證拒否問題は遂に解決した。

九月七日 (木)

●ソ波通商關係維持

獨逸開戦の結果ソ波關係の將來に關し種々取沙汰されてゐたが、モロトフ外務人民委員は最近グルチボフスキー駐ソ波大使を招致し、ソ聯政府はソ波兩國

ソ聯邦通商戰日誌

- △英、約五百種の商品に對し輸出入統制施行
- △英、一九三六年の倫敦海軍條約に英ソ、英波兩海軍條約無期限停止發表
- △イラク政府對獨逸外交關係斷絶の旨發表
- △南阿聯邦開戦聲明
- △獨逸滿鐵修好條約追加條約批准書交換完了
- △白耳養食料切符開始
- △香港政廳外國爲管理辦法公布、香港政廳重要輸出品禁止を發表
- △英、戰時禁制品目を發表
- △米、ル大統領米の中立法を確保する爲「池田案」急狀

四一

九月九日
(土)

間に平常通りの通商関係を維持すべく努力しつゝある旨宣言したといはれる。

●ソ聯方向轉換の意義

ローマ教皇機關紙「オツセルバトール」は九月「ソ聯の政策の新動向」と題する社説を掲載、ナチスドイツと結んだソ聯の對外政策轉換の理由を分析すると共にその及ぼす影響の甚大さを左の如く力説した。
ソ聯は最近再度國際舞臺に登場した。スベインで失敗の後ソ聯は戰術を變更、英佛兩國と結ぶ代りにドイツと不侵條約を締結し之を補強するに獨り通商條約を以てベルリンに軍事使節を派遣したが、斯くて歐洲の國際舞臺は一轉するに至つた。斯るソ聯の方向轉換の原因は何處にあるかを推測するに、左の六つの理由が挙げられよう。
一、戰爭の場合英佛兩國はソ聯に直接援助を與へることが不可能である事
一、バルチック諸國が英佛の獨立保障を好まない事
一、ポーランドがソ聯軍の領土通過を好まない事
一、トルコがアレクサンドレツタの國體を受け、英佛と地中海現狀維持協定を締結した事
一、英國のルーマニア安全保障
一、東亞の事態

●ソ聯新輸出制限令發表

歐洲大戰勃發に鑑みソ聯の動向は世界の注目の的となつてゐるが、自國に對する戰爭の影響を最小限に喰ひ止めんとするソ聯の努力は顯著であり、人民委員會議は九月外務人民委員に左の如き制限を附與した。
一、外務人民委員は戰時情勢に處しソ聯の外國貿易に不利となる如き法律、命令、行政措置、判決乃至は爲替統制を行つてゐる國に對しての輸出又は既にソ聯より積出されて斯る國に輸送中の物品の引渡しを禁止乃至制限する事を得
一、外務人民委員は相手國が物品積出し以前に支拂を行はざる場合之ら物品の輸出を禁止する事を得
尙同法が發せられた獨り通商協定に對して如何なる影響を及ぼすかは不明であるが、ドイツが二億マルクの信用をソ聯に供給してゐること等から推し

四二

態を宣言

- △獨、ゲーリング元帥ラジ・オ演説で和平を示唆
- △獨軍北上部隊南部波蘭のガリシアに進入
- △ソ聯陸軍一部召集
- △英國、小麦粉、砂糖、肉類、油脂等に就き最高價格及び販賣許可制適用
- △英首相チエッコ開放表明
- △英、タイ國に中立保障通告
- △米、事務の繁忙に備へホワイト・ハウスに大統領官房豫置局、國家資源企業局、人事連絡局、文書局の五局を新設する旨發令

九月十日
(日)

て同法は特に對英佛輸出貿易を目標としたもので、獨り通商關係には變化を齎さないものと見られる。

●ソ聯廣範圍に動員開始

ソ聯政府は十日墨菲からレニングラードに至る歐羅巴ロシアの三分の一以上を占める地域に於て部分的な動員を行つた旨發表したが、十日のモスクワ驛は召集兵で非常に混雑を來してゐる。各地から集まつた兵隊はモスクワ驛で乗換へて、續々と西部國境へ送られてゐる模様である。
モスクワ外交界の觀測によれば、右豫備兵の召集は獨り不侵條約にも拘らずソ聯が獨軍のソ波國境への進出を恐れてゐる證據だとされる。
尙政府は、後備兵の召集と同時に食糧品の發賣を開始したと傳へられ、歐洲戰爭の進展と共にソ聯の戰時體制も漸次強化されんとしてゐる。(モスクワ)

●ソ聯紙反英記事を發表

九月十日附ソ聯各紙は英國の非友好的行爲と題し、八月末英國商會がソ聯側註文の各種機械製造を停止し又完成せるものの發送を拒絶し或は製作契約を破棄せるに對し、ソ聯側よりの申入れも何等の効果なく、英商務省はソ聯側買付商品に對する輸出許可を拒絶したと述べ、實例を擧げて、斯る英商會及び政府機關の行爲は英ソ貿易を根本的に破壞するものであるとのタス發表を掲げてゐる。(スワツキチヤ)

●獨技術師露都著

去る八月二十一日正式調印を見た獨り通商協定の結果ソ聯工業の再組織を指導するためにドイツの技術家が續々入露することになつてゐるが、去る十日ドイツ人技術師十二名がフィンランド經由ヘルシンキよりモスクワに到着したことが判明した。最近ドイツ側ではソ聯より原料品食糧品を輸入することにより英佛國の經濟的根柢は一層促進されるものと豫想される。(モスクワ)

●獨ソ軍事同盟説

ソ聯軍事使節並に新駐獨り通商大使が去る二日ベルリンに到着して以來既に十日経過したが、此の間去る三日使節團並に新大使をヒトラー總統が引見したの

ソ聯邦通商戰日誌

四三

- △獨政府、英吉利の對獨封鎖に對し經濟的反撃を加へる旨宣言
- △英政府聯盟に對獨開戦を通告
- △英軍佛蘭西に到着
- △英、棉業統制局設置
- △カナダ政府對獨宣戰布告
- △佛政府聯盟に對し對獨開戦通告
- △西部戰線ザール、ウオージエ間に於て佛軍前進、一方獨軍はモーゼル河東部のジエルト東北方から攻撃開始
- △ラトヴィア總動員發令
- △獨軍獨領全部占領完了
- △第一次英佛最高會議佛蘭西に開催
- △カナダ議會總額一億弗に上る戰時支出案を可決
- △瑞政府輸出許可制公布
- △英派遣軍佛軍と共同作戰開始
- △英、郵便爲替による海外

九月十三日
(水)

九月十二日
(火)

九月十四日 (木)

みで其後の行動に就ては何等の消息なく、各方面共極めて奇異な感に打たれてゐる。ソ聯軍使節のドイツ訪問の目的に就ては獨ソ軍事同盟締結が最も有力であつたが、次の如き理由によつて獨ソ軍事同盟の實現は不可能視されるに至つた。

一、ソ聯が英ソ軍事同盟より獨ソ不可侵條約に乗り換へた意圖が飽く迄歐洲戦線の外に立たんとする政策から出ていること
 二、獨ソ軍事同盟は結局ソ聯をして對英佛戰爭へ捲き込むことになること
 一、ソ聯軍使節の來獨以來十日を経て未だ兩國の軍事交渉に關し何等の發表なきこと。(ベルリン)

●米國に於けるソ聯のゴム買付
 米國に於けるソ聯のゴム買付が極めて活潑で、これはドイツ向供給の爲の買物と見られるが、この買付はコーヒー市場にも現はれてゐる由。

●英ソ通商上の危機
 十二日モスクワ新聞によれば、ソ聯政府は木材其他を搭載して英に向へる同國船總てに對し即時自國港に引揚げることを命じたといはれる。更に十三日スエーデン新聞によれば、ソ聯政府は英國側が既に支拂済の物品引渡しを躊躇し居ることを理由として英ソ通商條約廢棄を考慮中であるといはれる。同新聞通信のモスクワよりの報道によれば右不引渡品は軍需品で、就中六十噸のタンクを含んで居る。(通外)

●駐日ソ聯大使任命
 六月十五日以來空席のまゝであつた駐日ソ聯大使はコンスタンチン・スマタニン氏が任命された。

九月十五日 (金)

●日ソ停戰協定成立
 モスクワに於ける東郷モロトフ會談の結果十五日ノモンハン事件に關する日ソ停戰協定が成立した。

●滿蒙國境紛争に關する日ソ協定發表
 九月十六日ソ聯各紙は左の如きタス發表を掲げた。
 最近東郷大使及びモロトフ間に行はれた會談の結果日滿及びソ蒙側は左の如き協定に達した。

九月十六日 (土)

一、日滿軍及びソ蒙軍は九月十六日午前二時(モスクワ時間)を期し一切の軍事行動を停止す
 二、日滿軍及びソ蒙軍は九月十五日午後一時現在に於て占め居る線に止まること
 三、雙方軍代表者は直ちに現地に於て前二項取極の實行に當ること
 四、雙方の俘虜及び死體を交換すること、之につき現地軍代表者は直ちに協定を行ひ其實行に著す
 尙、東郷モロトフ會談に於て最近紛争のあつた蒙古人民共和國及び滿洲國國境を明確ならしめる目的を以てソ蒙側代表二名及び日滿側代表二名より成る委員會を出來得る限り速かに組織し、委員會は組織後直ちに其事務に著手すべしとの合意が成立した。(ソ聯)

- △ソ聯の言論始めて對波攻撃を行ふ
- △獨軍ワルソー總攻撃
- △獨毒ガス、細菌使用禁止に贊意表明
- △英軍マジンノ線到着
- △英米クロス四弗紙を刷る
- △米中立國權利留保聲明
- △ソ聯、定期年次補充令により新兵百萬徵集
- △獨軍プレスト要塞突入
- △西部戰線に開戦以來の激戰展開さる
- △佛國物價統制令公布

如き協定に達した。

一、日滿軍及びソ蒙軍は九月十六日午前二時(モスクワ時間)を期し一切の軍事行動を停止す
 二、日滿軍及びソ蒙軍は九月十五日午後一時現在に於て占め居る線に止まること
 三、雙方軍代表者は直ちに現地に於て前二項取極の實行に當ること
 四、雙方の俘虜及び死體を交換すること、之につき現地軍代表者は直ちに協定を行ひ其實行に著す
 尙、東郷モロトフ會談に於て最近紛争のあつた蒙古人民共和國及び滿洲國國境を明確ならしめる目的を以てソ蒙側代表二名及び日滿側代表二名より成る委員會を出來得る限り速かに組織し、委員會は組織後直ちに其事務に著手すべしとの合意が成立した。(ソ聯)

●日ソ停戰協定の反響
 (獨) 日ソ停戰協定成立の報は十六日正午ベルリンに到着、大なるセンセーションを捲起してゐるが、日ソ間の停戰は最もドイツ側が希望する所であり、日本としても當然歓迎すべき手段となし、これを日獨兩國の爲に歡迎してゐる。獨ソ不可侵條約締結以來日獨間に氣まづい感情が醸つてゐるが、之によつて漸次好轉して行くものと期待し、日本が更に一歩前進してソ聯の援送行動打ち切りに至るまで兩國の話し合ひを推進めればこれに優ることはないとしてゐる。(ベルリン)

(米) 日ソ停戰に關する米國輿論は之を以て何等かのより重大なる協定への第一歩と見る結果概して悪く、新聞は日本をソ聯及びドイツと同列に置いて論じてゐる。例へばニューヨーク・タイムズの如きその代表的なもので、「ヒトラーの盟誓破綻を一夜の中に忘れることが出来るスターリンとしては日本との多年に亙る國境紛争を以て雨降つて地固まるもの位に老へ直すことが出来るであらう。然し我々は獨ソ不可侵條約が歐洲戰争開始の合圖となつたことを知つてゐる。東ソに於ける休戦は世界各國に甚大な影響を齎すべき大事件の第一歩と見るべきであらう。其事件が何たるかは今のところ判らないが、ソ聯がポーランドの新事態に積極的に出るか、又日本に對し支那援助を約したのか、何れにしてもソ聯が西部國境に大軍を集結してゐるのは東ソの休戦と聯關ありと見

ソ聯邦通商日誌

- △ポーランド政府、ルーマニア・ソ聯國境に近接するザレスツキーへ遷都
- △ブルガリア中立聲明
- △カナダ政府爲替管理令を公布、即日實施
- △戰爭勃發により獨逸機械が輸入不可能に陥りメキシコの産業建設計畫停頓

九月十七日 (日)

●米政府在ソ米人引揚勸告
東亞情勢の變化に歐洲情勢の悪化に伴ひ、在ソ米國大使館在留米國人は本國政府より引揚げを勸告された。

●獨ソ間に獨飛行船航路
デネレックラフ紙は十六日の紙上にベルリン特電としてツェッペリン飛行船が近く石油輸送の爲に獨ソ間に航路することになったと報じ、時節柄注目を感じてゐる。その要旨は左の通りである。

●日ソ停戦協定と重慶
滿蒙國境紛争に終焉を告げる日ソ停戦協定は重慶側に深刻な衝動を與へてゐる。併し重慶當局は、一九三八年八月の張鼓峯事件の際に於ても日ソ間に停戦協定が締結されたが、ソ聯は尙對支援助を續けた事實に鑑み、今回の新協定成立によつてソ聯の對支援助は何等影響を蒙らぬと見てゐる。

●ソ聯軍遂に波領進駐
十七日午前六時ソ聯軍はポーランド國境に向け進駐を開始した。

●波領進駐は同胞救済
十七日午前モロトフ人民委員會議々長はラジオを通じ全國民に對して最初の放送演説をなしてポーランドの崩壊を指摘すると共に、赤軍のポーランド侵入の目的につき左の如く發表した。

●ポーランドは今や崩壊した。
ポーランドは在在の白ロシア人及ウクライナ人に對し同胞としての援助の手を差伸べることはソ聯の義務であらう。ソ聯政府はポーランド國民を彼等の指導者の失敗によつて投げ込まれた窮狀から救助せんと希望するものである。最近赤軍は豫備兵を召集して兵力の増強を圖つた結果、十分に強大な存在となつた。ソ聯の物資は豊富であつて、ソ聯は物資の統制を強化したとの一部の説は全然事實に反するものである。

- △ソ聯軍、波領北部のゲレボキエ、モロデツノ、バラノウイツチ各鐵道管區を占領、ニームン河の線に進出、南部ではコヅノ、ドブノ、ハクルノボル各都市を占領
- △バルチック諸國大軍集結
- △獨軍クツノ、デブリン、ブレストリトウスクを占領
- △獨軍西部戰線に於て攻勢に轉ず
- △米、大西洋諸港より極東向貨物運賃の二割引上げを發表

九月十八日 (月)

●獨ソ兩軍相會す
ドイツ軍司令部の發表によれば獨ソ兩軍の先鋒部隊は十八日午後遂に波領ブレストリトウスクに於て相會し、獨ソ兩軍の將校達は感激の握手を交し、茲に公式の歴史的交誼を行つた。この地は曾て一九一八年獨ソ兩國が歴史的協和の交渉に取掛つたと云はれる。(見附)

●獨ソ共同聲明
獨ソ兩國政府は兩國のポーランドに於ける軍事行動に關し各種の流説が行はれてゐるのを封するべく、十八日ベルリンとモスクワに於て同時に次の如き共同コミュニケを發表した。

●ソ聯邦及びドイツ國政府はポーランド國內に於ける獨ソ兩軍の行動の目的に關するあらゆる種類の根柢なき風説を打散する爲左の通り宣言す

●右軍隊の行動はドイツ又はソ聯邦の利益に反し或は獨ソ兩國に依り締結された不侵條約の精神及び字句に矛盾するが如き如何なる目的をも追求するものでなく、寧ろ兩國軍隊の任務はポーランド國家の崩壊により破壊された平和及び秩序を同國內に再建し、ポーランド人民が其國家的存在の條件を再建するにつき援助せんとするにある。(ソウヅエツヤ)

●ソ聯の動靜に重慶狼狽
重慶よりの情報によれば日ソ停戦協定の成立、ソ聯軍のポーランド進入の報は、ソ聯が歐洲に全力を集中して援蔣政策を變更することを意味するものとして重慶政府を極度に狼狽させてゐる。重慶側は獨ソ不侵條約の締結によりソ聯の東ソに對する壓力が強化されるものと豫想してゐただけに、最近のソ聯の動きによつて重慶側の誤算が明かとなり、今や抗戰の前途に對し極めて悲觀的な空氣に包まれてゐる。

●獨、對ソ「クレヂット」擴張説
ドイツはソ聯に對するクレヂットを二十億マルクより四十億マルクに擴張することに決し、之に關する交渉が既にモスクワに於て開始されてゐると。

●波蘭分割と獨進の企圖

- △英航空母艦カレリアス號獨逸潜水艦に撃沈さる
- △波蘭潜水艦オルゼル號エストニアを脱出
- △ルーマニア政府中立嚴守再聲明
- △ソ聯軍の波領進駐に對しルーマニアは逸早くソ聯を目標した波蘭との同盟の無効を表明す

九月二十日 (水)

ソ聯軍のポーランド侵入は同國の分割を條件とするドイツ側の對ソ工作の現はれであることは今や殆ど確實とされるに至つたが、十九日、フランス著名の外國通ベルチナツクスは獨ソ兩國のポーランド分割に關し次の如き観測を下してゐる。

●ポーランド分割に當りソ聯の獲得する領土は廣大に互る模様である。更に獨ソ兩國は夫々ポーランドの一部づつを自國領に編入した上ワルソーを中心として新社會主義共和國ポーランドを建設、これはソ聯の保護領ならしめる方針であると云はれる。即ち右はドイツがソ聯を自國領に加増せしめんがために行つたソ聯への大譲歩であり、ドイツの企圖する所はこれによつて生ずる新事態により英佛をして對ソ開戦を餘儀なくせしめんとするにある。

●ソ聯勢力バルカンへ進出
ソ聯のポーランド進駐によりソ聯とルーマニア、ハンガリーは新國境を接するに至つたが、これは同時にソ聯勢力のバルカン進出の序曲と見られる。即ち過去二十年間鳴りを鎮めてゐた汎スラヴイズムがこゝに再び復活する端緒を開いたものと見られ、この意味に於て過般のトルコ外相のモスクワ訪問及び大戦後唯一のソ聯承認國たるユーゴの對ソ國交復活の傾向は頗る重要視される。情報によれば、ユーゴスラヴィア政府は目下ソ聯政府との間に國交開始並に不從略條約締結に關し交渉を進めつつあり、兩國間には殆ど諒解が成立したといはれる。尙これと關聯して數日前セルヴィア農民組合長が外交官及び將官を同伴してモスクワに赴いた事實が判明したが、斯る諸情勢は全バルカンの勢力關係に重大な影響を及ぼすものと注目される。

●大敵勃發に重慶苦悶
大敵勃發による重慶政府の苦悶は著しく、蔣介石は何時下野するか問題となつてゐる。即ち重慶政府は、英佛の對獨開戦と、最も頼みにしてゐたソ聯の事實上の歐洲大戦参加とによつて、最近の對支武器供給は殆ど皆無となつたので、孫科と相前後して歸國した王明を急遽モスクワに派遣し對支援助の強化維持を懇請したが、ソ聯は中國共產黨に對し歐洲情勢を説明した後自重を要望したといはれる。尙重慶政府は英佛待むに足らずとしてアメリカへの依存強化に宋子文を派遣

四八

●權法發布
△北歐四國中立維持を決定
△ウルクワイ政府 對日通商航海條約案可決

△獨、特別布告を以て對波職終了發表
△獨軍司令部捕虜十七萬と發表
△伊兵、希臘國境から撤收
△英政府、輸入業者に對しインボイス記載價格は外貨を以て表示し續要請した

九月二十日 (木)

することに内定してゐるが、最近に於けるアメリカの情報は、歐洲大戦のためアメリカの視聽は全部歐羅巴に向けられてをり、對支援助熱は一日毎に冷却してゐることを傳へてゐるので、宋子文は特使赴任を敬遠して王寵惠を推してゐるといはれる。(同前)

●ソ聯、獨羅接境を好まず

●ポーランド分割に關する獨ソ間の折衝は依然繼續されてゐるが、南部方面の新國境劃定については、ソ聯はドイツがルーマニアと國境を接することを好まず、現在の波羅國境地帯を自國の勢力下に置くことを希望してゐると傳へられる。而してこの希望が實現された場合には、ドイツはルーマニアより的小麥、石油の輸送路に障礙を來す恐れがあり、その成行が注目される。

●駐ソ波大使館引揚

●駐ソ波大使館はレンングラード、ミンスクの各領事館員をも合せて二十一日モスクワを出發、ルーマニアに引揚げることとなつた。

●ソ聯白海立入禁止

●ソ聯政府は二十日モスクワ駐在各國公使館に對しソ聯海軍はフィンランド灣に機雷を敷設し白海への外國船舶立入りを禁止する旨通告した。

●獨ソ經濟提携強化

●獨ソ兩國軍がポーランド領内に進駐して以來これら兩國の軍事經濟各方面に互る提携の強化が頻りに傳へられて居り、約三十名から成るドイツ經濟使節團は目下モスクワに於てソ聯側と折衝を行つてゐるが、ソ聯の石油生産増加並にドイツの石油輸出に關し協議してゐるものと見られる。獨ソ經濟提携に關してはその前途を疑問視する向きもあり、就中ソ聯の石油生産額は現在の所自國の消費を賄ふのみで一杯の状態にあり輸出の餘力は持たぬといはれてゐるが、嘗てソ聯が未曾有の飢饉に遭遇した場合に於ても巨額の物資を輸出した事實もあるので、ソ聯の對獨輸出は必ずしも實現不可能に非ずと見られてゐる。

●英ソ貿易斷絶か

●ソ聯貿易人民委員部方面の消息によれば英ソ間通商關係斷絶の機運が濃厚となつたと云はれる。即ち數ヶ月前に註文された武器、機械、機具及び今週既

ソ聯邦通商戰日誌

と傳へらる
△佛政府戰時内閣最初の國務會議開催、波羅分割に對し強硬態度を決定
△深洲、飛行六個中隊の歐洲派遣決定
△コスタリカ、小麥、バター等購入の爲の外貨使用を八〇%に制限、キューバ砂糖輸出により獲得せられる外貨の中政府に提供すべき割合を増額

△英政府二十歳より二十五歳迄の壯丁二十五萬召集
△佛、波蘭政府のバリ移轉を承認
△ハンガリーも豫備兵動員
△カリネスコ羅首相暗殺さる
△米議會開會、大統領中立法修正に關する投票發表
△獨軍、波羅國境ゾロゾエツツに到着
△英政府白書を發表、戰爭勃發に至る迄の英獨外交

四九

九月二十日 (金)

に代金先拂のゴムの積出しを英政府が突如禁止した外、對ソ輸出を殆ど全面的に禁止したことが指摘されてゐる。

●ソ土接近の重要意義
トルコ外相サラジヨグ氏はソ土不侵略條約締結に關しソ聯當局と折衝を行ふ爲二十一日出發することになった。このソ土接近はソ聯の古い外交的懸案で、ある程度復讐を意味し、且ソ聯が四年世紀日に始めてバルカン問題に再び目を轉じたことを意味するものとして異常の注意を惹き、殊に東南歐洲の諸小國はその成行に最大の關心を拂つてゐる。ソ聯の希望する所は黒海から總ての外部勢力を締め出すためルーマニヤ、ブリガリヤ及びトルコを結束せしめるにあるもの如くである。尙トルコはソ聯と折衝を行ふと同時に、一方英佛とも相互援助條約を更に強化すべく經濟的接近を試みてゐる。(アンカラ)

●獨シベリヤと飛行船運送新計
デンマーク有力紙ベルリグスケ「アフトナグイス」紙が二十一日モスクワ電として傳へる所によれば、ツエツベリン航空會社の技術専門家一行が近くベルリンよりモスクワに到着し、飛行船によるシベリヤとの連絡飛行計畫に關しソ聯當局と交渉を開始することになったといはれる。ドイツ政府は飛行船を利用してシベリヤより重要物資の供給を確保せんと努力してゐるものと解される。

●獨ソ兩軍分界線發表
ソ聯政府は二十二日ポーランドに於ける獨ソ分界線確定に關しドイツ政府との共同コミュニケを左の如く發表した。
獨ソ兩國政府はビツサ河に沿うてナレウ河との合流點に達し更にナレウ河沿うてその水源地に至る一線を以て獨ソ兩軍の分界線となす。
●赤軍の一部は獨ソ分界線に向つて前進し、ベロストツク及びブレスト・リトフスクを占領した。西部ウクライナ及び西部白露西亞の諸都市並に農村に於ては、平常の秩序が確立されつつある。解放された諸地區の勤勞者は臨時的な管理、工業及び運輸の回復等に著手した。(世界政治)

五〇
△交渉を暴露
△英政府軍需會議新設、軍需工業の統制を圖る
△英、軍需品供給委員會新設

△獨逸、食糧統制強化の爲
切符制に改正を加へ二十
五日實施、改正品目はパ
ン、肉、油類、牛乳、ジャ
ム、砂糖で差當り購入許
可量はパン二千四百瓦、
肉五百瓦、砂糖二百五十
瓦、從來より一割減
△前獨逸陸軍總司令官フオ
ン・フリツテユ將軍ワル
ソー戰線に於て戦死

九月二十日 (土)

●獨ソ間商取引好調
二十二日ワガ紙「ロンドン」紙の報する所によれば、獨ソ間の商取引は益々榮
耀すべく、ソ聯の第三次五ヶ年計畫にはドイツの機械類が重要性を有すると共
に、ソ聯はドイツに對し鋼、鐵、木材、石油、綿を供給し、ドイツは更にソ聯
の石油増産のため即時最新式鑿岩機械を送る由である。(通外)

●エニア外相はソ聯政府の招請に應じて二十二日モスクワに向ひ出發した
が、右は數週間モスクワに於て行はれた商議の結果成立した兩國通商條約の
署名を目的とし、同時に農業博覽會見物を兼ねるもので、通商局長を同伴せる
程が發表された。同氏の訪ソは、ソ聯のバルチック諸國に對する動向が注目さ
れてゐる折柄何等かの政治的意義があるのではないかと重大視される。

●ソ聯は石油、獨は工業地帯獲得
ポーランド分割に關する獨ソ交渉は昨二十二日成立、豫想以上のドイツ側の
讓歩が窺はれる。即ちソ聯は國境を越えて遙かにポーランド領に喰ひ入り、ワ
ルシャワ對岸までを包含し、南はスロヴァキア國と國境を接するに至つた。獨
ソ兩國が今回獲得した地方の面積はソ聯が大陸ポーランド全土の五分の三、ド
イツが五分の二を占める割合だが、商業の發達状態を見れば左の如くドイツ領
に集つてゐる。

一、新ソ聯領は面積こそ廣いがその中央には森林地帯が廣がり、木材業、
皮革、毛皮業の外近代工業の見るべきものはない。尤も南部ウクライナ地方
はポーランド第一の農牧の發達地であり、更に南部スロヴァキア國境附近の
ポリスラフは歐洲三大石油産地の中心地であるだけに、ソ聯は年産五十二萬
噸の石油を加へて歐洲第一の石油國となつた。
二、之に反してドイツ領となつた西ポーランドはボスニア、クラカウ、
ツ、キエツエの人口稠密地方を占め、ポーランド工業、交通の約九割はこ
の地方に集中されてゐる。就中ロツツ、クラカウの紡織業は年産織布十三萬
四千五十噸に達し世界的に有名である。注目すべきはポーランド政府が一九
三七年來約八億ツロイを投じて建設したサンドミエルの化學、重工業等
の工業地帯がドイツに入つた事實であり、又スロヴァキア國境西部、カルパ

△獨、西部戰線へ七十個師
百五十萬集結
△ワシントン輸出銀行チ
リにクレヂット五百萬
弗を供與する旨發表

九月二十四日

チア山中の炭山がドイツの手に入ったことはドイツの戦争経済力を増強するものとして注目される。(118)

●ソ外交関係復活
ソハンガリーが本年一月防共協定に参加せる際断絶せるソ洪兩國の外交関係はこの度復活され國交が回復された旨二十三日發表された。

●ソ聯動員布告
ソ聯最高會議幹部會は二十三日現下の大動員に關し布告を發し、ソ聯人民に對して今次の大動員は相當長期に亙る旨を暗示した。布告は左の如し。
國際情勢が極めて緊張せるに鑑み、九月七日の特別召集令によつてモスクワ、カリニン、レニングラード、白ロシア、キエフ、ハリコフ、オルロフ各軍管區より動員されたる豫備兵は今後軍當局より新たな指令を得るまでは當分動員を解除されぬであらう。但し服務期間終了後は労働者並に勤務員はいづれもその原職に復せしめるであらう。(ウラ)

●獨ソ不侵條約批准交換
獨ソ兩國政府は八月二十三日締結にかゝる獨ソ不侵條約の批准を夫々完了し、二十四日ドイツ外務省に於てドイツ外務次官とソ聯駐獨大使との間に批准書の交換が行はれた。

●獨技術顧問をソ聯に増派
A.P.通信社ベルリン支局報道によれば最近ベルリン市中にはソ聯高級將校の姿が數多く見られ、獨ソ兩國間の軍事、經濟、産業の各方面に亙る緊密な協力工作を暗示しつゝあるが、二十四日ナチスの一高官は左の如き興味ある事實を物語つた。
現下時局に最も必要な原料品を滿載したソ聯汽船七十隻が近くドイツの某港に寄つてゐるが、ドイツの方から先頃ソ聯に派遣された技術顧問團の他に今後は續々として優秀な技師や技術者をソ聯に送つてドイツの最新式機械を紹介し、獨ソ聯絡交通路の改善を圖るはずである。(ニューヨーク)

●獨ソ經濟提携上の雜聞
ドイツは獨ソ通商協定によりソ聯より農産物の大量供給を受け長期戦に堪へ

△英佛爆撃機大編隊は獨逸フリードリッヒス・ハーフェンを襲撃、ツェッペリン飛行船製作所を爆撃
△メキシコ政府、石油増産、鑛山開發、道路改修、爲替管理、法撤廢等國內産業經濟開發計畫を樹立

九月二十五日

ソ聯邦通商戰日誌

得る確信ありと稱してゐるが、二十四日ニューヨークに達したA.P.モスクワ電はソ聯の對獨農産物供給は輸送問題が一大難關となつてゐる旨左の如く報じてゐる。

現在の協定によれば、ソ聯はドイツから機械及び完成品の供給を受けこれと交換に木材、マンガン及び農産物を供給することになつてゐる。然しその代金支拂及び輸送問題で困難に逢著し、何等かの打開策を講じなければならぬ破目に陥つてゐる模様である。一方消息通も、ソ聯の工業生産は非常な成績を示してゐるにも拘らず農業生産は依然需要を充たし得ない状態にあることを指摘して居り、他方ソ聯の交通機關が不備であるのに加へてポーランド鐵道が戦争によつて大部分破壊されて居り、更にバルチック海の冬季凍結の事實をも考慮して、輸送問題が最大の難關と見られてゐる。(ニューヨーク)

●勃通商協定成立
二十四日ブルガリヤ空軍司令官ヴァシル・ボイデフ大佐はソ聯ブルガリヤ間の定期航空路開設交渉を完結するため直ちにモスクワへ向ふ旨發表した。尚兩國間の貿易増進を圖る通商交渉は既に成立せる旨二十三日夜發表された。

●エ國外相露露著
エ國外相セルター氏、モスクワ著。(世界經濟)

●駐獨ソ聯通商部大増員
獨ソ通商協定締結以來獨ソ兩國經濟關係は頗る活發化してゐるが、二十五日のナチヨナル・ツァイトング紙ベルリン特電によれば獨ソ通商協定締結以前には駐獨ソ聯通商代表部員は僅か四十名に過ぎなかつたが最近は著しく擴大し、二十五日の如きは新たに百名雇入れられ、更に近く四百名に増員する豫定といはれる。

●ソエ間通商・政治協定交渉開始
ソ聯は二十五日エストニアと通商並に政治協定の話を開始した。(通外)

●エ國外相突如歸國
エストニア外相セルター氏はモロトフ外務人民委員との間に長時間に亙つて會談を遂げたが、モスクワ滞在僅か一日にして急遽タリンへの歸途についた。

△波蘭分割に關する獨ソ協定に基き獨軍新境界線へ移動
△獨、十七歳より二十五歳までの女子十萬動員
△諸波中獨英海軍展開
△佛國及瑞西は通商假協定を二十三日締結したと傳へらる。之が實現により瑞西糧山の對獨物資は遮斷されることになる

九月二十六日 (火)

セルター外相の行動はモスクワ外交界に奇異の感をもたせしめ、(モスクワ)

●土外相露都著

トルコ外相サラジヨグル氏、モスクワ著。(世界政治)

●ソ聯の對土要求

モスクワ外交界に於ては、ソ聯は對トルコ貿易の強敵であるドイツ及び英國が敵對する機會を考慮し、ソ聯の利益に反する如何なる船舶でもダーダネルス海峡を通過せしめないやうにする保障をトルコに要求し、その代償として、ドイツの攻撃に對する保障を與へるであらうと取沙汰されてゐる。(外)

●ソ聯の親日態度

ソ聯政府は最近漸次對日接近を暗示して來てゐるが、ソ聯政府はスエーデンの新駐日大使の任命と共に更に大使館員を増員することに決定、ジュニコフ、マツチクの兩参事官の外二等書記官一名その他二名を新たに東京に派遣することとなつた模様である。尙京城、敦賀及び大連の領事もそれぞれ新たに任命された。(モスクワ)

●汽船三隻南米より浦鹽へ向ふ

A.P.報道によればハンブルグ・南アメリカ會社所屬ドイツ貨物船カッパノルテ號(一三、六一五噸)テイネウカ號(五、九一八噸)クリテイバ(四、九六九噸)の三隻は二十二日食料品と石油を満載して既にブラジル東岸のベルナムブコ港を出帆、パナマ運河經由ラジョストックに向つたといはれる。併し英國領事館が至る處海上封鎖を行つてゐるから果して目的地に達し得るや否や疑問視される。

●獨外相ソ聯へ

ソ聯政府は二十六日タス通信を通じリッペンツロフ獨外相のモスクワ訪問に關し左の如く發表した。
リッペンツロフ獨外相はソ聯政府の招請に應じポーランドに於ける事態の進展に關する諸問題を討議するため九月二十七日モスクワに到着の豫定である。

●ソ勃航空路開設と通商協定締結説

五四

△英海軍當局、米艦隊ハワ
イ派遣慎重考慮中と發表

△英、戰爭繼續中は下院議
員の改選を一切中止する
ことに決定
△チェンバレン英首相下院
で獨逸を經濟封鎖すべく
長期戦の決意を披露

九月二十七日 (水)

ソ勃間の定期航空路開設につきモスクワに乗り込んだブルガリヤ民間航空代表表ボイデツフ大佐一行の動靜は極めて注目されてゐるが、右と關聯して會て喧傳されたソ聯ブルガリヤ間の通商協定締結説が再燃し始め、大なる可能性が豫想されてゐる。(モスクワ)

●ソ勃通商交渉進捗

最近バルカン情勢の緊迫と共にソ勃兩國は漸次接近の兆を見せつゝあるが、兩國政府は今回通商條約締結につき意見の一致を見た模様で、目下案文の起草を急ぎつゝあるといはれる。右通商條約の内容は、ソ聯がブルガリヤに對し石油、機械、機關車及び農業用具を供給し、一方ブルガリヤはソ聯に對し煙草、織物及び蔬菜を供給するものと見られる。(モスクワ)

●エ國外相獨逸の原相

エストニア外相セルター氏が僅か一日のモスクワ滞在で急遽歸國したに就ては種々な臆測が行はれてゐるが、二十六日タスよりコダノに達した情報によれば、ソ聯エ兩國間の問題解決のため近くエストニア首相エーソバル氏がモスクワに乗り込むことになつたといはれる。而して、ソ聯政府はエストニアに對して廣汎な政治經濟協定の締結を要望してゐるといはれるが、右協定は、エストニアに自由港地域を設置すること、並に、同地域内にソ聯利益保護のためソ聯軍が兵營を設置する權利を承認することの二條項を含むものと信じられてゐる。(モスクワ)

●獨外相露都著

ソ聯政府の招請により獨外相リッペンツロフが飛行機にてモスクワに到着、フォルスター、ガウス、シュニレ等が隨行した。尙右と同時に駐獨ソ聯大使シユクワルツェフ及び大使館一等書記官バヴロフも到着した。(タス)

●獨ソ新協定の豫想

二十七日午後四時五分リッペンツロフ獨外相はモスクワ飛行場に到着したが、獨外相今回のソ聯訪問は獨ソ間の友好精神に基づくもので、ベルリン政界はモスクワ會談に「世界政策的意義」を附與してゐる。有力消息筋の傳へる所によれば、兩國當面の問題は左の如くである。

ソ聯邦通商日誌

五五

△獨、波蘭占領地に軍制施
行
△獨軍司令部「ワルソー降
伏申出」を發表
△サイモン英蔵相は下院で
十九億三千三百萬磅の職
費捻出の爲大増税を行ふ
旨發表

九月十八日 (木)

一、獨ソ國境劃定
 一、獨ソ經濟合作
 一、獨ソ親善協定に關する獨ソ條約
 一、獨ソ共同宣言

一、獨ソ國境劃定
 ドイツは抑々英佛に對抗する必要上ソ聯と結合したのであるからソ聯の援助を頻りに希望してゐるが、獨ソ軍隊の直接協力は如何なる事情があつても避ける。他方、經濟合作は出来る限り促進させ、特にソ聯を動かしてシベリヤ鐵道による東ソからの貿易の途を講ずる。

一、バルチック問題
 一、ルーマニア問題
 一、トルコ及びビダーダネルス海峽問題(ベルリン)

英ソ通商交渉再開か
 マイスキー駐英大使は二十七日午後英外務省にハリファアックス外相を訪問重要會談を遂げたが、情報によればマイスキー大使は本國政府の回訓に基き英ソ通商交渉再開に關する英國側の示唆に好意的回答を與へたものと傳へられる。但し、その際マイスキー大使は英國政府がソ聯に輸入クレジットを許容し、且つソ聯の重要輸出品を受け入れることを條件とするものである旨指摘したといはれる。

ソ聯汽船擧沈さる
 ソ聯船マタリスト號(四〇〇〇噸)はエストニア國境に近いナルヴァ海岸に於て國籍不明の潜水艦に擧沈され、乗組員中二十四名は救助されたが、残りの十九名は行方不明となつた。(世界經濟)

獨ソ第二次會談
 獨ソ第二次會談は二十八日午後三時クレムリン宮にモロトフ外務人民委員を訪問前日に引續き獨ソ會談を行つた。會談はスターリン黨書記長同席の下に約二時間半の長きに亘り午後五時半終了した。

獨ソ第三次會談
 モロトフ外務人民委員主催の歡迎晩餐會を終了したリッペントロップ獨外相は二十八日夜モロトフ人民委員と連れ立つてモスクワ・オペラ劇場に赴きロシ

△ローマ法王、交戦、中立各國に歐洲平和會談開催を勧告するメッセージを發表
 △英蘭銀行公定割引率を三分に引下
 △米國上院外交委員會は新

九月二十九日 (金)

ソ聯邦通商戦日誌

ア舞踊を參觀した後深更に至りクレムリン宮に於て第三次會談を開始した。尙歡迎晩餐會終了後、晩餐會は最も友好的雰囲気の下に行はれた旨のコミュニケが發表された。

●ソ聯、英ソ戰時通商協定提案
 マイスキー駐英大使は二十八日ハリファアックス外相を訪問要談を遂げたが、右會談に際しマイスキー大使はソ聯が英國と戰時通商協定を協賛する意思あることを確言したといはれる。この提案は未だ熟したのではないが、ソ聯が目下ドイツとの間に八月十九日の獨ソ通商協定の範圍を擴大する爲英國に對して爲したると同様な提案を爲しつゝあるに鑑み頗る重要視される。

●ソ聯船擧撃さる
 ソ聯船ピオネール號はナルヴァ灣の入口に於て國籍不明の潜水艦に擧撃され、暗礁に乗り上げたが、乗組員は救助された。(世界經濟)

●獨ソ新協定調印
 九月二十七日、二十八日の兩日に亘りモスクワに於てソ聯人民委員會議々長外務人民委員モロトフとドイツ外相リッペントロップとの間に獨ソ友好協定に關する條約が定められた。交渉の結果二十九日獨ソ兩國代表は次の兩外交文書に署名をした。

一、獨ソ親善協定に關する獨ソ條約
 一、獨ソ兩國政府共同宣言
 一、獨ソ共同宣言

獨ソ兩國政府は九月二十八日附を以て左の如く共同宣言を發表した。
 獨ソ兩國政府は本日調印された條約に基きポーランド國家の崩壊により發生する諸問題を最終的に決定して東歐に於ける永続的平和の爲の強固なる基礎を確立した後兩國政府は現在ドイツ對英佛の間に存在する戰爭狀態を終結せしめることは凡ゆる國民の眞の利益に合致すべしとの一致せる見解を表明する。依つて兩國政府は出来る限り速かに右目標を達成せんが爲必要な

中立法案を審議、交戦國に對する短期クレデット延長條項に新制限を附加し之を可決す。現行中立法の中航空條項改訂。十月二日より上院本會議の審議に入る。

△獨逸外務當局は特に國際記者團の參集を求めて重大聲明を發表、英佛兩國に對し宣戰の撤回を要望すると共に獨逸政府は平和會談を應諾する用意ある旨を發表
 △獨逸兩國間に新通商協定成立すと傳へらる
 △佛政府は獨ソ協定に基き和平提議を斥ける旨非公式に發表

場合には他の友邦と協同し共同の努力を爲すべきである。然し右兩國政府の努力にして何等の成果を見ない場合には之により英佛が戦争繼續の責に任ずべきものたる事實が確認せられるものであつて、斯る戦争繼續の場合には獨ソ兩國政府は必要手段につき相互に協議するものとする。(ソウエスタ)

●經濟問題に關する獨ソ交換公文

獨ソ條約並に獨ソ共同宣言と共にモロトフ外務人民委員とリッペンントロツツ外相の間に取交された交換公文の全文は左の如し。
△モロトフ外務人民委員よりリッペンントロツツ外相宛
閣下、今回の歴次に互る會談を想起し吾々は閣下に對し今回獨ソ兩國間に成立した一般政治協定の基礎と精神に立脚しソ聯政府は獨ソ兩國間の經濟關係並に貿易關係を促進せしむべく凡ゆる努力を盡すものであることを確認通報するの光榮を有す。この見解に基づき兩國は將來長期に互りソ聯はドイツに對し原料資源を供給しドイツはソ聯に對し工業製品を供給するとの合意に於て經濟取極めを締結するであらう。兩國は右經濟取極めにより獨ソ間の貿易額が過去に於て到達した最高水準に迄再び達するやう取計ふであらう。兩國政府は直ちに前記諸措置實行の爲に必要なる命令を發し更に右に關し兩國間に交渉が開始され可及的速かにこの交渉が成立するやう努力するであらう。閣下再び余の衷心よりの尊敬の保障を受けられんことを。(ソウエスタ)
向、リッペンントロツツ外相よりモロトフ外務人民委員宛回答は左の如し。
ドイツ政府はモロトフ外務人民委員の公文の精神に基づき凡ゆる必要なる命令を發出するに同意するものである。(ソウ)

●獨ソ新協定に對する諸觀測

〔伊太利〕
ローマに達した諸情報によれば、獨ソ兩國間の關係は新協定の程度に止まらず更に軍事同盟(予てに密約ありとの説あり)締結にまで進むべしとの觀測が有力である。今回の協定はポーランドに於ける國境調整と經濟協力に止まつたが、これはイタリが戦争を局地的に止めて大戦となることを防止し、更に停戦に導く爲適當な機會を擱んで仲役に乗り出すことを可能ならしめる爲だと見られてゐる。然し獨ソの和平工作が英佛兩國の排撃によつて失敗に歸する時

は、獨ソ兩國は公式の軍事同盟締結を發表し、ソ聯も英佛を敵としてドイツに加擔することを意味するものと解釋が下されてゐる。(ソウ)

〔英國〕

獨ソ協定内容は二十九日拂曉ロンドンに傳へられ外交界に多大の衝撃を與へたが、英國政府は同日午前直に緊急閣議を開催、更にフランス政府と協議した後チエンバレン首相が来る二日下院に於て聲明することに決定した。協定内容に就ては、經濟通商に關する限り新取極めでソ聯からの原料輸出が増加することなく、ドイツよりの工業製品輸出が増加することもないとの見地から、政府筋では情勢に大なる變化なしと言明してゐるが、緩衝地帯を設定せずポーランド領を二分したのは政界方面の豫想に反したものととしてその意義が相當重視されてゐる。(ソウ)

〔米國〕

米國各方面の情報を綜合すると、政府當局の意圖するところは戦争は長引くものとの見透しの下に軍需資材其他物資によつて英佛を援助以て勝利を得せしめんとして居る一方、英佛兩國も米國の援助に頼らなければ勝利は危いものと見てゐるやうである。只問題は米國が何時までも軍需資材物資による援助の範圍に止まり得るや否やにあり、この點が最も問題視される。(ソウ)

〔佛蘭西〕

パリ政界では獨ソ國境協定に關する條約並に共同宣言の内容を頗る重大視してゐるが、その見解を綜合すると左の如くである。
一、ドイツの最後通牒的和平提唱は獨ソ軍事同盟締結をほめかけた脅迫である。然し「和平攻勢」が失敗した曉には改めて獨ソ間で協議するといふことしか言つてゐない。
一、經濟協定の結果ドイツはソ聯から英佛の封鎖によつて奪はれた物資の若干を得ることにならう。
一、ドイツがポーランドに緩衝國設置を断念せざるを得なかつたことは注目し得る。(ソウ)

●ソエ相互援助條約並通商協定成立

ソ聯政府は、ソ聯エストニア相互援助條約並に通商協定の締結に關し左の如

九月二十日 (土)

く發表した。
モロトフ外務人民委員とセルター、エストニア外相は去る九月二十四日から二十八日迄モスクワに於てソ聯及びエストニア兩國間の相互援助協約並に通商協定締結に關し交渉を重ねた。結局該交渉は二十八日正式調印により完了した。

尙、相互援助協約と共に發表されたソ新通商協定の内容は左の通りである。
一、ソエ兩國政府は兩國間の貿易額を従来の四倍半に増加し、その額を一ヶ年三千九百萬クローネに決定す。
一、エストニアはその物資をソ聯領内の鐵道並に水路を通じてムルマンスク(北氷洋)ソロカ(白海)並に黒海に輸送し得る利便を與へらる。
一、ソ聯はその物資をエストニアの海港を通じて輸出し得。(各該國)

●ソリ間通商増加
ソ聯リトアニア間の通商は、従来の取極め以上に多量の穀物をソ聯に輸出し得べく、ソ聯側より既に引合があつた。(通外)

●獨逸經濟關係強化の方針は過日意見の一致を見公文交換を遂げたが、之が具體化のためシュモール博士以下のドイツ經濟使節團は近くモスクワに赴く。
●獨逸經濟計畫要旨
フランクフルター・ツァイツング紙は次の如き要旨の論説を掲げてゐる。即ち、獨逸經濟計畫は差當り過去に於ける兩國間貿易の最高額に達することを目的としてゐるが、右最高記録は一九三二年であつて、貿易額は十二億マルクに達する。而もソ聯は主として精糖、亜鉛、木材、香油等の原料品をドイツに供給し、穀類、豆、タバコの食糧品をも多量に供給した年もあつたので、これらはドイツが購入する主要な物となるであらう。右に對しドイツは主として鐵鋼、鐵板及各種工作機械等を輸出した。又従来の兩國間クレジット協定によれば、ドイツはソ聯に對しクレジットを與へ、ソ聯は一部を商品で、大部分を現金拂ひによつて決済したが、今次の計畫に於ては全部が商品で、大決済されるので、貿易總額が過去の實績に到達する場合には、ドイツ側の原料

- △波蘭占領地域に獨逸通貨作用決定
- △モンスキ波大統領ベツク同外相辭職
- △新波蘭内閣パリに成立
- △チアノ外相は獨逸政府の招請でローマを出發したが、右は伊太利が國際會議を提唱することに關しリッベントロップ獨逸外相と協議するためと見られる
- △土耳其政府は英佛兩國に對し對ソ開戦すれば英土

ソ聯邦通商日誌

輸入は遙かに増大するであらう。
●ソ聯英國向石油禁輸説
獨逸提議の強化と共に英ソ關係は依然險惡化の形勢にあるが、三十日モスクワよりの報道によればソ聯政府は英本國並に屬領に對する石油輸出を禁止するに決したといはれる。(通外)

佛土、兩相互援助協約を廢棄する旨通告したと云はれる

ソ聯邦通商戰日誌

一九三九年十月

十月記事索引(一九三九年)

十月一日	ソ土第一回會談.....(六三) ラ国外相露都訪問.....(六三) ソラ通商交渉開始.....(六三) ソエ條約批准完了.....(六三) ラ國外務大臣露都着.....(六三) ソ聯軍使節團エ國着.....(六三) ソ聯、ラトヴィア全買.....(六三) 易獨占要求.....(六三) ハル長官對獨ソ聲明.....(六三) ソ聯諸公使新任.....(六三) 獨經濟使節團モスクワヘ.....(六三)	十月二日	十月三日	十月四日
十月五日	十月六日	十月七日	十月八日	
十月九日	十月十日	十月十一日		

ソ聯邦通商日誌索引

十月一日 (日)	●ソ土第一回會談 モロトフ外務人民委員及びサラジヨグル土外相がソ土兩國關係の重要問題に關し會談を遂げた。會談にはスターリンが参加した。(世界政治)
十月二日 (月)	●ラ國外相露都訪問 獨ソ、ソエ兩協定締結に伴ひ、ラトヴィアの立場は相當困難を豫想されるに至つたが、ラトヴィア政府は一日の緊急國務會議で對策を協議した結果、明日日ムンテルス外相をモスクワに派遣することになつた旨公表した。 ●ラトヴィア政府筋よりの情報によれば、ソ聯及びラトヴィア兩國政府間に兩國間の物資の交換を増進せしむべく新通商交渉が今週中に開始される豫定といはれる。 ●ソエ條約批准完了 ソ聯、エストニア相互援助條約は既に二十九日ソ聯の批准を了したが、一方エストニアに於ても二日バエツ大統領により批准手續きを完了、茲に同條約は完全に效力を發生するに至つた。(通外)
十月三日 (火)	●ラ國外務大臣露都府 モスクワに到着したラトヴィア外務大臣ムンテルスはモロトフに引見され、會議にはスターリンが参加した。(世界政治)
十月四日 (水)	●モレチエコフ將軍を首班とする十四名のソ聯陸空軍將校に技術家より成るソ聯軍事使節一行は二日タリンに到着した。一行のエストニア訪問の目的は九月二十八日モスクワに於て調印されたソエ相互援助條約の條項に従ひ海空軍基地の建設其他一般軍備充實に關し準備工作を施行するにあるといはれる。 ●ソ聯はラトヴィア國の殆ど全貿易をソ聯邦の獨占することを要求した。 ●ハル長官の對獨ソ聲明 獨ソ間のポーランド分割協定に關し、ハル國務長官は二日、米國はポーランドの消滅を承認せざる旨次の如く語つた。即ちポーランドは國策の爲にする武

十月十二日	獨のソ聯毛皮買付増加(三) 芬國全權露都府(三) ソラ援助條約批准交換(三) ソラ條約批准(三) ソラ芬會談開始(三) ソラ通商交渉開始(三) ラ國通商代表露都府(三) ソ聯軍艦タリンに派遣(三) ソ土會談再開(三) ソ土協定に關する獨の觀測(三) 英外交界のソ土交渉觀(三) 土耳古の民意と國力(三) ソ聯軍事使節リガ着(三) ソエ最終議定書調印(三) ソ聯の對芬要求(三) ソ國もソリ相互援助條約の批准承認(三) ソ土會談再開(三) ソ土通商協定調印(三) ソ支間に新航空路開設協議(三) ソ土會談再開(三) 土農業使節訪ソ(三) 土駐ソ支那大使赴任(三) ソ土交渉決裂(三) ソ聯白蘭へ金現送(三)	十月十八日	ソ聯對獨金現送千六百萬ドル(三) 對獨金塊輸送の確認(三) 英ソ通商協定更に擴充(三) ソラ通商交渉成立(三) 土外相のソソ通信(三) 英佛土條約締結とソ聯(三) 獨ソ協定急遽批准(三) ソ聯の對芬要求を獨重視(三) ソ聯米國へ滿鐵賣却(三) ソ支最短期間距離公路半ば完成(三) ソ聯の對支軍事援助強化(三) ソ聯紙のソ土條約許(三) 獨ソ通商交渉の難題(三) 獨ソ通商交渉進捗(三) ソ聯軍事使節リガ着(三) ソ聯、米國に滿鐵供給申出(三) 芬蘭代表モスクワ着(三) ソラ條約細目協定成立(三) ソ聯、馬糧穀類の對獨大量輸出(三)	十月二十五日	ソ聯に對する獨の警戒(三) ソ聯の對芬要求(三) ソ聯使節團訪獨(三) ソ聯英の禁制品不承認(三) ソ聯を通じての獨支間物資交換説(三) ソ聯の抗議に英不滿(三) 英ソ通商交渉開始(三) 英外相對ソ政策を闡明(三) ソ聯經濟使節團伯林着(三) ソ聯抑留邦船釋放(三) 獨ソ國境劃定委員會現地調査(三) ソ聯和關より船舶購入(三) ソソ國境劃定追加議定書調印(三) 訪獨ソ聯使節第一班訪獨(三) 獨總會出席をソ聯通告(三) 芬蘭の對ソ回答強硬(三) ソ聯の米品買付着増(三) ソ聯對獨糧食輸送路の確保(三) 英ソ通商折衝(三) モロトフの外交聲明(三) 芬蘭代表ソ聯へ出發(三)
十月十三日	獨のソ聯毛皮買付増加(三) 芬國全權露都府(三) ソラ援助條約批准交換(三) ソラ條約批准(三) ソラ芬會談開始(三) ソラ通商交渉開始(三) ラ國通商代表露都府(三) ソ聯軍艦タリンに派遣(三) ソ土會談再開(三) ソ土協定に關する獨の觀測(三) 英外交界のソ土交渉觀(三) 土耳古の民意と國力(三) ソ聯軍事使節リガ着(三) ソエ最終議定書調印(三) ソ聯の對芬要求(三) ソ國もソリ相互援助條約の批准承認(三) ソ土會談再開(三) ソ土通商協定調印(三) ソ支間に新航空路開設協議(三) ソ土會談再開(三) 土農業使節訪ソ(三) 土駐ソ支那大使赴任(三) ソ土交渉決裂(三) ソ聯白蘭へ金現送(三)	十月二十日	ソ聯米國へ滿鐵賣却(三) ソ支最短期間距離公路半ば完成(三) ソ聯の對支軍事援助強化(三) ソ聯紙のソ土條約許(三) 獨ソ通商交渉の難題(三) 獨ソ通商交渉進捗(三) ソ聯軍事使節リガ着(三) ソ聯、米國に滿鐵供給申出(三) 芬蘭代表モスクワ着(三) ソラ條約細目協定成立(三) ソ聯、馬糧穀類の對獨大量輸出(三)	十月二十七日	ソ聯に對する獨の警戒(三) ソ聯の對芬要求(三) ソ聯使節團訪獨(三) ソ聯英の禁制品不承認(三) ソ聯を通じての獨支間物資交換説(三) ソ聯の抗議に英不滿(三) 英ソ通商交渉開始(三) 英外相對ソ政策を闡明(三) ソ聯經濟使節團伯林着(三) ソ聯抑留邦船釋放(三) 獨ソ國境劃定委員會現地調査(三) ソ聯和關より船舶購入(三) ソソ國境劃定追加議定書調印(三) 訪獨ソ聯使節第一班訪獨(三) 獨總會出席をソ聯通告(三) 芬蘭の對ソ回答強硬(三) ソ聯の米品買付着増(三) ソ聯對獨糧食輸送路の確保(三) 英ソ通商折衝(三) モロトフの外交聲明(三) 芬蘭代表ソ聯へ出發(三)
十月十四日	獨のソ聯毛皮買付増加(三) 芬國全權露都府(三) ソラ援助條約批准交換(三) ソラ條約批准(三) ソラ芬會談開始(三) ソラ通商交渉開始(三) ラ國通商代表露都府(三) ソ聯軍艦タリンに派遣(三) ソ土會談再開(三) ソ土協定に關する獨の觀測(三) 英外交界のソ土交渉觀(三) 土耳古の民意と國力(三) ソ聯軍事使節リガ着(三) ソエ最終議定書調印(三) ソ聯の對芬要求(三) ソ國もソリ相互援助條約の批准承認(三) ソ土會談再開(三) ソ土通商協定調印(三) ソ支間に新航空路開設協議(三) ソ土會談再開(三) 土農業使節訪ソ(三) 土駐ソ支那大使赴任(三) ソ土交渉決裂(三) ソ聯白蘭へ金現送(三)	十月二十三日	ソ聯米國へ滿鐵賣却(三) ソ支最短期間距離公路半ば完成(三) ソ聯の對支軍事援助強化(三) ソ聯紙のソ土條約許(三) 獨ソ通商交渉の難題(三) 獨ソ通商交渉進捗(三) ソ聯軍事使節リガ着(三) ソ聯、米國に滿鐵供給申出(三) 芬蘭代表モスクワ着(三) ソラ條約細目協定成立(三) ソ聯、馬糧穀類の對獨大量輸出(三)	十月三十一日	ソ聯に對する獨の警戒(三) ソ聯の對芬要求(三) ソ聯使節團訪獨(三) ソ聯英の禁制品不承認(三) ソ聯を通じての獨支間物資交換説(三) ソ聯の抗議に英不滿(三) 英ソ通商交渉開始(三) 英外相對ソ政策を闡明(三) ソ聯經濟使節團伯林着(三) ソ聯抑留邦船釋放(三) 獨ソ國境劃定委員會現地調査(三) ソ聯和關より船舶購入(三) ソソ國境劃定追加議定書調印(三) 訪獨ソ聯使節第一班訪獨(三) 獨總會出席をソ聯通告(三) 芬蘭の對ソ回答強硬(三) ソ聯の米品買付着増(三) ソ聯對獨糧食輸送路の確保(三) 英ソ通商折衝(三) モロトフの外交聲明(三) 芬蘭代表ソ聯へ出發(三)
十月十五日	獨のソ聯毛皮買付増加(三) 芬國全權露都府(三) ソラ援助條約批准交換(三) ソラ條約批准(三) ソラ芬會談開始(三) ソラ通商交渉開始(三) ラ國通商代表露都府(三) ソ聯軍艦タリンに派遣(三) ソ土會談再開(三) ソ土協定に關する獨の觀測(三) 英外交界のソ土交渉觀(三) 土耳古の民意と國力(三) ソ聯軍事使節リガ着(三) ソエ最終議定書調印(三) ソ聯の對芬要求(三) ソ國もソリ相互援助條約の批准承認(三) ソ土會談再開(三) ソ土通商協定調印(三) ソ支間に新航空路開設協議(三) ソ土會談再開(三) 土農業使節訪ソ(三) 土駐ソ支那大使赴任(三) ソ土交渉決裂(三) ソ聯白蘭へ金現送(三)	十月二十七日	ソ聯米國へ滿鐵賣却(三) ソ支最短期間距離公路半ば完成(三) ソ聯の對支軍事援助強化(三) ソ聯紙のソ土條約許(三) 獨ソ通商交渉の難題(三) 獨ソ通商交渉進捗(三) ソ聯軍事使節リガ着(三) ソ聯、米國に滿鐵供給申出(三) 芬蘭代表モスクワ着(三) ソラ條約細目協定成立(三) ソ聯、馬糧穀類の對獨大量輸出(三)	十月三十一日	ソ聯に對する獨の警戒(三) ソ聯の對芬要求(三) ソ聯使節團訪獨(三) ソ聯英の禁制品不承認(三) ソ聯を通じての獨支間物資交換説(三) ソ聯の抗議に英不滿(三) 英ソ通商交渉開始(三) 英外相對ソ政策を闡明(三) ソ聯經濟使節團伯林着(三) ソ聯抑留邦船釋放(三) 獨ソ國境劃定委員會現地調査(三) ソ聯和關より船舶購入(三) ソソ國境劃定追加議定書調印(三) 訪獨ソ聯使節第一班訪獨(三) 獨總會出席をソ聯通告(三) 芬蘭の對ソ回答強硬(三) ソ聯の米品買付着増(三) ソ聯對獨糧食輸送路の確保(三) 英ソ通商折衝(三) モロトフの外交聲明(三) 芬蘭代表ソ聯へ出發(三)
十月十六日	獨のソ聯毛皮買付増加(三) 芬國全權露都府(三) ソラ援助條約批准交換(三) ソラ條約批准(三) ソラ芬會談開始(三) ソラ通商交渉開始(三) ラ國通商代表露都府(三) ソ聯軍艦タリンに派遣(三) ソ土會談再開(三) ソ土協定に關する獨の觀測(三) 英外交界のソ土交渉觀(三) 土耳古の民意と國力(三) ソ聯軍事使節リガ着(三) ソエ最終議定書調印(三) ソ聯の對芬要求(三) ソ國もソリ相互援助條約の批准承認(三) ソ土會談再開(三) ソ土通商協定調印(三) ソ支間に新航空路開設協議(三) ソ土會談再開(三) 土農業使節訪ソ(三) 土駐ソ支那大使赴任(三) ソ土交渉決裂(三) ソ聯白蘭へ金現送(三)	十月二十七日	ソ聯米國へ滿鐵賣却(三) ソ支最短期間距離公路半ば完成(三) ソ聯の對支軍事援助強化(三) ソ聯紙のソ土條約許(三) 獨ソ通商交渉の難題(三) 獨ソ通商交渉進捗(三) ソ聯軍事使節リガ着(三) ソ聯、米國に滿鐵供給申出(三) 芬蘭代表モスクワ着(三) ソラ條約細目協定成立(三) ソ聯、馬糧穀類の對獨大量輸出(三)	十月三十一日	ソ聯に對する獨の警戒(三) ソ聯の對芬要求(三) ソ聯使節團訪獨(三) ソ聯英の禁制品不承認(三) ソ聯を通じての獨支間物資交換説(三) ソ聯の抗議に英不滿(三) 英ソ通商交渉開始(三) 英外相對ソ政策を闡明(三) ソ聯經濟使節團伯林着(三) ソ聯抑留邦船釋放(三) 獨ソ國境劃定委員會現地調査(三) ソ聯和關より船舶購入(三) ソソ國境劃定追加議定書調印(三) 訪獨ソ聯使節第一班訪獨(三) 獨總會出席をソ聯通告(三) 芬蘭の對ソ回答強硬(三) ソ聯の米品買付着増(三) ソ聯對獨糧食輸送路の確保(三) 英ソ通商折衝(三) モロトフの外交聲明(三) 芬蘭代表ソ聯へ出發(三)
十月十七日	獨のソ聯毛皮買付増加(三) 芬國全權露都府(三) ソラ援助條約批准交換(三) ソラ條約批准(三) ソラ芬會談開始(三) ソラ通商交渉開始(三) ラ國通商代表露都府(三) ソ聯軍艦タリンに派遣(三) ソ土會談再開(三) ソ土協定に關する獨の觀測(三) 英外交界のソ土交渉觀(三) 土耳古の民意と國力(三) ソ聯軍事使節リガ着(三) ソエ最終議定書調印(三) ソ聯の對芬要求(三) ソ國もソリ相互援助條約の批准承認(三) ソ土會談再開(三) ソ土通商協定調印(三) ソ支間に新航空路開設協議(三) ソ土會談再開(三) 土農業使節訪ソ(三) 土駐ソ支那大使赴任(三) ソ土交渉決裂(三) ソ聯白蘭へ金現送(三)	十月二十七日	ソ聯米國へ滿鐵賣却(三) ソ支最短期間距離公路半ば完成(三) ソ聯の對支軍事援助強化(三) ソ聯紙のソ土條約許(三) 獨ソ通商交渉の難題(三) 獨ソ通商交渉進捗(三) ソ聯軍事使節リガ着(三) ソ聯、米國に滿鐵供給申出(三) 芬蘭代表モスクワ着(三) ソラ條約細目協定成立(三) ソ聯、馬糧穀類の對獨大量輸出(三)	十月三十一日	ソ聯に對する獨の警戒(三) ソ聯の對芬要求(三) ソ聯使節團訪獨(三) ソ聯英の禁制品不承認(三) ソ聯を通じての獨支間物資交換説(三) ソ聯の抗議に英不滿(三) 英ソ通商交渉開始(三) 英外相對ソ政策を闡明(三) ソ聯經濟使節團伯林着(三) ソ聯抑留邦船釋放(三) 獨ソ國境劃定委員會現地調査(三) ソ聯和關より船舶購入(三) ソソ國境劃定追加議定書調印(三) 訪獨ソ聯使節第一班訪獨(三) 獨總會出席をソ聯通告(三) 芬蘭の對ソ回答強硬(三) ソ聯の米品買付着増(三) ソ聯對獨糧食輸送路の確保(三) 英ソ通商折衝(三) モロトフの外交聲明(三) 芬蘭代表ソ聯へ出發(三)

△チャールズ英海相、ソ聯の對波進駐はナチスの脅威に對しソ聯の安全を確保する上から當然と放送
△英、滿二十歳より二十二歳の男子全部を現役召集する緊急勅令發布
△南京に派遣軍總司令創設
△西尾總司令聲明發表

△獨軍司令部はワルソー入城前にヘラ半島の波蘭軍の一部が一日無條件に降伏した旨發表
△英、支那艦隊所屬砲艦五隻引揚
△參戰に反對しボンベイ工場労働者五萬罷業
△米、ハル國務長官獨ソの波蘭領占領を認めず、在佛波蘭新政府との外交關係維持を聲明

十月三日
(火)

力行使の犠牲となつたもので、一獨立國の法的存在は強奪によつて決して消滅しない。従つて米國としてはポーランド憲法の規定する合法的政府を承認するものである。(米)

ソ聯邦最高會議は二日ノルウエイ駐領公使にプロトコフを新任せる旨公表。

ソ聯邦最高會議は二日ノルウエイ駐領公使にプロトコフを新任せる旨公表。

獨逸經濟使節團モスクワへ
獨逸兩國は去る九月二十八日實施された經濟提携に關する公文書(註九月二日)の趣旨に基づき近く經濟交渉を開始することとなつたが、シュムレ公使を團長とするドイツ經濟使節團一行は、去る七日ベルリンよりモスクワに到着、ソ聯原料品の生産増加並に發展策につきソ聯當局と協議を遂げることとなつた。

ソ聯バルチック海軍と獨逸海軍
ドイツ側の情報に依れば、十四名より成るソ聯の軍事技術顧問が二日朝エストニアの首都タリンに到着したのは、最近成立を見たソ相互援助條約履行の準備を整へるためと發表されてゐるが、事實上はエストニア保護國化の第一歩と見られてゐる。ソ聯はラトヴィアに對しても同様な措置を執らんとしてゐるが、之は過般モスクワに於ける獨逸會議の結果に基づいて勢力範圍と認められたバルチック三國への豫定の進出を狙つたものといはれ、かくてバルチック三國は既にソ聯領土と化したに等しいと見られる。

ソリ會議開始
三日夕空路モスクワに到着したリトアニア外相ウルブシスは直ちにモロトフ外務人民委員と會見の上、ソリ交渉を開始し、會談は二時間以上に及んだが、ソ聯のバルチック海軍が喧嘩されてゐる折柄、各方面より極めて重視されてゐる。

ソ聯對英石油禁輸
ソ聯は英獨兩國向け石油の輸出禁止を實施することになつたが、既にバクラーに於て英國向け揮發油を積込んだ八隻の汽船に對し出航禁止を命令したといはれる。

ソ聯對英石油禁輸
ソ聯は英獨兩國向け石油の輸出禁止を實施することになつたが、既にバクラーに於て英國向け揮發油を積込んだ八隻の汽船に對し出航禁止を命令したといはれる。

△英軍機々西部戦線へ進出
△チェンバレン英首相下院で次の如く演説す「獨逸新條約は何等英國の戰爭目的を變更するものではない、英國は獨逸の如何なる和平提案をも検討する用意はあるが、單なる言質は受け容れるわけにゆかない。尚ロイド・ジョージは獨逸の和平提案を慎重に研究すべきことを政府に促し注目を惹いた」
△國民會議派印度中央政府改組を要求
△陸軍省ノモンハン事件公表、我戦死傷病一萬八千名

十月四日
(水)

ソ土新協定締結
一日以來サラジヨグル土外相はモロトフソ聯外務人民委員と會見をなさずソ聯提案の回訓を待つてゐるものと解される。ソ聯の對土要求は結局トルコの英佛に對する條約義務を全的に放棄せしめようとはせず、その内容は黒海方面並にバルカンに戰亂が起つた場合のソ土相互援助條約を主要眼目とするものと云はれる。而してソ土條約は現在のトルコ英佛間の條約と抵觸せざるやう巧に作成されるであらう。

ソ聯エ國を懷柔
ソ聯エストニア新條約は四日批准を了したが、之によりソ聯はエストニア北方のヒューマー及びサリマーの兩島とエストニア本土のバルチスキ港を占領、空軍及び海軍の根據地を建設し得る事になり、ソ聯はフィンランド港よりリガ海及びボスニア灣を支配する位置を占めた譯である。尙相互援助條約と共に通商協定も締結され、兩國貿易の増進と共に、ソ聯はエストニア領土を通過して物資を輸送する權限を與へられ、エストニアはソ領を通過して黒海及びバルチスキ海に物資を搬出する權利を得た。

ソ聯對バルカン條約要求
ポーランド分割を契機とするソ聯のバルチック並にバルカン方面に對する積極政策の展開は各國の驚異の的となつてゐる所であるが、四日イスタンブールに達した情報によれば、ソ聯政府はバルチック諸國に強要したと同様、バルカン、黒海沿岸諸國に對しても矢張り相互援助條約の締結を迫つてゐると傳へられる。(イスタンブール)

ソ聯、ベッサラビア返還要求
モスクワに於ては四日朝來ソ聯政府は近くルーマニア政府に對しベッサラビア地方返還を要求するだらうとの風説が行はれてゐる。(モスクワ)

ソ聯、對アフガニスタン條約提議
四日ニューヨークに達した情報によればソ聯はバルチック諸國並にバルカン諸國に對する外交工作の一應終了するのを俟つてその鋒を東南に轉じ英國が歐洲戰爭に没頭してゐる隙に乗じてアフガニスタンに條約締結を提議するのである。

ソ聯、對アフガニスタン條約提議
四日ニューヨークに達した情報によればソ聯はバルチック諸國並にバルカン諸國に對する外交工作の一應終了するのを俟つてその鋒を東南に轉じ英國が歐洲戰爭に没頭してゐる隙に乗じてアフガニスタンに條約締結を提議するのである。

△獨逸國會議は六日召集の旨發表
△ハリファアックス英外相は、英國政府は佛國に樹立された波蘭新政府を承認する旨聲明
△英各自治領政府は連絡の爲ロンドンに閣員派遣決定
△ダラディエ佛首相は外交委員會席上で英首相の演説に賛成し獨逸の和平工作を拒否する旨聲明
△佛蘭西銀行への金及び外貨流入増加
△土耳其古軍使節訪英、英佛土三國相互援助協定成立

十月五日 (木)

ないかと思われてゐる。(ニューヨーク)

●リ外相一旦歸國

三日モスクワに到着したウルブシス・リトアニア外相は同夜深更のモロトフソ聯外務人民委員との重要會談の結果を齎して四日朝コッパに歸つたが、同外相は右結果に關する閣議決定を俟つて再びモスクワを訪れる筈。

●ソ聯、商船貸與を諸國に要請

ソルウェーは四日ソ聯に對し相當量の商船を或目的の爲に貸與することに同意したといはれる。右はソ聯がドイツの封鎖を突破して木材を英國に向け輸送する爲にソルウェー船船貸與方を要求したものと解されるが、スウェーデン、デンマーク兩國海運業者も同様ソ聯の要求に接したといひ、今後の成行は極めて注目される。

●米ソ貿易増大

米國務省當局の發表によれば、ソ聯政府代辯者は前週米國の關係當局に對しソ聯が近く米國に於て相當大量の物資を輸入する旨陳言したといはれる。而して今日迄にワシントンに於て受けた注文の量から見ても米國政府は米ソ間貿易の飛躍的増大を希望してゐる。

●リ國ソ聯の要求受諾か

リトアニア政府は原則としてソ聯の提案を受諾するに決したと傳へられる。而してソ聯提案の内容は

- 一、兩國間の通商を前進する事
- 一、ロムニー(ウクライナ)・ウイルナ・リバウ鐵道の直通運輸
- 一、人文地理的に見てリトアニアに屬せしむるを妥當とするウイルナ地方の一部をリトアニアに割讓する事

●ソ土會談再開

ソ土會談が如何なる方向を執りつゝあるかは全く不明のところ、サラジヨグル外相は新たに本國政府よりの回調に接したので五日より再びソ聯政府との會談を開始することになつた。一方ソ聯政府は、既にトルコ側に對し一、ソ聯が歐洲大戦に捲き込まれた場合トルコは飽くまで厳正中立を維持すべ

- △ヒ總統ワルソー入城軍を閱兵
- △羅馬法王慶賀、伊、西各大使を招き和平發旋
- △ボリヴィア政府、鑛山會社に對する外國爲替制限を緩和する旨發表
- △マレー政廳内錫生産許可率六〇%に増額と決定

きこと

一、トルコはソ聯以外の軍艦に對しダーダネルス海峡を通過して黒海内に入るを絕對的に禁止すべきこと

の二點につき保障を要求したといはれるが、今回のトルコ政府の回調の結果近日中にソ土會談にも何等かの打開が行はれる筈。

●ソラ兩國條約調印

ソ聯邦及びラトヴィア兩國間の條約はモスクワで調印された。

●英ソ通商に對する獨の態度

ソ聯はスカンデナヴィア諸國に對し英佛向け木材輸送を行ふため船舶の貸與方を要求したと傳へられたが、五日ドイツ政府當局はソ聯の右措置は必ずしも非友誼的行為とは見なさぬ方針の旨左の如く述べた。

ソ聯はスカンデナヴィア諸國より船舶を借用して英佛兩國向け木材輸送に供せんとするものと傳へられてゐるが、ドイツとしては、右を必ずしも非友誼的行為とは見ない。蓋し、ソ聯は中立國であるから、如何なる國に對しても輸出を行ふ權利を有してゐるからである。然し若し木材が戰時禁制品に指定されたならば、輸送船舶は積載禁制品の放棄乃至は拿捕を覚悟せねばならない。

●ソ聯官憲英船を扣留

セルローズ及び鐵礦を滿載英國向け出帆した英國船十二隻及びスウェーデン船五隻はソ聯官憲の手によりムルマンスク港に扣留中であるが、右に關し五日ソ聯當局は左の如き聲明を發した。即ち、九月九日の法令により外國貿易人民委員は輸出制限又はその他の條件によりソ聯の商業を害するが如き諸國向けのソ聯物資受渡しを中止又は抑留する權能を附與されてゐる所であつて、今回の抑留はその權能に基いて行はれたものである。(モスクワ)

●ソラ交渉の経緯

ソ聯政府の招請により去る二日モスクワ着のラトヴィア外相ムンテルス博士は三日以來モロトフ外務人民委員との間に協議を遂げてゐるが、五日ローマに達したタリン情報によればソラ交渉は順調に進んでゐない模様で、ムンテルス

ソ聯邦通商戦日誌

十月六日 (金)

外相が容易にソ聯の要求を容れぬのに対し、ソ聯政府は二十箇節に上る甚大な兵力をラトヴィア國境に集結強壓手段に出たといはれる。又ソ聯飛行士八千名及び飛行機六百架がフィンランド海に臨むソ聯の軍港に集結してゐるとのモスクワ情報もある。

●ソラ條約成立

ソ聯政府はソ聯ラトヴィア相互援助條約の締結に關し正式訓印を以て交渉を終了した旨並に條約の内容を公表した。

條約文は大要左の通りである。

一、兩締約國は歐洲強國の或る國が直接的侵略を加へたる場合又は侵略脅威ある場合相互に軍事的援助を含む凡ゆる援助をなすべきことを約す。

一、ソ聯はラトヴィア陸軍に對し有利なる條件を以て軍備並に軍用資材の供給につき援助を行ふ。

一、ソ聯の安全を保障し、ラトヴィアの獨立を強固ならしめる目的を以てラトヴィア共和國はソ聯に對しリエバヤ、ヴェンツピルスの二市に海軍根據地を保有し、適當なる借地料を支拂ふ租借地に飛行場數ヶ所を保有する權利を供與す。

一、本條約は批准書の交換と同時に效力を發生す。批准交換は本條約訓印後六日以内にリガに於て行はるべきものとす。本條約有効期間は十ヶ年とし、締約國の一方が本條約の必要を認めざるに至つた場合には期限満了前一年の豫告を以て廢棄し得るものとす。若し何れの締約國よりも廢棄通告なき場合本條約の有効期間は自動的に更に十ヶ年間延長されるものとす。(ソフ)

●ヒトラー總統の和平提唱
ヒトラー總統は六日正午クロール・オペラに於ける大ドイツ國會に臨みポーランド制覇後最初の前後一時間半に亘る歴史演説を行つた。總統は登壇先づ對ポーランド作戦の赫々たる結果を述べて將兵に對する感謝の意を表し、ポーランドを斯る状態に導いたのは英佛兩國の責任であると斷じた後、ソ聯を初め近隣各國との外交方針を詳説、國際會議の招集を示唆して英佛に對する最後の和平提唱を行つた。

總統演説の内容は左の通りである。

- △ヒトラー總統の和平提唱に對しソ聯は好意を表明
- △英佛は受諾し能はざる旨表明
- △伊大利はヒトラー總統の演説に對し好意を表しつゝ、英佛の出力を待つて國是決定

十月七日 (土)

●獨ソ通商交渉の意圖

ドイツ政府は獨ソ兩國間の經濟提携強化のため外務省通商局長リッター、外務省參事官シュムレ兩氏よりなる經濟使節團を派遣することとなり、一行は七日午後ベルリンを出發モスクワに向つた。ドイツ政府の發表によれば右經濟使節團の使命は獨ソ經濟提携に關する具體的方針討議にあり、その内容は左の如きものといはれる。

一、ドイツはソ聯より原料資源の供給を受ける。

一、ドイツは工業製品によつてこれが代償に當てその償却期間は長期とする。

ソ聯邦通商概日誌

- 一、獨ソ間のポーランド境界線は最終的なものでなく外交交渉により變更し得る。
- 一、ドイツはポーランドに對し國家の存在を認める用意がある。
- 一、英國に對する植民地要求は放棄しないが、決して之を暴力によつて解決せんとするものではなく、政治的正義と經濟的理性に基づいて解決する方針である。
- 一、ドイツはバルカン方面進出の野心はない。又東歐に於けるソ聯との友好關係は永久不動のものであり、斯くて兩國の平和は確定的のものである。
- 一、ドイツは決して世界制覇を目的とせず正義と理性に基き公正なる解決を求めらるのみ。
- 一、ドイツは歐洲各國を阻礙する凡ゆる問題を解決せんが爲各國が武器を棄て一般歐洲會議を開催することを提唱する。(ベルリン)
- ソ聯盟に留まるか
獨ソ新協定の締結並に獨ソによるポーランド分割は、ソ聯の國際聯盟退盟を示唆するものとして、聯盟方面では少からず憂慮してゐる趣であるが、ソ聯は尙暫く聯盟の一員として留まり、來る十一月末乃至十二月初頭開催決定の聯盟總會にも代表を派遣するものと見られてゐる。英佛兩國としても今ソ聯を聯盟より失ふことは日獨伊三國の脱退によつて殆ど形骸化せんとしつゝある聯盟を窒息させるに等しいものとして極力その引止めを策してゐるといふのが現状である。

- △カナダ政府外國證券の輸入を禁止する旨發表
- △瀋陽政府、外貨資金動員準備及資本輸出防止の法令公布
- △佛領印度支那戰時禁制品を發表
- △ル大統領の意は、英佛が受諾せざれば獨の和平提案に對し斡旋役は買ひ得ずと傳へらる
- △獨逸エストニア新通商協定にエ政府同意
- △獨逸ブルガリヤ新通商協定不成功に終る
- △佛政府亡命チエコ政府樹立を正式承認
- △米政府陸軍擴充を計畫
- △メキシコ政府伊大利との第三次パートナー協定成立

而してドイツの目標は、戦時に緊急缺くべからざる食糧品、金属、石油、織維原料、其他の原料品を輸入して英佛との長期作戦に後方補給の萬全を期さうといふにあることは勿論である。之に對しソ聯としてはドイツの抗戦力を強化して歐洲動亂の悪化を固る一方、必要な機械類の輸入により第三次五ヶ年計畫の完成を促進せんとするにあることは言を俟たない。結局新協定は八月十九日(日)の頃(ソ聯)の獨ソ通商協定の内容を戦時の必要に基き改訂強化せんとするものと見られるが、ドイツはソ聯より大體年額四億マルク程度の輸入を行ふこととし、ドイツの對ソ輸出の増加に應じ輸入量を増額することとなるのではないかと豫想されてゐる。(ブルリン)

●獨ソ經濟協力の限界

ドイツ經濟使節團のモスクワ訪問に關し種々の観測が行はれてゐるが、大體左の如き樂觀的見解が下されてゐる。

ポーランド分割後に於けるソ聯の積極外交の結果、ソ聯は中央及び東歐に對しルーマニアの小麥、石油を殆どその手中に收めたのみならず黒海及びバルチック諸國に對する覇權を確保した結果、今日に於てはバルチック諸國はソ聯の希望があればドイツに對して農産物の賣渡しを拒絶することさへ出来る。かゝる情勢下に於てドイツ使節團に托された任務には甚だ注目すべきものがあり、特に本使節團中に多數の石油並に鐵道輸送に關する専門家の参加してゐる事實は重視されなければならない。然し現在ソ聯がドイツに對して物資の供給を行ふとしても、それはこれまで英佛その他に向けられてゐた輸出品をドイツに振向けること位であらう。従つてソ聯のドイツに對する經濟協力の限度は

- 一、最近對英佛輸出を禁止した石油の對獨輸出
 - 一、從來英佛ポーランド等に送られてゐた小麥の對獨輸出
 - 一、航空機用ガソリンを米國より輸入して之をドイツに再輸出する
 - 一、ドイツ人技術顧問によりマンガン、マグネサイト、アルミニウム、鐵等礦産資源の開發を盛にし増加分をドイツに供給する (同型)
- 瑞典・諾威船の備船中出

ソ聯當局が白海方面からの對英木材輸出の爲スウェーデン及びノールウェイ船の備船方を申出でゐるのに對しノールウェイ側は之に應ずるであらうと見られてゐる。(同型)

●ソリ會談再開

七日午前コゴノ出發再度モスクワ訪問の途についたリトアニア外相ウルブシスは七日午後モスクワに到着、次いで午後十時外務人民委員部にモロトフ委員を訪問重要會談を開始した。

●ソ聯再びエ國に要求

バルチック諸國に對するソ聯外交は益々活潑の度を加へつゝあるが、タリソよりの情報によればソ聯政府は七日再びエストニア宛新規要求を提出その領土内二地點の使用を求めたといはれ、相次いで行はれるソ聯政府のエストニア壓迫は驚異的となつてゐる。

●ソ聯、芬蘭代表派遣方を要請

フィンランド外務省は七日ソ聯政府より代表派遣を要請せられてゐる旨公表した。即ちソ聯政府はフィンランド政府に對し相互に關係ある政治・經濟問題を討議する爲代表派遣方を示唆し來つたが、フィンランド政府は之に對し未だ何等の決定を與へてゐない。然しイリヨ・コスキ・ネン註ソ公使は既にソ聯當局と通商交渉を開始してゐる。(キルシン)

●ソ聯中國邊疆地方に進出

ソ聯勢力の中國邊疆工作は最近頗る露骨になり、新疆、青海、甘肅地方の重要資源はソ聯の手に掌握され、ソ聯は隠然拔くべからざる勢力を扶植しつゝあるといはれる。

●支ソ獨間航空連絡實現説

七日大公報所載重慶より香港に到着した一旅行者の談話によれば、ソ支間に多年の懸案であつた支ソ獨三國を繋ぐ歐亞定期航空路が最近實現されることとなつた。從來支航空路實現の痛となつてゐたのは獨ソ兩國間の反目であつたが、獨ソ間に不睦條約締結を見るに至り獨ソ支間に交渉が迅速に進んだもので、モスクワ重慶間を四日間で連絡する筈である。

ソ聯邦通商戰日誌

十月八日

●獨逸代表露都着

十月八日、經濟問題に關するドイツ政府特別全權代表リッター及びシュヌレを主班とする經濟代表一行十二名がモスクワに到着した。右一行は、國民經濟省、農務省、鐵道省代表及び專門家を各含むもので、尙右と同時にドイツ國境委員委員長ヘンケもモスクワに到着した。(ソウエツキ)

●モロトフ及び獨逸代表の會見

十月八日モロトフはリッター及びシュヌレと會談したが、右により、過般決定した經濟プログラムと急進且大規模實施方關して協定が成立し、その結果ソ聯の對獨逸原料品供給及びドイツ商品の對ソ輸出が急進に開始されるであらう。(ソウエツキ)

●八日モスクワに飛來したシュヌレ團長以下のドイツ通商使節一行は直ちにモロトフ外相と協議を開始したが、ドイツ側の染料、石油、海運會社代表はすでに先週から協議を進めてゐる。モロトフ、ソ聯外相とリッター、ソ聯外相との間の取決めによれば、ソ聯はドイツに對する原料品輸出高をヒト統前時代の水準にまで高めることになつてゐる。尙多數のドイツ人技師がすでにソ聯に派遣され、ソ聯の産業顧問となつて活躍してゐる。また右通商使節一行と共にドイツから經濟問題特別使節リッター氏もモスクワに到着した。(モスクワ)

●ソラ相互援助條約批准

ソ聯最高會議幹部會はソ聯邦及びラトヴィア間の相互援助條約の批准をした。(モスクワ)

●芬蘭使節近く露都へ赴任

ソ聯のバルチック諸國に對する積極外交工作の最後に残されたフィンランドがソ聯の呼び掛けにどう對處するかは各方面より注視されてゐたが、フィンランド政府は元首相現スウェーデン駐留公使パーシキヴィを近くモスクワに派遣してソ芬兩國間の政治經濟諸問題を協議せしめることとなつた出。

●ソ聯駐伊大使任命

ソ聯邦最高會議幹部會は七日ゴレルキンを駐伊大使に任命せる旨發表した。

- △獨、ラ、エ兩國へ少數民族返還交渉開始
- △英軍備省、人造バター及ラードの全貯蔵品の徵發を布告、九月四日に終る一週間の平均を越えることを得ずとす
- △芬蘭、豫備兵を召集しソ聯國境方面の防備を強化す

十月九日

●芬蘭代表ソ聯へ赴任

ソ聯政府はエストニア、ラトヴィア、リトアニア三國に對する強壓成功の餘威を顯つてフィンランドに對して強硬要求を提出すべく代表派遣方を要請中のことは前述の通りだが、フィンランド政府はソ聯の要求に對して容易に應諾せぬ強硬態度に出でつゝも、取り敢へず交渉特使としてスウェーデン駐留公使パーシキヴィをモスクワに派遣することとなり、同公使は九日夜ヘルシンキ發モスクワへ向つた。フィンランド政府は依然強硬態度を取つてゐる爲、ソ芬交渉の前途には樂觀を許さぬものと見られる。(モスクワ)

●ソ芬交渉に獨は不介入

ソ聯政府がフィンランドに對し壓迫を加へつゝあるとの報道に關し、ドイツ政府筋では九日これをソ聯とフィンランド兩國間のみの問題と見做してドイツは之に全く介入の意志なき旨言明した。従つてドイツとしてはフィンランドも他のバルチック三國同様ソ聯の勢力範圍なるを承認しソ聯の強力外交の自由に委す方針と見られる。

●ソラ條約に關するム外相談

今回のソ聯ラトヴィア間の相互援助條約はソ聯エストニア間の相互援助條約と相俟つてソ聯はバルチック沿岸に抜くべからざる勢力を扶植したものであるが、右條約調印の當事者たるラトヴィア外相ムンテルス博士は九日ソラ相互援助條約締結の動機につき、次の如く言明した。即ち、ラトヴィア政府は東歐に近く大變革のあることが明かとなつたので現實の事態に即應し自國の存立を維持する爲ソ聯の要求を受諾したのである。

尙右ソラ相互援助の内容より見るに、ラトヴィアはソ聯より武器及び軍需品の供給を受ける代償としてソ聯に對し沿岸要地及びリバウ、ウインダウに海軍根據地構築と駐兵權を承認する結果完全にソ聯に併せられることになり、事實上スロヴァキア乃至エヂプトと同様に保護國の状態に陥つたものと見られ、ドイツ政府もこれを承認した。(モスクワ)

ソ聯邦通商戰日誌

- △ソ軍七十萬芬蘭國境に待機
- △獨、更に大動員下令
- △獨、ラ少數民族交渉成立
- △ラ、エ兩國の獨少數民族續々本國引揚開始
- △伊政府、洪兩國と新友好條約締結交渉開始
- △英、羊毛統制令發布、十一月一日よりウールドゥプ毛絲の配給統制實施
- △印度國民會議派獨立再要求
- △ダラデイエ首相の放逐演説と總統の和平提案を拒否
- △白耳義國境軍増強
- △ルーマニアとユーゴスラヴィア間にバナット地方國境劃定協定成立
- △瑞典政府十萬の豫備兵を召集

●ソ聯當局英國向船類抑留
 (英國向セルローズ、燐灰石等積載)を抑留したが、右は九月九日附ソ聯政府決定の輸出制限令によるものとされる。(通外)

●ソ聯、丁抹にも備船申出
 ソ聯當局は丁抹にも白海よりの對英木材積出しの爲の備船申出と共に更に西歐への貨物輸送の爲の備船申出を行った。(通外)

●北東歐政局重大化
 ヒュースの和平提唱に對し英佛に應諾の色なく和平は愈々絶望視されて來たが、ドイツは最後の手段として近日中に獨ソ兩國の全面的提携強化を發表し、之によつて東歐及び北歐政局に重大變化が齎されるものと豫想されるに至つた。ラトヴィア外相ムンテルスは、過般相互援助協約締結に際してソ聯側より此の間の消息を聴取したものの如く、九月ラトヴィア新聞に對しては五週間に於いて歐洲就中東歐に大變動が起るとの談話を發表して國際政局の重大轉換を豫言し、たゞさへ恐怖状態にある歐洲政局を極度の不安に陥れた。ドイツとしては英佛と決戦する爲には如何なる犠牲を拂つても此の際ソ聯の協力と援助を求めなければならぬ立場にあるが、ソ聯はこの弱味に付け込んで一舉に勢力の擴大を企て、ドイツを強要して東歐の地圖を根本的に塗りかへんとしてゐるのである。ドイツとしてもソ聯の積極的態度に疑念を持ち内心警戒してゐることは勿論だが、東西兩正面への兵力分散を避け、英佛の封鎖線を破つて物資の補給を獲得する爲にソ聯に對し總ゆる好意を盡してゐるわけである。従つて結局東歐でが、消息は一ヶ月以内に豫想される獨ソ關係を大要次の如く見てゐる。即ちドイツはソ聯に對しソ聯の勢力圏と定められた地域よりドイツ民族を退去させ、將來も領土的要求を提示せずとの態度を示す一方、ソ聯はこの報償としてドイツに對する經濟的援助を強化し、全力を擧げて食料原料等の補給を繼續する。然しこれは經濟協定の形式で近く正式に調印される筈。(報外)

歐洲狀勢と土耳其の態度

トルコ外相サラジヨグルとソ聯當局との間に九月下旬以來モスクワで交渉中のソ土協定に關する問題は獨りトルコのみならずバルカンの運命をも左右するものとして注目されてゐる。

而して、右に關するソ聯側の要求は、

- 一、トルコは英佛との協定調印を行はぬ事
- 一、ボスポラス、ダーダネルス兩海峡を含む地帯を中立としこの地帯に關してルコはソ聯との間に相互援助協約を結ぶ事
- 一、ある模様で、右は獨り不侵略協約に附帯する秘密協定中の一項目、即ちソ聯はトルコの中立維持に努力するとの條件に従ふものと解せられる。
- 一、尙去る五月既に大綱が定り八月調印の筈であつた英國とトルコ間の協定は次の如き内容を持つものと云はれる。即ち、
 - 一、兩國は東地中海で相互援助協約を結び第三國のトルコ侵略に對抗する。
 - 二、トルコは戰爭の場合スエズ地帯防備のため四ヶ師團を派遣する。
 - 三、トルコの國內産業開發資金として英國は六千萬ポンドのクレヂットを與へる事

更にフランスとの協定内容は、「フランスはシリアの北部の一部をトルコに割讓しトルコ軍のスエズ派遣の際にはシリア通過を許す」といふにある。

ソ土協定の仲展と共に英佛は最近この協定の調印を進行同時にトルコとソ聯との間の如何なる協約をも認めないといふ態度に出た爲、トルコ當局は板挟みとなり、最近左の如き折衷的な訓命を在モスクワのサラジヨグル外相に發したと云はれる。

一、東地中海では英佛と相互援助協約を結ぶ

二、ソ聯とは海峡を含む地帯に相互援助協約を結ぶ

三、若しソ聯と英佛間に戰爭が起ればトルコはこの協定を同時に破棄し中立の態度をとる

ソ聯は寧ろトルコの中立を希望する建前から大體右の妥協案を原則として受けるのではないかと見られてゐるが、然しトルコ外相のモスクワ滞在は既に二十日に近く従つて交渉が相當難關に遭遇してゐる事は容易に想像され、この間トルコ駐在の英佛大使がトルコ率制の猛運動を續けてゐる事も事實とすれば、

ソ聯邦通商駐日誌

十月十日
(火)

十月十一日
(水)

トルコの露軍は大きな雄として注目される。 (イスタンブール)

●ソリ相互援助協約締結決定

ソリ相互援助協約締結決定
ソリアニア政府は十日ソ聯政府の要求に従ひソリ相互援助協約の締結を正式に承認することになった。該協約により一九二〇年以來ポーランドの領有に歸したウイェルノ地方はソリアニアに割譲されることになったが、その一部はソ聯の手に残されるはずである。但しソリアニアはソ聯に對し自國內に海軍並に空軍根據地の建設権を供與するに至つたものと見られる。

●獨ソ國境調整委員行動開始
國境調整に關する獨ソ兩國の中央邊境調整委員はモスクワに於て行動を開始した。(世界經濟)

●英ソ間パートナー協定成立

英政府は、十一日英ソ間にゴム及錫對木材のパートナー協定が成立し、軍備大臣とソ聯通商使節との間に調印の旨公表された。但し、數量に就ては發表はなかつた。尙政府は本協定成立前二週間に互に倫敦で協議された由は純然たる經濟的性質を有するもので、政治的のものではない旨を強調してゐる。(通外)

●英ソ協定成立と獨ソ關係

英國政府は十一日ソ聯政府とパートナー制による通商協約を締結、右協定の内容は未だ具體的に發表されないが、ソ聯の木材と英國の錫、ゴム等のパートナー制である旨、外電は傳へてゐる。然しながら將來競争が深化し長期戦に入り英國が食料品等に就ても著しく缺乏を來すことは明かであつて、その不足は當然ソ聯より相當量輸入して補ふものと見られる。而して輸入の経路に於て獨逸側は木材乃至食料品等の臨時禁制品が敷設される英國に入ることを默過出來ず英國の商船を豫沈することは必至であらうが、若しソ聯國籍の商船である場合は中立法の建前上無制限に豫沈することは不可能な問題である。そこで獨逸としては之等ソ聯商船を一應濫殺し、英國向けの臨時禁制品は陸揚げ禁止或は押收することになるであらう。従つて今後獨逸間の關係は頗る微妙なものとなり、その利害關係は激化するものと見られる。(ロンドン)

●ソエ道補協定成立發表

ソエ道補協定成立發表

七六

- △漢州政府小麥を政府收用と決定
- △佛印對聯軍軍需品輸送再禁止と報せらる
- △米陸軍省總額三千二百萬弗の軍需品購入の註文を發した旨發表

- △獨、ブルガリヤ間に通商協定成立
- △ヒ總統冬季救濟事業開始演説
- △英、新波蘭政府承認
- △英國の佛蘭西派遣軍の勢力は十五萬八千と發表
- △全印度國民會派大戦に對し態度決定を留保する旨決議
- △羅、ユ兩國國境調整協定成立

十月十二日
(木)

義に成立したソエ相互援助協約に基き、ソエ兩國專門委員はタリンに於て細目協定に就き交渉を重ねてゐるが、十一日右に關する道補協定が正式に成立し、旨兩國委員から發表された。この道補協定によりソ聯軍隊は來る十八日露、エストニア領内に進駐する相互援助協約によつて規定せられた個處に駐屯する事となつた。尙ソ聯政府はソエ兩國の親善を齎すため近く軍艦四隻をタリンに派遣する旨。

●ソリ相互援助協約成立

ソ聯政府は十一日タス通信を通じソリ相互援助協約が成立した旨發表、その要旨は左の通りである。
一、ソリ兩國間の友好關係確立のためウイェルノ市及びウイェルノ地方はソ聯よりソリアニア共和國に讓渡し之をソリアニア領に編入する。
二、ソリ兩國は軍事的援助を含む凡ゆる援助をなすことを約す。

●獨のソ聯毛皮買付増加

獨のソ聯毛皮買付増加
獨逸の報ずる所によれば、獨逸側は獨ソ間經濟協定の範圍内に於てソ聯より二萬二千枚(價約五十萬マルク)の原料毛皮を買付けたが(右は主として加工の上輸出に向けられる等)、右成立の時は獨逸側毛皮買付總額は一千萬マルクを遙かに突破することとなる趣である。(通外)

●芬蘭全權露都着

フィンランド政府全權委員パーシキヴィ、モスクワ着。

●ソラ援助協約批准交換

ソラ兩國相互援助協約はリガに於て批准書が交換された。

●ソリ條約批准

ソ聯邦最高會議幹部會は去る十日モスクワで調印されたソ聯リトアニア相互援助協約の批准を了した旨發表。

●ソ芬會談開始

昨十一日露都着のフィンランド代表パーシキヴィ公使とソ聯代表モロトフ外

- △獨、最高會議は民間國防委員會を各地に創設命令
- △獨、通商協定成立
- △チェンバレン英首相下院でヒ總統の提案は受諾不

七七

十月十三日(金)

務人民委員との第一回會談は、ソ芬關係の悪化を反映し緊張裡に午後五時からクレムリン宮で開始された。會談は、スターリン臨席の下に一時間以上繼續した。

●ソラ通商交渉開始

去る五日締結のソラ相互援助條約に引續き更に兩國の經濟關係の再調整を圖るため新通商協定締結の目的を以て昨十一日ラトヴィアを出發したラトヴィア商工會議所會頭ベルヂンスを首席とする經濟使節團一行は、十二日モスクワに到着し會に於てソ聯貿易人民委員部長スチパノフ以下各要員に迎へられ直ちに宿舎に向つた。(モスクワ)

●ラトヴィア通商代表は本日モスクワに到着した。

ラトヴィア通商代表は本日モスクワに到着した。

●ソ聯軍艦タリンに派遣

ソソイェト軍艦三隻タリン入港。この報道はエストニア市民の間に大なる關心を喚び起した。(モスクワ)

●ソ土會談再開

モスクワに於けるソ土會談は去る一日以來停滯の形であつたが、十三日午後五時再開、サラジヨグル土外相はクレムリン宮に於て約二時間に亘りモロトフ外務人民委員と會談した。これにより懸案のソ土協定は感一兩日中に成立の運びに至るものと見られるが、官憲筋の肯定は未だ得られない。

●ソ土協定に對する獨の觀測

ソ土協定成立近しとの報道に關しドイツ政府筋では左の如く言明した。トルコ政府は結局對ソ關係がトルコにとつて第一義的であることを認識し、尙消息筋の觀測によれば、トルコは新ソ土協定の成立と同時に中外に對してその中立を聲明し、且ダーダネルス海峡に於ける交戰國の軍艦通行を禁止する方針と言はれる。

トルコ對ソ關係の調整にはドイツの側面的援助が大に與つて力があつたが、かくて獨ソ兩國はトルコを英佛陣營より切離すことに殆ど成功したのである。

七八

- △英、新設船相にギルモアを任命
- △英、法幣援助不變とのコミニユケを發表
- △カナダ、軍事公債二億弗發行
- △米、ソ獨の平和維持をソ聯に正式要請
- △米、芬蘭問題につきソ聯へ警告
- △北歐三國から芬蘭獨立尊重につきソ聯へ申入れ
- △英、物價統制法議會提出
- △カナダ、軍事公債二億弗を發行する旨發表
- △英、本年度豫算案十九億三千三百萬鎊上院通過
- △可能なる旨發表

次にはルーマニアの抱込策に出るものと見られ、バルカンに對する各個擊破戦は感、本格化されるものと豫想される。

●英外交界のソ土交渉觀

ソ土交渉の見通しにつきロンドン外交界の意見を綜合すれば大體左の通りである。即ち、イスタンブールからの情報によればソ土協定は感、調印されることになつたと云はれるが、トルコ政府は若しソ聯が參戰した場合には中立を維持するやう英佛側の諒解を得てゐるので、ソ聯がドイツ側に參戰した場合には英佛はトルコの援助を期待し得なくなる譯である。然し、英佛が相互援助條約案の内容變更を承認したことはソ聯參戰の可能性を豫想してゐないことを意味するものである。

●トルコの眞意と國力

ソ聯の歐洲乘出しによりトルコの英佛依存、ルーマニア援助方針は手控へとなり、トルコは中立の聲に閉らざるを得ない状態にある。トルコは出来れば英佛兩國とも手を握りソ聯とも親交を圖り黒海及び地中海といふ二つの安全保障條約の成立を希望してゐると云はれる。トルコは先の大戦に鑑み國外に兵を出すことを欲せず、而も首府アンカラの建設に莫大な國帑を費し、國民生活一般も豫想以上に悪くなく、他國の爲或はイデオロギーの爲に戰爭するなどいふ意志は強くない。莫大なる財政で、陸軍兵力二十個師團、航空機の如き二百機足らずといつた有様である。海軍に於ても舊式戰艦一隻、巡洋艦及び驅逐艦併せて七八隻、潜水艦一隻、總噸數三萬噸である。目下英國兩國で建造中の艦船五隻といふのはソ聯海軍の八萬噸に對して策の施しやうがない譯である。英國はトルコに與へた六百萬鎊の借款で軍艦建造に當らせるなど、確政策でトルコを引込まうとしてゐるが、ソ聯に脱まれては交戰國軍艦のダーダネルス海峡通過禁止問題もソ聯の要求通り讓歩し、英佛の對土軍事協定の批准も躊躇する外あるまい。尙過去に於てトルコの貿易の大半を占めたドイツは通商協定更改に當り英國の指金で外貨拂ひによるバーター制をトルコに主張され、バーン駐土大使の努力にも拘らず不利な形勢にあるが、この間イタリアの進出には目覚ましいものがある。

●ソ聯軍使節リガ着

ソ聯邦通商日誌

七九

十月十四日 (土)

十月十五日 (日)

ソ聯邦軍事使節は本日リガ(エストニア)に到着した。

●ソエ最終議定書調印

過般成立したソエ相互援助協約に基き、ソ聯邦軍事使節はタリンに於てエストニア軍需局とソ聯邦軍事基地建設、ソ聯邦のエストニア進駐其他細目條項に關し折衝中であつたが、本日兩國代表間に最後の一致を見、最終議定書の調印が行はれた。

●ソ聯の對芬要求

ソ芬會談のフィンランド側代表が十四日夜突如ヘルシンキに引揚げた事に關し、ソ聯が豫想以上の強硬要求を出したのではないかとの観測が行はれてゐるが、十四日夜DNB通信社に達したペンハーゲン電によればソ聯はフィンランド領諸島の割讓、オーランド島の再武装禁止及びソ芬軍事同盟締結の三大要求を提出したと傳へられる。

●リトニア相互援助協約の批准承認

リトニア相互援助協約は十四日去る十日締結されたウイノ地方返還を含むソ聯リトニア相互援助協約の批准を承認した。

●ソ土會談難行

トルコ官邊の洩らす所によれば十五日午後ソ聯政府はモスクワに於けるサラジヨグル土外相との會談が遂に難關に乗り上げるに至つたので、急遽大軍をコーカサスのトルコ、イラン國境に集結したとの報に接し、トルコ政府も萬一を慮つて對抗的措置を講じてゐると云はれる。之と同時にトルコ艦隊も萬ダーダネルス海峡チャナカルに投錨して同海峡警備につき、同海峡のイズミールに於ては猛烈な防空演習が開始された。(イスタンブール通信)

●ソリ通商協定調印

ソ聯リトニア間新通商協定は十五日ソ聯側代表ミコヤン外務貿易人民委員とリトニア側代表ルカイチスとの間に調印を了した。新通商協定はソリ兩國間の貿易額を一年間四千萬リツツ(従來の二倍)とし、有効期間は二ヶ年である。(通信)

●ソ支間に新航空路開設協議

本日の重慶UP電は、ソ支兩國代表間に支那航空路の新設に關し正式に協議が行はれてゐる旨報じてゐる。右によればソ支兩國共同經營によるソ支航空會社が創立されるものと豫想され、新疆省哈密とソ聯中央アジアのアルマ・アタを結ぶ新航空路を開設し、アルマ・アタ、モスクワ線に連絡させるもので、右航空路の經營にはソ聯が當ることになつてゐる。一方重慶政府經營の下に哈密、重慶間の新線開設が豫定され、この三線の連絡によつてモスクワ、重慶間を三日間で飛び、更にベルリン、重慶間を四日間で連絡する筈である。

十月十六日 (日)

●ソ土會談再開

モスクワに於けるソ土會談は徒らに時日を費すのみで一向に進捗せず、最近はその決裂説さへ傳へられるに至つたが、サラジヨグル土外相は十六日午後タレムリン宮にモロトフ外務人民委員を訪問し、ソ土會談を再開した。但し會談内容に關しては何等公式發表もなく、會談が難關を突破して好轉したか或は益々困難の度を加重したかは一切不明。

●土農使節訪ソ

トルコ農業使節團一行は十六日アンカラ出發モスクワに向つた。右はソ聯農産博覽會に出席のためであるが、目下モスクワに於てソ聯當局と折衝中のサラジヨグル外相宛の重要訓令を携行してゐるとも云はれ、ソ土交渉が難航を傳へられてゐる折柄その動靜は注目される。

●賀駐ソ支那大使赴任

楊杰の後任として駐ソ大使に任命された賀耀組は去る十二日成都發空路モスクワに向つたが、途中蘭州總化に立寄り十六日モスクワに到着した。賀は直ちに外務人民委員モロトフと會見、今後ソ支兩國の國交調和に乗り出すものと見られる。

●ソ土交渉決裂

二旬に亙りモロトフ外務人民委員、サラジヨグル土外相間に行はれたソ土交渉は十七日夜遂に決裂の止むなきに至つたが、サイドム首相の聲明によれば、その原因は次の通りである。

ソ聯邦通商日誌

△英政府英印關係に關する白書を公表、印度に對し自治領國を許可する意向を表明

△獨逸ハーンに大本營設置全艦に大軍配置、ザール進撃態勢
△英政府は三十億米弗の巨費を投じ、カナダに一大軍需工場地帯の建設を計畫と傳へらる

△獨逸、ブルガリア及ユーゴスラヴィアとの間に新通商協約成立の旨公表
△芬蘭外相エルツコ、對ソ紛争に萬全を期すと聲明

十月十八日 (水)

即ちソ聯の提案がトルコの獨立と相容れないものがあること、殊に問題なのは、ソ聯の最後の提案の如き兩國の間に於て既に一致を見たものと根本的に相違してゐること等である。

尚、トルコ政府筋ではソ聯側の要求に就て左の如く洩らしてゐる。

一、ボイランド分割の承認

一、ソ聯兩國の指導下にバルカン中立プロットの結果

一、ソ聯及びブルガリアの利益に於てルーマニアを事實上分割する。

ソ聯白蘭へ金現送

オランダ銀行週報によれば十七日發表の十月十六日現在に於ける同行金保有高は十一億一千二百萬ギルダーで、前週の十一億ギルダーに比して八百萬ギルダーの増加を示してゐる。而して右は物資購入のため東歐の某國が預金したものと見られてゐる。その東歐某國とは何れの國なりやに關し公式發表はないが、阿姆斯特ダム金融界では右はソ聯がベルリンを經由して金を預けたものであらうと見る向が多い。

ソ聯對獨金現送千六百萬ドル

最近ソ聯は米貨換算千六百萬ドルの金をドイツ向け現送したが、ウォール街ではこの現送の意義及び影響などにつき種々の臆測を生んでゐる。

國際金融業者方面ではこの現送はソ聯の對獨債務決済のためのもので、元來ドイツはこの支拂ひのためソ聯の原料品の供給を受ける筈であつたが、ソ聯の緩慢な運輸機關を以てしては到底急場の間に合はず依つて至急に金を以て支拂ひを受けた體である。

而してこの金の使途に就てはニューヨーク財界有力者方面に次の如き情報が入つてゐる。

一、スウェーデンより大量の鋼鐵及び鐵礦石の直積物を買付け、これに對する支拂代金に當てる。

一、イタリヤから重油、ガソリンを買付ける。

尙ドイツの買つてゐるイタリヤの石油は主として海外から輸入されるもので、専らドイツ船によつてメキシコから運送中のものであるが、戰爭勃發以來これらドイツ船は早くも中立國船籍に書き替へられてゐる。従つてイタリヤ向

八二

△土庫古首相サイダム、ソ土交渉決裂と聲明

△米國務省對墨石油問題の解決に乗り出す

△支那、カー英大使蔣介石に和平勸告の重大申入れ

説

△北歐四國元首會議ストックホルムで閉會

△ル米大統領は交戰國潜水艦の米國領海立入禁止を發令

△米伯協定に従ひ米國政府ブラジル財務省に對し三百萬ドルの金塊を賣却せる旨コスタカ蔵相確認

△日米陸海軍協定廢止

十月十九日 (木)

ソ聯邦通商戰日誌

けの石油積荷は理論的には英佛側に拿捕されることはないわけであるが、最近英政府はかかる積荷は目的國の需要より甚だしく多くないといふ確證のない限りこれを没收出来るとしてゐるから、その成行は注目される。(ニューヨーク)

●對獨金塊輸送の確證

最近ソ聯からドイツに十七トン半の金塊が輸送されたとの報道に對し、ブラー外務次官は右報道の眞實性を信じてゐる旨聲明した。

●英ソ通商協定更に擴充

英ソ兩政府間に過般成立した通商協定を更に擴充せんとする交渉が目下ロンドンに於て進行中の模様であるが、英國では尙木材の缺乏を告げてゐるので現行協定の木材とゴムのパートを強化するのみならず、英國から機械器具、コア等を供給して更に多量の木材の輸入を許すものと見られてゐる。

●ソラ通商交渉成立

過般案モスクワに於て進行中のソ聯とラトヴィアとの通商交渉は雙方の意見の一致を見るに至り十八日正式調印を見たが、同協定は一九三九年—一九四〇年の兩國貿易の總額を六百オラットと定め、更にソ聯はラトヴィアに對し鐵道及び白箱のマルマンスタ、ソロカ兩港向け航路並に黑海諸港向けの聯絡鐵道の便を供與し、之に對しラトヴィアはソ聯物資のラトヴィア諸港經由聯絡輸送を承認するものである。かくて兩國の貿易は従來の貿易額の三倍に躍進することとなつた。

●土外相のコンミュニケ

トルコ外相サラジヨグルはモスクワよりトルコに引揚げた。これと關聯して公表された公式コンミュニケは、同外相訪ソの結果、ソ土間の友好關係及び兩國政府の平和保持への努力の協力が確定された旨強調してゐる。(世界政治)

●英佛土協約締結とソ聯

英佛土相互援助協約は十九日午後アンカラに於て調印されたが、その内容は五月十二日及び六月二十三日に夫々成立した英土、佛土兩暫定取極めを骨子としたもので、英佛が侵略を受け之が地中海戰爭に發展する場合並にトルコが侵略を受けた場合英佛土三國は夫々相互に救援を約束したものである。但し注目す

△ヒ總統波蘭國と上部ソ

△レシア獨領併合宣言

△獨、英佛の護衛付中立國

△船無警告沈没通報

△獨政府、戰時禁制品追加

八三

べきは特にソ土關係を考慮し附屬議定書を以てトルコはソ聯との戦争には介入する義務なき旨の項目が規定されてあること、この除外例はソ土兩國の交渉に便ならしめる爲英佛兩國によつて特に承認されたものである。英土、佛土兩約定取極めは夫々共同宣言の形で、地中海戰爭に導くが如き侵略行爲が起つた場合は相互に協力し凡ゆる可能な援助を與へるに旨宣言したものである。獨ソ協定急選批准

ドイツ政府はラジオを通じてヒトラー總統は去る九月二十八日モスクワで調印された獨ソ友好並に國境劃定條約並に十月四日附細目議定書の批准を了した旨發表した。この條約は三週間以上も批准が遅れてゐたものであるが、十九日英佛土三國相互援助條約が成立したのでこれに對抗する爲急選批准を行ひ、獨ソ兩國の提携を誇示したものと見られる。(見、附註)

●ソ聯側も發表
ソ聯邦最高會議幹部會は獨ソ友好及び國境劃定條約を承認した。(世界政治)

●ソ聯の對芬要求を獨重視
ソ聯の對芬要求の内容は大體次の如きものと傳へられる。
一、クロンスタット軍港の前面に散在し、軍事的に重要性のあるフィンランド灣各島嶼の割讓
二、オーランド島の軍事施設及駐兵權
三、ムルマンスクよりノルウエイ西北部鐵道地に至る鐵道敷設權

一、以上の代償としてソ聯はフィンランドに東部國境の接讓地を供與する。
若しフィンランドが以上の要求を承認すればバルチック三國同盟全くソ聯の意志に甘んずることとなり、スウェーデン、ノルウエイも其存在を脅かされることになる。他方バルチック三國へのソ聯の進出はドイツのバルチック海制海權に多大の影響ありとして、ドイツ海軍部内にすら不滿の聲があるといはれてゐる程だが、ソ聯が以上の要求を貫徹すれば、バルチック海だけでなくノルウエイを通じて北海方面にも進出することとなり、その影響は極めて甚大と假なければならぬ。(見、附註)

●ソ聯米國へマンガン買却

△チ英首相、下院に於て英佛土條約正式調印の旨發表

△佛軍司令部、西部戰線の大部隊戰術的後退と發表

△ブルガリア、キヨモイゾアノフ内閣總辭職

△瑞典、北歐會議に於て四國中立嚴守を聲明

△スペイン、首都をブルゴスよりマドリッドに移轉

△米、戰爭勃發以來爲替管理の結果活用せられなかつた二十億弗に上る爲替資金を中南米貿易振興に利用する案具體化す

△グルー米駐日大使、日米協會主催の歡迎席上對日不滿の眞因を表明

△日本イラン修好條約テヘランにて調印

十月二十日 (金)

十月二十日 (土)

米國財務省は十九日陸軍省納入のマンガン鐵の入口を行つたが、そのうちソ聯の入口があつて注目を惹いた。ソ聯のマンガン輸入は總額十九萬六千トンに上り價格は四百九十萬ドルである。(見、附註)

●ソ支最短期間公路半ば完成
豫て重慶政府はソ聯に通過する最短期間の北西公路の竣工を急いでゐたが、最近全行程千三百軒の半ばを完成したといはれる。

右新公路は四川、甘肅兩省の省域たる成都及び蘭州を直接結ぶもので、山脈や大河川を横斷し、四川省北西部を殆ど直接的に縱斷してゐる。之は従来の蘭州成都公路より八百軒以上短縮されるもので、本年初頭着手、明年初めに完成の豫定と云はれる。

●ソ聯の對支軍事援助強化
重慶よりの情報に依ればソ聯は最近重慶に對して特科兵一千名を派遣、各兵種に互つて作戦に加勢せしめるに至つたと傳へられる。即ち最近トルクシブ鐵道沿線方面より新疆、甘肅、陝西各省に通過する輸送ルートの交通は異常に頻繁となつてゐるが、このルートを通じて重慶に到着したソ聯兵は過去十日間のみで一十名以上に達し、之等ソ聯兵は軍事施設に收容され、更に前線に配備されつゝあると云はれる。

尙、去る十八日空路蘭州經由重慶に到着したソ聯軍事顧問一行(少將級のソ聯將校二名を含む)の招請は、國防最高會議秘書長張群のモスクワ訪問の機會に具體化したもので、張群は新任駐ソ大使賀國光と入り替りに重慶に到着したが、張群とモスクワ政府との間に成立した商議は軍事顧問の招請並に武器供給に關して設定されたクレジットによる飛行機の供給に限定され、他の重要案件に關しては懸念する所なく遂に失敗に終つたと云はれる。尙ソ支關係の調整に關しては新任ソ大使賀國光が専ら之に當る筈である。(見、附註)

●ソ聯紙のソ土條約評
イスヴェスチヤ紙は二十一日の紙上に英佛土援助條約に關するソ聯紙最初の社論を掲げ、ソ聯は英佛陣營に参加せず飽くまで中立を維持する旨左の如く述べた。

△獨英佛土相互援助條約に對する獨の不滿表明
△駐米波蘭大使ウイノノ割讓受納をリトアニアへ抗議
△米陸軍増強、正規兵六十萬計畫決定

△ヒ總統スロバキア公使に波蘭の一部返還を約束
△英陸相決戦を強調
△英政府、二十歳より二十

十月二十日

今回アンカラで調印された英佛土相互援助協約は重大な政治的意義を有するが、右條約締結が明に戦争を開始してある點に於てそれは一層重大な事實である。英佛兩國がかくも條約を急いだ所以はトルコの戰略的地位がよく證明してゐる。チェンバレン英首相は過般の下院演説に於てアンカラ條約と併行したソ土相互援助協約の締結承認の旨を述べたが、然しソ土條約とアンカラ條約の規定するトルコの確約とは相容れぬといふよりもそれは不可能に屬する事が判明した。又英佛兩國新聞は英佛土三國相互援助協約がソ土親善の試金石だと稱してゐるが、之によつて見ても獨ソ關係に水を注しソ聯をドイツより引離しドイツに地中海に於ける反英佛分子の反對陣營に引込まんとする計畫が行はれたと考へざるを得ない。ソ聯は平和政策にソ聯邦國家の利益擁護に飽く迄忠實である。従つてソ聯の態度は又も獨ソ敵對を煽らんとする作爲的希望を打破したことは明白且確實である。而してアンカラ條約はソ聯の利益に直接的影響を及ぼすものではないが、トルコが英佛側に味方して獨伊兩國と戦ふ義務を負つた以上獨對に平和の具とは見做し得ない。ソ聯は平和維持の建前からこのプロックに参加しなかつたし、また中立と行動の自由を維持するものである。

●獨ソ通商交渉の難題

停頓中の獨ソ通商交渉の二三の難點は獨側が原料品及び必需生産品の即時供給を要求してゐるの對し、ソ聯側が右問題に先立ちドイツ側のソ聯に供給し得る機械類其他の品目の詳細、數量及び期日の明示を要求して支拂實行の保障を得ようとしてゐる點である。尙ソ聯は原料品供給に就ては控目の態度を取つてゐるが、此の外に貨物輸送問題の解決も必要とされてゐる。

●獨ソ通商交渉の進展

過般來モスクワに於て續行中の獨ソ通商擴大交渉は基本問題に関する意見交換を終り特使リッター外務省通商局長は二十二日空路ベルリンに歸還した。モスクワにはシヌエラ博士以下經濟使節團が残留しソ聯政府當局と細目につき折衝を重ねる筈だが、ドイツ政府は二十二日夜、獨ソ通商交渉は順調に進捗しつつあり」と發表した。(モスクワ電)

●ソ聯經濟使節團も伯林へ

ソ聯經濟使節團も伯林へ

五歳迄の壯丁二十五萬召集
 △米商船シテイ・オブ・ブリント號獨艦に拿捕されソ聯へ廻航さる

△獨 駐土、伊、ソ大使召喚、首腦部重大會議を開
 喚、英佛土條約への反響を蒙す
 △獨、北歐中立國船にキール航行許可
 △印度國民會議派、反英決

十月二十日

獨ソ通商交渉については更にソ聯側からもテツオシャン造船工業人民委員を首班とする經濟使節團をドイツに派遣する旨二十二日正式に發表された。

●ソ聯軍事使節リ國着

ソ聯軍事使節はカウナス(リトニア)に到着した。(世界經濟)

●ソ聯、米國にマンガン供給申出

マンガンの蓄積は米國政府の力を注いでゐる所であるが、ソ聯はソニーゾブロムエクスポート(聯邦工業品輸出聯合)の在米代理店を通じて、米國に對しマンガン二〇萬トンまでの供給方を申出たが、ソ聯側は海上輸送の危険は買手側の負擔であること、賣手は供給遅延の場合でもその責任を負はないこと等の條件を附し、且積出しは即時或は今後十ヶ年繼續で行ひ得べしとしてゐるが、米國政府筋に於ては、ソ聯は通商協定によりドイツに多量のマンガン供給を約してゐる模様であるにも拘らず米國に今回の如き申出をして来たことを意外に感じてゐる。

●芬蘭代表モスクワ着

フィンランド代表パーシキヰイ並にタナー蔵相の一行は、ソ芬交渉再開のため二十三日午前モスクワに到着、午後六時ソ聯政府當局との間に會談を開始したが、ソ聯はフィンランドに對しオーランド島の割讓の如きは要求せず左の諸項の實行を求めてゐる模様である。

一、フィンランドはオーランド島の武裝を行はず
 一、フィンランドはソ聯を對象とする如何なる敵對行動にも参加せず
 一、フィンランドはソ聯に對しホツグランド島並にその附近の島嶼を割讓す
 而してソ聯はソ聯軍のフィンランド領内駐屯をも要求しない模様で、フィンランド側の強硬態度により右の如く當初の要求を可成り緩和したものと解されてゐる。

●ソラ條約細目協定成立

去る五日モスクワに於て締結を見たソラ相互援助協約の細目協定は二十三日リガに於てソ聯軍事使節團主席海軍人民委員部次長イサコフ提督とラトヴィア副總理兼陸相パロデイス將軍間に調印された。

ソ聯邦通商日誌

●米を操縦

△在獨猶太人財産稅従来の二〇%を三五%に引上げを獨經濟相布告
 △佛、十一月以降出征兵士に四ヶ月に十日の休暇を與ふる旨發表、かくて當分の間大規模な軍事行動は期待されぬことを示唆
 △米、東亞の現實新事態に米は更に實際的たれ」との米情報部長談發表

十月二十四日 (水)

●ソ聯、馬糧穀類の對獨大量輸出
 獨ソ經濟交渉は過般英國の戰時禁制品目に於て舉行されてゐるが、兩國代表は數日前ソ聯の馬糧穀類のドイツ向け大量輸出に關し契約調印を了したと傳へられる。右契約によれば數百萬噸の馬糧穀類が即時ドイツに輸出される筈で、その輸出量の尤大な點が特に注目される。

●ソ聯に對する獨の警戒
 リッペントロップ獨外相は二十四日のダンツヒ演説に於て獨ソ關係を特に強調し、ドイツ外交の中心が獨ソ提携に依存してゐることを力説したが、この反面ドイツ政界にはソ聯に對する警戒の空氣が相當有力となつて來たことも注目される。ドイツとしては勿論相當の警戒を拂つても獨ソ關係を飽くまで強固に維持して行く方針であるが、ソ聯はドイツの腹を見透して可成傍若無人な行動に出てゐる様子である。フィンランドに對する脅迫、トルコに對する要求内容の如きも明かに獨ソ兩國協定の範圍を乗り越えて居り、又ソ聯はポーランドに於ける獨ソ新國境線にトーチカを建設しはじめたと傳へられてゐることも相當ドイツ政界の神經を尖らす材料となつてゐる。(ワシントン)

十月二十五日 (水)

●ソ聯の對英要求
 二十三日再開のソ聯議會は會談一日にして二十四日ソ聯側の強硬要求のため又もや頓挫したが、モスクワ情報によればソ聯の對英要求は左の三項を含んでゐるといはれる。

- 一、フィンランド領内のホツグラント、チヌタスカリ、セイツカリ三島に對する一定の權利獲得
- 一、オーランド島非武装の保障
- 一、フィンランドは今後反ソ政策を採らざる旨の協定締結

●ソ聯使節團訪問
 テゾオヤソソ聯造船工業人民委員を首班とする四十五名の訪獨經濟使節團一行は獨ソ新通商協定に基きドイツの對ソ輸出品につき具體的取極めを行ふべく二十四日夜モスクワを出發ベルリンに向つたが、更に十五名のソ聯委員は二十五、六の兩日二班に分れてベルリンに赴く事となつた。(ワシントン)

- △伊太利、ユーゴスラヴィア間に新通商協定成立
- △瑞西政府獨逸との間に通商清算協定を締結調印
- △波蘭國立銀行所有の金塊七十噸パリに到着
- △米政府、中南米貿易問題を一集中の爲國務次官補グレタリーを委員長とする特別委員會議組織

- △獨政府、ソ聯港留留の米貨物船フリント號を勝利品として獨に廻航する旨を聲明
- △ヒ總統、波蘭非併合地を獨の總督治下に置く旨を發表
- △英、銀及外國銀貨輸入禁止
- △米國、駐ソ米大使をしてソ聯當局に米船留留理由の説明を求め、同時にハル長官同留留船釋放方を要求し、拒否せば中立性否定と聲明
- △米、軍需品統制院は中立法に基き總額七千八百九十萬九千冊に上る武器彈藥の輸出許可を取消す旨を發表
- △ソ聯、抑留米船ソナイ・オプ・フリント號釋放
- △ソ聯政府ルーマニア海軍省に對しセバストーポリ軍港附近に機雷敷設を通告
- △日本、爲替基滯留更、二磅陸軍部にリンク、對米二十三弗十六分の七と大蔵省發表

十月二十六日 (木)

●ソ聯、英の禁制品不承認
 ソ聯政府は過般英國の戰時禁制品目の通告は現行海戰法規たる一九〇九年のロンドン宣言に違反することを申入れた旨を發表したが、覺書要旨は左の通りである。

去る九月六日及び十一日の二回に互り英國政府の戰時禁制品目の通告は現行海戰法規たる一九〇九年のロンドン宣言の原則に違反し中立國の權益を侵害し國際貿易を破壊するものである。禁制品目中には燃料、紙、棉花、家畜飼料、靴、衣服類及びパン、肉、バターの如き食料品が含まれてゐるが、これは明かに一般大衆の日用品必需品と戰時禁制品とを混同するものである。故にソ聯政府は九月六日の英國政府の通告に同意し得ず、従つてその效力を承認し得ない。又ソ聯船隻はすべて國有財産である意味に於て私船に對して強要される如何なる措置に對しても從ふ要なきは理論上當然である。以上述べ來つた理由により英國の戰時禁制品目實行によつてソ聯の機關若しくは人民が損害を蒙つた場合に於てはソ聯政府は英國政府に對してその賠償を請求する權利を留保することを茲に通告するものである。(ワシントン)

●ソ聯を通じての獨支間物交換交渉
 タイムス及びトリビュン紙は二十五日パリ發のPとして、ソ聯經濟ミツシヨンはポーランド軍からの捕獲兵器を支那に供給し、支那は右に對する代償としてタングステン、鐵其他の礦物をソ聯を通じてドイツに輸送するといふ協定に達したといふ情報が入つた旨を報じてゐる。(路透社)

●ソ聯の抗議に英不滿
 英の戰時禁制品目決定に對するソ聯政府の抗議に對し、英政府は覺書到着次第外務、戰時經濟兩省をして慎重検討せしめるはずであるが、右通牒は世界各國政府に對して發せられ、而してこれまで抗議を提出したのは僅かにソ聯一國だけであつて、法律専門家は英國政府の措置を妥當とし、左の如き見解を述べてゐる。

「ソ聯政府の今回の抗議は何等根據なきものである。一九〇九年のロンドン宣言は未だ如何なる國によつても批准されてゐない。而して戰時禁制品に關

- △ソ聯、内外重要諸問題討論の爲來る三十一日第五次最高會議開催を發表
- △滿蒙國境調査委員會十一月下旬チタで開議決定
- △獨、ナチス指導者會議の結果ゲッベルス宣傳相一大反英運動組織を指令

ソ聯邦通商日誌

する古い概念は去る大戦中に於て後を絶つた。従つて交戦國が敵國に利用される虞れある物資を戦時禁制品に指定することは今日では許され得る筈である。(ワシントン)

●英ソ通商交渉開始

マイスキ駐英ソ大使は二十五日午後外務省にハリファアックス外相を訪問、英ソバーター協定擴張を目的とする兩國通商交渉が開始されることとなつたが、マイスキソ大使は更に二十六日午前スタンレー貿易相を訪問、交渉開始の準備交渉を行つた。尙右意見は英國の戦時禁制品通告に對するソ聯側の拒否回答がロンドンに到着する以前であつたため右拒否回答通告が英ソ通商交渉に如何なる影響を與へるか問題視される。

●英外相對ソ政策を闡明

二十六日午後の上院外交討議に於けるハリファアックス外相の過去一週間に於ける歐洲政局の報告演説は就中英ソ兩國最近の關係に集中された。即ち英國戦時禁制品目通告には何等言及しなかつたが、英國はソ聯との關係改善のため最善の努力を行ふ旨力説すると共に英ソ通商關係強化の要ある旨を述べて注目された。同外相の演説内容は左の通りである。

獨ソ經濟提携の宣言にも拘らずソ聯政府は凡ての交戦國に對し公平に通商を行はんと欲してゐるやうに見受けられるが、英國政府は既にこのソ聯の態度を利用して木材とゴム及び錫との交換協定を締結したのである。更に英國の利益となり、間接的にもドイツを援助する危険を起さざるが如きバーター制に基づき對ソ貿易を一層擴大する可能性につき目下検討中である。若しこれが實現すれば我が英國に商業的利益を齎すのみならず又より一層價值ある諸結果を招來するであらう。

●ソ聯經濟使節團伯林着

テゾオンヤン造船工業人民委員及びサフチェンコ砲兵大將を主班とする四十五名の訪獨ソ聯經濟使節團は二十六日午前ベルリンに到着したが、同使節團は獨ソ經濟協定に基づきソ聯の供給すべき商品即ち穀物、石油、石油液化、人造ゴム製造の工場設備供給につき交渉を進める筈で、先づ第一に平和軍需各工業の各種工場を視察する豫定といはれ、ソ聯今回の訪文額は豫想外な巨額に上るものと見られる。(ワシントン)

十月十七日(金)

●ソ聯抑留船釋放

昨秋以來我國の漁船で露領沿海方面へ出航、密漁とか領海侵犯とかの嫌疑でソ聯官憲に抑留せられたもの十數隻あり、外務省ではその都度抑留船の釋放方を交渉中であつたが、九月ノモンハン停戦協定成立以來急速に解決の機運に向ひ、航行の可能なものは漸次船體の引渡しを受け又航行不能のものは修理の上引渡しを受ける事になつた。(ワシントン)

●獨ソ國境劃定委員會現地調査

過般來モスクワに於て進行中の獨ポーランド分劃國境劃定に關する獨ソ共同中央委員會はその大綱決定を得たものゝ如く、同委員會は二十七日午前現地實地調査のためワルツヤワに到着、リッペントロップ獨外相の命令によりドイツ首席代表ヘンケ公使首席參事官の準備せる特別外交官列車内にて會議を開催、會議は同日夜を以て終了した。會議は極めて圓滿なもので、國境線實地調査共同小委員會は二十八日より直ちに活動を開始することとなつた。(ワシントン)

●ソ聯和附より船舶購入

ドウ・ジョーンズ通信社アムステルダム特電によれば、ソ聯政府は最近オランダ政府より數隻の船舶を購入し、右代金は最近オランダ銀行に預金した金を以て支拂ふこととなつた。去る十月十六日現在のオランダ銀行週報によれば同行金保有高が前週に比し八百萬ギルダー増加し之は恐らくソ聯の預金と推測されてゐたが、この事によつて右の事實が確認されたのである。

●ソリ國境劃定追加議定書調印

ソ聯邦及びリトアニア兩國間の國境劃定追加議定書がモスクワに於て調印された。(ワシントン)

●訪獨ソ聯使節第二班訪獨

コロボフ冶金工業人民委員部長を首班とする訪獨ソ聯經濟使節團第二班は二十八日夜ベルリンのフリードリヒシュトラッセ驛に到着、驛頭にはドイツ政

ソ聯邦通商日誌

九〇

△獨、北海沿岸に大軍集結

△チ英首相獨外相の演説論

△英、獨艦攻勢に對抗、特別防衛隊創設

△英陸軍省、二十二歳以上三十五歳迄の男子の騎兵、砲兵、歩兵並に裝甲部隊への一般志願を受付ける旨發表

△英、英蘭銀行割引歩合三分より二分に引下げ

△佛レイノール職相は上院財政委員會に對し總額千四百九十億フランに上る一九四〇年度通常豫算案を提出

△ル米大統領重ねて中立維持を強調

△米聯邦準備銀行國際間の金移動に關する情報は今後發表せざることに決定

△獨、和蘭國境に大軍集結

△伊政府、英伊通商關係を調整する混合常設委員會設置の協定を英政府との間に調印

△伊、新軍備計畫として百七十三億七千六百萬リラ

△邦貨三十七萬九千餘萬圓)支出聲明

△リトアニア軍、ソリ互援條約に基き獨領ワイルナ地方へ進駐開始

△米、武器禁輸條約廢棄を含むピットマン中立法案上院を通過

△對米國交調整の爲近く日米東京會議開催に決定

△獨司令官開議以來英艦隊沈一五、總噸數五十萬噸と發表

九一

十月十日

十月三十日

●府高官及び一般經濟界名士が多数出迎へた山。
 ●聯盟總會出席をソ聯通告
 國際聯盟事務局では豫て英佛のみならずソ聯代表の聯盟總會出席を希望しその旨ソ聯政府に要請してゐたが、ソ聯外務人民委員部長ポチョムキンは、二十八日ソ聯政府は来る十二月四日開催の聯盟總會に代表を派遣する旨通達した。尙ソ聯政府は總會のみならず十二月四日開催の聯盟理事會にも代表を派遣することとなる模様であるが、斯くの如く對聯盟協力の態度を明確にして來たことはソ聯今後の對聯方針につき大きな示唆を授けかけるものとして注目される。

●芬蘭の對ソ回答強硬
 フィンランド代表バシキツイは、應、三月中に同國政府の最後の訓令を携へて三度モスクワを訪問するものと見られてゐるが、フィンランドの回答は強硬で、ソ聯のフィンランド海軍にバルチック海に於ける地位を擁護するためフィンランド領内に海軍乃至空軍根據地を設置する必要は認め得ない旨フィンランド政府の見解を強調するものと見られる。

●ソ聯の米品買付増
 ソ聯の米品買付は、機械その他の必要資材を主としてドイツより供給を受けるものと期待されてゐたが、戰爭勃發以來アメリカに於けるソ聯筋の買付は急増を示し、九月中の買入れは一千五百萬ドルに達し、至米十五州三百の工場に注文を發したが、最近では更に増加してゐると見られる。而して之等買付の大部分は太平洋を横斷浦羅由シベリヤ鐵道で輸送され、ある模様で、特にかかる緩慢なコースを選んでゐるのは勿論大西洋經由の危険を回避するためであるが、又一方、シベリヤ鐵道が近時東行に當つて多量の貨物を輸送せるに反し西行の場合は空車が多いに鑑み、アメリカ品輸送にこれを利用してゐるものと察しられる。

●ソ聯對獨糧食輸送路の確保
 ドイツは長期戰に對する準備としてソ聯より家畜用穀物百萬トンを今後二ヶ月以内に供給される協定を結んだが、右數量は至ドイツの需要を二ヶ年間支ふるに足るものである。尙、ソ聯は其の他にもドイツに對して種々な必需品を供給し得る生産能力があり、ドイツの要求に應じて供給する諒解が成立するものと見られる。但し、右に對する最大の困難は輸送の問題であり、現在のソ聯南部の鐵道網を以ては不十分なので、その大部分はバルチック海を經由して輸送される模様である。従つて之が爲にエストニア、ラトヴィア兩國の鐵道及び船舶を利用するものと豫想され、ソ聯のバルチック沿岸諸國に對する諸工作もこれらの點を考慮した上の計畫であつたと見られる。(ペルリン)

十月三十一日

(火)

●モロトフの外交聲明
 今次歐洲大戰勃發以來最初のソ聯第五次最高會議は三十一日夜クレムリン宮に開催、劈頭モロトフ外務人民委員は歐洲大戰勃發によるソ聯外交の重大變化と共に、ソ聯の對英佛の態度を痛撃し、ドイツとの提議を強調する一、行動の自由保持
 一、中立堅持
 一、戰爭擴大防止

●英ソ通商折衝
 タイムズ紙は、マイスキイ大使とスタンレー商相の間に、さきに成立した英ソ通商協定の趣旨に依つて更に兩國間に通商取極めを進めるため折衝中であるが、右は豫備的性質のもので、今後も續行される旨を報じてゐる。(通外)

●獨ソの經濟提携
 獨ソ兩國の政治關係の變化は更に兩國經濟關係の提携促進に好ましい基礎を提供した。最近ドイツ經濟代表がモスクワを訪問して經濟交渉を行ったが、更に今度はソ聯の經濟代表がベルリンを訪問して交渉を續行してゐる。而してこれらの交渉によつて獨ソ兩國の通商を擴大する廣範な基礎が用意されつつある。

●對日關係の改善
 外蒙國境に於ける衝突によつて日ソ兩軍は雙方少なからざる損害を蒙つたが、遂に過日の停戰協定成立によつて戰鬪行為は停止されるに至つた。これを契機として漸く兩國關係改善の曙光を見るに至り、近く通商交渉開始が豫想されるに至つた。尤も日本側が如何に速かに又如何なる程度まで

九二

△英、召集兵の一部に歸休令公布
 △スロバキア首相チソワ博士の大統領就任に伴ひ前總理ベラツカを首班とする後内閣成立

△英伊戰時通商交渉倫敦で開始
 △英植民省、印度駐屯軍の一部大陸作戦参加の爲目的地に到着の旨發表
 △英國國防會議出席のカナダ代表クリーラ資源相倫敦着と同時に英本國との協力態度を闡明

△印度獨立空軍五部隊創設

九三

で兩國關係の根本的改善を行はんとするかは未だ明かでないが、ソ聯としては何時でも交渉の用意を有するものである。(ワワ)

●芬蘭代表ソ聯へ出發
 パーシキウイ特使並にタナー殿相をして携行せしむべきフィンランド政府の對ソ最後の回答はカリオ大統領の承認を経たので、兩氏は三十一日午後ヘルシンキを出發、モスクワに向つた。第三次ソ芬會談は来る十一月一日クレムリン宮に於て行はれる豫定であるが、右會談に於てソ芬關係が決定的段階に達することは最早疑ふ餘地がなく、フィンランド政府は今般協定成立の可能性が残されてゐるとの見解の下に交渉を進めてゐるとの政府當局の言明にも拘らず、一般的には、今次の交渉は結局難關に逢着するほかないであらうとの観測が下されて居り、議會も亦萬一の緊急事態に處する各般の議事審議に多忙を極めてゐる。(キリン)

ソ聯邦通商戰日誌
 一九三九年十一月



十一月記事索引(一九三九年)

十一月一日	獨ソ通商交渉大綱成立(六七) ソ聯、對獨再輸出物資購入説(六七) 英ソ通商交渉は續行(六七) 芬蘭外務大臣の反ソ演説(六七) 獨ソ通商は、パートナー決(六七) ソ土羅三國會議近く開(六七) モロトフ演説と日ソ貿易(六七) 獨ソ、舊波蘭内の交換移住決定(六七) ソ芬會議再開(六七) ソ聯駐日大使談話(六七) ソ聯、獨船購入に同意(六七) モロトフ對俄態度を再闡明(六七) ソ聯、北氷洋上に危険	十一月九日	地帯設置(六七) 對ソ關係で獨伊の政策背馳(六七) 孫科ロンドン着(六七) ソ芬會議行詰り(六七) 新任駐日ソ聯大使の着任(六七) ソ聯の對獨輸出は悲觀的(六七) 滿蒙國境測定豫備會談終了(六七) 最近の米ソ關係(六七) 芬蘭の武裝(六七) 芬蘭代表遂に歸國(六七) 獨ソ定期空路開設交渉(六七) 對獨輸送上の缺陷(六七) ソ軍リトアニア進駐(六七) 芬蘭紙の反ソ論調(六七) ソ芬兩國間の懸隔(六七) 野村・ソ聯大使第一次會談(六七) 芬蘭に於ける反ソ熱昂	十一月十日	米ソ政治會談再開(六七) ソ聯、獨船購入説(六七) ソ聯、獨に石油引渡(六七) 滿蒙國境問題とソ聯側發表(六七) ソエ關係に關する新聞報(六七) ソ聯向小麥波蘭港より輸出(六七) ソ支間定期航空便開始(六七) 獨ソリラ國境測定會談再開(六七) 滿蒙國境測定委員會開(六七) 北樺太石油幹部立退命をソ聯撤回(六七) チタ國境測定委員會延期(六七) ソ聯、油送車をエ國に註文(六七)																							
十一月二日	十一月三日	十一月四日	十一月五日	十一月六日	十一月七日	十一月八日	十一月九日	十一月十日	十一月十一日	十一月十二日	十一月十三日	十一月十四日	十一月十五日	十一月十六日	十一月十七日	十一月十八日	十一月十九日	十一月二十日	十一月二十一日	十一月二十二日	十一月二十三日	十一月二十四日	十一月二十五日	十一月二十六日	十一月二十七日	十一月二十八日	十一月二十九日	十一月三十日

十一月五日	十一月六日	十一月七日	十一月八日	十一月九日
獨は傍眼……………(一七) ソ芬紛争と英佛土……………(一七) 芬蘭内閣總辭職……………(一七) 芬蘭、戰爭狀態布告……………(一七) ソ聯の對芬最後通牒……………(一七) ソ芬國交遂に斷絶……………(一七) ソ聯代表芬蘭より召還……………(一七) 伊紙芬蘭に同情……………(一七) 米國辭旋の用意あり……………(一七) 獨はソ聯の行動支持……………(一七) 英國はソ芬關係を憂慮……………(一七)	獨はソ聯の行動支持……………(一七) 英國はソ芬關係を憂慮……………(一七) 獨はソ聯の行動支持……………(一七) 英國はソ芬關係を憂慮……………(一七)	獨はソ聯の行動支持……………(一七) 英國はソ芬關係を憂慮……………(一七)	獨はソ聯の行動支持……………(一七) 英國はソ芬關係を憂慮……………(一七)	獨はソ聯の行動支持……………(一七) 英國はソ芬關係を憂慮……………(一七)

十一月一日 (水)

●獨ソ通商交渉大綱成立
 ドイツ政府は一日午後過般來モスクワに於て交渉中の獨ソ通商交渉は大綱的に成立した旨を發表。尙ドイツ經濟代表はベルリンに歸還後現在ベルリンにあるソ聯經濟使節團と細目交渉を行ふ豫定で、このベルリン會談終了後獨ソ兩國の最終的取極めが行はれる筈。

●ソ聯、對獨再輸出物資購入説
 ニューヨークタイムズ紙ワシントン特電は、ソ聯が對獨再輸出の目的を以て米國からゴム一萬噸の購入を企圖してゐる旨の注目すべき記事を掲載してゐる。大要左の如し。

確實なる筋よりの情報によればソ聯は米國からゴム一萬噸を購入せんと交渉を進めてゐると云はれる。現在ソ聯は國內使用に十分なだけのゴムの供給を得てゐる點に鑑みこれは恐らくドイツ向け再輸出を目的とするものと推定される。ソ聯はこれ以外にも類似物資の大量購入を企圖しつつあると云はれるが、ソ聯の斯くの如き行動はソ聯が表面中立を維持しつつある戰爭を延引せしむべく可能なあらゆる方法を以てドイツに援助を與へんとするものであるとの米官場従來の信念を裏書きするものである。然しドイツの獨に物資を購入せんとするソ聯の企圖は米國人の「道義的義務」に遭遇し、多くの成果は期待出来ないであらう。

●英ソ通商交渉は續行

モロトフ外務人民委員の演説が英佛の戰爭目的は帝國主義的利益追求にありとてドイツ側の對英佛非難を支持してゐるにも拘らず、英國政府筋では先週マドリス駐英ソ大使、スタンレー商相兩者間に開始された英ソ通商準備會談の續行には何等の影響も與へず、これは近い將來再開されるだらうと期待されてゐる。一方、ソ聯が英海軍の封鎖作戦によつて現在ソ聯海港に避難を餘儀なくされてゐるドイツ商船の購入に同意したとの報道に關聯して、政府筋では、一交戰國から中立國への船舶の移轉に關しては國際法上各種の制限があるからソ聯のドイツ船購入に關しては政治的にも種々の難問題の發生を見ようとの見解を有してゐる。(ロイター)

ソ聯邦通商戰日誌

- △英、パタ及ペーコン對當制實施發表
- △比島政府國防省を新設
- △米、兩院は中立法修正案を可決
- △芬蘭エルゴ外相、ソ聯侵略の場合に飽忍抵抗と強硬演説
- △土耳其大統領イネニヨ將軍國會議式に臨み對ソ親交を繼續と演説
- △和聯政府は獨逸國境地帯に戒嚴令を布く

十一月二日
(木)

●芬蘭外務大臣の反ソ演説
フィンランド外務大臣エルコ氏はソ芬關係に關する演説に於て、ソ聯に對する直接的な威嚇を表明した。(世界政治)

●獨ソ通商は、一時的に決済

ドイツ政府は一日獨ソ通商交渉が大綱的に成立した旨發表したが、引續きベルリンに於て駐獨ソ聯大使館とドイツ政府との間に最後の折衝が進められて、二日ベルリン及びモスクワに夫々經濟代表團本部を設置して細目折衝を續續することに意見の一致を見た。一方ソ聯經濟使節團は目下ドイツの各工場を視察して居り、その上で多額の機械其他各種工業製品の注文を發する筈であるが、ドイツ側もこれと交換的に小麦、ゴム、鑽石等ソ聯生産品を輸入注文を發する豫定と云はれる。而して右獨ソ兩國間の通商取極めには殆ど現金清算なく原則的にはバーター制により決済される筈である。尙最初の取極めでドイツ側のソ聯製品購入高は約八千万米弗の豫定であつたが、今回の新通商交渉成立の結果更に増額されるものと見られ、去る八月の獨ソ通商協定調印當事者たるドイツ助ソ經濟使節シムスレー氏が近く本國に歸還し、獨ソ通商交渉の専門的事項の調整に當るものと期待されてゐる。(貿易)

●土羅三國會談近く開催

援助條約を成立せしめるに至つたが、最近の情勢より見るにソ土兩國政府は近く兩國と密接な利害關係を存するルーマニアを加へて交渉を再開することが推定される。特に來るべき會談ではソ聯及びブルガリアの對羅失地回復がブルカソ紛争の端となつてゐるに鑑み、トルコは率先ソ聯のベッサラビア要求並にブルガリアのドブルジャ要求のイニシアチヴを執り、ソ羅兩國をして外交交渉により何らかの妥協點を見出ししめる機運力するものと見られる。

●モロトフ演説と日ソ貿易

去る十月三十一日のソ聯最高會議に於ける演説でソ聯モロトフ外務人民委員が「日ソ通商協定締結の用意ある旨を述べたことはわが外務當局及び財界方面に多大の關心を喚び起した。日ソ通商關係は昭和十年北滿鐵道讓渡交渉の成立

△ソ聯最高會議閉會

△獨、瑞典との通商交渉開始

△在獨印度人に國外退去令

△伊太利各紙一齊に獨伊同盟の存在を再確認、大戦勃發以來初の意志表示として注目される

△英、貿易統計發表中止

△佛政府は對獨戰爭に備へ臨時經濟諮問委員會を新設する旨發表

△佛政府は戰時利得防止の爲勞働者の時間外賃金を制限附者勤勞者に對する特別税を新設する旨發表

△米、新中立法二四二對一八一票で下院通過

十一月三日
(金)

●獨ソ、獨波國內の交換移住決定

三日獨ソ間に獨ポーランド地域内に於ける交換移住に關する取極めが締結された旨ソ聯各紙に發表された。同取極めによれば、兩國はウクライナ、白露の西部地域に居住の全ドイツ人はドイツへ、又獨ポーランドのドイツの利益地域居住のウクライナ、白露及びルテニア人の全部はソ聯領域へ夫々移住の權利を有し、右移住に關しては移住者の意思表示に基きこれを約し、尙移住者はその經濟的活動及び職業繼續に必要な程度の私有財産持ち出しの權利を有し、舊居住地に残した財産の安全を保證し、移住の實行機關を組織し、實行上の具體的諸問題は相互に友好的精神を以て解決すべきことが規約されてゐる。

●ソ芬會談再開

ソ芬會談續行の爲二日三度モスクワに乗り込んだフィンランド代表パーシキダイ氏はタナー蔵相は三日午後クレムリン宮を訪問第三次會談を開始したが、ソ聯各紙及びラジオは何れも相當強硬な言葉を以てフィンランドはこの際宜しく平和裡に協定を締結すべきであると懇願してゐる。(貿易)

●ソ聯駐日大使談

赴任の途京城に滞在中のスメターニソ聯駐日大使は三日午前十一時ソ聯京城領事館に於て記者團と會見左の如く語つた。

△伊ギリシヤ間に友好不侵條約成立

△チャーチル、カンパッキ

△英佛兩海相巴里で協同作

△議に付協議

△ル大統領汎米會議に於て採擇のバナマ宣言の效力發生を發表

十一月四日 (土)

十一月五日 (日)

十一月七日 (火)

ソ聯の對外方針は實に明かで、例へば日ソ國交調整についてもソ聯は極力平和裡に諸懸案を解決し得る用意を持つてゐる。又私は平和裡に解決し得ない邪魔ものが現在の日ソ間にあるとは思はない。昨日のラジオ放送によるとポーランドは占領區域に於ける人民投票後モスクワで正式にソ聯國民となつた行決定して居り、ソ聯が國際間の問題を平和裡に解決して行くといふことは決して不可能な事ではないと思つてゐる。(14)

●ブラウダ紙の瑞典攻撃
ソ聯のバルチック進出はスカンディナヴィア諸國にも重大脅威を與へつゝあるが、フィンランドに次いでクレムリン宮に呼び出されるのは北歐の雄たるスウェーデンであらうとの見解が行はれて居り、ソ聯はソ芬會談が成立した點は更にスウェーデンにも進出を企圖してゐるとの観測が有力となつてゐる。折柄、ブラウダは三日の紙上でスウェーデンの外交政策に對し「スウェーデンの政治家は西歐の親分共の命令のまゝに行動してゐる」との辛辣な筆致を以て批評して居るが、これはソ聯の來るべき行動を明確に示唆するものとして注目されてゐる。(15)

●ソ聯、獨逸輸入に同意
ロンドン新聞によれば、ソ聯政府は現地ソ聯諸港にあつて英國側の封鎖のため出航不能のドイツ船を全部購入することに同意を與へたといはれる。

●モロトフ對獨逸態度を再闡明
革命第二十二周年記念の夕は、モスクワの國立劇場に於て盛大に舉行されたが、席上モロトフ人民委員會議議長は二時間餘に亘る演説を行ひ、戰爭に臨むソ聯の態度を再闡明した。演説の要旨は左の如くである。

資本主義戰爭は今や東亞と西歐の二ヶ所に於て全世界の人口の半分をその渦中に捲き込んで戦はれてつゝある。この間にあつてソ聯は毅然たる態度を以て中立を堅持しソ聯をこの資本主義戰爭に捲き込まんとするあらゆる企圖を排除せんとしてゐる。
英佛兩國は故意に對獨逸戰爭を長引かせ彼等の世界制覇の足場を固めんとしてゐる。一方米國は最近中立法の改正によつて武器禁輸を撤廢したが、これ

△伊勃通商協定調印
△ハンガリー、スロヴァキヤ通商協定締結
△米國中立法案ル大統領署名
△米、十三億四ヶ年計畫の海軍大擴張案成り明年一月議會に提出
△一九三九年國際聯盟總會取止決定

△米、ピットマン上院外交委員長對日經濟報復を示唆の威嚇暴言を吐く
△英、サイモン辭相、總額二億五千萬鎊に上る戰時公債發行を下院に要請、同時に戰費檢討委員會設置

△芬蘭、國防緊急令發布
△白身義國王、和蘭女皇

十一月八日 (水)

十一月九日 (木)

●ソ勃交渉開始
新任の駐勃ソ聯公使は三日ソフイアに着任し直ちに豫定の懸案であつたソ勃間の通商問題及び航空條約に關する交渉を開始したが、右の航空條約は主として政治的性質を有するもので、ソ聯側が黑海沿岸にソ聯空軍の根據地の建設を要求してゐる爲交渉は行なひを見えてゐる。

●北氷洋上に危険地帯設置
八日附ソ聯外務部の通報によれば、戰時状態に鑑み、北氷洋上コリスキー海附近の地域に於て、左記線によつて劃せられたる船舶航行禁止危険地帯が設置された。

西方—東經三十三度上子午線に沿ひルイパーチ半島沿岸より右子午線が北緯六十九度四十八分の線を横切る線迄
北方—北緯六十九度四十八分の線と東經三十三度の線との交叉點より北緯六十九度二十分の線と東經三十四度五十分の線との交叉點を結ぶたる直線
東方—東經三十四度五十分の子午線に沿ひ右子午線と北緯六十九度二十分の線の交叉點よりマイルイ・オレヌイ島の東端燈臺迄。(16)

●對ソ關係で獨逸の政策背馳
イタリア各紙のソ聯攻撃は七日以來連續的行はれてゐるが、各紙の記事を綜合すると、ソ聯に就ては
一、世界革命誘發の爲の戰爭挑發策の政策を依然中止して居らず、東亞に於ける日支事變、歐洲に於ける英佛對ドイツの戰爭を永續せしめんとして全力を盡して居り、今後之を繼續するであらう。

英佛獨三國元首に和平調停申入れ

△獨、白蘭和平提案に回答の要なしとの否定的態度を採る

△獨、和蘭國境に奇襲部隊集結
△獨、ナチ記念日に當りミユンヘンで總統演説後爆發事件起り、死傷六十餘名
△英、米よりの軍備品購入に特別機關設置

△獨紙、ミュンヘンの爆發事件を英の手先獨逸人の仕業と一齊に總攻撃
△和蘭政府、全正規兵の休暇取消しを命令、同時に五萬以上の豫備兵を募集

ソ聯邦通商日誌

一、帝國主義的侵略政策の本性を暴露した。
 一、ドイツとの関係も甚だ不徹底である
 事等を指摘し、イタリアとしては
 一、ドイツはソ聯と提携してゐるが、イタリアはドイツと異なる独自の立場に
 あり、防共政策を堅持してゐる
 事を強調して、ソ聯の敵性を指摘してゐる。
 イタリアが對ソ態度を明白にして攻撃を開始したのはソ聯のバルカン政策の
 反映であることは明白であるが、イタリアが自國政策の獨目性を強調してゐ
 る點は注目される。(同日型)

●孫科ロンドン着
 九日パリよりロンドンに到着した孫科は直ちにハリファツク
 ス外相と會談を行つたが、會議終了後ロイター記者と會見、大要左の如く語つ
 た。

ハリファツクス外相と會談の結果英國の對支政策に變更のない事が判つて
 満足である。余は一ヶ月前モスクワからオデッサへ出、船でイタリア經由
 パリに到着、爾來パリを本據としてゐるものであるが、ソ聯の動向を觀察す
 るに、ソ聯は目下の處境に參加する意圖は存してゐないと思ふ。
 然し英佛側ではソ聯を中立ならしめる爲に全力を擧ぐべきだと思ふ。ソ聯
 がドイツに對して石油、鐵礦を多量に供給する可能性に關してはソ聯自身の
 要求に鑑み疑問の餘地が存するが、ソ聯が食糧をドイツへ供給する事は確實
 だと思ふ。

英佛側もソ聯の餘剩生産品を入手し得るだけ全部購入すべきであらう。尚
 東亞政策は今まで同様に繼續されると思ふ。即ちソ聯は常に支那に援助を
 與へて来たが、この援助は更に繼續されるものと思ふ。余はソ聯が日本との
 戰爭を望んでゐない事は確かだと思ふ。
 最近ソ聯軍が新疆に進駐したとの風説が行はれてゐるが、それは全く根據
 なきもので、沙漠の中の細い道に所々オアシスが存在してゐるだけで、新疆
 に兵を進めることは頗る困難である。(同日型)

- △和蘭、ユトレヒト地方に
洪水襲撃開始
- △アムステルダム地方國境
で獨、蘭間に衝突事件
- △米、海軍委員會米艦五十
隻の轉籍公表

十一月十日 (金)

●ソ芬會談行詰り

ソ芬會談は九日モスクワに於て再開されたが、フィンランド政府スポークスマ
 ンは十日午後「モスクワに於ける會談は遂に兩國諒解の基礎を發見するに失
 敗した」と發表した。
 消息通方面では、今回のソ芬會談の行詰りはソ聯が依然フィンランド南海岸
 に於ける海軍根據地の租借故にカレリア地峽とフィンランド北部のソ聯領との
 交換を固執してゐる爲と見てゐる。(同日型)

●新任駐日ソ聯大使の着任
 新任駐日ソ聯大使スマターニンは十日午後三時二十分外務省に野村外相を訪
 問着任の挨拶を述べた。

●ソ聯の對獨輸出は悲觀的
 十一日附ドイツ經濟紙「オツペン」は、その社説に於て獨ソ經濟關
 係に言及し大要左の如く述べてゐる。

ソ聯の對獨主要軍需品供給能力に就ては、甚だ悲觀すべきものがある。蓋
 し、ソ聯はドイツが比較的潤澤に所有してゐる石炭及び鐵を輸出し得るけれ
 ども、銅、亜鉛、ニッケル、鉛等の如く主要軍需資材を供給し得る可能性は
 極めて制限されて居り、恐らく之等金屬の供給をソ聯に仰ぐことは困難であ
 らう。一方ソ聯の石油資源は極めて豊富であるが、然し最近國內需要が餘り
 にも急速に増大して來た爲に輸出量が夫々追いつき得ず、一年と對外輸出は
 減少しつつある状態で、従つてその對獨輸出も自ら制限されざるを得ないで
 あらう。

●滿蒙國境調定豫備會談終了

東郷駐ソ大使及びソ聯モロトフ外務人民委員間に懸案の滿蒙國境調定委員會
 の豫備會談續行折衝の結果今迄容易に意見の一致を見なかつた點に於て雙方の
 合意を見るに至り、茲に豫備會談は終了。
 一方日滿ソ蒙の各代表は準備が整ひ次第速かに逐次本會談を開催する事に決
 定された。

●最近の米ソ關係

ソ聯邦通商戰日誌

△伊太利、ピオ十二世伯林
 駐劄教皇廳オルセニコ大
 使をしてヒ總統訪問最後
 の和平を要請す

△英伊經濟協定白書發表
 △スイス、獨逸危機に備へ
 豫備兵大召集
 △土耳其羅馬尼亞通商協定調
 印

△獨逸、獨白國境遮斷
 △在蘭英人に引揚命令
 △メキシコ、交戰國軍艦港
 水艦飛行機に對し全國港
 灣を閉鎖の大統領令發布

△英帝、白蘭兩元首に和平

十一月五日

十一月五日

ニユーヨークタイムス紙は、社説で最近の米ソ關係につき次の如く論じてゐる。

最近米ソ兩國が相互に示しつつある態度には從來の兩國關係に鑑み何となく不愉快なものがある。試みに兩國關係を過去の歴史に徴してみれば、一九〇四年の日露戰爭に際しては米國金融界の同情は日本側に集りその結果總額一億五千万ドルの日本外債を引受けたに反し露國政府の公債取扱は之を拒否したといへば、米國政府は兩國に對し公平なる態度を示したことは露國を助け戰爭を終了せしめることに努力したことに徴して明かである。さきの歐洲戰爭に際しては米露は味方として共同の敵と戦つた。現在米ソが不愉快なる外交關係にある所以は現在ソ聯に於ける獨裁政治が本質的に其の民主主義と相容れぬからである。

芬蘭の武裝

フィンランドよりの報道によれば、國家全體は緊密な軍事的陣營に轉化しつつあるが、然し官邊に於ては政府は「行き過ぎた」とか「あまりにも神經的だ」とかいふ聲が次第に頻りに聞える。新聞は依然戰爭熱を煽りながら辛辣な反ソ運動を繼續してゐる。(世界政治)

芬代表選に歸國

モスクワに於けるソ芬交渉は十二日に至り遂に行詰りの状態に陥り、この儘では會談再開の望みなきためパーシキゼイ、タナー兩代表始めフィンランド側代表團は十三日午後九時五十分發の列車でモスクワを出發歸國の途についた。

獨ソ定期空路開設交渉

獨ソ經濟提携は其後愈々緊密化しつつあるが、十四日にも四十名の實業家團がモスクワに乗り込み、その中にはベルリン、ワルシャワ、モスクワ間の定期航空路開設交渉に當るルフト、ハンザ航空會社の代表四名もある。(モスクワ)

對獨輸送上の缺陷

ニユーヨークタイムス紙ベルリン特電は、獨ソ通商條約に基くソ聯の對獨物資供給能力に關し、獨側の資料によつて次のやうな注目すべき觀察を下してゐる。

- △調停を婉曲に拒否
- △英、北支駐屯軍引揚げを發表
- △佛、ルブラン大統領、白蘭和平提議を拒絶
- △芬開動員完了

- △獨機離克爾シエトランド初地上爆撃
- △獨と總統白蘭の和平調停提議を正式回答
- △獨白經濟交渉開始
- △伊、洪通商會議及伊、羅通商會議開始
- △英の通商使節西班牙へ出發
- △レイノ佛波相繼時財政問

ソ聯邦通商戰日誌

●ソ聯軍リトニア進駐

ソリ相互援助條約により、ソ聯はリトニアの要地に駐兵權を獲得するに至

獨ソ通商條約締結の結果ソ聯の有する莫大な資源は英海軍の海上封鎖を無効に終らしめるであらうとドイツ側は期待し、ドイツ紙も連日凡ゆる種類のソ聯の物資が陸路ではポーランドの鐵道修理完成により、海路ではドイツが制海權を握つてゐるバルチック海運及びビニョウの水運によつて盛に輸入されるといふ希望に満ちた記事を掲げているが、軍部方面ではソ聯の眞相判明と共にその前途に漸く疑ひを抱き始めたやうである。即ちソ聯に莫大な有用資源の存在することは明瞭だが、現在大部分の資源がソ聯自身の需要を充し得ない實情にあるので、これらをドイツに供給するには先づ第一にソ聯の資源開發が一層増大されることが必要と云はれる。ソ聯の現状にあつては食糧品、鐵、滿鐵、木材等は供給出来るが、銅、鉛、鋅、錫、ニッケルの如き基本的戰爭資材は、資源の存在するとは疑ひないが未開發の状態にあるものも多く、ソ聯自身が輸入を仰いでゐる有様であつて、更に石油さへ同様な理由でドイツは殆ど期待し得まいと見られてゐる。この問題に關してリトニア、フィンランド、ドイツ、大佐の研究發表は注目されるべく、その要旨は次の通りである。

- 一、ソ聯自體の工業化促進のため工業原料の消費は増加しその生産も促進されてゐるが、生産は個人的利潤を禁止せる中央集權組織による生産増加獎勵のため生産品の質を低下せしめてゐる。
- 二、莫大な勞働力、莫大な資源の存在に比し輸送力が著しく後れてゐる。即ち生産高に於ては二〇%増加してゐるのに鐵道の輸送能力は四八%しか増加して居らず、全鐵道の三〇%が複線であるに過ぎない。
- 三、ソ聯産業の近代化は外國技術員なしではやつて行けず、現在これに不足してゐる。

- △題打合せの爲渡米
- △汎米經濟會議クワテマラ市に開催

十一月七日 (水)

つたが、リトアニアに進駐するソ聯軍二萬の先鋒隊は十四日國境地方からリトアニア領内に進駐を開始し夫々要地に駐屯した。尚後続のソ聯軍の本部隊はウイノ附近のノヴォウレイカに駐屯することとなる模様である。

●芬蘭紙の反ソ論調

フィンランド新聞の反ソ運動は激化しつつある。フィンランド使館のソ聯よりの召還と閣議して、フィンランド反動團體は交渉決裂の罪をソ聯に歸し、若しソ聯にして不可能な要求を提出するならば今後交渉の繼續は可能かどうか疑はしいと表明してゐる。(世界政治)

●ソ芬兩國間の懸隔

フィンランド代表パーシキヴィ公使一行は十五日ヘルシンキに歸還したが、同氏は左の如く語つた。
モスクワ會談が今後も續行されるか否かは不明だが、ソ聯とフィンランドとの立場に相當な懸隔があるのは事實である。
一方代表の一人タナーはフィンランドの抗戦の可能性に關聯して左の如く語つた。

フィンランドが對ソ戦を敢行すれば僅に四ヶ月乃至七ヶ月しか國土を支へ得まいといふものがあるが、斯かる見透しは明かに誤りである。我々は遙かに長期に亘つて對ソ抗戦を繼續し得る確信を有してゐる。(ヘルシンキ)

●野村スターニン第一次會談

野村外相は先般駐日ソ聯大使としてスターニン氏が着任したので十五日午後三時三十分外務省に同氏の來訪を求め、先づ日ソ漁業條約の改訂問題については同條約の期限が來年迄で改訂期が非常に切迫してゐるので之に關し速かに商議を始めたい旨を申入れ、更に日ソ間の諸懸案についても意見の交換を行ひ同四時二十五分會談を終つた。而して日ソ兩國間に横はる懸案としては抑留船問題、滿蒙國境衝突、北樺太石油石炭利権、北洋漁業問題等があり、既にモスクワに於て東郷大使とモロトフソ聯人民委員との間に右に關し商議が行はれつつあるのであつて、抑留船問題については大部分解決し、滿蒙國境衝突に關しては近頃チタに於て劃定委員會を開き具體的協議を行ふこととなり、

- △獨、衣料統制點數制實施
- △獨獨通商交渉大綱の決定を見、獨代表ストツクホルムより伯林へ出發
- △伊、ム首相羅馬で武裝平和演説
- △カルカッタに大規模労働者三十萬參加
- △パナマ會議の決濟に基く金融委員會成立

十一月六日 (木)

かくて諸懸案は着々解決に近づきつつあるが、今後はモスクワと東京に於て平行的に日ソ諸懸案の解決に關する交渉が進められ、日ソ兩國の交渉は漸く本格化するものと期待される。(日)

●芬蘭に於ける反ソ熱昂揚

十六日附のソ聯各紙は「十五日ヘルシンキ發タス」として芬蘭に於ける反ソ運動につき次の如き記事を掲載してゐる。即ち、フィンランドの警察は此程同國の雑誌「ソフ」の編輯部を襲ひ、ソ芬間に正常關係設定を強調する論文其他の記事原稿及び雑誌を擲棄したが、右は極めて領土事件なるも、フィンランド支配階級の立場を反映するものである。フィンランド支配階級は尖鋭化し、特に出版物を利用してソ聯に關する凡ゆる虚構を書き、且ソ聯國家機關を侮辱することを以て職務の如く心得てゐる。殊に最近數年間フィンランドは西歐諸國特にソ聯に對し敵對的關係にある國々の方針に従つて來たが、英國のブルジョアジはフィンランド支配階級の反ソ氣分を誘發して之を支持し、二十年間損失を冒してまでフィンランドと貿易を行つて來たが、茲にフィンランド支配階級の反ソ的政策の源泉が存在するのである。今次のソ芬交渉決裂の起因もフィンランド支配階級の反ソ政策に見るべく、クレムリン會談の決裂は一時的なものと斷定にも拘らず、同國支配階級がソ聯との協定を欲せずして反ソ政策を固執しつつあることは明かである。然し一般大衆はソ聯との友好關係を希望し、反ソ政策を支持してゐない。(ソフ)

●米ソ政治會談開催

米國務省當局は來週ソ聯大使館員との間に政治會談を開く豫定の旨を發表した。而して獨ソ提携以來米ソ兩國關係は加速度的に惡化の傾向にあり、この際兩國外交當局が政治會談を開くことは注目される。

十一月七日 (金)

●ソ聯、獨逸船購入説

ソ聯は對獨物々交換協定に基きブレメン號を買受け、今後ムルマンスク、ニューヨーク間の定期航路に利用する計畫の如くであるが、然し英國は前大戦の如く斯かる國籍移轉を認めないであらうと、十八日附の英國新聞は報じてゐる。(通)

- △波蘭亡命政府首相シヨルスキー將軍、新編成波蘭軍は英佛軍と合戦する旨聲明

- △英佛最高軍事會議開催
- △米ノース・アメリカン飛行機會社英より練習機四百架(千七百萬弗)受託と發表

十一月六日 (土)

ソ聯邦通商戦日誌

十一月五日 (日)

一〇六

●ソ聯、獨に石油引渡

モスクワに於けるドイツ通商代表はソ聯通商代表との間に八十萬トンの石油の引渡し契約を結んだ。この交渉の當初に於てドイツ側はソ聯に對しドイツの戦時消費量を三萬トンの假定しソ聯より百萬トンの供給を要求したが、ソ聯側はソ聯が最大限に譲歩したものと見られる。

●滿蒙國境問題とソ聯側発表

ソ聯邦各紙は、滿蒙國境劃定委員會に關する外務人民委員部発表として、モロトフ外務人民委員及び駐ソ東郷大使は夫々ソ蒙政府及び日滿政府を代表し、紛争在區に於ける國境劃定委員會構成、權能及び會議開催地に關する協定を締結したが、同委員會は近くチタに於て會議を開始する旨を報じてある。尚、モロトフ外相及び東郷大使間に日ソ通商協定の基礎問題に關して意見が交換されたが、右は、同問題に共通の見解が存在してゐることを示すものとされる。

十一月十日 (月)

●ソエ關係に關する新聞報

一、ソエ兩國合意によりエストニア國に於けるポーランド人農業労働者約四千人の中三千人は白露地方へ又千人はリトアニアへ移住せしめられることとなつた。

一、タリオンに於けるソ聯側商業部代表は著しく増大せられ、ソ聯側はすでに穀物船積込設備に關し交渉を行つて居り、本年中に同地經由穀物の對獨輸送を開始するであらう。

一、ダンチヒから北歐殊にフィンランド及びスウェーデンに對するドイツ向石炭が增加し、日々多量の積出しが行はれてゐる。(通外)

●ソ聯向小麦波瀾港より輸出

二十日コンチネンタル・グレイン社船積込積積の船積にてポーランド港よりソ聯向小麦二十八萬七千ブツシエルが輸出せられ、今後亦同社の手により更に若干輸出せられるはずである。(通外)

●ソ支間定期航空便開始

ソ支間定期航空便開始

昭和14年(1930)

十一月十日 (火)

(火)

●豫て計畫中のソ支間航空路は十九日より定期航空便を開始し、歐亞航空公司所屬の第一便は重慶を出發新疆省哈密に向つた。今後毎週日曜日、重慶發成都を経て蘭州に一泊、翌日は蘭州(甘肅省)を経て哈密に至り、歸路は火曜日に哈密發重慶に向ふ筈。尙哈密モスクワ間はソ聯の手による毎週一回の定期航空便が運航、連絡する。

●獨ソ間の物資輸送に關してはソ聯南部鐵道網のみでは不十分で、バルト諸國の鐵道利用等考究せられてゐるが、二十一日カウナスに於てドイツ・ソ聯・リトアニア・ラトヴィアの四國間の鐵道會議開催され、バルチック經由の獨ソ鐵道交通問題が討議された。(通外)

●滿蒙國境劃定委員會開催

ノモンハン紛争事件の善後措置に關しては停戰協定の規定に従ひ現地に於ける日滿側及びソ蒙側兩委員の協議に引續き東郷駐ソ大使はモスクワに於てモロトフソ聯外務人民委員との間に接衝を重ねた結果滿蒙國境劃定委員會を組織することに成り、来る二十九日チタに於て第一回會合を開催することに確定した。外務省情報部より發表された。

●北樺太石油幹線立退令をソ聯撤回

北樺太石油幹線立退令をソ聯撤回
北樺太石油幹線立退令(三名を含む)に對するソ聯官憲の立退強要により北樺太石油利権の前途は少からず危惧されてゐたが、二十一日午後七時半東郷大使は外務部にロソフスキー次長を訪問會見を行つた結果、ソ聯側より日本側の要請を容れて立退令を取消す旨正式回答があり、問題の懸案は茲に解決を見るに至つた。

●チタ國境劃定委員會延期

國境劃定委員會は来る二十九日チタに於て開催される筈のところ、ソ聯側では人員其他の都合により延期の止むなきに至つた旨申出あり、その結果十二月七日チタに於て開催されることとなつた。同委員會に對する日滿側代表は、在ハルビン總領事久保田貫一郎氏が日本側委員、外務局政務處長危山二二氏が滿洲國側委員として任命された。

ソ聯邦通商戰日誌

- △獨、リ外相とチエルナク駐獨スロヴァキア大使間にスロヴァキアの失地回復に關する條約調印
- △英、カラチに戒嚴令、ガソナー再警告を發す
- △英、海軍制限三條約無期停止を國際聯盟事務局へ通告
- △土、耳古の經濟使節團英佛へ出發
- △米國よりの歐洲中立國への輸出除却の爲十二月一日よりナビサート制實施
- △獨羅通商會談決裂
- △英佛は相互援助條約に引續き土耳古と經濟協定締結に成功

一〇七



十二月五日 (金)

ソ聯、油送車をエ國に註文
ソ聯通商代表はエストニア鐵道局に石油輸送車を註文し鐵道局代表者はモスクワに赴いた。(モスクワ)

十二月七日 (日)

國境事件に関するタス發表
二十六日ソ聯國境地帯に於て突如フィンランド兵によるソ聯兵殺傷事件が起り、ソ聯關係緊張の折柄その成行が憂慮されてゐるが、ソ聯政府はソ聯國境事件に關しタス通信社を通じて左の如く發表した。
二十六日ソ聯國境マイニラ村附近に於てフィンランド砲兵の不法砲撃のためソ聯士官一名兵三名計四名が死亡し更に士官二名兵七名計九名が負傷した。斯るフィンランド兵の挑発行動は附近國境警備のソ聯兵を激昂せしめてゐるが、我軍はよく命令を守り何等の報復發砲を行はなかつた。
尚モロトフ外務人民委員は二十六日夜外務人民委員部にフィンランド公使ヨスキネンの來訪を求め嚴重抗議すると共に、フィンランド兵を即時國境線より二十五軒以内に撤退せしめるやう要求する覚書を手交した。(モスクワ)

- 一〇八
- △英、羅馬尼亞へ爆撃機三十六架提供を空軍省發表
- △英の獨逸輸出封鎖につき和蘭、白耳義英政府につき議、伊太利も同様措置
- △土耳其ラジヨグル外相記者團と會見、親英政策發表
- △獨逸軍捕令違法と帝國政府英へ嚴重抗議
- △伊勃、伊通商協定成立
- △米ル大統領明年國防豫算二十二億三億弗(百億圓)を突破せんと發表
- △獨逸軍アオラステルボ南部沖合に機雷敷設、獨逸經濟會議停頓に對する報復行爲と見做さる
- △英首相、對獨逸經濟封鎖進捗、獨逸の新兵器(新磁氣機雷)も曉て制壓されるだらうと放送
- △佛上海駐屯軍突如西貢へ引揚
- △ルーマニア新内閣(二十四日成立)は嚴正中立の外交方針を聲明し、大衆野黨等の對外輸出禁止

十二月七日 (日)

として置くかも知れないと云はれてゐる。(モスクワ)
● 對ソ回答發送
フィンランド外務省の發表によれば、フィンランド政府は既に二十七日中にソ聯に對して回答を發送し、右回答に於てフィンランドは若しソ聯側が同様に國境線から撤兵するならばフィンランド側もソ聯の要求を受諾する用意がある旨通告した模様である。
尚フィンランド側は該發砲事件に關し直ちに實地調査を行つたが、調査の結果、二十六日にはフィンランド軍側で發砲した事實はなく、只國境監視兵がソ聯領内で砲撃の轟くのを聞いたのみであつたといふ。

● 對貿易概況
一九三八年年度の輸出額は一、三三二・九百万留で、一九三七年年度に比し三九六・七百万留(九・九%)の減少を示し、之に反して輸入額は一、四三二・九百万留で、一九三七年年度に比し八一・六百万留(六・二%)増加した爲、一九三三年以降連年出超を示してゐた貿易状況は、六年振に九〇・九百万留の入超を示すに至つた。
〔輸出品〕 重要輸出品目について見るに、一九三七年年度に比し左の通り増減があつた。
木材 五、一〇三、三三噸、四三七・八百万留より三、三四五、三三噸、二八三・四百万留へ減少。
毛皮 一、五三六、六百万留より一、三一九、九百万留へ減少。
石油及び同製品 一、九二九、二九噸、一、五〇〇、〇〇噸より一、三六八、八噸、一〇五・七百万留へ減少。
糖織物 二〇千噸、七一・八百万留より一五・八千噸、五六・七百万留へ減少。
砂糖 一、三七八、八噸、三八・五百万留より一四・五千噸、三五・八百万留へ減少。
滑僞織物 一、三三二、二噸、六〇・一百万留より四四六、六噸、三〇・二百万留へ減少。
亞麻纖維及織物 三、三六噸、五四・五百万留より三三噸、二五・八百万留へ減少。

- 一〇九
- △富崎駐佛代理大使獨逸輸出品拿捕令に抗議
- △英帝獨逸輸出品拿捕令に署名
- △佛政府、獨逸輸出品拿捕令を英國と同時に公布決定
- △白耳義食糧切符制實施
- △諸國、獨逸輸出品拿捕措置に對し英政府へ抗議
- △イラン、獨逸輸出品拿捕聲明に英國へ正式抗議
- △ハル國務長官、獨逸輸出品拿捕に關する米の權利は保留と聲明
- △米ル大統領國防強化を力説、明年度臨時軍事費五億弗計上と傳へらる
- △米、汎米會議決議に基づき費用六十萬弗で紐育フロイドネット飛行場に米水域整備本部設置

ソ聯邦通商概日誌

石炭 一、三二二噸より四二七噸へ減少。
穀物 一、二七七・五噸、二五・八百萬留より二、〇八〇・九噸、二九・二百萬留へ増加。
煙草類 一〇・九百萬留より二一・六百萬留へ増加。
豆類 二六千噸、五・九百萬留より二二・二千噸、一三・三百萬留へ増加。
肥料 七〇四千噸、二九百萬留より八〇〇千噸、三六・六百萬留へ増加。
〔輸入品〕
機械類 二七〇・一百万留より三八〇・五百万留へ増加。
非鐵金屬 一、三五千噸より一、四二二噸へ増加(但し價格上は若干減少)
電氣設備品 一、七百萬留より六〇・二百万留へ増加
精密機械 一九・二百万留より二二・一百万留へ増加
化學製品及藥品類 一六・一百万留より二二・二百万留へ増加
船舶 二九千噸、二・四百万留より三・六千噸、三三・九百万留へ増加。
茶 一、五二二千噸、二八・四百万留より一六・七千噸、三四・七百万留へ増加。
羊毛 變化なし。
棉花 二二・二千噸、三三・九百万留より一六・五千噸、二五・六百万留へ減少。
ゴム及同製品 三二・一噸、七七・六百万留より二七・七噸、五〇・四百万留へ減少。

〔國別輸出入額〕
對英國 輸入は一九二百万留より二四〇・百万留へ増加、輸出は五六六百万留より三七五百万留へ減少。但し輸出入總額に於て依然第一位。
對美國 輸入は二四四百万留より更に四〇六百万留へ増加、輸出は一三四百万留より九七百万留へ減少、第二位。
對獨逸 輸出は一〇八百万留より八八百万留へ、輸出は二〇・一百万留より六七百万留へ夫々減少。第三位より第五位に低落。
對イラン 輸出入總額一、二二百万留、前年度に比し輸出は減少。
對蒙古 輸出入總額一〇・八百万留、前年度に比し強化。
對佛蘭西 輸出入總額九百萬留、前年度に比し輸出は減少、輸入は増加。
對新國 輸出は三四・八百万留より四三・四百万留へ、輸入は三二・八百万留

十一月十六日

より三五・二百万留へ共に増加。
對支那 輸出は〇・六百万留より〇・八百万留へ、輸入は二五・八百万留より三八・二百万留へ共に増加。
對日本 輸出は一・七百万留より七百万留へ、輸入は五四・四百万留より一七・六百万留へ夫々減少。
ソ芬國境で再び衝突
レニングラード軍管區司令部發表によれば、二十八日午後五時頃フィンラン
ド兵五名が越境しソ聯軍に發砲、更に午後六時フィンランド兵二名がソ聯領に向
け小銃五發を發砲した。ソ聯側はこれに應戦しなかつた。尙ヴィドリツ
ツア地方のカスナセル方面からフィンランド兵が砲彈二發を發射し、更に歩兵
部隊は同地に於て國境を侵犯せんと企圖したが、ソ聯側からの小銃機關銃の應
射にあひ自國領内に後退した。
尙フィンランド軍當局は右事件は前回の國境事件と同様ソ聯側の捏造に基く
ものとしてゐる。

●ソ芬不侵條約廢棄
二十七日フィンランド政府の發出した對ソ回答はソ聯側の憤激を買ひ、モロ
トフ外務人民委員は二十八日ロスキネン駐ソ芬公使宛ソ芬不侵條約の廢棄を
聲明せる強硬な新通牒を手交したが、その内容は左の通りである。
一、ソ聯政府はソ芬不侵條約を廢棄する。
一、國境事件に關するフィンランド側の説明はこれを拒否する。
一、新にフィンランド軍の國境進兵を要求する。
〔モスクワ電〕

●芬蘭の背後に英佛
ソ芬紛争に關しドイツ政府當局ではソ聯に精神的援助を與へる方針である旨
非公式に語つてゐる。ドイツとしては何等の政治的利害なく從つてソ芬兩國關
係が平和裡に解決を見ることを希望してゐるが、今回フィンランドが急に強硬
となつた裏面には英佛の使障があるものと見て、英佛の介入政策を特に非難し
てゐる。外交界方面でも、ソ聯の對芬進出はドイツにとつても問題視される
が、當面する外交政策上ドイツは親ソ政策を續行、ソ聯に對し少くとも精神的

ソ聯邦通商新報誌

△レニングラード軍管區司令部
令官管下全軍の休暇を取
消し休暇中の全將兵に對
し二十四時間以内に歸營
を命令
△獨逸通商交渉再開
△佛、獨逸出品拿捕に關す
る大統領令公布
△丁株、暫定的に重要商品
の輸出を禁止

十月十五日
(水)

援助を與へる他あるまいと見られる。(ワシントン)

●野村ステューアーズ第二次會談

日ソ兩國間に横はる最重要懸案の一たる日ソ漁業條約改訂については去る十月十五日野村ステューアーズ第一次會見に於て野村外相より「現行の日ソ漁業暫定協定は全く暫定的性質のものであつて、毎年繰返される改訂交渉が日ソ兩國の國交に悪影響を及ぼしつゝあつた事實は堪ひ難い。依てこの際日ソ兩國關係を明朗化せしめる第一着手として昭和三年締結された本條約に代るべき條約を締結し漁業問題を定着せしめたい」旨を熱心に希望、本條約改訂に對する帝國の見解を詳細に披露する所があつた。然るに其後十數日を經てソ聯側よりは何等の回答に接せず、このまゝ推移した場合に年内に何等かの結論に達する事が不可能に陥る懼れある爲、野村外相は二十八日午後四時十分再びステューアーズ聯代表を外務省に招致して會見、ソ聯側回答の督促を試みたが、之に對して同大使は、未だ本國政府の回訓に接して居らぬが重ねて本國政府の注意を喚起したい旨を答へたのみで同時會見を終つた。(ワシントン)

●ソ聯對日對する佛側調劑

二十八日フランスの外交通ベルチナックスは、ソ聯今回のソ芬不侵條約の廢棄は去る四月二十八日ヒトラー總統の獨波不侵條約共同宣言廢棄とその遺言が全く酷似してゐると指摘し、英佛にとつての具體的問題は、ソ聯の帝國主義の進路が帝政ロシア時代の國境の回復にあるとしても、果してソ聯が單獨で行動するか又はドイツの膨脹政策と密接な連繫の下になされるかを確かめること、而して何れにせよ、西歐諸國は既に英佛土三國相互援助條約を締結して居り黒海の制海權によつてソ聯に強力なる壓迫を行使し得る地位にあるのであるが、ソ聯が單獨で行動する限り英佛がソ聯に對して行動を起すやうなことはなだらうと云つてゐる。(ワシントン)

●英國はソ芬關係を憂慮

ロンドンに於ける外交消息通の一致した見解は、ソ聯の強硬態度は必ずしも直ちにフィンランド進軍を意味するものでなく、フィンランドをして即時ソ聯の要求を承認せしむべく強硬な壓迫を加へんとしたものであるとなしてゐる。

△英海軍封鎖の結果、獨逸バター協定崩壞
△獨逸の獨貨食捕は國際

ソ聯邦通商戰日誌

更に英國政府が今次のソ芬紛争の平和的解決に對し何等かの外交的措置を講ずるや否やは不明であるが、少くともソ聯がフィンランドに對して武力に訴へるやうな場合には目下進行中の英ソ通商交渉が妨害されることは明かであるとしてゐる。

●獨逸はソ聯の行動支持

ドイツ政府はソ聯軍のフィンランド侵入に對し道義的支持を與へる外必要とあらばソ聯に武器軍需品を供給する方針といはれる。尤もドイツ政府はソ聯の勢力が際限なく増大するのを考慮し、フィンランド進軍に對するソ聯支持の條件としてソ聯が絶対にスウェーデンに手をふれぬことを主張したと云はれる。

●米國斡旋の用意あり

ソ芬兩國關係の險惡化に伴ひ米國政府の態度が關心の的となつてゐる折、ハル國務長官は二十九日左の通り聲明して各方面の注目を惹いた。

●伊紙芬蘭に同情

イタリア各紙はフィンランドがソ聯の脅威に對し敢然抵抗しつゝあるのに同情を示すと同時に、ソ聯に對し再び攻撃の矢を酬いてゐる。各紙の論調を綜合すれば左の通りである。

イタリアはフィンランドがソ聯の脅威に對し敢然抵抗を続けてゐるのを見て衷心同情に堪へない。ソ聯は最近バルカン進出の野望を露骨化してゐるが、イタリアはソ聯のバルカン進出には斷乎反對すべく決意してゐる。

●ソ聯代表芬蘭より召還

ソ聯代表芬蘭より召還、二十九日ソ聯邦外務人民委員代理ボチヨムキンは、フィンランド諸部隊によるソ聯領土の攻撃が終息せざる爲、ソ聯邦政府は今後フ

法違反と政府發表
△獨逸ユーゴ通商協定成立
△英、獨貨食捕令下院通過

十一月十日
(木)

インランドとの正當國交を維持する能はず依つて同國より自國の政治、經濟代表を召還する旨のモロトフ署名の通牒を駐ソ公使に手交した。(ソヴエツ)

●ソ聯政府は二十九日午後十時三十分ソ聯はフィンランドとの國交を斷絶するに決定した旨發表した。

●ソ聯の對芬最後通牒説

ソ聯はフィンランド政府宛一日午前三時迄に完全降伏を要求する最後通牒を送つた旨傳へられてゐる。(デンマーク)

●芬蘭 戰爭狀態布告

カリオ芬蘭大統領は、三十日遂にソ聯との間に戰爭狀態が存在する旨布告した。

●芬蘭内閣總辭職

カヤンデル芬蘭内閣はソ芬開戦の責を負うて總辭職し、同時にソ聯に對し新内閣の成立迄休職を要請することになるであらうと見られてゐる。(デンマーク)

●ソ芬紛争と英佛士

ソ芬開戦の報は歐洲各國に大なる衝撃を與へてゐるが、三十日ベルチナツクスは相互援助條約を以て結ばれる英佛士三國の對ソ態度に就き左の如き見解を述べてゐる。

- 一、英國は去る二十八日ハリファツクス外相はマイスキー駐英ソ聯大使と會見した際、ソ聯がフィンランドの獨立に干渉すれば過激な英ソ兩國間に進行中の通商交渉は阻害されることにならうと警告したと云はれる。
- 一、佛蘭西はフランス政府は去る九月決定した外交政策の線を守り、ヒトラー帝國とスターリン帝國との結合を強固ならしめるが如き方策は一切避けよう留意してゐる。
- 一、土耳古はソ聯はルーマニアの提唱に基き中立維持のため凡てのバルカン諸國を打つて一丸とする單一プロット結成計畫に關しトルコ政府に對し不満を表明した事があるが、トルコ政府としては眞向からソ聯に挑戰を欲しないため、ソ聯の申入れに遭ふや直ちにルーマニアの計畫成功の準備條件たる

△ソ聯軍芬蘭カレリヤ地境突破進入

△ソ聯軍、北氷洋岸リパチ半島及バルチック海のチタエサレ、ウヴァンサー、ゼイスカリ三島占領

△ソ聯機ヘルシンキ空襲

△芬蘭エルゴ外相首都死守を表明、カルル・オースタヴエムル・マンネルハイム將軍を芬蘭軍總司令官に任命

△芬蘭政府各主要都市の市民に對し強制的避難命令を下す

△丁抹はソ芬開戦に對し瑞典、諸國と共に嚴正中立に態度決定

△佛、三二八對一七五で全權法案議會通過

●南ドブルジャ地方を繞るブルガリヤ及びルーマニア間の紛争解決の促進企圖を放棄してしまつたと云はれる。(ハンガリー)

●獨は傍觀

ソ芬開戦の報にドイツ政府は重大關心を拂つてゐるが、ドイツ政府としてはソ聯がレニングラード並にクロンスタット軍港の安全性を求めてゐるのは諒解し得る所であるが、紛争自體に對しては傍觀者の立場を採る他なしとなしてゐる。(ベルリン)

●英議會のソ聯攻撃

三十日午後の英國議會はソ聯の非難に終始したが、事態の重大性に鑑みチェンバレン首相は下院に於て演説しないだらうとの豫想に反し、遂に起つて左の如くソ聯を攻撃した。

英國政府は今回ソ聯が小國獨立國に加へた新たな攻撃を最も遺憾とするものである。之は必ずや新たな苦患、生命の損失を齎すに相違ない。英國はソ聯が自國の安全保證の必要を稱してフィンランドの如き小國に加へた措置並にその理由を絕對に承認し得ない。

●和闕もソ聯に憤激

ソ聯軍の對芬侵入の報が傳はるや憤激した民衆は市内ロシア商店に投石し暴行を演じ、オランダ官憲は三十日右投石犯人數名を逮捕したと云はれる。尚オランダ官憲は今回のソ聯侵入行為につき一切沈黙してゐるが、新聞論調は「殘酷なる侵略者」としてソ聯を痛烈に攻撃してゐる。

●ソ聯の對芬行動を伊紙非難

半官通信インフォルマチオン・デ・オールのソ芬關係を取上げ、ソ聯のフィンランド侵略はソ聯の世界的攪亂工作の一部をなすものであると喝破し、ソ聯は對芬工作が完了次第更に侵略の魔手を何處へ伸ばすかは注目に値すると述べてゐる。

●北歐三國に大衝擊

スウェーデン、ノルウェー、デンマークの北歐三國はソ聯軍フィンランド侵入の報に一大衝擊を受け、急遽防備強化に大急となつてゐるが、目下の所何れ

も中立の態度を持してゐる。然し右各國の民衆はソ聯軍の對芬侵入に大に憤激し、フィンランド側に甚大な同情を寄せて居り、義勇兵としてフィンランド救援に赴くと意氣込んでゐる者が續出してゐる有様である。(ロンドン電)

●米の斡旋申出

駐ソ米國大使代理ウオルター・サーズンは三十日午後零時四十五分即ちソ芬開戦後三時間目にソ聯外務人民委員部長ボチョムキンを訪問、米國はソ芬紛争につき斡旋の勞を取る用意ある旨の本國政府からの通告を傳達した。

●米國輿論硬化

ソ聯が米國の斡旋申出を無視してフィンランド攻撃を開始したことに對し米國官場は明かにソ聯の行動を痛烈に論難憤慨の色を示し、各新聞も米ソ關係を斷絶せよと主張するものが多い。更に議會方面では強硬論が多く、先づビットマン上院外交委員長は、ソ聯が米國に與へた凡ての誓約を蹂躪した以上余は衆議院に米ソの關係斷絶の法案を提出する意向だと述べ、更にキング議員の如きは「米國は最早自由及び民主主義を破壊せんとするスターリンの如き野蠻人の血の滴る手を握つてゐる要はない」とまで極言してゐる。(ワシントン電)

●米 反ソ政策を日本に懇願

評論家ウオルター・リッツマンはニューヨーク・ヘラルド・トリビューン紙に論文を掲げ、日本が對ソ提擧を策するは百害あつて一利なしと警告、更に日本が積極的に對米交渉に乗り出せば米國は東亞新秩序建設に協力するであらうと述べてゐる。要旨は左の通り。

余は日本に對しソ聯と手を握るやうな悲劇的決定を爲すべきでないと思つた。ソ聯との友好的關係が日本をして不利益な對支關係を中絶せしめ同時に日本に抱く關頭印度、印度支那、比島に對する進出の夢を實現可能とするであらうといふが如きは目前の利益に提はれた短見である。若し日本がソ聯と提携すれば、獨ソ同盟の事實が嚴存する以上、それは侵略國家の同盟が大西、太平洋大洋に跨つて成立することを意味する。而も英佛が大戦に敗北することを忍び得ないと爲す米國民の信念は、米國が自國の權益確保のため大西太平洋に於ける英佛海軍の消長如何に重大なる關心を有してゐる以上、

日ソ提携によつて益、強められるであらう。日米が若しその太平洋制覇の意圖を擴張せんがためソ聯と結ぶならば、米國は太平洋に於ける地位確保に凡ゆる手段を講ずべく、英國艦隊のシンガポール歸還の實現と米國艦隊のハワイ駐屯とは日本が行ふであらう太平洋制覇を全く一時的なものとなすであらう。米國は英國のために火中の栗を拾ふ積りはないが、同時に支那を日ソ兩國に賣る意圖は毛頭ない。米國は東南アジアに權益を有し、之を放棄するわけに行かないからである。即ち

一、米國は比島が他國に征服されることを坐視し得ない。
二、米國はその需要するゴムの主要供給地が日本の支配下に置かれることを容認し得ない。

一、米國は日本の濠洲及びニューギニアランドに對する制覇を認め得ない。
二、米國は日本がシンガポールを支配するが如きことあらば國防の安全感を脅威されたものと感ずる。

然るに日本は米國に向きを変へることによつてより望ましく且安全な相手を發見することが出来よう。米國は東亞新秩序建設の一般的努力に於て必ずや互譲協力の手を差伸べるであらう。米國人の中には成程これに反對するものもあるが、その大部分は支那の主權を回復しながら同時に日本の特殊地位を認めるが如き支那に於ける平和建設ならばこれを支持する筈である。日本が自ら乗り出しさへすれば米國は進んで支那を説き上述の解決策に従つて斡旋を行ふ用意があることを發見するであらう。

●大北電信不通

ソ聯の對芬軍事行動開始の結果三十日午後一時四十分(ロンドン時間)ロンドンよりソ聯經由東京に至る大北電信線の連絡は一切杜絶した。

●ソ聯、諸威にも海港要求

ソ聯はフィンランドに對する要求貫徹の爲途に兵を起したが、引續きノルウェーに對しても北方海岸三ヶ所の地點に海軍根據地建設を要求してゐると傳へられる。

ソ聯邦通商戰日誌

一九三九年十二月

十二月記事索引(一九三九年)

十二月一日	芬蘭に親ソ政権樹立(二五) ソ聯、新政権と外交關係成立(二五) 芬新内閣(正統政府)成立(二五) 芬新内閣に反對(二五) 芬新首相の決意(二五) ソ聯米油購入の理由(二五) ソ芬相互援助條約締結(二五) 米大統領對ソ道義禁輸を聲明(二五)	十二月二日	ソ航空協定締結(二五) 獨の對支貿易繼續(二五) 獨ソ羅鐵道連絡成る(二五) 英佛ソ交渉決裂の眞因(二五) ソ聯聯盟に出席拒否(二五) モロトフ及駐ソ瑞典公使會談(二五) 瑞典に援芬熱揚揚(二五) ソ聯近東方面に進出(二五) ソ航空旅客輸送開始(二五) 獨ソ航空空路全通尙早(二五)	十二月三日	十二月四日	十二月五日
十二月六日	十二月七日	十二月八日	十二月九日	十二月十日	十二月十一日	
十二月十二日	十二月十三日	十二月十四日	十二月十五日	十二月十六日	十二月十七日	
十二月十八日	十二月十九日	十二月二十日	十二月二十一日	十二月二十二日	十二月二十三日	
十二月二十四日	十二月二十五日	十二月二十六日	十二月二十七日	十二月二十八日	十二月二十九日	
十二月三十日	十二月三十一日					

ソ聯邦通商戰日誌索引

十二月一日 (金)

ソ聯邦通商戦日誌

●芬蘭に親ソ政権樹立
左翼政黨の代表者及び叛亂兵士の贊成下に、オットー・クリンネンを首班とする「フィンランド民主共和國」がテリヨキ市に成立した。人民政府は宣言を發表したが、該宣言に於て、カヤンデル、エルコ、タナー等の財閥政府打倒の爲の決定的闘争を全國民に呼び掛けてゐる。(世界電報社)

●ソ聯、新政權と外交關係成立
タス通信社は一日ソ聯政府がテリヨキに成立せるフィンランド親ソ政権を正式承認し外交關係を開始するに決した旨發表。

●芬新内閣(正統政府)成立
ソ芬開戦の責を負つて總辭職したカヤンデル内閣の後を受け芬蘭獨立銀行總裁リスト・リチを首班とする新内閣が一日午後成立した。新外相にはカヤンデル内閣の蔵相でソ芬交渉の衝に突つたタナーが就任、同じくモスクワに特使として赴いたパーシキヴィも無任所相として入閣。政府構成員を見るに、専らソ聯との外交折衝更新のための人選に苦慮を重ねた跡を窺ふことが出来る。

●ソ聯新芬内閣に反對
モロトフ外務人民委員はカヤンデル内閣に代つてフィンランドにリチ新内閣が成立してもソ芬關係の改善を意味しない旨、新フィンランド内閣に對する反對の意向を表明。(ソウエスタ)

●芬新首相の決意
ソ聯の猛爆下に曝されてゐるヘルシンキに於て新内閣を組織したりリチ首相は、一日ヘルシンキ放送局から米國へ向け特別放送を行ひ、フィンランドは最後の一人迄戦ひ抜くであらうと悲愴な決意を米國民に訴へた。演説の内容は左の通りである。

フィンランドは自國の問題を自分で解決するといふ國家の基本的な權利を讓渡するが如きことは斷じてなざぬであらう。ソ聯との闘争は全文明國民を防禦する歴史的使命の遂行である。フィンランド國民は正義人道に訴へ自己の權利を平和的に維持し更に政治的獨立を完成し祖國を安泰に置かんと努力することを欲するものである。この目的のためにフィンランド國民は最後の

△ソ聯、對芬攻撃總指揮官はウオロジロフと判明
△モロトフ外相、米大統領の非難開員爆撃回避要請を笑殺
△伊紙一齊にソ聯を攻撃

十二月一日	日ソ、日米交渉に重慶苦惱……………(二毛)
十二月一日	賀籠組モスクワで活躍……………(二毛)
十二月一日	獨逸經濟使節團露都着……………(二毛)
十二月一日	米、ガソリン精製機禁輸……………(二毛)
十二月一日	ソ聯駐日通商代表任命……………(二毛)
十二月一日	日ソ通商交渉開始……………(二毛)
十二月一日	勃經濟代表訪露……………(二毛)
十二月一日	ソ聯、對芬戰果發表……………(二毛)
十二月一日	ソ・スロヴァキア外交關係開始……………(二毛)
十二月一日	勃經濟代表露都着……………(二毛)
十二月一日	チタ會談順調終了……………(二毛)
十二月一日	獨ソ間定期航空聯絡協定……………(二毛)
十二月一日	日ソ第二次會談……………(二毛)
十二月一日	ソ聯の對土攻勢防衛協定……………(二毛)
十二月一日	日ソ漁業條約暫定協定……………(二毛)
十二月一日	關印……………(二毛)
十二月一日	暫定協定調印まで……………(二毛)

十二月三日

一人になるまで干戈を執つて闘ふであらう。

ソ聯、米油購入の理由
米國商務省内外通商局燃料部の發表によれば、ソ聯が九、十の二ヶ月間に米國から購入した石油は五十六萬バレルを越え、十一月分の統計が出揃へば右は七十萬バレルを越えるものと豫想されてゐる。右はソ聯の石油生産が近來衰

ソ芬相互援助條約締結
ソ聯政府とテリヨキのフィンランド民主共和国政府との間に二日修好相互援助條約が締結された旨ソ聯紙は發表した。
その内容は左の通りである。
一、ソ聯はカレリヤ地方の七萬平方軒に互る地域をフィンランドに割譲した。
一、フィンランドはレニングラード西北の國境地帯をソ聯に還附することに同意し、三千九百七十平方軒の地域をソ聯に割譲する。但しソ聯は右割譲の代償として一億二千萬マルカをフィンランドに支拂ふ。
一、ハンゲ港はその接續地域と共に陸海軍基地としてソ聯に租借を許可す。但し一定期間に限るものとす。
一、ソ聯は三億マルカを以てフィンランド瀕内の八島嶼及び北水洋に面するリバチ、スレドニ兩半島を購入する。
一、兩締約國は第三國より侵略を受けた場合相互に援助することを約す。
一、兩締約國は可及的速かに通商協定を締結し、而して兩締約國間の貿易額を最高貿易額たりし一九二七年の八億マルカより遙かに増額せしむることに同意す。
一、ソ聯はフィンランドに對し低廉なる價格を以て武器を賣却す。

- △ソ聯、芬蘭在留獨人引揚迄空爆を中止
- △獨、ソ芬紛争に好意的中立
- △獨羅田協定成立
- △芬蘭政府遷都に決しヘルシンキ放棄を傳へらる
- △コペンハーゲンで反露デモ、蘇聯公使館へ投石
- △羅馬でフアシスト學生團芬蘭に同情示威
- △佛、二人以上子持ちの兵士に歸還令
- △瑞典、對英獨貨拿捕に抗議、芬蘭海岸線防備の爲召集令發令

十二月三日

十二月四日

一、本條約の有効期間は二十五年とし、若し滿期失効一ヶ年前に廢棄通告を行はざる場合は更に自動的に二十五年延長されるものとす。
米大統領對ソ道義禁輸を聲明
米國政府はソ聯のフィンランド侵略に對する抗議の意味から飛行機の輸出に對し道義的禁輸を考慮中と傳へられてゐたが、ルーズヴェルト大統領は二日國內飛行機製造業者に對し、挑撥なき場合の非應酬員提議は政府の政策に反することを銘記されたい旨聲明した。
右は對ソ飛行機輸出の道義的禁輸を暗示したものと解されるが、國名は明示されてゐない。
ソ支航空協定締結
大公親重慶特電によれば最近アルマ・アタに於て重慶當局とソ聯側との間に航空協定が締結され、十二月末頃より兩國間に一週一往復の定期航空路が開設される模様である。

獨の對支貿易易繼續
重慶二日發タイムス特電によれば、同地のドイツ人筋の情報として、依然としてドイツは對支貿易の繼續に努めてゐるが、ドイツ品の輸送はシベリヤ鐵道經由となるので、ドイツは同線の改善に少からざる援助を與へてゐる旨を報じてゐる。
獨ソ鐵道連絡成る
ソ聯領ポーランドを通過して獨羅兩國を結ぶ鐵道連絡に關して獨ソ關係三國代表は過般來交渉を進めてゐたが、三日新協定の成立を見た。新協定によればチエルナウチ、レンベルグの獨領ポーランド)を結ぶ鐵道が開通し、更にレンベルグに於てはドイツの鐵道と連絡することとなつてゐるが、これは特に獨羅兩國間の物資輸送道路として重要視される。
英佛ソ交渉決裂の眞因
本年夏のモスクワに於ける英佛ソ軍事同盟締結交渉の決裂原因は從來秘密に付されてゐたが、英國官報は四日これが原因を暴露した。即ち、右三國交渉當時ソ聯は軍事同盟を締結する代償としてフィンランド並にバルチック諸國領の

ソ聯邦通商日誌

- △バルチック艦隊芬蘭瀕内各島嶼占領
- △芬蘭政府國際聯盟に提訴
- △英佛北支駐屯軍天津より撤退開始
- △駐ソ瑞典公使を通じてなされた瑞典政府の和平斡旋をソ聯拒絶
- △伊、新銳艦を芬蘭に急送

十二月五日 (火)

カスト、ダゲ、オランダ諸島にソ聯海軍基地を設けることについて英佛の斡旋を要求したが、英佛はかかる要求を拒絶したところ、ソ聯は英佛との交渉を即時中止してドイツと妥協するに至つたのである。(ロンドン)

●ソ聯盟に出席拒否

モロトフソ聯外務人民委員は四日アヴノール聯盟事務局長に對しソ聯は聯盟理事會に出席を拒否する旨通告した。

●モロトフ及駐ソ瑞典公使會談

四日モロトフ及び駐ソスウェーデン公使ウインテル間に會談が行はれ、同會談に於てウインテルはソ聯との協定に關する新たな交渉を開始すべき謂ゆる「芬蘭政府の要請を傳へた所、モロトフは、ソ聯政府は唯フィンランド民主共和國民政府のみ認めて謂ゆる「芬蘭政府」を否認する旨回答した。(ワグ)

●瑞典に授芬熱病揚

ソ芬紛争の激化に伴ひ隣國スウェーデンも少からぬ脅威を感じて居る一方、同國民一般のフィンランドに對する同情然も頗る高揚して居り、既に三千名乃至四千名の義勇兵がフィンランドに赴き、フィンランド救済金の寄託も續々増加しつつある。但しスウェーデン政府が自ら救援に乗り出すか否かに關しては、ソ聯の意圖如何について觀測が散らされてゐるため、未だ決定を見てゐない。(デンハーグ)

●聯近東方面に進出説

五日のナチス黨機關紙「フエルクツァー」は「ソ聯はソ芬紛争の發生の時を伺ひ、トランス・コーカサス及び中央アジア方面に大軍を集結したと報じてゐるが、これはフィンランド問題解決後に來るべきソ聯の動向を示唆するものとしてベルリン外交界の注目を惹いてゐる。即ちソ聯はバルチック三國割後フィンランドから更に北歐諸國に觸手を伸ばしてゐるが、ソ聯が現在以上に北歐諸國に勢力を張つて來るとバルチック海に於けるドイツの制海權維持は困難となり、北歐よりの鐵道其他物資の補給路を脅かされる事になる。勿論獨ソ間には不睦條約締結前に全歐に於ける勢力圍の割當にて就き充分なる諒解が出來てはゐるが、北歐ではフィンランドが限界線になつてゐる。

る模様である。

従つて、若しソ聯が勢に乗じて更にスウェーデン、ノルウェーに侵略の手をつけるならば、ドイツとしても新たな政策を考へなければならぬことになる。而して五日に至るや、ドイツ各紙は従来の消極的態度を捨て、一齊にフィンランドの背後に英國のある事を強調し、ソ聯の行動是認の傾向を示すに至つた所から見て、獨ソ間に右問題につき新たな諒解が成立し、ソ聯は北歐に於ける行動はこの程度で打ち切り更に進出方向を轉換することになつたのではないかと見られてゐる。

即ちバルカンでソ聯が積極的行動をとれば英佛伊との間に紛争を惹起し、ドイツは徒らに戦線を擴大するばかりでなく食糧補給の途を失ふので、ドイツはこの方面への進出を拒否し、ソ聯の進出を近東よりインド方面に向けしめることになつたのではないかと見られてゐる。(ワグ)

●ソ支航空旅客検査開始

ソ支航空旅客検査は五日正式に開始された。重慶—モスクワ間には三機就航、そのうち重慶—哈密(新疆省東端)間は支那機使用、哈密—アルマ・アタ(領中央アジア)、カザック共和国首都)間並にアルマ・アター—モスクワ間はソ聯の旅客機を使用する。重慶—哈密間の運賃は千六百五十元、この航路の開設によつて重慶—モスクワ間は僅か四日間で結ばれることになつた。同航路は毎月四回就航、ソ聯側は六日哈密發から就航の豫定である。

●五日DNBの重慶電は獨ソ支航空聯絡が開始されたと報じてゐるが、ドイツ外務省筋では右報道は恐らく獨支合辦航空会社の飛行機が重慶—蘭州間を飛び、蘭州に於て獨支—哈密—烏魯木齊を結ぶソ支航空路に聯絡するものを指すのであらうと稱してゐる。尙、ルフトハンザ本社は次の如く語つてゐる。

即ち、支那の支社から未だ何の通告にも接してゐない。歐亞航空公司以重慶—蘭州間に新線を設けることは可能だが、まだベルリン—モスクワ間の空路も出來てゐない有様である。従つて今日獨ソ支航空路成るといふが如きは些か早計であらう。(ワグ)

ソ聯邦通商目録

一一三

- △芬蘭、首都ワサーへ
- △亞爾然丁代表聯盟よりソ聯除名動議提出
- △英佛金融經濟協定締結
- △米國務省は職費を負ふ十二ヶ國に對し二十四億五千弗に上る本年度後期職費支拂を請求の旨發表

- △獨逸勞働總局員領ロベルト・レイ獨伊樞軸強化談合の爲訪伊
- △獨政府ゴッテンハーフェン市(獨クヂニア港)を海軍軍港とする旨發表
- △英、獨貨倉捕令實施
- △英、羅馬尼亞に對獨輸出停止申入れ
- △聯盟の承認を俟たず芬軍オランダ島に進駐
- △諸歐經濟代表團渡英
- △瑞典軍隊動員公表
- △米政府、南米諸國のソ聯採買に賛成
- △米大統領は芬よりの職費支拂金二十三萬四千六

百九十三弗を同國援助に使用を命令した旨發表

一一三

ソ聯邦通商目録

十二月六日 (水)

●伊の對ソ反感募る
五日のローマ各紙論調を綜合するに、イタリヤ政府はフィンランドに對して滿腔の同情を寄せつゝも、同國が地中海から餘りにもかけ離れた地位にある關係上直接的援助をなすが如きこととはあるまいとされてゐる。然しフィンランドがソ聯軍侵入直前に購入したイタリヤ製飛行機を以て國土防衛に當つてゐるとはイタリヤ官廳も公式に認めてゐる所、イタリヤの對ソ反感は益々募る一方である。(ロンドン)

●ソリ兩國批准書交換
去る十月二十七日モスクワに於て調印されたソ聯邦及びリトアニアの附加議定書がリトアニアに於て交換された。(世界政治)

●米、日ソ關係を注目
米國政府並に輿論は最近の世界狀勢に鑑み日ソ兩國が接近した場合米國にとつて最も望ましくないからざる國際環境を醸成するであらうとの危機を抱き始めてゐるもの如く、去る四日外務省に於ける須藤情報部長と外人記者との定例會見席上でも、米人記者側より「日本はソ聯と不睦條約を締結し用意ありや否や」とつき熱心な質問があつた位で、之に對し同情報部長は左の如く答へた。即ち、帝國政府は日ソ兩國との間の懸案に關する商議及び通商條約に關する交渉を行つてゐるに過ぎぬのであつて、今日の所ソ聯と不睦條約を締結する用意はない。

●カリオオ大統領國民を激勵
ソ聯の進攻に遭つてその獨立が危殆に瀕してゐるフィンランドは六日戰禍の眞只中に於て獨立第二十二年記念日を迎へたが、カリオオ大統領はこの日ラジヲを通じて要旨左の如き演説を以てフィンランド國民を激勵した。
フィンランドの持つ最大の力は國民の一致團結である。現在ソ聯が爲してフィンランドの征服にあることは明かである。
ソ聯の進攻に遭つてその獨立が危殆に瀕してゐるフィンランドは六日戰禍の眞只中に於て獨立第二十二年記念日を迎へたが、カリオオ大統領はこの日ラジヲを通じて要旨左の如き演説を以てフィンランド國民を激勵した。

●浦鹽、ボセツト間鐵道完成
ソ聯沿海州南部ウズスリを通過する鐵道、ウラジヲ、ラズドリーノエ、ボセツト間鐵道完成。

一一四

- △ヒトラー運河完成
- △波蘭潜水艦ウイルク號(一二五〇噸)オルゼル號(一四七三噸)英海軍に參加
- △羅馬尼政府ソ聯の領土要求一蹴
- △米洲對ソ共同抗議にチリ政府不参加
- △メキシコ、カ大統領ソ聯非難聲明

十二月七日 (木)

●ソ聯の一大兵營化
ソ聯軍のフィンランド侵略を契機としてソ聯は俄然近隣諸國に對し積極的武力攻勢の方針を明かにしたが、七日のアフトンブラデット紙がモスクワ情報として傳へる所によれば、今やソ聯は「一大兵營」と化した感があり、日々多數の兵隊が召集され、ソ聯軍の勢力は今や四百萬乃至五百萬に達すると推測されてゐる。

●駐ソ芬公使引揚
ソ芬兩國開戦以來久しくモスクワに滞在の止むなきに至つてゐたフィンランド公使館員は漸くソ聯當局より旅券を下付され、七日午後八時五十分モスクワ發列車にてラトヴィアに向け出發した。フィンランド公使コスキーネン男以下一行は先づリガに到着の上、同地よりベルリン經由ストックホルムに向ふ筈である。(ロンドン)

●ソ芬兩軍作戦懸天候に阻害さる
フィンランド側の發表によれば、最近天候險惡を極め、北は北氷洋から南はフィンランド湖に至る廣大な戰線に於て作戦行動は著しく制肘を受けてゐる。北部及び東部地區に於ては數日來北歐特有の猛雪が降りしきり、更に北氷洋沿岸地方は殆ど終日暗黒に閉ざれてゐるため陸海空軍の活動は著しく阻害されてゐる。ソ聯軍はラドガ湖から北氷洋に至る七、八千軒の戰線に於て友軍諸部隊との連絡を斷たれ苦戦を續けてゐるが、ラドガ湖とボスニア海岸を結ぶフィンランド鐵道はソ聯國境附近の危險地帯を通過するにも拘らず懸天候のお蔭で現在まで何等脅威を受けてゐない。而してソ聯軍前哨部隊は絶えずフィンランド軍の奇襲を受けて敗退し屢々大損害を蒙つてをり、フィンランド湖内に於ける海軍の活動も事實上停止されてゐる。ソ聯軍はフィンランド湖沿岸に敵前上陸

ソ聯軍はベツモア南方四五軒、中部に於ては國境より七〇乃至七五軒進出
△ソ聯、八日正午を期し芬蘭全海岸封鎖を通告
△在波獨ソ民族處理協定成立
△獨政府、芬蘭援助の意なきスカンヂナヴィア諸國より一切手を引き居る旨を突如聲明す
△オスロで講談コホト、丁抹ムンク、瑞典サソンド
△三國外相會談、ソ芬兩國に和平廢絶
△土耳古政府、英佛より軍需品購入契約成立の旨公表
△エストニア軍總司令官ライドネル將軍モスクワ訪問、モロトフ、ウオロシロフと會見

一一五

ソ聯邦通商戦日誌

十二月八日 (金)

の機会を狙つてゐるが、フィンランド軍の適切な警戒は雪と霜による天候の變化と相俟つて容易にソ聯軍の行動を阻止し得るものと見られてゐる。尚今日迄のフィンランド側の死傷は總數約二千名と傳へられる。(ハルビン)

●チタ會議開催
最近の紛争地域の國境確定に關し東部駐ソ大使とモロトフ外務人民委員の間に成立した協定に基づき組織されたソ聯混合委員会は協定のほり七日ソ領チタに於て開會された旨、日ソ兩國當局によつて公表された。

●獨逸社北歐諸國に警告
ドイツ各紙はソ聯開戦以來單に事實を報道するに止まり一切論評を避けてゐたが、七日夜に至りDNB通信社はドイツとフィンランド問題と題する長文の論評を發表、フィンランドのみならずスウェーデン、ノルウェー等北歐三國に對しその對英依存を激しく論難した。

その要旨は左の通りである。
北歐國の一として當然フィンランドに同情を寄すべき立場にあるドイツがフィンランドを援助しないのは背德だとの説が英佛官憲から盛に流布されてゐるが、北歐三國の過去に於ける對獨態度を見れば斯かる説は全く根據がないことが判る。殊に本年ドイツは北歐諸國に不侵協定の締結を提唱したが、その際バルト三國並にデンマークが之に應じたにも拘らずノルウェー、スウェーデンの兩國は中立國を名にこれを拒否し、フィンランドも亦之を斥けた。これすべて背後に英國なる競争挑發者の手が伸びてゐるからに他ならぬ。フランス政権の承認を溢り、未だに聯盟規約に懸々たるものも等諸國である。

●英獨伊芬蘭を援助
一、英國は最近フィンランドに對し砲數門を添附した外、同日某英商社とドイツは北歐諸國が聯盟保護、競争挑發の張本人たる英國の甘言に迷はされぬことを恐む。

●戰争勃發以來終始一貫反獨行動に出で來た北歐諸國は今更ドイツに對し好意的援助を求めざることを許さぬのである。

一二六

- △英、重慶政府の日支紛争聯盟提訴に反對とハ外相表明
- △諸國、三國外相會議の結論としてスカンジナヴィア諸國芬蘭援助に決定
- △羅馬尼亞傳言、對ソ善隣を表明
- △瑞典、ストックホルム南方に機雷原敷設、同港を閉塞
- △ハル國務長官ソ聯の對芬封鎖認めずと聲明

十二月九日 (土)

ソランド政府との間に商談成立し、ガスマスク六萬箱を提供することとなつた。
一、イタリヤは今日迄に既に數千機の軍用機を提供して來たが、今後更に以上の飛行機を輸出する方針であり、その他近く國內に於て對芬救護義勇軍の募集を開始する旨と傳へられる。
一、ソ聯と提携しつつあるドイツさへ現在では對芬援助には相當熱心で目下イタリヤと同様義勇軍の募集計畫を有する外、新たに對聯軍砲數を提供すべく準備中と傳へられる。(ロンドン)

●第二次チタ會議
滿蒙國境確定混成委員會第二回會議はチタ市に於て九日午前十一時より日滿側久保田代表司會の下に開催。
一、次回會議は來る十一日に開催の旨である。

●獨伊の對芬武器供給説
十月十日附ソ聯各紙は、最近ドイツはフィンランドに對し高射砲其他の武器を多數供給し、又イタリヤの對芬武器輸送にも便宜を與へてゐる趣を報じてゐる。(ソウズナイ)

●ソ聯、英の對獨封鎖令に抗議
十一月二十八日公布の英國政府のドイツ商品輸出禁止令に關聯し十二月十日ソ聯政府は在モスクワ英國大使館に對し次の如き抗議を提出した。即ち、英政府今回の措置は新たに中立國の權益を侵害するものなると共に、英國の經濟戰爭手段は國際關係史上その前例を見ざるもので、ドイツと交通を有する中立國より出港する船舶は檢問の爲英佛何れかの港へ寄港すべしとの英國の要求は勝手極まるものである。ソ聯政府は之に對して抗議すると共に、右により受くべきソ聯商船及貿易の損失に對する賠償要求權を留保する。(ソウズナイ)

●漁業條約問題とソ聯の態度
野村外相は去る十一月十五日外務省にスマターニン駐日ソ聯大使を招致し漁業問題に關して速かに商議を始めたい旨を通告すると共に、かかる懸案解決によつて日ソ兩國關係の正常化を期待する帝國政府の希望を表明したが、今日に至つてもソ聯側より何ら具體的折衝を行はんとする態度を示し來らず、一方モス

ソ聯邦通商日誌

△英、第三次壯丁二十三萬八千人召集

- △ソ聯聯盟除名には棄權と支那代表通告、和蘭代表も制裁決議には不参加表明
- △露府、海牙、ブラッセル各駐在外代表表ム首相の歐洲和平新案發表
- △米獨短期措置協定成立、獨の担保債務は約四千六百萬弗
- △米の對芬借款一千萬弗設立

一二七

十二月七日

クワに於ても東邦大使はモロトフ外務人民委員に對し東京に於ける北洋漁業問題商議を可及的速かに開始されたい旨を再三申入れてあるにも拘らず亦満足なる回答に接せざる旨を新聞紙は報じてある。北洋漁業権益は帝國が日露戰爭を通じて血を以て購つた重大権益であることは云ふまでもなく、これを正當な關係に置き換へざる限り日ソ國交の打開は望むべくもない所となつてあるにも拘らず、昭和十二年日ソ漁業協約が廢棄となつて以來暫定協定を重ねること三度、今度重ねてこの重大権益の歸趨に關し折衝が行はれんとするのであるが、ソ聯側は右商議に對して尙不透明なる態度を保持しつゝあるのである。北洋漁業に關する帝國の權益について記せば左の通りである。

一、ポーツマス條約第十一條により明治四十年に日ソ漁業協定が成立しこれは十二ヶ年の期限で、大正八年に滿期となり條約改訂の必要に迫られたが、ソ國に於ける革命のため相手方が不明となり自由出漁となつた。大正十四年北京條約成立により日ソ國交が復活し同條約に基いて昭和三年一月日ソ漁業協定が成立、之により四十四の漁區が十年間購買によらず特別契約によつて日本漁業者に貸下せることとなつた。

一、其後昭和七年八月の謂ゆる廣田、カラハン協定によつて日本側の漁區二百八十二が昭和十一年末まで購買を用ひずして經營し得ることとなつた。

右四十四の特別條約漁區と二百八十二の安定漁區、その他の購買獲得漁區によつて我國の北洋漁業は經營されてゐたのであるが、昭和三年の漁業協約は昭和十一年五月二十七日、廣田、カラハン協定は同年末期限が到来したため、漁業協約については條約改訂の交渉が開始されたが、ソ聯の遲延策により已むなく第一次暫定協定、十二年末第三次暫定協定によつて條約の效力を一年づゝ延長し、廣田、カラハン協定についても、效力一年延長の了解が行はれたが、本年四月の第四次暫定協定では五ヶ年間約三百六十の安定漁區を經營して行くことになつた。然しこれも昭和三年の漁業協定を五ヶ年間延長したといふ範圍を出ない状態で、依然問題は今後に移されてゐるわけである。

●ソ聯の對芬要求内容
 フィンランド政府は十一日白書を以てソ芬會談より開戦に至るまでの外交々時停戦要求

十二月七日

ソ聯邦通商戦日誌

涉の經過を發表しソ聯の對芬要求の全貌を始めて暴露した。白書要旨は左の通りである。

ソ聯はフィンランドを封鎖すると共に外國船舶のフィンランド灣入港を阻止する企圖の下にフィンランドに對し左の如き要求を提出した。即ち、
 一、ハンゲ港に海軍基地を建設する目的の下にハンゲ港及びその接壤地域の三十年間租借
 一、ハンゲ港に空軍三ヶ聯隊及び五千を越えざる陸軍部隊の駐屯
 一、ソ聯艦船の碇泊地としてのラトビヤ港の使用
 一、レニングラード西方及び西北方に位置する全島嶼並にリボラ村落、カラス、ジャサレンド西方を含むカレリア地峽の一部をソ聯領に併合し、これに對しソ聯も若干の領土をフィンランドに讓渡する。

●獨伊對芬援助を獨否定
 十一月十一日ソ聯各紙はベルリン發「タス」として獨伊兩國の對芬武器供給説を否定してゐる。即ち獨通電社「トランスオセアンのラジオ放送によれば、同社は本日、ドイツはソ芬紛争勃發以來芬蘭に對する直接又は間接の武器供給を停止して来たものであつて、獨が對芬武器供給を繼續し且伊の對芬武器供給を航空機に獨領通過を許可した云々に關する瑞典紙報道は何等根據を有しないとの信すべき情報に接した。ベルリンに於ては此種報道は獨ソ關係に破滅を來さんとする目的を有するものであると觀測される。云々。(ズワウダヤ)

●聯盟の通牒をソ聯黙殺
 第二十四國國際聯盟總會は今日午前十一時三十分ベルギー代表カルトン・デヴィアールの假議長司會の下に開かれたが、ソ芬兩國に對し即時休戦し紛争を總會の特別審議に付託せよとの二十四時間期限付通牒を發した。

●露都、ソフイア間航空條約調印
 モスクワ、ソフイア間の航空條約がソフイアに於て調印された。(世界經濟)

●獨ソ連絡交渉不調
 獨ソ兩國代表は過般來プハレストに於てルーマニア産物資のソ聯領經由對獨輸送に關し折衝中であつたが、この交渉は兩者の要求に重大の懸隔があり遂に

- △獨政府、對芬武器供給説を正式に否認、新和平提案説否定
- △獨羅通商交渉進捗、問題は、通貨換算率及び小家對機械の交換にあり
- △佛、金屬類徵發決定
- △瑞典新事態對應の爲聯立内閣組織に決定
- △イラン、ソ聯除名に反對
- △米、フジツア前大統領芬蘭救濟運動開始
- △米、ミッド・ウェイに潜水艇基地建設發表
- △獨外務省ウエルサイエ條約以來四八二種の外交文書を收録せる白書發行

不問に終つた模様である。即ちソ聯側はこの運賃として金による支拂を要求したに對し、ドイツ側はマルクによる決済乃至ドイツ製品による支拂を提議した。これに關聯し十二月ハレスタからドイツに向け送り出されたルーマニア石油はソ聯側の中絶拒否により未だツェルナウチに達してゐないとの報道もあり、ソ聯側の態度は相當強硬で、ドイツ側がソ聯の要求に譲歩しない限りこの問題は解決しないだらうと見られてゐる。(フハレスタ)

●駐伊ソ聯大使突如歸國

去る十月三十日ローマに到着した新任ソ聯大使ニコライ・ゴレルキンは本國の異常な關心の的となつてゐるが、右に關し消息通筋ではゴレルキン大使の召還はソ聯紛争に關して行はれたフアシスト黨員の反ソ示威運動に信任状態呈手續きに關してイタリア政府が同大使に對して執つた態度を不満とした結果であらうと見られてゐる。(フハレスタ)

●ソ聯總領事の報告拒否

ソ聯總領事は十二月九日午後九時ソ聯政府より聯盟特別委員會のソ芬紛争仲裁員に即時休職に關する二十四時間期限の報告を拒否する旨の回答に接したが、同回答の到着時間は二十四時間期限を超過すること一時間半に及んだ。

●日ソ通商代表團陣容

日ソ通商條約締結に關する豫備折衝は去る十一月下旬以來モスクワに於て東郷大使とモロトフ外務人民委員との間で行はれつゝあつたが、大體順調な経過を辿りこの程本格的交渉の段階に入り得る見込みが立つに至つたので、來春一月十一日前後より正式交渉開始の運びとなつた。而して右交渉に際しては正式に代表團を擧げて商議に當る方針で、近々東郷駐ソ大使並に來る二十日東京發赴任の途につく新任スエーデン公使松島氏兩氏に對し帝國代表を任命することとなり、又隨員としては在ベルリン大使館一等書記官法華津孝太氏、通商局事務官田中三男氏がモスクワに赴く筈である。尙ソ聯側代表はミコヤン外國貿易人民委員が任命される模様である。

十二月五日 (水)

去る十月二十六日以來約七週間に亘つてドイツに滞在し獨ソ通商關係促進につきドイツ側と協議を重ねてゐたソ聯經濟使節デヴォシヤン造船工業人民委員一行は十三日夜モスクワへ向け歸國の途についた。因みに物資交換に關する新獨ソ協定が近くモスクワに於て調印される筈。

●米にソ聯品不買運動起る

ソ芬開戦以來米國の反ソ熱は日を逐うて昂まりつゝあるが、十三日に至り遂にソ聯製品不買運動がニューヨークで開始された。即ち從來日本品不買運動を煽動してゐた侵略國家製品不買同盟會では十三日會長の名を以てフィランソロフの慘狀に鑑みソ聯製品(毛皮類、木工品、麻織物、キャビアその他水産物、無煙炭、雜貨類等を含む)を賣ふなと市民に警告した。これで不買同盟は從來の日獨製品不買運動に新たにソ聯を加へた體であるが、右同盟の發表によれば不買運動が効果を奏して日本からの輸入は昨年三割三分減少し、ドイツ製品は競争の結果の輸入難から自然消滅の形であるといふ。(クニエーゴロ)

十二月五日 (木)

●獨ソ條約批准交換

去る九月二十八日モスクワに於て調印された獨ソ間の「國境確定並に友好條約」の批准書交換は十四日ドイツ外務省に於てリッペンントロップ外相とシュクワルツェフソ聯大使との間に行はれ、尙これと同時に同條約に附屬する十月四日の追加議定書についても批准書が交換された。(ワグ)

●聯盟總會終了

聯盟總會はソ聯糾弾並にソ聯を聯盟から除外する決議案を採擇した後、更に非常任理事國としてエジプト、支那の兩國を選任、第二十回總會を終了した。右決議の内容は左の通りである。

- 一、ソ聯の對芬侵略を糾弾し聯盟加國に對する精神的並に物資的援助を要請する。
- 一、ソ聯の聯盟規約踐踏に鑑み理事會に對しソ芬紛争に聯盟規約第十六條を適用する様要請する。
- 尙、聯盟事務總長アヴノールは本日ソ聯外務人民委員にソ聯除名の議決を電報を以て通告した。

ソ聯邦通商條約

- △上海英大使館 砲撃三隻
- △揚子江より引揚發表
- △佛漢口駐屯軍二萬大隊引揚

- △ソ聯軍サルミヤルヴィイ入城
- △芬軍司令部は中部戰線に於てソ聯軍三箇聯隊を全滅、更にトルヴィヤルヴィイ市を奪還の旨發表

十二月五日 (金)

●米、モリブデンの對ソ輸出激増
 アメリカ國務省は十五日非難開員擧行を行つゝある國々に對しモリブデン及びアルミニウムの道徳的輸出禁止を行ふ旨發表したが、ジャーナル・オブ・コマーシャルによれば、アメリカに於けるモリブデンの産額は世界生産の九二・二%を占めて居り、タンクステン(タングステン)の代用品としてその重要性は益々増加して居り、ソ聯はこれをドイツに再輸出して居る模様である。今年一月十月の十ヶ月間に於けるアメリカよりのモリブデン輸出は合計三千三百三十三萬二千封度であるが、その中一千一百三十三萬二千封度はソ聯向けであつたと云はれる。尚、十五日國務省は飛行機及び部分品のみならず飛行機用發動機附屬品、爆弾及び魚雷等一切に關する輸出を禁止したが、右はソ聯を主要對象國とした措置とはいへ、日本もその餘波を蒙るわけである。

●東郷・モロトフ會見

十五日モロトフ・ソ聯外務人民委員よりの申込みにより、午後五時より七時迄二時間に亘りクレムリン宮殿に於て東郷大使・モロトフ外務人民委員との重要會見が行はれた。本日の會見ではモロトフ委員から漁業交渉に關するソ聯側の意向を表明し、ソ聯としては「一定條件の下に長期條約締結の用意ある旨回答した趣である。而してソ聯側の謂ゆる「一定條件の下」とは北鐵譲渡に關する代金の請求を指すもので、滿洲國よりソ聯に支拂ふべき北鐵代金の最終割賦金五九〇萬圓を請求、之が支拂方將校を日本に要請し、若し滿洲國が支拂はざる場合には日本に對して保證義務履行を要求し來つてゐるものである。然し北鐵關係の貸借についてはソ聯側にも約五六〇萬圓の債務があるにも拘らず、その中の四三〇萬圓についてはソ聯側はその債務を認めず、結局實質的には滿洲國の債務五九〇萬圓との差額四六〇萬圓の大きな金額の支拂方を要求してゐる。又漁業問題に關する交渉に北鐵代金要求の如く全く別箇の問題をもち出し、ソ聯側の眞意には多大な疑念を抱かざるを得ずとなつてゐる。又新たに締結すべき漁業條約の内容についてもソ聯側は昭和十二年酒匂、カズロフスキー間に取り極められた具體案とは別箇の内容を含ませ、たとへば本條約を締結す

一三三

△對芬開戦以來モスクワ最初の燈火管制
 △英、南米近海の航空母艦アーケ・ロイヤル號、巡洋艦レナウン號をラブラタ河口へ増派
 △英佛初め各國米に對し戰債不拂を通告、芬蘭二十三萬四千弗、洪五萬三千馬克支拂方を通告

十二月六日 (土)

十二月七日 (日)

●北樺太のソ聯油井生産増加
 「ザ・インデペンデント」紙(十五日附)は樺太に於ける油田問題を論じてゐるが、北樺太のソ聯油井の生産額は第二次五ヶ年計畫遂行の結果累年その生産額を増加し、つひに日本側油井の生産額を突破した旨、左の如く報じてゐる。

現在北樺太でソ聯の所有する油井よりの生産額は日本の經營する油井よりの生産額を遙かに凌駕してゐる。一九三〇年迄はソ聯側油井の生産額は極めて微々たるもので、どうしても日本側油井に依存せざるを得なかつた。然るに今日に於ては第二次五ヶ年計畫實施の結果ソ聯側の油井は年十五萬トンを生産し得るに至つたが、日本側の生産額は最近に至り種々の困難のため一九二九年當時の生産額を維持し得なくなつてゐる。

●ソ聯、獨に石油・食糧供給

ソ聯は獨逸通商條約に基きドイツに對し諸物資を供給することになつてゐるが、十六日モスクワのドイツ人筋の報によればソ聯政府は既にドイツに對し石油食糧等の物資を發送したと云はれ、石油は裏海々岸、バクから送附された模様である。尙中立國人消息通の観測によればソ聯の對獨物資供給は輸送機關の缺陷により左程大量に達するものではなく、ソ聯はモスクワ市中に於てさへガソリン統制を實施してゐることを指摘してゐる。

ソ聯邦通商戰日誌

△ソ聯芬蘭の休戰提議無視
 △英佛土聯合軍編成秘密協定成立説
 △獨シユベ一號午後七時二十五分モンテヴィデオ港外五哩の地點で自爆
 △米老朽驅逐艦「兩隻艦隊」再改裝、十二隻就航
 △カナダ首相、英空軍三年計畫の内容發表
 一三三



十二月六日
(火)

●獨逸經濟代表再び渡露
ドイツ經濟代表リッター博士にシヌエーレの一行は十九日午後ベルリンからモスクワに到着。ドイツ代表はソ聯當局との間に過般來ベルリンで折衝中だった獨逸經濟協定の細目に関し最後の仕上げを行ふものとされてゐるが、右一行は前記二氏の外國民經濟省、農務省、外務省の各代表者及び若干の専門家である。(ソヴエツキヤ)

●日ソ・日米交渉に重慶苦情
重慶よりの諸事情を綜合するに、國際情勢の變化により親ソ、親米の二外交ルートのみを残されてゐた重慶政府は、最近の日米及び日ソ關係調整交渉の進捗により異常な精神的打撃を受けつゝあり、殊に重慶側は野村外相のグルー駐日米大使に對する長江下流一部閉鎖解除通告及び日ソ間の長期漁業條約締結交渉の開始を非常に氣に病んでゐる。而して重慶當局は最近米國及びソ聯をして日支紛争に介入せしむべく執拗に働きかけてをり、米國が日米通商條約廢棄を通告するや米國が日支事變に自由に入し得るに至つたものと歡喜して日米の離間を策し、米國の對日經濟斷行を實現すべく暗躍したのであつた。然し此等重慶政府側の努力は支那民衆の期待に反し、表面上反對な結果を齎らすに至り民衆をして重慶外交を失望させてゐると云はれる。

●賀組モスクワで活躍
重慶よりの情報によれば立法院長孫科と入り代りに特別使命を帯びてモスクワに赴いた賀組は、去る十五日ソ聯外國貿易人民委員ニコヤンと長時間に互見の豫定との由。

●獨逸經濟使節團都府着
十二月十九日經濟問題に関する獨逸政府特命全權委員リッター及びシヌエーレを首班とするドイツ經濟使節團一行はモスクワに到着したが、右一行は前記二氏の外國民經濟省、農務省、外務省の各代表及び若干の専門家である。尙當日驛頭に右一行を出迎へたソ聯側の顔振は左の通りである。
外國貿易人民委員代表 タルーチコフ

一三四

- △重慶政府と佛國間に雲南省昆明四川省敘州間の新鐵道敷設費として四億八千萬法の借款成立
- △重光大使英外相に揚子江下流開放を通告
- △對芬作戦急速打開の爲レフィンランド司令部編成
- △獨逸通商協定成立
- △英佛最高軍事會議開催
- △佛一九四〇年度第一四半期軍事豫算五百五十億法を下院財政委員會に提出

- △ソ聯、アボ、ソルテヅラ、ハンゲの諸都市を二百機で大空襲
- △英、チエコ亡命政府承認
- △伊羅通商條約成立

十二月十日
(木)

十二月五日
(金)

十二月五日
(土)

ソ聯邦通商概日誌

駐獨ソ聯經濟使節團長代理 サフチエニコ

駐獨ソ聯通商代表 ババリン

外務人民委員部儀禮部長 バルコフ

同中歐局長 アレクサンドロフ

外國貿易人民委員部輸出局長 イノゼムツエフ

同條約局長 セルゲエフ

同儀典課長 フシフコフ

同獨逸係事務官 トチリン(ワタ)

米 ガソリン精製機禁輸

米國務省は二十日飛行機用ガソリン精製に關する一切の技術的情報及び機械類を特定外國に對し供給乃至輸出することを禁止する旨發表した。右は去る二日大統領の名で關係營業者へ要請した對ソ飛行機並に機械の「道義的禁輸」を強化する爲めのもので解されるが、要するにガソリン精製機械及び之が精製上の技術を特定國に供給しないやう命じたものである。これらの機械乃至技術を必要とするものはソ聯だが、最近ソ聯の政策、就中ソ聯の對フィンランド侵略に刺戟されてソ聯に壓迫を加へる意味で爲されたもので、國務省當局はガソリンそれ自身の輸出禁止ではないと説明してゐる。(ワシントン)

●ソ聯駐日通商代表任命
ソ聯邦最高會議幹部會は二十一日付を以て駐日通商代表にレオ・サツシンを任命した旨發表した。

●日ソ通商交渉開始
東郷大使は二十二日午後五時ニコヤン外國貿易人民委員と第一回會見を行ひ、約五十分互に日ソ通商問題に關する全般的協議を遂げた。(ワシントン)

●勃經濟代表訪露
ブルガリアは最近ソ聯との間に航空協定を締結したが、更に通商條約の締結を企圖し、ボジロフ首相は經濟使節團を引率して二十三日ソフィアを出發モスクワへ赴くことになつた。同氏の使命は表面上新通商條約締結のためといはれ

- △米、六百二十六萬弗で眞珠灣に艦隊集積

- △ソ聯、芬蘭艦攻撃開始
- △ソ聯、黒海に機雷敷設
- △獨、中立國へ運入の汽船五百隻に即時歸還方命令

一三五

十二月十日 (火)

十二月十日 (水)

十二月十日 (木)

るが、従来ブルガリアの對外貿易の八〇%を占めてきた對獨貿易が戰爭勃發以來種々の困難に逢着するに至つた爲、ブルガリアはその貿易政策上重大危機に直面して居り、殊にバルカンの現状に鑑み極力國防の充實に急ぐブルガリアとしてはドイツの武器の獲得が困難となつたため國防計畫に多大の支障を來してゐる際なのでボジロフ鐵相の使命は或はソ聯からの武器供給を確保せんとするにあるのではないかと思はれる。(ソソイ)

●ソ聯 對芬戰果發表
レニングラード軍管區參謀部はフィンランドに於ける軍事行動の三ヶ月間の總計を公表した。同期間中、北方に於ては百三十軒、ウレアホルグスタク方面に於ては百五十軒、セルドボリスタク方面に於ては八十軒、ウイボルグスタク方面に於ては六十四軒夫々進出した。捕虜及び戰利品が多数獲得された。(世界政治)

●ソ・スロヴァキア外交關係開始
新駐ソ・スロヴァキア公使フランツ・チソーは二十五日クレムリン宮を訪問、ソ聯最高會議副議長、バダエフに對し信任状を捧呈した。かくてスロヴァキア、ソ聯兩國は茲に外交關係を正式に開始することになった。

●勃經濟代表露都着
大藏大臣ボジロフを首班とするブルガリア通商使節は二十七日朝モスクワに到着したが、一行の使命はソ聯との間に通商並に航海條約を締結するにある。ボジロフ代表は交渉開始に當り、先づミコヤン外國貿易人民委員と會見を行ふ筈。(世界政治)

●チタ會談閉幕終了
去る十二月七日からチタで開催中の滿蒙國境劃定委員會はその會議を重ね二十五日の第八回會議を以てチタに於ける交渉を順調に終了し日滿代表部は二十七日チタを出發しハルビンに向つたが、會議は明年一月七日よりハルビンで續開される旨、日ソ兩國當局より發表された。

●獨ソ間定期航空聯絡協定
本日の「タス」發表によれば最近ソ聯邦人民委員會附屬軍事航空局及びドイツ株式會社「ルフトハンザ」間に獨ソ間定期航空聯絡設置方に関する交渉が行はれ

△天津佛駐屯軍引揚開始

△瑞典義勇軍芬蘭戰線へ出發

△英瑞戰時通商協定調印

十二月五日 (金)

十二月五日 (日)

てゐたが、此の程右協定が成立、航空路はミンスク、ベロストク、ケーニヒスベルグ、ダンチヒ經由モスクワ—ベルリン間に決定、一九四〇年一月二十一日より毎日定期航空が開始される事となつた。(ワタ)

●日ソ第二次會談
東郷大使は二十九日午後六時より外國貿易人民委員部に於てミコヤン委員と約一時間互つて第二次會談を遂げた。本日の會談では前回の會談の後を受け日ソ通商取極めに関する具體的協議に入つた由。(ワタ)

●ソ聯の對土攻勢防衛協議
ソ聯はフィンランド戰の終了を俟つてその鋒先をバルカンに轉じ一氣にトルコに侵入する壯と傳へられるが、最近の情報によれば英佛兩國は目下ソ聯のトルコ侵襲防衛に關して積極的な工作を進めつつあり、過般英國は目下ソ聯のトルコ軍事使節團は現にバレスティンに於ける英佛軍事當局と銳意協議中と傳へられる。而して英佛土三國軍事當局はソ聯のトルコ侵入開始と同時に裏海々岸の石油地帯バクラーを攻撃し、バクラーから黒海々岸パツームに至る石油輸送管を破壊して獨ソ兩國に對する石油輸送路を絶つ計畫を進めつつあると云はれる。バルカンはソ聯の出方を懸つて暗雲低迷の度を加へつつある。(ワタ)

●日ソ漁業條約暫定協定調印
日ソ漁業條約暫定協定は三十一日夜モスクワに於て東郷大使とソ聯モロトフ外務人民委員との間に調印が行はれ、同時に北鐵讓渡金問題も圓滿解決を見ることとなつたので、外務省では三十一日午後八時次の如く發表した。

▲外務省情報部發表
先般來政府は日ソ間長期漁業條約締結の爲東京及びモスクワに於て折衝してゐたが、ソ聯側の回答遅延し到底本年中に交渉を纏め得ないことが明らかとなつたので取敢ず明年度限りの暫行協定を取結ぶこととし交渉を進めた結果、昨三十日の東郷大使モロトフ外務人民委員會談に於て政府の承認を條件として暫行協定に本三十一日署名することに語が纏つた。協定の内容は大體昭和十四年の通りであるが、ソ聯側は昭和十五年中に長期本條約を締結して本暫行協定に代らしむる趣旨の規定を設けることに同意した。依つて

△ソ聯、シュテルン將軍を對芬戰争司令官に任命

△「ニューヨーク、ヘラルド・トリビューン」紙の報道によれば、一九三九年に於ける世界石油生産は二十一億五千萬ハレル、前年度より九千萬ハレルの増加にて新記録

ソ聯邦通商戰日誌

長期漁業條約交渉は今後繼續して行はれる次第である。尙昨年来漁業條約締結交渉と關聯して問題となつてゐた北緯代償金最終割賦金六百萬圓の支拂方に關しては政府は今交渉と並行して之が解決の爲積極的に滿洲國ノ聯邦間に斡旋を行ひ種々折衝の結果、右割賦金に利子及び金約款増金を附したるものより滿洲國側が北緯代償金に基き有する明確なる對ソ債權額百三十萬圓餘を控除して滿洲國側の支拂を了することとし、右支拂金に就てはソ聯邦側はその三分の二を下らざる金額迄日滿兩國より物資を購入することとして茲に本問題の解決を見るに至つた。

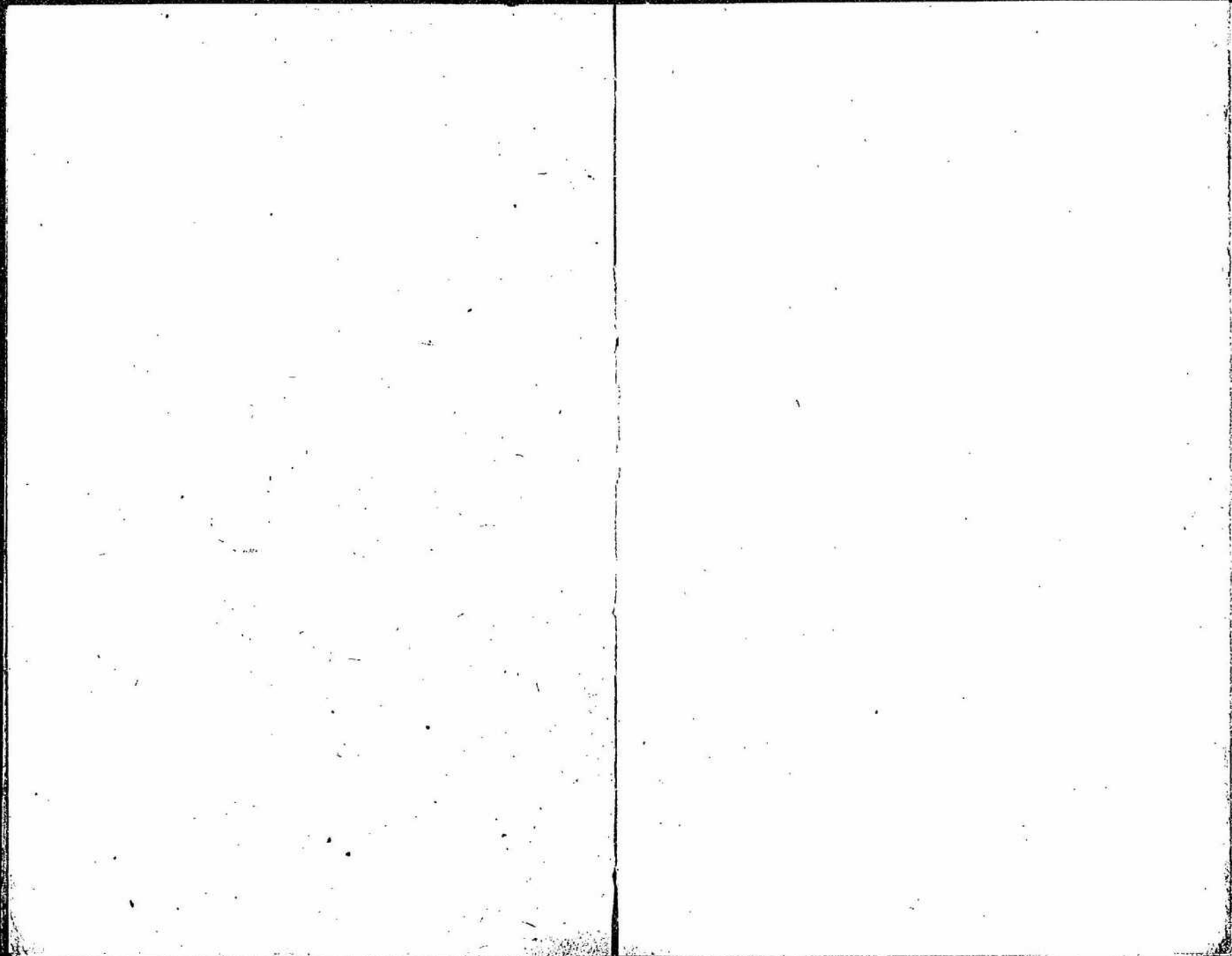
●暫定協定調印まで

東郷大使とモロトフソ聯人民委員との間に三十一日調印された日ソ漁業條約暫定協定は第五回目の暫定協定である。該協定は一九二八年田中カラハンの間に締結された日ソ漁業條約が期限満了後毎年暫定的に效力を延長し來つたのであるが、從來右取極めに於ては常に紛糾を重ね、昨年の如きは出漁期を目前に控へた四月二日に至り漸く妥結を見た状態で、帝國としては之等の紛糾を避ける爲豫てより本條約締結を希望してゐたのであるが、ノモンハン事件を契機として兩國は諸懸案の解決に努力することとなり、野村外相は去る十月以來メタニンソ駐日ソ聯大使と屢々會見を行つた。而してモスクワに於ても十二月十五日東郷大使とモロトフソ聯外務人民委員との間に漁業條約に關し協議が行はれ、モロトフ委員は北緯代償金問題解決を前提として長期的漁業條約を締結すべしとの意向を明かにしたが、現行漁業條約の改訂期が十二月三十一日に切迫してゐる爲日ソ雙方より取極す暫定協定を締結したき旨を表明し、直ちに暫定協定締結並に北緯代償金問題につき協定に入り、三十一日に至つて暫定協定の調印を了し北緯代償金問題も亦圓滿解決を見ることとなつた。かくて一九二八年の日ソ漁業條約は前年同様本年未だで效力を延長され漁區の安定性が維持されることとなり、昨年末を以て期限満了の管であつた特別契約漁區(樺太工場附屬漁區)三九、普通漁區七は一〇年その期限を延長されることとなつたのである。

本日誌編纂上使用せる主要資料

- 一、企畫院外情資料
- 一、陸軍省主計課別班資料
- 一、外務省通商日報
- 一、露西亞月報(外務省)
- 一、ソヴェート聯邦事情(滿鐵)
- 一、國際經濟週報
- 一、同盟旬報
- 一、朝日新聞
- 一、日ソ年鑑
- 一、日露年鑑

- 一、日ソ通信
- 一、歐亞通信
- 一、ブラウダ
- 一、イズヴェスチヤ
- 一、トルード(労働新聞)
- 一、インドウイストリヤ(工業新聞)
- 一、ミロウオーユ・ハジヤリスツウオ・イ・ミロウマヤ、
- 一、ボリーテイカ(世界經濟と世界政治誌)
- 一、ウネーシニヤ・トルゴウリヤ(外國貿易誌)



秘

第二次世界大戦日誌

國別戦時日誌之部
ソ聯邦篇—其ノ二、通商戦日誌

ソ聯邦通商戦日誌

第二號

(一九四〇年一月—三月)

ソ・通商-No.2
(P.139-P.195)

企畫院總裁官房調査課編纂
昭和十八年五月

(本書の大きさは規定規格A5判)

ソ 聯 邦 通 商 戰 日 誌

(一九四〇年一月—三月)

第 二 號

一 月	(一)
二 月	(一九)
三 月	(三七)

本日誌ハ逐次繼續シ完成ヲ期スルモノナリ

凡 例

- 一、本日誌は外情研究協議會所定の研究實施要綱に據り企畫せられた第二次世界大戦日誌編纂事業の一部を成すものである。
- 一、本日誌は始めて爲される新しい試みであるが、資料の系統的整理、より深き研究の爲の素材及び手摺り、諸政策の経緯又は事件發展連鎖の把握、之等の諸點に於て本日誌が貢獻寄與する所は決して尠くないであらうことを信ずる。
- 一、本日誌は各國別に政治外交軍事日誌、通商戰日誌及國內經濟日誌の三部作を以て構成される。
- 一、通商戰日誌に於て収録さるべき主要内容事項は次の如くである。
 - 1 通商戰に對する戰時機構の動き
 - 2 經濟封鎖措置(物資の輸出入措置等)
 - 3 海外市場獲得及物資確保策
 - 4 敵國の海外市場擾亂
 - 5 通商交渉及協定
 - 6 通商交通線を繞る戦心(凡ての交通通信關係事項を含めしむ)
 - 7 船舶の動き——配線、建造、撃沈、拿捕、喪失等
 - 8 通商戰の第三國に及ぼす影響
 - 9 國際金融戰——外國爲替證券の動き及びそれに對する措置等
 - 10 支拂方法、對外借款
- 一、本日誌は夫、逐次繼續して完成を期するものである。

ソ聯邦通商戰日誌
一九四〇年一月

一月記事索引(一九四〇年)

一月一日	日ソ漁業暫定協定調印 漁業暫定協定に関する 発表……………(三)	一月十五日	船を抑留……………(七)
一月二日	勃國と新經濟協定、米 紙の日ソ關係……………(三)	一月十六日	ソ聯「財政紙」に依る留 の對外換算率、浦潮航 路の船舶を契約……………(八)
一月三日	日ソ通商交渉代表モス クワ着……………(三)	一月十八日	莫斯科—ソフイヤ間航 空路開設……………(九)
一月四日	ソ支通商條約の批准、 北鐵最終賦金支拂に 關する發表、ソ勃通商 協定成立……………(三)	一月十九日	ソ勃貿易活性化、黒海、 北海間に運河網計畫、 北歐・バルカン進出に 獨ソの提携……………(九)
一月七日	日ソ通商交渉開始、ソ 聯石油會社トルコへ 賣却……………(三)	一月二十日	ソ聯の米油輸入量、ソ 支關係に關する英國の 觀測……………(三)
一月十日	日ソ通商交渉本格的に 開始……………(三)	一月二十日	日ソ通商交渉第三次會 談、獨ソ新協定をA・P 通信否定、米物賣買付 に關しソ聯聲明……………(三)
一月十二日	日ソ通商第二次會議、 ソ勃通商に關するコミ ュニケ發表……………(三)	一月二十日	莫斯科—伯林間航空聯 絡開始……………(四)
一月十三日	日ソ漁業協定日本側可 決、日ソ漁業暫定協定 全文發表、英艦ソ聯汽 船……………(三)	一月二十三日	重慶側ソ支通商協定を 批准……………(四)
		一月三十日	有田外相ソ聯大使會 談……………(三)

ソ聯通商船日誌索引

一月一日

一月二日

一月三日

●日ソ漁業暫定協定調印

一九三九年末モスクワに於いて東郷大使とモロトフ外務人民委員との間に交渉中であつた日ソ漁業暫定協定は、一月一日午後六時正式調印を了した。之は現行漁業協定の期限を更に一年延長するものである(見)。

●漁業暫定協定に関する発表

モスクワに於いて東郷大使、モロトフ外務人民委員間に調印を了した日ソ漁業暫定協定に關して外務省情報部では次のやうに發表した。
日ソ間漁業暫定協定は昭和十四年十二月三十一日午後十一時(モスクワ時間)署名を了し同時に北鐵代償金最終賦金支拂問題に關し諒解を遂げたり。(見)

●日ソ漁業協定に就て

日ソ漁業交渉は昭和十四年暮ソ聯側が之に北鐵代償金問題を關聯させ、右兩問題の同時的解決を迫つて來たため一時暗礁に乗上げ、年内に於ける暫定協定さへも危まれて居たが、前協定の有効期間最末日たる昭和十四年十二月三十一日の夜に至り、東郷・モロトフ間に北鐵代償金支拂ひに關する話合ひがつき、これと同時に日ソ漁業暫定協定の成立を見、加ふるにソ聯側から昭和十五年度内に長期協約を締結する誓約を得るに至つたものである。而して漁業問題に對するソ聯側今後の態度如何は兩國將來の關係の全面的更新を下するバロメーターとなるものと豫想されるに至つた。

●勃國と新經濟協定

三日ローマに達した情報によると、ソ聯・ブルガリヤ間に近く武器軍需品の供給を含む新經濟協定が締結される運びとなつた旨傳へられてゐる。之は伊土通商協定調印接近の折柄、ソ聯のブルガリヤ抱込工作がルーマニヤに於ける失地回復に關聯して成功したと見られる。尙ソ聯は最近トルコ政府に對しても工作を進め、美に決裂のまゝ殘されて居たソ土通商交渉の再開方を提議したと傳へられる。兎も所もソ聯新經濟協定はイタリヤのバルカン及近東政策に對抗せんとするものと見られ、バルカン近東を離る伊ソ兩國の外交戰は漸く活潑化せんとしてゐる。一方、ソ聯側からの情報に依ると昭和十五年十二月二十七日ブルガリヤ通商代表一行は、ソ聯との間に通商航海條約締結に關する交渉を行ふためモスクワに到着、而して全權はブルガリヤ國祿相デ・ボゾロフ氏で、

ソ聯邦通商戰日誌

△北鐵代償金最終賦金支拂に關する滿・ソ間の問題解決を滿洲國側發表

△重慶政權の國防最高委員會第九次會議開催に就き報道さる

△桑港埠頭争議解決す

△日本外務省、滿ソ及滿蒙國境確定並に紛争防止及處理委員會設置に關して發表

△イタリヤ政府はソ聯の南下防止のためトルコと新通商交渉近く調印の運びとなると報道さる

△米、海軍大擴張案下院に提出さる

△英、徴兵義務年限を十九

一月四日 (金)

同氏は直ちにソ聯貿易人民委員ニコヤン氏と第一回會談を行つたと言はれる。

●米紙の日ソ關係
一月三日附のニューヨーク各紙は、極東問題をとり上げ日ソ接近により招來された極東の情勢に對し各種の觀測を下してゐるが、ニューヨーク・タイムズ、ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン紙の社説要旨は次の通りであつた。

▲ニューヨーク・タイムズ紙
日ソ兩國支配地域の國境確定交渉の報と併せて今次の漁業問題、北鐵道渡金支拂問題の解決は兩國が友好關係を欲する理由を見出すに至つたことを示すものである。ソ聯の場合はフィンランド遠征により暴露した軍事的弱點が重點であること疑ひ無く、日本の場合は對支鐵道に依りソ聯の壓迫に對する抵抗力を失つたこと及び日米通商條約失効期の切迫と日本の國際的孤立が痛感され出したことがその理由である。

▲ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン紙
フィンランドの抵抗は日支兩國の對ソ聯關係の前途を本質的に變化させた。蔣介石は支那の將來を抵當に入れる取引を避けるどころか、ソ聯の援助を受ける條件を自ら決定しようし、同時に日本は法外な値段でソ聯に平和を買るか、或ひは速急に東部シベリヤを襲ふか、いづれかの一途に出でよう。しかし、かかる事態に至るにはソ聯の歐洲に於ける困難が條件となる。フィンランドの倒潰、續いてソ聯のフィンランドの占領ともなれば状況は再轉しよう。日支兩國が今もつて沈黙を守りソ聯に尊重であるのは之がためである。

●日ソ通商交渉代表者モスクワ着
日ソ通商交渉代表者松島公使一行五名は四日モスクワに到着した。ソ聯側よりは貿易人民委員代表カガノフ、駐日通商代表ラージン、外務部儀禮課長バルコフ、貿易部儀禮課長シユースチン、駐日通商代表代理ワクレンコ、貿易部儀禮課長フシコフ、同部日本係ヤシニコフ等が驛頭に迎へた。

△參考一 日ソ通商條約に就て
日ソ兩國の貿易關係を振り返ると、昭和十年の北鐵代償物取引開始迄の我が對ソ貿易は、輸入が順調なる漸増を持續したのに反し、輸出は極めて

二
歳が同二十八歳迄擴大す

△ル大統領豫算教書を議會に提出す。新會計年度豫算は五十五億四千八百萬弗、歳出總計は八十四億二千四百萬弗、赤字二十八億七千六百萬弗、又通常國防豫算總額は十五億三千九百萬弗、軍事豫算係公共施設費及緊急國防

一月五日 (金)

●ソ支通商條約の批准

ソ聯邦最高會議幹部會は、一九三九年六月十六日モスクワに於いて締結せられたソ支通商條約を批准した。右の條約は最惠國條款を含み通商及び航海問題を調整し、在支ソ聯通商代表部の法的地位を規定したものである。(R)

不振であつた。即ち昭和九年度の如きは輸入額四千萬圓に達したにも拘らず、輸出はその三分の一の一千三百萬圓程度で約二千八百萬圓の輸入超過となつてゐる。然るに同年三月、日ソ兩國間に北鐵道協定が締結された結果、代償物取引が開始されるに至り、我が對ソ貿易は俄かに活況を呈し、昭和十年より同十二年迄の輸出は年約三千萬圓に増加、之に反し輸入は激減し年約一千萬圓の出超額を示した。一方、昭和九年度に於けるソ聯側の對日輸出は毎年鉄鐵、ガソリン、木材、薄捲紙、モビル油、白金等合計二千萬圓程度であつたが、此の間ソ聯に於いては、産業經濟の整備に依り輸入物資の自給自足を實現し得るであらうとの見透しから、外國品の輸入を極度に制限したばかりでなく、對外關係上にも其の輸入貿易を政策的に利用する傾向が顯著となつてゐた。先づ、昭和十一年末日獨防共協定締結と共に兩國間の政治的關係が漸次悪化し、ソ聯側は凡ゆる日貨の下に鉄鐵、モビル・オイル等の對日輸出を制限又は中止するに至つたのである。

而して昭和十五年に入つてからの會談は右の状態に對して顯著的改善を加へんとするもので、大體に於いて通商の方式は從來の片貿易を排し、バイター制を採用するものと豫想され兩國共に殆んど戰時經濟を主眼として決定されるものと見られる。

尙從來兩國間に行はれた貿易品目は次の通りであつた。

米及穀類	對日輸出品目	對日輸出品目
類、石炭、鐵製品、機械部分品、木材	鐵石、石炭、鐵鐵、木材、油粕	
更らに北鐵代償物取引に依りソ聯側が日本側より購入した主なる品目は		
左の通りとなつてゐる。		
機械類、船舶類、大豆及大豆油、銅線類、綠茶、セメント、織物類		
ロープ類、帶鐵及鐵板類、小麥粉、人絹		

費を合すれば二十三億三千六百萬弗に達す
△英、船舶徵用令を改正し英國及び同植民地に登録せるもの全部に適用することに決定

△英陸相ホリアベリシア及情報相マツクミラン辭職、後任として陸相に商相スタンレー、商相にダン

一月六日
(土)

●北鐵最終割賦金支拂に關する發表
一月五日のタス通信は北鐵最終割賦金支拂に關し次の如く報道した。
一九三九年十二月三十一日の日ソ協定に依り日本政府は本年(一九四〇年)一月一日滿洲國政府に依る北鐵最終割賦金の支拂を保證せる處、一月四日興業銀行は滿洲國大使館代表立會の下に駐日ソ聯大使スマタニンに對し額面五、八〇九、五六五圓八、錢の小切手を交付せり、同大使は右銀行に對し額面五、九八一、六二五圓の滿洲國國庫證券を交付し、既駐日滿洲國大使に對し前記金額を興業銀行より收受せる旨の受領書を渡し、又銀行はスマタニン大使に對し前額國庫證券の引出を受けたる旨の書面を交付したり、依て一九三七年十二月三十一日の北鐵最終割賦金支拂に關する日ソ中間合第一項は期日に履行せられたる次第なり(R)

●ソ勃通商協定成立
一月五日モスクワ發報道によると、ソ聯ブルガリヤ兩國の通商航海條約は一月四日夜のブルガリヤ經濟使節ボジロフ蔵相とニコヤン、ソ聯邦外國人民委員の會談に最後の協定が成立、翌一月五日調印を了した。右通商航海條約は三年間有效で最惠國互惠通商貿易を規定したものであり、之と同時に一九四〇年度物資交換並に精算協定も成立した。又四〇年度の物資交換並に精算協定は總額九億二千レツアア(邦貨概算六千萬圓)に上るものでブルガリヤよりは豚、米、皮革、煙草、瀉瀉油等でソ聯よりは農業機械、鐵礦、石油、肥料、藥品、セルロース、棉花等の物資を輸出交換し双方レツアア貨で決済することが取極められてゐる。更らに航海條約としてはオデッサ、バルナ間に新航路を開闢することに決定した模様である。從來兩國間には通商協定なく今同が最初の取極めであるが、大體事前に話がついてゐた模様である。新協定はその政治的效果が重視されてゐるが會談に際しては政治問題には全然觸れなかつたと稱してゐる。尚ブルガリヤ經濟使節一行は今回瑞典駐領公使と共に一月七日モスクワ發歸國の途につく筈。

四
カン、情報相にリスト就任す
△獨政府がブカレスト銀行を通じてルーマニヤ輸出業者に四千萬マルクを信用貸與
△ルーマニヤ國王ベツサラピヤ訪問、ソ聯の南下に備へると宣言す
△ハンガリー外相訪伊、トランシルヴァニア地方返還要求を議すべしと報道さる

△イギリス北支駐屯軍司令部天津引揚げ香港に向ふ

一月七日
(日)

一月八日
(月)

一月九日
(火)

●日ソ通商交渉開始
日ソ通商會談の準備交渉は七日モスクワに於いて日本側東郷大使及び松島公使、ソ聯側は外國貿易人民委員ニコヤン氏の顔觸れで開始されたが、正式交渉は十日頃から開始の豫定である。尙日ソ兩國共日ソ通商關係を劇的に改善せんとする希望を有してゐる結果通商會談の前途に關しては樂觀的觀測が行はれてゐる。

△滿蒙國境確定混成委員會の後半はハルビンにて開始、共同コミュニケを發表

●ソ聯石油會社トルコへ賣却
イスタンブールからの情報によれば、近東に於ける英米兩國の油田權益の強敵の一であつたソ聯資本系石油會社は、一月七日に至り同會社の全設備其の他の財産一切を擧げて新設のトルコ石油會社に賣却したと傳へてゐる。

△支那新政權樹立に關する日本帝國政府の基本要綱閣議で決定
△英佛對トルコ三國政府間の經濟協定パリで正式調印
△米國政府フィンランド援助を聯盟に通告
△英、パタ、ハム、ペーコン及砂糖の切符倒開始
△米、ウルグワイ政府との互惠通商條約の締結交渉決裂に終る
△ハンガリー外相の訪伊に關し伊政府はソ聯のバルカン南下に對し、ハンガリーを無條件で援助する軍事同盟成立する旨報道さる

ソ聯邦通商戰日誌

一月十日
(水)

●日ソ通商交渉本格的に開始
 要に、東郷大使とミコヤン外務貿易人民委員間に原則的諸問題に關して豫備交渉を進めて居つた日ソ通商交渉は一月十日から、本格的な段階に入り、同日正午から一時半迄外務貿易部に於いて第一回會見が行はれた。日本側からは東郷大使、松島公使を初めとして齊藤二等書記官、田中事務官、野口、三谷兩通譯が出席、ソ聯側からはミコヤン外務貿易人民委員、カガノヴィツチ外務貿易人民委員部次長を初めラヂン東方局長、ワクレンコ駐日通商代表、ヤシヨニコフ日本係等が列席し、先づ東郷大使より通商協定案を提示して日本側の意向を詳細説明したのに対し、ミコヤン委員から二、三意見の開陳があり更に種種意見の交換をなして散會したが第二回會談は數日中には行はれる豫定であると報道された。

一月十一日
(木)

●日ソ通商第二次會談
 日ソ通商協定案に關する一月十日第一次會談に於いて、日本側の意向を詳細説明したが、十二日午後四時より東郷駐ソ大使及び松島公使はミコヤン外務貿易人民委員及びカガノヴィツチ外務貿易人民委員部次長と約一時間半に亘り第二次會談を行つた日本側の頭觸れは第一次の場合と同様であつた。先づ席上、ミコヤン人民委員から通商協定に關するソ聯側の對案を提示し、一方東郷大使からも二、三意見の開陳があり、ソ聯側の提案に對しては日本側に於いて更らに

六

△イタリーのバルカン諸國の係争問題の解決を策してゐると報せられるが、ルーマニヤは對ハンガリー譲歩を示唆してゐると報せらる。
 △英佛空軍は對獨優位を目前に、今後十八ヶ月間に米國機一萬架購入を計畫。
 △リンリスガウ印度總督は東洋協會主催午餐會席上に於いて、英本國の印度に對する目標は自治にある旨を表明す。之に對し國民會議派は獨立を主張す。

△英佛經濟使節團ブルガリヤ首都ソフィヤに到着。
 △ソ聯レニングラード軍管區司令部、芬蘭軍のソ聯領内進入を確認。
 △羅國王はユーゴスラヴィア攝政と秘密會談にて伊洪會議及反ソ聯結束に關しユーゴの諒解を求めたと傳へらる。

一月十三日
(土)

慎重研究を重ねることを約して意見を終つた。而して第三次會談は本省よりの回訓到着次第續行する豫定であつた。(R)
 ●ソ聯通商に關するコミニケ發表
 ブルガリヤ通商會談代表ビチロフはソ聯より歸還し、對ソ通商協定に關してコミニケを發表した。
 一、ソ聯通商關係のため、ブルガリヤにソ聯通商代表部を設置
 一、清算はブルガリヤ貨(レヴアア)建
 一、交換物資金額は九二〇百萬(レヴアア)
 一、ソ聯汽船に依り黒海を通じて輸送
 一、黒海及びダニユープ河に於けるブルガリヤ國港にソ聯商船の入港許可
 一、ブルガリヤはソ聯より棉花二〇萬噸を輸入、紡績としてソ聯へ再輸出
 ●日ソ漁業協定日本側可決
 日ソ漁業協定を審議するための樞密院臨時本會議は十三日午前十時から宮中に於いて開會
 一、日本國、ソヴェト社會主義共和國聯邦間漁業條約第五回效力延長に關する議定書
 を議題として堀江書記官長より審査報告があつたが、石井顧問官から「本議定書によると本年中に本條約を締結するやう記載されてあり、之は相手方の誠によるものであると思ふが、果して政府に本條約締結の確信ありや」との質問に對し、野村外相は「本條約締結といふことに就いては、ソ聯側も同意してゐるのであるから締結できるものとして今後折衝する」旨を答へて散會した。(朝日)
 ●日ソ漁業協定全文發表
 一月十三日の樞密本會議に於いて日ソ漁業協約效力延長に關する暫定協定案が可決されたので、日本政府はソ聯政府に對し直ちに右議定書承認通告の手續をとりその效力を發生することとなつたが外務省では十三日午後十時次のやうに發表した。即ち
 客年十二月三十一日モスクワに於いて東郷大使が政府の承認を條件として署名した日ソ漁業協約の效力延長に關する議定書に對して政府は新年早々之が承認方に關する國內手續を進行中の處十三日右手續の完了を見たので即日

△阿部首相辭表捧呈、米内海軍大將大命拜受

七

ソ聯邦通商日誌

一月十五日

東郷駐ソ大使をして帝國政府の右議定書承認をソ聯邦政府に通告せしめた。従つて本件議定書は茲に完全なる效力を發生することとなつた。

議定書

千九百二十八年一月二十三日署名せられ、千九百三十六年五月二十五日同年十二月二十八日千九百三十七年十二月二十九日及千九百三十九年四月二日夫、署名せられたる議定書に依り效力延長せられたる日本國「ソウイェト」社會主義共和國聯邦間漁業條約の存続期間は千九百三十九年十二月三十一日満了するに因り又千九百三十九年十二月三十一日前に新條約締結せられざるべきに因り

第一條

大日本帝國及「ソウイェト」社會主義共和國聯邦の政府は左の通協定せり。

第二條

本議定書は日本國及「ソウイェト」社會主義共和國聯邦の政府間に目下交渉中にして千九百四十年中に締結せらるべき新條約に依り代らるべきものとす

第三條

英艦、ソ聯汽船を抑留
一月十三日香港電報に依ると、ソ聯汽船「レンガ號」(二千五百噸)は香港附近航行中英國軍艦に依つて香港に入港を命ぜられ港内に抑留された。これに關して香港に於ける英國海軍當局は次の如き談話を發表した。

「英國海軍はソ聯政府所有の「レンガ號」を臨時禁制品積載の有無を検査の爲め抑留中である。但し「レンガ號」は英國海軍に依つて航行を停止せしめられたが決して拿捕されたのではない。」「同盟」

●ソ聯「財政紙」に依る留の對外換算率
ソ聯獨立銀行の發表に係る「留」の對外換算率はソ聯の「財政紙」に依つて次のやうに發表された。(單位留)

米 國 (一 弗 = 付) 一九四〇年一月十五日 五・三〇

△英國政府、米洲中立水域侵犯に關する米洲二十一ヶ國政府の共同抗議に對し反駁的な回答を發す
△佛國、西班牙間協商協定

一月十六日

英國 (一 磅 = 付) 二一・〇七
獨逸 (百 馬克 = 付) 二二・五九
伊太利 (百 リラ = 付) 二六・七六
佛 國 (百 法 郎 = 付) 一・一・九四
日 本 (百 圓 = 付) 一・二四・二八

●浦潮航路の儲船を契約
ニューヨークへ入つたダウ・ジョーンズ通信ロンドン發特電として次の如く傳へてゐる。即ち

ロンドン海運市場に於いては、目下ソ聯がアメリカ北太平洋沿岸から浦潮間航路の儲船を契約したとの報道に多大の注意を拂つてゐる。之は小麦の輸送に當てられるもので、儲船料は一週につき十一弗七五仙であると言はれ當業者の言によればソ聯は今期もまた小麦輸入方針を續行するものと見られる示唆的な一例であると報じてゐる。(ニューヨーク同盟)

●莫斯科「ソウイェト」間航空路開設
同日附「アラウダ」紙は、ソ聯及ブルガリア間航空協約の締結に依り近くモスクワ「ソウイェト」間を聯絡する新航空路が開設されることとなつた旨報じてゐる。該航空路はヘルソン、ブルガス、プロヴヂヤを経由し、ヘルソン「プロヴヂヤ」間六〇軒は黒海海上を通過するもので、ソ聯非軍事航空部は右の航路に高速機「デイス」三型を使用する等。(R)

成立一月二十二日以降本年未迄有効、該協定は佛國のフランコ政權承認後兩國間に締結せられた最初の協定なり
△瑞典政府、對米關係促進の爲皇孫「ベルテイル」殿下を團長とする經濟使節團を米國に派遣

△米内閣閣議
△英首領、下院に於いて英佛土經濟協定に關し次の如く發表
英佛兩國は土耳其に軍需品購入融資二四〇〇萬磅(利率年四分)現金一五〇〇萬磅、英土間清算決済二〇〇萬磅、佛土間清算決済一五〇萬磅(利率年三分)を供與する。右融資の元利支拂は土耳其國商品殊にタバコ及乾菓實類に依る

ソ聯邦通商概目誌

一月十七日
(水)

一月十八日
(木)

●ソ物貿易活発化
ソフイヤ發同盟電報に依れば、獨逸はソ勃間に締結された通商航海條約並に航空條約に依つてソ物貿易は極く活発化するものと見られ、通商條約は最惠國約款を含む積算取引制度を規定してゐる。從來ブルガリヤとソ聯の貿易は皆無に等しい程度であつたが右の條約に依りソ聯はブルガリヤとの貿易に於いて俄然首位を占むるに至つた。

▲参考：ソ紙の對ソ通商積算
今回のソ聯ブルガリヤ間通商航海條約及貿易協定の調印に關しブルガリヤ經濟代表はモロトフ外務人民委員に對し、ソ聯ブルガリヤ通商航海條約並に貿易協定締結交渉に關して、ソ聯政府が吾々に示した援助に對してはブルガリヤ經濟代表として滿腔の謝意を表する。而して之は兩國々交の親善を強化するもの

- △英、一九四〇—四四年償還四分半利公債約三億五千萬鎊を七月一日に一九四五年償還二分利公債の額面にて借換へる旨發表
- △和陽政府、北和陽カンソオルク市並海軍根據地デンヘルダー一帯の海面及北部海岸地方海面に戒嚴令施行
- △イタリ、二月一日ヨリパン、米、肉類、バター、牛乳、茶、コーヒーに切符制度施行と決定
- △獨逸、瑞典兩鐵道當局に對獨石炭輸送の爲め瑞典車五〇〇輛の廻送協定成立
- △諾威政府、義勇軍兵事訓練制式實施を決定
- △ハンガリー官憲、バルカン協同國會議不参加且つオプザイザー不派遣を聲明

のであり、同時に兩國々民の利益となるものと信する」と言つてゐるが、一方、ブルガリヤ各新聞も對ソ通商協定に對し満足の意を表明し、一月十一日附ザリヤ紙の如きは、通商協定調印に關しては同國の經濟上に非常な重要性を齎らすものであり、本條約は兩國の舊い政治關係を一新させることは必然である」と述べ、その他の各新聞も本條約ブルガリヤ外交の勝利であると述べてゐる。

ソ聯紙のソ支定期航空線

一月十八日附ソ聯各紙は、ソ聯非軍事航空部(アエロフロート)及び支那交通部に依りソ支航空會社「ハミアタ」が新たに組織され、ブルマ・アタ、油化、哈密間の定期航空路が開設せられ、飛行機はアルマ・アタよりは毎月六、十三、二十及二十八日、哈密よりは七、十四、二十一及二十九日それぞれ出發することになつたと報道した。(B)

黒海・北海間に運河網計畫

白ロシアのミンスクからソフイアに達した電報として次の如く報じてゐる。即ちソ聯はソ獨兩國間の物資輸送ルートとしてドニエプル、プリペトブーグ、ダイスチュラ等の諸河川を利用して一大運河網の完成を急ぎ、之によりソ聯産石油の積出港たる黒海沿岸のバトゥミから黒海經由右運河によりダシチヒに至る全長三、〇〇〇軒に近しい水路が實現する模様である。右工事は既に可成りの進捗を見、堰堤九個、水門八個が完成し全工事は來る四月十五日頃完成の豫定とのことであつた。

北歐・バルカン進出に獨ソの提携

一月十八日パリに達した情報によると、獨逸はソ聯領に編入されたポーランドとガリシヤ國境に最近兵力を集結し獨逸兩國間の鐵道道路を遮断した模様だといふ。之は獨逸がガリシヤを通する鐵道運輸を獨占し、以て物資の補給を確保しようとする目的に起因するものと信ぜられ、一方、ソ聯は右鐵道を獨逸の軍事管理下に委ねることに同意したと言はれるが、これらの事實は獨ソ兩國が相提携して北歐並にバルカンに對し、新たな進出を企圖してゐるものとして注目される。

ソ聯邦通商概目誌

二

一月十九日 (金)

ソ聯の米油輸入量
ワシントンからの報道に依ると、米國の對ソ聯交際絶絶論が再び擡頭して居り、之を並行してソ聯に對するガソリン禁輸の意見も有力化しつつある折柄、A.P.T通信ワシントン支局が關係各官廳より集めた情報に次のやうに傳へてゐる。即ち

ソ聯は昨年七月歐洲戰爭勃發以來、米國より總計一三〇萬バレル以上のガソリンを輸入して居り、ソ聯軍の對芬作戰に用ひられてゐる空軍、タンク、牽引車用として米國から輸入されたガソリンが専ら消費されてゐることが判明した。各月別にソ聯の米國よりのガソリン輸入量を見るに

(單位千バレル)

一月	四八〇
二月	三一九
三月	三二七
四月	三二六(推定)
五月	一六〇(推定)
六月	一六〇(推定)
七月	一六〇(推定)
八月	一六〇(推定)
九月	一六〇(推定)
十月	一六〇(推定)
十一月	一六〇(推定)
十二月	一六〇(推定)
前年	一六〇(推定)

となつてゐる。因みに米國からソ聯へ輸出されるガソリンはオクタン價の低いもので米國飛行機の使用するガソリンとは質の違つたものである。一方、ソ聯は將來石油輸出國であつたが最近その輸出量を著しく減じ、一九三二年の石油輸出量七〇〇萬噸に對し、一九三八年には一〇〇萬噸に減少してゐる。

●ソ支關係に關する英國の觀測

ロンドンからの情報によると英國は日ソ國交關係に絡んで、ソ支關係に對する觀方として次の如く報じてゐる。即ち
日ソ國交關係は漁業協定の調印等の事實により最近著しい改善を示したが、ソ聯政府は今猶ほその對支態度を變更せず、ソ聯紙は却つてソ支關係の緊密化を詭謀するが如き態度を示してゐる。しかしその反面に於いて出来る限り蔣介石政権に言及せず、専ら支那民衆を對象としてゐるなど極めて細心の注意を拂つてゐる。

二二

△獨逸官傳相 獨逸側和平要請説反駁
△佛上院は共產黨議員議席剝奪に關する法案を通過
一致を以て可決
△佛政府はスペイン政府との間に新通商協定成立した行發表

一月二十日 (土)

●日ソ通商交渉第三次會議

東郷駐ソ大使及び松島公使は二十日午後四時ソ聯邦外國貿易人民委員部に於いて約一時間互りミコヤン人民委員及びカガノヴィツチ次長と會見、日ソ通商交渉に關する第三次會議を行つた。席上先づ通商協定案文を中心に相互に意見を開陳し討議の結果、協定案文中詳細なる事項については別に分科委員會を構成して具體的に協議を進める事に双方の意見の一致を見た。

●獨ソ新協定をA.P.T通信が決定

獨ソ間の新協定により獨逸軍がガリシヤ地方に進駐せりとの報道に關しニューヨーク一月二十日發の電報は之を否定してゐる。右の報道はアメリカではU.P.T通信がブカレスト、ブタペスト、ローマ等からの風説を集めて報じられたに過ぎず、而かもベルリンからの完全な否定が直ちに同通信に依つて報せられたためニューヨークの各紙は此の問題を小さく取扱つて居り、A.P.T通信の如きは全然この報道を黙殺した。またニューヨークタイムズも亦これをベルグランド特電を以て事實無根若くは極度の誇張である旨の報道を掲げて否定した。

●米物資買付に關しソ聯聲明

駐米ソ聯通商代表は本日米國市場に於ける物資買付に關して反駁的聲明を發表した。之は最近ソ聯がアメリカ市場に於いて多量のゴム及び錫の買付を行ふため、アメリカに於けるゴム及び錫の需給關係が窮乏になつたとのアメリカ側の言明に對するもので、その反駁として「ソ聯がアメリカ市場に於いてゴム及び錫を多量に買付てゐるといふのは全くの誤報で、ソ聯は過去一兩月間に極めて少量の錫をアメリカに於いて買付けたに過ぎない」と言つてゐる。(ニューヨーク・同盟)

ソ聯邦通商戰日誌

- △英海相、反獨ソ共同戰線を強調する放言を行ふ
- △ソ聯空軍、ソ芬開戰以來最大の芬蘭空襲、南部及東西部都市爆撃
- △獨逸外務省、英海軍に依る被護送中立國船舶は敵性を有し従つて無警告撃沈すべしとの見解を強調す
- △香港政廳、爾後書信は勿論、新聞、書籍、寫眞、フィルム、原稿、地圖、スケッチ繪畫などを始め郵便以外の方法に依る同地出入を一切嚴禁
- △伊太利政府、左の如き各種非常措置を決定
 - 一、一九四〇一四一年度豫算、歳出三四、八九五〇百萬元、歳入一九、〇〇二萬萬元
 - 一、海軍部增加の爲海軍兵學校及海軍大學入學生年額を一歳引下
 - 一、食料政策遂行の爲漁業に使用する船舶及船具其他漁夫に對する各種課税の一割減免
 - 一、戰時體制より生ずる

二三

一月二十日 (日)

●莫斯科—伯林間航空聯絡開始
同日モスクワ—ベルリン間定期航空聯絡が開始されたことが「ブラウダ」紙に依り報道された。即ち一月二十一日午後一時四十五分ソ聯非軍事航空部所屬の新航空路第一回飛行の使用機はミンスク飛行場に降陸し旅客二名「ブラウダ」及び「イズウエスチヤ」兩紙を運送した。而して同機はミンスクから六名の旅客を搭乗せしめてベロストクに向つた。亦同日ベルリンから獨航空機二機がモスクワに向つた。因に右航空路延長は一、九〇〇キロである。(R)

一月二十日 (水)

●重慶側ソ支通商協定を批准
一月二十四日香港に達した重慶電報に依ると重慶政府は二十三日の行政院會議に於いてソ支通商協定を批准した。
▲参考—ソ支通商問題に就て

一四

失業者又は貧困家族に對する特別扶助
一 自給自足政策擴充に關する諸法律の改正
△郵船淺間丸房總半島卅五哩の公海に於いて英軍艦の臨検を受け乗船獨逸人拉致さる
△ルーマニア政府は對ソ聯を軍事同盟に變形せんと積極工作中と傳ふ
△イタリー首相、一九三九年度小麦收穫者賞品授與式に於いて食料自給政策確立小麦年收穫九〇〇萬噸目標を強調
△米上院は去る十二日下院を通過せる中立擁護國防強化特別支出法案に對し一千三百萬弗の削減を加へ、二億五千二百弗の支出を承認
△帝國政府淺間丸臨検事件につき對英嚴重抗議
△英佛兩國はルーマニア石油(英佛石油會社による)の對獨供給に付ルルマニヤに警告

一月二十日 (水)

一九三九年六月十五日モスクワに於いて調印をみたソ支通商協定は原料品と軍事資材との大規模な交換を目的とするものであつた。而して右の交渉は結局蘇聯がソ聯邦に對して西北支那に於いて經濟的利権を與へ、これに對しソ聯邦は蘇聯に對し四億元のクレジットを供與するのではないかとといふ噂があつた。更らに一九三九年八月十一日ニューヨークに達したA.P.重慶電報は「去る六月十六日成立したソ支通商協定が擴大され、ソ聯側は蘇聯に對し七億ルーブルを限度とするクレジット並にその他の物質的援助を行ふ管で、蘇聯財政當局の言明に據れば目下ソ支兩國代表間にモスクワに於いて經濟交渉が進行中であり、右交渉はパートナー協定の存続に關するものである」と報じた。尙ほ一九三九年八月二十日にはソ聯政府は臨時駐支通商代表としてアレクサンドル・セミョーノヴィツチ・パニョーシキンを任命した。

一月二十日 (木)

一月二十日 (金)

ソ聯邦通商日誌

△汪精衛、王克敏、梁鴻志の青島會議開始、中央政府樹立大綱及同政綱を討議

△イラン皇帝日イ修好條約に署名

△和蘭外相、中立維持強調

△英首相、下院で白耳義援助保障言明

△淺間丸事件に關し英大使、本國の回答に先立ち英側の聲明文を發表

△カナダ政府、利敵回避の爲、獨逸隣接諸國間小麦輸出制限令公布

△日米通商條約失效に當り日本政府は聲明書發表

一五

一月三十日
(水)

ソ聯邦通商戦日誌

△獨逸トルコ間に年額一五〇萬磅の新通商協定調印
△フランス、希臘兩國間清算協定成立、二月五日以降實施と決定

一月二十七日
(土)

一月二十九日
(月)

一月三十日
(火)

●有田外相、ソ聯大使會談
スマタリニン駐日ソ聯大使は午後一時半外務省に有田外相を訪ね、日ソ通商交渉並に日ソ漁業條約交渉に就いて懇談を遂げて辭去した。

一六
△汪、王、梁三氏の奇襲會談終る
△新英佛經濟協定成立
△英國希臘間經濟協定成立
△英佛兩政府、石油問題に關し、ルーマニヤに強硬通牒、經濟協交を示唆
△獨逸バルカン會議に對しトルコの策動は黙止得ずと警告
△リオ佛海運相とギルモア英海運相との間に英佛商船協定成立
△英政府、金移動狀況發表中止
△イタリイ最高軍事會議閉會、イタリイ本土防衛バルカン近東方面事態緊迫に對處
△淺間丸事件に關して有田外相クレギー英大使會談、英國側法理論を固執し獨逸入返還を拒否
△獨逸ヒットラー總統、ナチス政權樹立七周年記念日に於いて獨逸の紐帶不變獨軍備完備し、今や東洋の軌道にありと演説

ソ聯邦通商戦日誌

一九四〇年二月

二月記事索引(一九四〇年)

二月一日	駐米ソ聯大使抗議……(二六)	二月十四日	ソ聯の輸入は専ら國內
二月二日	外相議會で對ソ方針を説明……(二七)	二月十三日	獨ソ協定に對する英佛の觀測……(二八)
二月三日	ソ勃通商條約批准……(二八)	二月十二日	米國の對日對ソ禁輸論、獨ソ新通商協定成立發表……(二九)
二月四日	獨、ソ聯へ武器彈藥を輸送、バルカン問題で英佛を非難……(二九)	二月十一日	米國の對ソ輸出額増加……(三〇)
二月六日	獨ソ間貨物輸送開始……(三〇)	二月十日	在巴里ソ聯通商代表部家宅搜索……(三一)
二月七日	伊ソ通商條約調印の運び、米ソ國交斷絶提案否決……(三一)	二月九日	外相の答辯……(三二)
二月八日	日ソ問題に關する有田日ソ問題に關する有田	二月八日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月九日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月七日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月十日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月六日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月十一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月五日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月十二日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月四日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月十三日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月三日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月十四日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月二日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月十五日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月十六日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月十七日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月十八日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月十九日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月二十日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月二十一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月二十二日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月二十三日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月二十四日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月二十五日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月二十六日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月二十七日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月二十八日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月二十九日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月三十日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)
二月三十一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)	二月一日	英艦獨ソ通商路破壞を圍る……(三二)

ソ聯通商條約日誌索引

獨ソ協定説……(三三)
在重慶ソ聯顧問等歸國……(三三)



二月一日 (木)

●駐米ソ聯大使抗議
 ソ芬戦を契機として米國民の對ソ感情が急激に悪化した。駐米ソ聯大使ウーマンズキーは二月一日國務省にハル長官を訪問約三十分餘に互り會見した。會見の内容に就いてはハル國務長官もウーマンズキー大使も共に口を餘して語らなかつたが、抗議の重點は一、ソ聯の對芬獨行行動に對するアメリカの非難、二、アメリカの對芬援助、三、航空機用材料の對ソ道義的禁輸の實施であると觀測されてゐる。特にソ聯側を刺戟したのは、一月十五日ニューヨーク州銀行協會の會合の席上で行つたジョンソン陸軍次官の反ソ演説であつたと見られる。(ワシントン同思)

二月二日 (金)

●外相議會で對ソ方針を説明
 有田外相は第七十五議會に於いて外交方針に關する演説を試みたが、對ソ通商關係に就いて大要次のやうに述べた。
 對ソ通商經濟關係に就いては目下モスクワに於いて兩國間に通商貿易協定の折衝を行つて居り之が圓滿妥結を期待してゐる。日ソ漁業暫定條約の締結について速かに之が實現を期せんとするものである。

ソ聯邦通商戦日記

- △日ソ間ノモンハン諸國境
 協定委員會は意見對立のため一月三十日を以て打切と決定
- △獨逸、露ポーランド領の
 金銀油沒收を命令
- △伊太利政府、食糧品統制のため、パン、麥粉、米、麵類、肉類、バター、牛乳、茶、コーヒーに對し切符制度を實施
- △印度政府、對滿麻發輸出を禁止
- △英、廣汎な權限を有する貿易委員會設置を發表
- △ユーゴスラヴィヤ、ルーマニヤ、ギリシヤ、トルコのバルカン協同國會議
 ベルグラードに開催、三日の會議で現行協定(一九四一年二月失効)を一九四八年二月迄延長を決定、四日コミューネを發表して閉會の旨
- △英、造船統制令發動、商船の建造及修繕は海軍省の許可を要する事となる
- △インド政府、各種蠶母の日本向輸出を全く禁止す

二月三日 (土)

●ソ勃通商條約批准
ソ聯邦最高會議は一月三日、去る一月五日モスクワに於いて正式調印を終つたソ勃通商航海條約に批准を與へた旨タス通信を通じて發表した。

二月四日 (日)

●獨、ソ勝へ武器彈藥を輸送
ストックホルムよりの情報として獨逸がソ聯の求援に應じて武器彈藥を輸送するであらうと報じた。即ち獨逸兵船二隻はソ聯軍に供給する大砲、機關銃等の他の小型武器及彈藥を積載してベツプアモ港に向つたと報じてゐる。バルカン問題で英佛を非難
モスクワ設タス通信はベルグラードに開催中のバルカン協商會議を繰る英佛の策謀を暴露して宏の如く述べた。

目下英佛の好戰プロックは凡ゆる手段を盡してバルカン諸國を競争に捲き込みんと努力してゐる。故に今次會議の背後には果してバルカン諸國が英佛兩帝國主義の壓迫増加に對し抗争し得るか否かの重要問題が潜んでゐる譯である。就中、ルーマニヤの狀態は最も危険極まるものである。蓋し英佛兩國はルーマニヤにその勢力を集中し、獨逸貿易を抑壓せんと懸命の努力を拂つてゐるからである。

二〇

る皆發表
△清期九事件、對英排佛は獨逸人一部引渡の協定に附したが、更らに金貨返還要求の非難構中
△バルカン協商共同宣言ニエケを發表、東南歐の平和維持を強調

△第五次英佛最高會議パリで開催
△ラダ政府、獨逸印版の防備を強化する方針を決定、その具體方法として關印防備問題諮問委員會の報告に従ひ、二萬六千噸級巡洋艦二隻の建造及スラバヤ池に海軍機地を建設するものと傳へ

二月六日 (火)

●獨ソ間貨物輸送開始
一月六日「デ・エヌ・ベ」通信は獨ソ間貨物輸送に關して次の如く報道した。一月六日「デ・エヌ・ベ」通信は獨ソ間貨物輸送に關して次の如く報道した。

獨ソ協定に基き兩國間の貨物輸送は大規模に開始せられ圓滑に行はれつゝあり、獨ソ間九ヶ所の國境を通ずる直通貨物運賃に關する取極めは效力を發生せり、而して特に重要な貨物例へば穀物、鑛物油、パラフィン、鐵、鋼鐵及び其の製品其の他の金屬製品、機械、鑛物油、パラフィン、鐵、鋼鐵規定せられたり、更に兩國國境停車場に於ける運輸連絡に關しては特別運賃五の貨車利用に關する協定成立せり、差當りソ聯より獨逸向貨物は九箇の國境停車場にて獨逸の貨車に積換られ、其の内一箇の國境停車場に於いては貨物の積換を急速ならしむる爲數百の捕房使用せられ居る處積換に關する技術的設備は近く完成せらるべし。

△參考「獨逸獨ソ接近を察成」
獨ソ協定に基き兩國間に貨物輸送が開始されるに至つたが、前獨逸皇帝カイゼル・ヴィルヘルムは最近獨逸及び英佛に對し、これらの諸國が速かに戰爭を終結せしめボリシェヴィズムを世界から掃出するために共同戦線を張る必要があることを、彼の傳記編纂者ポルト・ニ・イ・ビイゲロウ氏に宛てた手紙の中で強調したと去る二月二日公表された。
即ち、獨逸帝はその中で輝しき芬蘭軍はボリシェヴィズムの暗害を打ち掃ひ、人民を恐怖から救つた。その結果平和の希望が甯らされた。交戦國は直ちに戰爭を中止して芬蘭を支援し、世界からボリシェヴィズムを驅逐せねばならぬと述べ時局を注目されたものである。

二月七日 (水)

●伊ソ通商條約調印の運び
去る一九三九年十二月三十一日を以て期限満了となつた伊ソ通商條約の再締結交渉は目下順調に進みつつあり近く調印の運びとなるものと信せられると報道された。

●米ソ國交斷絶提案否決
米國議會下院本會議の國務省通常採算案審議に際し、同採算修正案として、ソ聯邦通商條約日誌

二一

△ガンヂー翁、印度總督との第五次會議談話後聲明を發表し「印度は印度人へと主張す」
△英佛最高軍事會議、食糧問題に關し共同對處決定
△バルカン會議取極め事項の領土保全條項に對し、ハンガリー及ブルガリヤ兩國は強硬な不滿を表明したと傳へらる
△英、肉類消費削減當制を三月三十一日より實施に決定

△米國の對芬借款提供與を中心とする對外協定法衆上院外交委員會を通過す
△獨逸官獨ソ軍事同盟は無限と聲明
△昨年來交渉中の獨ソ通商

二月八日
(木)

在モスクワ米岡大使館維持費削減案が民主主義議員マコーマック氏により提出されたが採決の結果一〇八票對一〇五票といふ僅か三票の差で破れ、同議員の意圖した對ソ外交断絶案は敗退した。之は對ソ外交断絶案に關する各種提案中最初のものであるが、右につき當のマコーマック議員は、

余は今後も凡ゆる機会を利用して對ソ外交断絶の提案をするつもりであると語りアンダーセン共和黨議員も

今回の提案は敗れたが賛否の差が極めて僅少であつたことは多数の議員が本案の趣旨に賛成なることを物語るものである。

と述べてゐる。ソ聯を破つて米國の對ソ事情が日増に陰悪化しつゝある折柄此の種提案の成行が注目されてゐる。

●日ソ問題に關する右田外相の答辯

衆議院豫算總會に於ける松本忠雄・窪井義道兩代議士の對ソ問題に關する質問に答へて右田外相は「漁業本條約の交渉も前踏み工作にのり、そのうちに本交渉が進められる筈であり、通商交渉もモスクワに於いて我が松島通商代表とソ聯外國貿易人民委員部との間に進捗中である」と答へ、北樺太割讓問題に就いても觸れた。漁業交渉に關する答辯の要旨は左の通り

一、長期漁業條約に就いては實のところ未だ内容については話をすることゝ進んでゐない。之は双方準備の都合等もあつて交渉を進めることについて話合つたこともあるが、更らにその後の状況等も考へ研究してゐるわけである。本年一杯は暫定協定で行くが長期協定については唯今モスクワで交渉を始めようとしてゐる。

二、通商協定はモスクワで交渉中であるが、そのうちに二、三難問題があつてどういふ結果になるか判らない。

尚、松本代議士の北鐵讓渡金残債支拂と漁業交渉との關聯性に就ての質問に對し外相は左の如く答辯した。

從來も北鐵讓渡金残債の支拂ひを要求して來て場合に依つては暫定取極めをする。其一つにしようといふ意思を表示したこともあつた。今日の暫定取極めの外に長期の漁業條約を其内にやらうといふ意思表示が暫定取極めの中に入つてゐるのである。別にそれは交換條件といふ譯ではなからうと思ふ

二三

細目協定近く成立と傳へられるが、之に附隨の國境鐵道運送條約に關する協定成立

△英、紙類統制令發布供給四割削減

△イタリヤ、トルコ間交易増加協定締結

二月九日
(金)

●在巴里ソ聯通商代表部家宅搜索

巴里に在るソ聯通商代表部、インツワリスト及びソ聯學校が佛國の警察官憲に家宅搜索を受け書類を押収され、職員も一時逮捕された事件が起つた。之は一九三九年八月二十七日「ニューマニエ」紙の發行禁止以來ソ聯通商代表部に於いて秘密に之を印刷配付して居た事實が判明したためと傳へられた。

尚右事件に關し二月九日附佛紙「ジュルナル」は次のやうに報じてゐる。

ソ聯通商代表部、インツワリスト及びソ聯學校の家宅搜索を行つたのは先般索取調へ中であつた敵國との通譯事件に關聯し、之等ソ聯機關が關係してゐることが判明した爲で、今次戰爭以來ソ聯の對佛活動殊に政治及労働方面への宣傳に利用されてゐたことは周知の事實であつて、通商代表部の如きは數百の職員を有し表面通商事務に従事して居るものである。今回の傳言に依る手入は軍事當局の要求に基づくもので、ソ聯大使より抗議があつたことも事實であるが外交特權侵害の理由ではない。(因に此の點につき八月アヂアスは同代表部は外交特權を享有することなく、大使館員としての外交特權を享有して居た通商代表部幹部三名も一九三九年十二月廿一日佛「ソ」通商條約満期と共に各特權を喪失して居るものである)

一方、右の事件に就いて二月九日附ソ聯紙「トルド」は次の通り報じてゐる。

本事件が偶發的のものでないことは最近の佛國に於ける各新聞等のソ聯攻撃及び之に對する官憲の放任的態度に鑑みても明らかである。ソ聯國民は本事件に對し冷靜であるが、之は英佛間の戰爭擴大計畫の現はれである。

と報じてゐるが、同日附の「アラウダ」、「イヌウエスチヤ」兩紙共本事件に關する

△ルトスヴェルト大統領及ハル國務長官はウエルズ國務次官を英佛獨伊諸國に派遣と發表

ソ聯邦通商戰日誌

二三

二月十一日

米國の對ソ輸出額増加

米國商務省は貿易統計を發表したが、米國の對ソ輸出額は増加の一途を辿つてゐることを示し、大西洋が事實上閉鎖されてゐる折柄なので各方面の注目の的となつてゐる。即ち昨年十二月に於ける米國の對ソ輸出は、一五五〇萬弗の巨額に達し、昨年度の輸出全額の四分の一以上を上り、一方同十二月に於ける米國のソ聯よりの輸入は二五〇〇萬弗に達した。本年（一九四〇年）一月の貿易額は未だ判明しないが、米國の對ソ輸出額は依然増加を示してゐる。而してソ聯は米國より飛行機製作品の機械類を輸入してゐるが、之等は普通大西洋沿岸からパナマ運河を経由ワラヂオストツクに輸送されてゐる。

米國の對日對ソ禁輸論

ワシントンからの同盟通信は左の如く報道した。即ち日本に對する禁輸實行論は依然米國各方面で後を絶たないが、上院議員ジョージ・ワリス（無所属）は二月十二日、日本及びソ聯に對し食料品、既製品、軍需品等の道義的禁輸を斷行すべきであるとして、『日本及びソ聯は野蠻國である。余は兩國に對して食料品、既製品、軍需品等の道義的禁輸を斷行すべきことを主張する。米國市民個人として日ソ兩國産の之等の商品の買入れを中止するか、或ひは我國に産する同種商品の販賣を中止するのは全く合法的である。斯かる處理は政府の行動を必要とせぬから何等非友誼的の行爲とはならぬであらう。但し大統領に對日對ソ禁輸實行権能を與へることに反對である』と語つてゐる。

獨ソ新通商協定成立發表

獨ソ新通商協定成立發表
ドイツ外務當局は二月十二日獨ソ兩國間に新通商協定が成立したことを非公式に發表した。その内容は一兩日中に正式發表される筈であるが、同協定は昨年（一九三九年）九月以來モスクワ及びベルリンに於いて交渉續行中のもので交換物資の内容、引渡條件に關し兩者の意見一致せず難航を續けたが、約五ヶ月振りで漸く協定調印の運びに至つたものである。

二月十三日

獨ソ協定に對する英領の觀測

獨ソ協定に對する英領の觀測
イギリス議會に於いて、昨年十月締結された英ソ通商協定は事實上實行され

二四

△芬蘭外相 斷乎對ソ抗戰を言明

△ソ聯、芬蘭戰線不振挽回のため機械化部隊大量輸送を頼す
△一、二萬程度の遠洲遠征軍團及ニュージラランド軍團スエズに到着、遠洲軍はパレスチナにニュージラランド軍は埃及に駐屯

△ルーズヴェルト大統領、二億五千二百萬弗に上る

ソ聯邦通商概日誌

てゐないといふ發表があつたので、之と對照的に今回締結された獨ソ通商協定の効果が英國朝野の重大關心の的となつて居り、或る専門家の如きは十億マルクに依る物資の交換は少し大き過ぎて實行不可能と見て居る。また他の専門家等は之を必ずしも不可能とせず、今冬に入つて以來獨ソ間の通商取極めは成程全部實行されてゐる譯ではないが、ドイツは相當量の棉、穀物をソ聯から獲得することに成功し、ソ聯も亦相當数の工業製品をドイツより得てゐる。しかも是等の交換が戰爭のために運輸機關の欠如した中に、そして稀なる悪天候中に即ちその一つに本格的戰爭開始ともなればドイツが果してソ聯に對する義務を履行し得るだらうが、第二には運輸の困難なることである。ロンドン・タイムス紙のモスクワよりの報道によれば、イタリヤ紋にトルコがソ聯より石油を購入することを中止したから、ソ聯はドイツに對して年々百萬噸の石油を供給し得ると指摘して居る。又ソ聯はドイツに對して年々十萬噸の棉花、百萬噸のマンガン鐵を供給し得るものと見られ、中立國協定では獨ソ新協定の裏面にはトルコをバルカンから閉め出し、その影響が東南バルカン諸國に及ぶことを阻止しようとする密約があると思はれる。

次にフランス朝野の獨ソ新協定に對する觀測であるが、結局今日のソ聯の生産力に運輸機關の不十分な實狀から見て、ドイツ側が傳へる通商協定の内容は希望の薄いのであるとの見解を持つてゐるやうである。即ちマンガン鐵と木材のみはソ聯がドイツの要求に應じ得られるが、ドイツが現在要求してゐる六十五萬噸のコム粒に棉花、麻の要求に應じるためには、ソ聯に於ける此の種の生産額を四〇%引上げなければならず、他方イギリス其他の國々への穀類輸出額を現在の二倍にする必要がある。加ふるにドイツは十四萬六千噸の魚肝油を要求してゐるが、これらソ聯の提供し得る量は二萬二千噸程度に過ぎず、石油に就いてもソ聯石油生産額は一九三九年から一九三八年迄に一千四百萬噸から二千九百萬噸に上昇してゐるとはいふものの、その輸出量は年々反對に低下した。従つてドイツが戰時に於いて必要とする石油は一千百萬噸であるから、その不足額は著しい。穀物類に就いてもドイツの要求する百三十四萬噸に對して、ソ聯の供給額は三十萬噸に過ぎない。更らにドイツはソ聯邦の鐵礦

中立護國國防強化特別支出法案に署名を了す
△米、對外國資法案上院を通過す
△ルーマニヤ經濟使節團、ブルガリヤ首都ソフィアに到着
△コスタリカ新大統領として副大統領カルデロン・グワデア選出さる

二五

二月十四日 (水)

生産額の八〇%と、現在ソ聯が生産してゐる錫の二倍及び銅の四倍の額を要求してゐる有様で、今回新協定が締結されたと言へば此の効果が發揮されるとすれば戦争が長期化した遠い將來のことに屬するものと見てゐる。

ソ聯の輸入は専ら國內需要

ニューヨークの米ソ商業會議所の報道によると、ソ聯は一九三九年中に總計七千九百七十五萬弗の註文を米國に發したが、之は一九三八年度の六千五百萬弗、一九三七年度の四千三百萬弗に比し非常な増加である。而してこのうち一九三九年中の註文に就いて見ると五千六百萬弗は最後の四ヶ月間に發せられた分であつた。斯様に年末に至つてソ聯よりドイツへ再輸出が行はれてゐるものと推測が行はれてゐるが、米ソ商業會議所の調査によると、斯かる事實は認め難くソ聯の十二月中の買入れの大半は生産機械乃至は特殊の工作機械であり、又生産機械中の大部分はソ聯が目下計畫中の小型自動車製造用のものである。

ソ聯、米國より採油用機械買付

ソ聯の對米物資買付が最近問題化してゐる折柄、ソ聯は本日アメリカの商社に對して二つの大量註文を發したと傳へられてゐる。而して右註文のうち二百萬弗はロシアの油田に於いて採油用に使用されるガソリン・エンジン駆動機械購入に充當せられ、残りは蒸気タービンを購入するものと言はれ、之が輸出はシベリヤ經由で行はれるものと見られる。

二月十五日 (木)

米紙、對日ソ禁輸論を掲げ

ニューヨーク・ポスト紙は十五日付紙上社説に禁輸問題なる一文を掲げ、米國としては支那、フィンランドに對するクレヂット供與よりも寧ろ對日ソ禁輸こそ平和に資する途だとなつたと主張し、少額の貸付は吾人を戦争に引込みこそすれ支那及びフィンランドを救ふものではない、對日ソ禁輸断行こそ眞の平和に資する途である。

法案は假面を被つた希望、ヂェスチユア乃至は道徳的な愚めに他ならず、良

△米、對日禁輸案の審議無期となる

△英國、白耳義通商協定成立

△歐洲中立國に對する米國の輸出激増につき英佛側は開港への流入を懸念

△イタリヤ、バルカン方面緊張の折柄、一九一九一二十年間年度出生男子二十萬を召集

△芬蘭政府、マンネルハイム線の若干の最前線陣地陥落を確認

△獨逸政府、對芬援助強化せば對芬攻撃開始すべき旨關係各國政府へ通告

△英國政府、英國人義勇兵の芬蘭從軍許可

△獨逸國防會議議長ゲリーング元帥開議以來最初の經濟演説に於いて、對獨經濟封鎖の弱點を暴露

△芬蘭軍、マンネルハイムム戦放棄

二月十六日 (金)

ソ紙、獨ソ協定緊密化を強調

二月十六日附「イズヴェスチヤ」紙は獨ソ經濟協定に關する社説を掲げ、最近に於ける獨ソ關係の緊密化につき述べた後、今次協定に依りソ聯は獨逸に食糧品を含む原料を供給し獨逸より武器を含む工業製品を受けるとなつたので、今日英佛との貿易が皆無となつてゐるがソ聯は何等痛痒を感せず、ソ聯側の註文を解約した英佛は却つて之に依り損失を蒙つた。而して今や經濟上外國依存より離脱したソ聯は、英佛と貿易を行はずとも獨逸との貿易の増進に依り經濟を發達せしめることができ、加ふるに今次の經濟協定は獨ソ親善關係を益益鞏固し今次兩國國交發展に因り地盤を與へることとならうと論じた。

向一月十四日以來外國新聞の反響としてソ紙の報道した所に依ると、獨逸に於いては本協定に依つて英國側の封鎖は失敗したと報じ、ラトヴィヤに於いては今次の獨ソ協定は、獨ソ不和説を解消せしめたと言ひ、リスミアニアに於いては英佛は本協定の意義を承認してゐるので、獨ソ反對運動を激化すべしとなし、ルーマニヤに於いては本協定は英國の封鎖を破るものなりと觀測して居る行を報じた。

ソ支密約説流布

十六日香港發新聞電報によると重慶政權の特使賀耀組は、モスクワ到着以來ソ聯の對支援助強化につき頻りに策動を續け、今回ソ聯との間に秘密協定の成立したと報道されるに至つた。即ち右協定は蓋し孫科特使としてモスクワへ赴いた時より引續いて交渉中であつたもので、孫科のモスクワ滞在中は二點に關して意見の一致を見なかつたものが、今回賀耀組により遂に最後の諒解に達したものであると言はれる。同協定は八ヶ條より成り、そのうち最重要な二ヶ條は

ソ支密約説流布

ソ聯邦通商戰日誌

△米國のモルガン商會は來る四月一日を期し組合組織を法人組織に改組する旨發表

△ルーマニヤ青年師團司令官シンドロヴィチ羅馬馬到濟對伊接近工作を開始

△英佛兩國間通商調整擴大協定成立

△ソ聯の對近東攻勢に對處するため、英軍軍需局、埃及及びパレスチン方面に印度兵及自治領兵を増強

△ブルガリア新内閣成立首相ボグダンコフ(親ソ、ユーゴ派)、外相イヴァン・ボボフ(前ユーゴ駐劄公使)

△ソ聯軍績を芬蘭軍の據點を奪取

に對しては未だ蔣介石の同意を見ないため懸案の域を脱しなかつたのであるが、蔣も遂に之に同意したとの説も流布されるに至つた。最重要點の二ヶ條とは

一、重慶政権は中國共產黨の勢力範圍たる西北邊境特別區に於ける特殊事情を承認する。
二、ソ聯はソ聯より重慶側に供給すべき武器彈藥のうち二割が間違ひなく共産黨に支給されるべきことを條件として之が供給を約すといふことである。

次に重慶政権の譲歩により結局成立を見るに至るであらうといふ四ヶ條のうち經濟關係の一項は左の通りである。
一、ソ聯は巨額の對支借款に應ずるもこれが利子乃至は擔保を要求せず、重慶政権は二年乃至五ヶ年間に右借款の一部又は全部を現金又は債券をもつて支拂ふものとす。

●獨ソ新協定に對するソ聯紙の論議
ソ聯邦政府機關紙「イズヴェスチヤ」紙は十六日附の社説に於いて獨ソ新通商協定の意義に就き論議を加へた。注目される點は次の四點である。

一、新通商協定の政治的意義を強調してゐること。
二、獨ソ通商額は協定第一年に於いて既に第一次大戦以來の最高額を凌駕すると保障したこと。
三、一方英佛貿易の斷續を言明せること。
四、ソ聯がドイツから輸入する工業製品中には武器も含まれてゐることを明かにしたこと。

▲參考一獨ソ通商關係に就て
ゴズネンセンスキーが第十八回黨大會の演説を述べた處によると、ブルツクの著書「ストラテジー・オブ・ロー・マテリアルズ」中に擧げてある。二十二種の軍需原料のうち、ドイツは十八種が全然無いか、若しくは半分以下しか無い。即ち右の十八種は「鐵鑛、石油、鉛、アルミニウム、ニッケル、クロム、銅、雲母、硫黃、ゴオルフラム、マンガン、錫、アンチモン、水銀、磷酸鹽、ポタシ、硝石、羊毛」である。更らに、ソ聯誌「世界經濟と

二月十七日
(土)

ソ聯邦通商戰日誌

世界政治」がドイツのベルリン研究所、その他の資料から引用してゐる數字によれば一九三七年に於いて、ドイツは工業原料消費の約三五%、金額にして八億五千萬マルクを輸入に仰いでゐる。また、同年に於いて自國産の低質鐵鑛は僅か九百五十萬噸に過ぎず、他國から二千六十万噸を輸入してゐる。石油は一九三七年に四百萬噸を輸入してゐる。
次に之をソ聯側の對獨依存といふ觀點からすると、主要輸入品目のうち第一位を占める機械及び設備類に於いては一九三六、七年度にはドイツからの輸入が第一位で五〇%であつた。就中工作機械の輸入に於いてはドイツからのものが六〇乃至七〇%を占めたのである。鐵鋼製品もアメリカからの輸入に次いでドイツからのものが三五%を占めてゐる。
更らに、獨ソ協定交渉當時モロトフ、ソ聯外相と獨逸外相リッペントロフとの間に取換はされた公文を參考迄に引用すると次の通りである。
「今回の風次に互る會談を想起し、我々は閣下に對し今回獨ソ兩國間に成立した一般政治協定の基礎と精神に立脚し、ソ聯政府は獨ソ兩國間の經濟關係並に貿易關係を促進せしむべく凡ゆる努力を惜しまざるの熱意を有するものなることを確認通報するの光榮を有す。この見解に基き兩國は將來長期に亘り、ソ聯はドイツに對し原料資源を供給し、ドイツはソ聯に對し工業製品を供給するとの合意に於いて經濟取極めを締結するであらう。兩國は右經濟取極めにより獨ソ間の貿易額が過去に於いて到達した最高水準に迄達するやう取扱ふであらう。兩國政府は直ちに前記諸措置實行の爲に必要なる命令を發し、更らに右に關し兩國間に交渉が開始され、可及的速かにこの交渉が成立するやう努力するであらう。」

△米國務次官ワエルズ歐洲
に向出發
△シンガポール政廳新輸入
統制令を公布、現行輸入
制限を一段強化
△アルトマルタ號事件に就
きノルウェー對英抗議。
二九

二月十八日
(日)

二月十九日
(月)

二月二十日
(火)

二月二十一日
(水)

三〇

●在土ソ聯技師に歸還命令
イスタンブールからの報道に依れば、バルカンの情勢は益々險惡の度を加へ

獨は對ノルウェー抗議
△バラグワイ大統領議會を解散。新内閣を組織し事實上の獨裁権を確立
△ソ聯軍、マンネルハイム線中央突破
△ソ聯レニングラード軍管區司令部發表に依れば、カレリヤ地峡ビョルケ灣要塞地帯占領
△英、民間所有ドル證券一部強制買上に決定
△土耳古政府國防法實施決定。その要旨は△貿易統制△各種産業再編成△經濟的軍事的團結に有害なる諸般の活動に對する嚴格なる對策の樹立
△ソ聯軍司令部發表によれば、ソ聯軍はマンネルハイム線西端要衝コイヴィスト市及同地要塞占領
△英、來年度海軍豫算發表金額は十八項目千八百萬磅のみにて總額は未發表
△メキシコ政府は日墨通商協定締結の目的を以て通

二月二十日
(木)

二月二十一日
(金)

●獨ソ通商路破壞を囂る英艦
英國軍艦が目下フィンランド領ベツツアモ港沖合に放逐遊弋中であるが、確聞するに之はドイツ商船がノルウェー領海を獨ソ通商ルートとして利用することを阻止せんとする意圖の下に行はれてゐると見られる。

●英海軍のソ聯船拿捕事情
既報、タングステン艦を積載して浦湖港方面に向はんとしたソ聯船セルンガ號を發見した英國海軍は、香港附近の海上に於いて之を拿捕、香港に抑留し嚴重取調中である旨を明らかにしてゐる。同艦は佛領印度支那から合衆國へ向け積送するタングステン艦の一部約一千噸を巧みにマニラ方面で積取り、浦湖港へ向はんとした途程中拿捕されたことであるが、右のタングステンは歐洲大戰勃發前重慶政府とドイツとのパートナー協定によりドイツに積出すべき契約の一部であつたとされ、英國としては今猶ほ中立國としての取扱を受けてゐる。ソ聯の船舶が自國港に向つて航行中か、或る當然たる處置に出たことは英國の最近の對ソ方針を示唆するもので、目下セルンガ號船長はモスクワを通じて英政府に嚴重な抗議をし即時釋放方を要求してゐるが、英國今後の出方は頗る注目されてゐる。

ソ聯邦通商概目誌

●英佛の對ソ態度硬化
ローマから新聞電報によれば、ソ聯戦が長びき赤軍の眞價が再検討されると共に最近成立した獨ソ經濟協定が英佛に與へた反響は意外に大きく膠着を続け

三一

- △ルーマニア政府、全權備兵動員國防に必要な原料品(石油、小麦除外)輸出禁止
- △ノルウェー政府、海岸防備のため未教育兵動員
- △獨逸、ルーマニア間通商協定成立
- △ハンガリー、ルーマニア間新聞論議停止協定成立
- △イラク新内閣は西首相サイッド氏再組織、即英政策の強化豫想さる



二月二十三日

二月二十三日

てみた歐洲戦争の新たな發展を豫想せしめるに至つた。即ちソ聯は對芬戰爭に手を緩き歐羅巴の擴大は素より、英佛との戦争を望んで居るが、英佛側は此の成立により之が運行されるより之を援けて世界の同情を集め、獨ソ經濟協定のふ最初の豫想は完全に裏切られることになるので、此の對ソ聯を決定し、スカンデナヴィヤ並に近東に戦線を擴大して諸國海岸を封鎖し、芬蘭に對し、武力援助を與へ、芬蘭が獨ソの勢力下に立つのを防止すると共に、トルコ、イラク方面からバクラーの攻撃を行ひ、ドイツに對する石油供給路を遮断し、集蘭農場のトラクター其の他の動力原たる石油の國內供給の途を斷ち、ソ聯の農業に打撃を與へようといふのである。

●英艦隊北極洋出動説
二十三日コペンハーゲンからの報道によれば、デンマークの有力紙ベルリッグスケ・テイデンは英艦隊の北極洋出動説につき英佛兩國艦隊は北極洋に出動し、ソ聯のムールマンスタク港沖合に於いて海上封鎖を開始したと報じた。

●ソ聯艦隊も北氷洋に集結
ローマからの報道は英ソ間の關係悪化につき次の如く傳へてゐる。即ちその後の情報によると、英は諸國の海岸を封鎖し、又トルコを通じバクラーの擄撃を宣傳して、ソ聯からドイツに對し石油と石油の輸送路を斷たんとするのを目下目的とし、しかし、トルコがソ聯との國境に兵力を集中してゐることは官邊でも之を是認してゐるし、事實英國の軍艦はベツツアモ附近に至つてドイツがソ聯側に彈藥軍需品を供給するのを監視して居り、ソ聯の潜水艦約二十隻はベツツアモに集中され、古い艦は多いがソ聯の北極洋艦隊二十隻もムールマンスタクに於いて出動準備を整へてゐる。一方、獨の軍艦が芬蘭の北國境附近の海上に集中されてゐるとの情報もある。

●獨ソの合作に北歐諸小國脅かす
英國に達せる情報として、ロンドン二月廿五日發電報は獨ソ合作に脅ゆる北歐諸小國の情勢に關して大要次のやうに報じてゐる。即ち獨ソ間には相當のところまで話が進められ、芬蘭戰局の發展と共に兩

- △獨伊新通商協定調印、有效期間本年末迄、内容極秘とす
- △ヒットラー總統ナチス黨結黨二〇周年記念祭に於いて強硬決意披露
- △伊・土間に通商協定成立
- △トルコ軍三十五萬ソ聯國境地方に集結、國防法發布以來最初の動員、但しトルコ官邊之を否定
- △北歐三國外相會議コペンハーゲンに開催、中立聲明を發表して即日終了
- △和蘭領上空に於て獨逸和

二月二十六日

二月二十七日

國共同に依る壓迫が西漸するは必定としてゐる。ドイツの希望としてはソ聯をソ聯の勝利裡に一日も早く終結せしめ、此の戦争に依つてソ聯が巨額に消費しつゝある物資をドイツに供給せしめること、特に現在ソ聯よりの輸出が殆んど不可能である石油、鐵、銅の輸出を可能ならしむることである。また芬蘭に地歩を固めた暁、ドイツはソ聯との合作により瑞典、諸國に對し經濟的には勿論、政治的軍事的に有利な位置を占め、以つて對英佛戰に備ふることを目的としてゐる。斯かる目的からドイツは近き將來或はソ聯に對し、武力的援助を與へるかも知れずとの観測もあるが、兎も角も獨がスカンデナヴィア諸國に對し右の如き壓迫を加へるとすれば同半島の前途は殊に多難といふべく、また同時に英佛聯合國に對しても大なる脅威となるであらう。

●ソ聯の軍需品輸入激減
獨ソ經濟協定の強化が世界の視聽を集めてゐる折柄、ソ聯への軍需品輸入は英國議會に於て問題となり、これに關し保守黨議員ビーミッシュ流軍少將は二月

ソ聯邦通商戰日誌

- △閩南國機空中襲撃
- △米國、汎米航空會社、來る三月十五日以降大西洋橫斷定期航空路に就航のクリツパ一機は、英領バリームダ島に着陸せず、アゾレス群島のポルタ港に直行する旨發表
- △今回のダイヤ變更はイギリスがアメリカ政府歴次の抗議にも拘らず、依然バリームダ島に着陸する飛行機に對し、その搭載するアメリカ郵便物の検閲を行つてゐるためと解さる
- △海峽植民地爲管理強化
- △イタリヤ經濟代表團、ルーマニア首都ブカレスト到着、伊羅接近傾向顯著となる
- △訪歐の米國務次官ウエルズはローマでチアノ外相、ムツソリーニ首相と會談
- △獨逸機、巴里空襲
- △ソ聯軍、芬蘭ウイイアリ市攻撃

二月二十八日

二十七日下院に於いて政府の説明を求めた結果、經濟戰爭大臣クロスは次の如き答辯をなした。

最近に於いてドイツ以外の國からのソ聯の軍需品輸入等は著しく減少してゐるやうである。尤もゴム、銅、モリブデン等一部商品に關しては昨年九月より本年一月迄の間の貿易統計に徴してみてもソ聯のドイツ以外からの輸入は一九三七一—一九三八年同期に於けるよりも増加を示してゐる。これら輸入品はウラジホストロツクを經由してソ聯に輸入されてゐる。

●油田開發に關する獨ソ協定説
二十七日當地に達した情報によれば、最近獨ソ兩國間にソ聯のバシキール油田の開發に關し暫定協定が成立した模様である。勿論その具體的な内容等は判明しないが、現在バシキール油田の產油額は年三百五十萬噸乃至四百萬噸であるのを七百萬噸程度に増加させるの増産分だけをドイツに輸出せんとするもので、既にドイツ人技師團が同油田に赴いて石油増産に當つてゐると言はれる。(パリ・同盟)

●在重慶ソ聯顧問等歸國

二十八日附香港からの通信によれば、ソ支軍事協定によるソ聯の操縦士、機關士、對空防衛隊等航空顧問の支那派遣は昨年十月初來支した約十名から成る軍事顧問の到着を最後として、爾後ソ聯軍事顧問の派遣及ソ聯武器の對支供給は國共關係の惡化と歐洲政局の急變に依り停止されるに至り、加ふるにソ蘇戰爭勃發の結果、ソ聯では愈々多数の軍事技術者を必要とする關係から、數回に互りソ聯の在支軍事顧問を召喚し既に全顧問の約四分の三は歸國を終つたと傳へられてゐる。

△參考ソ支航空協定に就て

昭和十四年十二月二日の大公報重慶特電に依ると、ソ聯領中央アジアのアム・ダタに於いて重慶當局とソ聯領との間に航空協定が締結され、十二月末日より、一週一往復の定期航空路の開設を見る筈であつた。また同月五日のロンドンの重慶電に依り愈々獨ソ支航空協定が開始されたやうに報道されたが、ドイツ外務省筋では右報道は之を尙早なりと辯じてゐる。然るに右の二つの報道を證明するかの如き、ソ支航空旅客機輸送が正式に五日に開始さ

三四

△芬蘭軍司令部、芬蘭軍はベツツアモ地防衛隊陣地より撤退を發表

△英、來年度非軍事豫算發表、總額五〇六百萬磅で前年度より六五百萬磅減

△ルーマニア使節團、佛國より歸還、佛羅武器供給秘密協定締結

△佛、ダラヂエ首相近く情報省設置の意向を言明下院は宣傳機關制度の改善政策に關し、之を政府に一任することを可決

△淺間丸事件、拉致獨逸人廿一名中九名廿九日横濱で受渡と決定殘餘は尙折衝中

△獨逸政府、獨白國境交通制限

△來朝中の獨ライヒスバシキール顧問ヤル・フアリツヒと日銀當局者及財界人との間に日獨貿易懇談會開催

△英國諸國戰時通商協定成立、諸國船舶に對し戰時禁制品取締令の適用を除外

△芬蘭軍ツイブリー市より

れた。旨の報道が齎らされた。即ち重慶—モスクワ間は三機就航、そのうち重慶—哈密(新疆省東端)間は支那機を使用、哈密—アルマ・アタ間並にアルマ・アタ—モスクワ間にはソ聯機を使用するといふ報道であつた。

- △後退
- △佛國府、戰時下農業生産力擴充の爲
- 一、パン切符配給
- 二、菓子製造業週二回休業
- 三、後方勤務兵士に對する農事休暇
- 四、武器地域閉塞の四制度を決定

ソ聯邦通商戰日誌

一九四〇年三月

三月記事索引(一九四〇年)

三月一日	ソ紙獨ソ經濟關係緊密化を強調……………(五七)	三月十七日	獨ソ關係に對する米紙の論評、ソ聯の新通商條約提唱……………(四七)	三月三十日	ト會議に於けるモロトフの演説、對ソ策に關し英佛の意見一致……………(六五) 倫敦タイムス、對ソ關係惡化を報ず……………(六六)
三月五日	ソ聯商工代表の獨逸訪問、ソ聯船太平洋岸で軍需品を積込む、獨伊ソ經濟フロック可能か……………(五三)	三月十八日	日ソ漁業本協定に關する質疑應答……………(四七)		
三月七日	ソ聯技師一行蘭州到着……………(五三)	三月二十日	獨ソ關係の新展開豫想……………(五三)		
三月十日	ソ聯イラン通商條約近く調印、露領漁區競渡終了、英ソ通商に關する下院の質疑應答……………(五三)	三月二十四日	ソ伊接近の範圍廣げならず……………(五三)		
三月十一日	英 米國よりの對ソ物資輸出を警戒、ソ聯イラン通商協定假調印……………(五三)	三月二十五日	獨伊ソ關係に對する佛國側觀調ソ聯イラン通商協定調印……………(五三)		
三月十二日	三漁區喪失事情を帝國議會で答辯……………(四七)	三月二十六日	英佛、對伊接近に躍起……………(五三)		
三月十三日	伊ソ通商交渉開始の氣運、道義的禁輸に關する米國務省の見解……………(四七)	三月二十七日	對獨經濟封鎖に關する英經濟戰爭大臣の答辯……………(五三)		
三月十四日	道義的禁輸ソ芬協和に關係なく續行……………(四七)	三月二十八日	佛の對ソ態度硬化……………(五三)		
三月十六日	獨外相訪伊ソ説流布……………(四七)	三月二十九日	對ソ懸案解決の前途多難、ソ聯商船承捕に關する倫敦タイムスの報道……………(四七)		
		三月二十九日	ソ聯邦最高ソツイエ……………(四七)		

ソ聯邦通商條約日誌索引

三月一日 (金)

ソ聯邦通商概日誌

●ソ紙、獨ソ經濟關係緊密化を強調

一日附ソ聯政府機關紙「イズヴェスチヤ」は歐洲戰爭半年の經過に關し左の如き論評を掲げた。

獨逸は北方及東南方に活路を有しソ聯邦と經濟關係を緊密化しつつあるのて英佛の封鎖戰術は成功せず、ソ聯を自己陣營引入に失敗した後、今次戰爭を世界大戦に轉化せんが爲スカンヂナヴィア、近東、巴爾幹に策動したが、芬蘭、土耳其に關しては若干成功したがスカンヂナヴィア及巴爾幹に關しては失敗した。又大國に對する工作としては伊太利をして一時中立せしめ、日本を一定方向に向はせ、米國を味方として參戰せよとせしめてゐる。即ち支那の犠牲に於いて日本と一時妥協し日本をソ聯に反對せしめ太平洋に戰爭を勃發せしめんとしてゐる。之を要するに英國の目的は獨逸を分割して世界を征服するに在る。(R)

△參考—獨ソ協定と新貿易法

モスクワ一九三九年九月九日發電報はソ聯政府發布の新貿易法に就いて次のやうに報じた。即ち、ソ聯政府は歐洲戰局の發展に對應して凡ゆる事態に處する目的のため萬全の準備をしてゐるが、九日外國貿易に關し「現金自國船主義」の原則に基く新法令を發布した。それに依ると、政府は必要に應じて輸出品の制限に禁止を行ひたる旨を發表した。右の新貿易法が業に締結した獨ソ通商協定に對して如何なる影響を及ぼすかは不明であるとは言へ、ドイツが二億マルクの信用をソ聯に供與したことから推して、同法は特に對英佛輸出貿易を目標としたもので、獨ソ通商關係には變化を來さないものと見られてゐる。

- △日滿伊貿易協定は協定條文第九條第五項により自動的に六ヶ月間延長さる
- △英 伊太利向獨逸貨物にも拿捕令適用決定
- △佛國 戰時經濟統制強化のため新法令を發布、即ちフランス銀行の金準備を現在の對米爲替率を規準として再評價を行ふ、物價停止令施行、食料切符制の採用に關するものである
- △印度國民會議派、英國政府の即時印度解放要求拒否に抗爭するため全印度不服從運動開始を決議
- △訪歐の米國務次官ワウエルツ、獨外相リッペンホルツと會談、獨外相は英國による經濟制壓を破砕するまで和平に應ぜずと言明
- △事變來日本海軍陸戰隊の警備下に在つた上海共同租界蘇州河以北地域は日本側と工部局側との協定の下に工部局警察に復歸
- △ルーマニヤ總動員

三月二日
(土)

三月三日
(日)

三月四日
(月)

三月五日
(火)

●ソ聯商工代表の獨逸訪問
テヴォーシヤン造船工業人民委員は過般獨ソ新通商協定を締結してベルリンより歸任中であつたが、近くソ聯の商工業代表團一行を伴ひ再度ベルリンへ赴くこととなつた。一行はベルリンに於いて獨ソ新通商協定の實施細目その他に

- △米、輸入銀行の債額増資に關する對外國投資法案成立
- △關印政廳は綿布タオル類及び衛生陶器の輸入割當制を三月一日より向ふ一ヶ年間延長の旨公布
- △獨逸・土耳其古通商協定(百十萬リラ)成立傳へらる
- △イタリヤ政府は獨逸石炭につき英國の獨貨奈捕令に抗議
- △獨逸空軍、西部戰線上空に於いて空中戰
- △マレー聯邦政廳は本年第二季の國內錫生産許可率を六五%に決定
- △印度のボンベイに紡績職工の總罷業勃發、十五萬の勞働者事實上罷業状態に入る
- △佛國政府、兵役免除者を復役
- △日本・ルーマニヤ通商協定成立
- △カール駐英大使、天津現銀引渡に關し重慶政府

三月六日
(水)

就いて種々協議を行ふ豫定である。(モスクワ・同盟)
●ソ聯船太平洋沿岸で軍需品を積込む
五日發メキシコ・シチイ電報に依ると、メキシコ駐在米外國情報係筋よりの情報として次の如く傳へてゐる。即ちソ聯汽船「ニセフエ」號は最近太平洋岸の某港から米國産の銅やメキシコ産の鉛、その他金屬類等の軍需資財千百噸を積取り出帆したが、更らに同じ港へ「ミンスク」號、「エンゲルス」號なる二隻のソ聯汽船が近く入港して同様の貨物を積み取り、油槽へ向ふ豫定と言はれる。之は總てシベリヤ經由でドイツへ仕向けられる軍需品と見られ、英國の太平洋方面に於ける戰時禁制品取締強化が傳へられる折柄注目されてゐる。(メキシコ市・同盟)

●獨伊ソ經濟プロツク可能か
ジュルナル紙スイス特派員の報道によると近くドイツはイタリヤに對し、獨・ソ・伊の三國經濟プロツク結成のため、イタリヤの獨ソ經濟協定への参加を奨励するものと見られるといふことである。尙此のドイツの企圖は昨年十二月クロイツス獨通商局長がローマ訪問の際に既に提示され、今日迄イタリヤの明確な回答を得なかつたものであると。

ソ聯邦通商戦日誌

- と漸次折衝の結果近く解決を見る模様
- △英國三分利付公債三億磅公發發表
- △イタリヤ、石炭節約令公布、光學、機械、纖維は前年の八割、衣服、皮革、食料は六割その他は五割の割當で配給は切符制度となる
- △英佛軍の近東集結に對抗するためソ聯はイラン、アフガニスタン國境に進攻準備と傳へらる
- △佛伊通商計畫樹立を目的とする一九四〇年度の兩國通商取極め假調印を了す
- △芬蘭元大統領辭芬和平交渉参加の爲、瑞典首都ストックホルムに到着
- △對獨封鎖に基く英米間の諸問題を解決する使命を帯びて來米せる米佛使節はハル國務長官を訪問、折衝を開始

三月七日 (木)

●ソ聯技師一行開州到着
 重慶發U・I通信によれば、蔣介石政府の重工業開發計畫援助の爲め、ソ聯より電氣、航空、水力、機械等の技師並に鐵道關係の専門家の一行が開州に到着したが、之はモスクワに於ける賀爾祖とソ聯當局との會談の結果であつて、官邊に於いては在支ソ聯顧問の歸國に關する日本側の懇道を否定してゐる模様である。(U)

△参考一援蔣問題に就いて蔣介石の他方本願政策は事毎に其の抗戦力の低下振りを暴露してゐるが、特に對ソ關係維持に躍起となつてゐる重慶は日ソ問題の動向に極めて敏感であることは當然であらう。例へば嘗て一九三八年八月の張敬峰事件の際に於いても、日ソ間に停戰協定が成立したことに依りソ聯對支援助に非常な危機の念を抱いたのである。即ち一九三九年九月十八日の重慶よりの情報はこの間の事情を傳へてゐるのである。日ソ停戰協定の成立、ソ聯軍のポーランド進入の報は、ソ聯が歐洲に全力を集中して極東に於ける援蔣政策を變更すべきことを意味するものとして重慶政府を痛く狼狽させ、蔣介石は慈遜王爾惠、孫科、宋子文等要人と共に之が對策を展覧し、駈つて抗戦支那の將來執るべき方針に就いて重要協議を重ねた。而して重慶側は獨ソ不侵條約の締結によりソ聯の極東に對する壓力が強化されるものと豫想してゐただけにソ聯の動向に依り、重慶側の誤算が明らかとなるや極度に狼狽し、重慶政府は抗戦の前途に對して非常な悲觀的空氣につつまれてゐる模様であつた。

三月八日 (金)

- △米國務次官ウヰルズバ里 到京、佛首相と會談
- △佛國下院、戰時下院業生 諸力擴充に關する政府提出法案を可決
- △米、ジョージア州の礦産局長 官は重慶政府に對し二十萬弗追加借款を許可した旨發表、尚デンマークに一千萬弗、アイスランドに百萬弗の借款を夫々供與する事に決定
- △米國務次官ウヰルズバ里 使、ルブラン佛大使、ダラデイエ首相を訪問意見を交換
- △薩州政府、工業用ダイヤモンド、新聞用紙、ウォルフラム、灰重石の輸出を禁止

四〇

三月九日 (土)

三月十日 (日)

●ソ聯・イラン通商條約近く調印
 ソ聯・イラン通商條約はモスクワに於いてソ聯側ニコヤン貿易人民委員及對伊爾ソ聯通商代表アレクセーエフ、イラン側サエド在ソ伊爾大使及び通商代表セイアー間にイニシアルせられた。正式調印は近くテヘランに於いて行はれる。

ソ聯邦通商戰日誌

- △英、爲替管理令を強化し、毛皮、錫、ジュエト、ゴム、ウキスキの特定國への輸出は特定外貨に依り支拂はるべき事に改正二十五日より實施に決定
- △日本、衆議院本會議に於て聖職完遂決議案可決、首相之に對して確固たる方針を闡明
- △英佛産業協定成立
- △英國空軍、維納及ブラーハ偵察
- △英國政府は抑留伊船全部の釋放を決定せる旨發表
- △米、ピットマン上院外交委員長ラジョ放逐を行ひ、歐洲戰爭の三十日間の休職を提唱
- △米、國務次官ロンドン到着
- △芬蘭政府瑞典の調停に基きソ聯との間に就て和平交渉續行中と發表
- △獨外相リッペンロフ訪伊ムソワーニ首相と會談
- △英國、諾威戰時通商條約成立

四一

る等。
尚同協定はソ聯より糖、砂糖、洋灰、綿布等、伊國側より米、乾果物、羊毛、家畜等を供給する伊國貨「リアル」建の物々交換であつて有効期間三年間の模様である。(R)

●露領漁區廢止

本年(昭和十五年)度露領漁區買賣は十月正午ウラヂオのソ聯極東漁業廳に於いて履行されたが、右結果に關し、在ウラヂオ阿部露水租代表より同日露領水産組合へ入電があつた。それによると、露領は日本側日魯及佐野、ソ聯側ダリルイボ、プロドウト及アセコ各三名参加の下に豫定通り履行された結果、本年度露領漁區として過般發表された更新漁區、日本側七(日魯六佐野一)ソ聯側十七、計二十四漁區(内露領漁區はソ聯二、他は全部露領漁區)に對し、我方の露領漁區は日魯三(漁區番號二〇、五一、二〇六、一二八八)佐野一(五三三)合計四漁區にして日魯側三漁區(イチンスキ一區所在漁區番號六五〇、六七四、六七五)は何れもソ聯側に奪取された。一方、ソ聯側一七個所の露領漁區を露領、アセコは同じく一個所を我方より取得して十一漁區を露領し計九二漁區と三漁區を得得増加した。尙この結果本年度露領漁區現勢は日本側三三漁區に對しソ聯側は三九〇となり、我方漁區を露領奪取せるソ聯側今回の非友好的態度は頗る遺憾とされると共に我方漁區の年次の減勢は憂慮される。

●英ソ通商に關する下院の質疑應答

北歐の情勢重大化に伴ひ英政界の關心は自らソ聯の動向に向けられてゐるが、十日午後下院の質問に於いてブライス労働黨議員とバトラー外務次官との間に英ソ通商交渉再開問題に關し次の如き質疑應答が行はれた。
ブライス議員 政府は英ソ通商交渉を再開してゐるか。
バトラー次官 通商交渉再開については最近未だソ聯政府との間に一度も交渉は行はれてゐない。尤も右交渉再開問題は最近ハリファックス外相と會見の際ブライス議員、ソ聯大使が申込まれたものである。
ブライス議員 政府は重要原料品の對獨流入を阻止し得る英ソ通商協定の重大性にお氣つきか。

三月十一日

●英 米國よりの對ソ物資輸出を警戒

バトラー次官 勿論御意見通りである。目下政府は凡ゆる角度から考慮中である。
ブライス議員 尙シソ駐ソ大使のモスクワ歸任に就ては如何。
バトラー次官 現在のところ何日シツ大使がモスクワに歸任するか正確な日程は極つてゐない。
十一日附「ウォール・ストリート・ジャーナル」華府通信に據ると政府は既に錫及ゴム等の再輸出の差控へ方を當業者に警告してゐたにも拘らず、之に聽従しないものがあるのに鑑み之が徹底を期する爲め國務、陸軍兩省が中心となり、商品取引所及之等物資の購入者側と協議を行ひ、賣買契約に輸出禁止條項を挿入させる方法を考慮中であるが、右の方策でも猶ほ成果を収め得ない場合は、輸出許可制度を實施することとなるらしく、他方英國は最近米國よりは等物資のソ聯への輸出が激増したのは、結局獨逸の手に渡るものと視み、萬一米國が満足に再輸出を防止できない場合に於いては、これら物資の英領からの輸入を米の特許商社に獨占させ、右商社に對し米國內配給先に付再輸出を行はせない責任をとらせる制度の實施を考慮中とのことである。(ワシントンR)

△參考一英の對ソ軍需物資阻止策

ソ聯に輸入される軍需物資が獨逸へ再輸出される懸念から、英國は之が阻止に躍起の有様であつたが、二月廿九日附トリビューン紙は、同廿八日附ロンドン特電として、昨年来太平洋航路に依る對ソ軍需物資輸出が激増してゐるが、その一部はメキシコより浦潮、シベリヤ鐵道を經由して獨逸に向けられてゐる事實に對し、英國は重大なる關心を有し、必要とあれば太平洋の海上封鎖を擴張する意向であると傳へられたが、最も信すべき筋よりの情報に依れば、英國は所謂道義的禁輸の強化に依り、對ソ軍需物資の輸出阻止に就いて米國の協力を求めつゝある趣であると報じてゐるが、一方、ロンドン發U・P電は、英國はカナダ、西海岸に封鎖艦隊基地を準備中であるかと報じた。

●ソ聯・伊國通商協定假調印

ソ聯通商協定目録

ソ聯・イラン兩國代表は豫てモスクワに於いて通商交渉を行つて居たが十一

△獨伊會談 經濟協定の大概に關し新協約成立
△ソ聯・イラン通商航海條約モスクワに於いて假調印

△米國務次官英國皇帝に謁見、英國首相及外相と會談

△英諸戰時通商協定調印を了す

△英首相下院に於いて、英佛兩國政府は芬蘭政府の救援要請に應へ可能な凡ゆる方法を以て即時且つ共同して救援に趨く用意ある旨通告した旨言明

△インド、ジュート工場聯合會は操短實施を可決、四月八日より實施の豫定

△歐洲炭坑夫組合は、戰時物價の昂騰に鑑み、炭坑

三月十二日

日ミコヤン外務貿易人民委員、イラン駐劄ソ聯經濟代表アレクセイエフ氏及び駐ソ・イラン公使サエド氏、イラン經濟使節サイアード氏との間に新通商航海條約の假調印が行はれた。而して右新條約は近くテヘランに於いて正式調印を見る豫定である。

●三漁區喪失事情を議會で答辯

浦潮の極東漁業廳で十日行はれた露領漁區の競賣で從來我が方が持つて居た漁區の中から三個の漁區をソ聯側に落札奪取された事情につき、十二日の衆議院豫算總會に於いて右田外相は左の通り答辯した。

外相の答辯要旨

一、御承知のやうに漁區の中で安定漁區と稱せられるもの、或ひは特別漁區と稱せられるもの、これは手をつけず依然日本側の保留のままになつて經營されることになつてゐる。それ以外の漁區については期限の切れたものはソグイエト側からも競賣致し又日本側からの分も競賣致す、これは毎年の例である。今年期限が切れて競賣に出したもののうち、從來日本が持つてゐたものの中三漁區がソグイエト側の方に落札したといふことである。このソグイエトの方に落札した漁區の經濟上の價值に就ては只今正確な情報をもつてゐないが、主なるものは安定されてゐる譯であつて、競賣に期限がきて出されるものは比較的價值が少くないのであつた譯である。今回ソグイエトの方に落札された三つの漁區は何の程度のものかいま承知してゐないが今日迄のところでは特に墜道行為があつたから、といふ風なことは未だ報告に接してゐない。普通の競賣手續によつて競賣に附せられたものが從來日本の持つて居つたもの、三漁區だけソグイエト側に落札した。かういふことだけしか目下の所分つてゐない。

一、ソグイエトの特殊な機構からして、競賣といつても事實は他の國に於ける競賣と同様に行かないことはお話しした通りである。従つて安定漁區といふ風な制度の設けられたもの、ソグイエトの方の競賣制度といふものに全幅の信頼を置き得ないといふことからさうなつてゐるのであるから、競賣に附せられたもの、落札の状況その他に就て日本政府として十分な監視をすることは必要である。今回向ふの競賣した三個の漁區が果してどういふ風な状況の下に於て落札したのであるかといふことはまだ不明であるので、政府がこれに對してどういふ處置をとるかといふことはこの場合申上げ兼ねる。併しいまお話ししたやうな濫用されたいふことになれば際限のないものでもといふことは、政府としても十分承知してゐるのであるから、その處置によつて本件をなほ取調べて見る必要があると思ふ。

△参考—日本側三漁區落札記録
昭和十五年度露領漁區の競賣入札に参加したのは邦人側は日魯及佐野野商入札の六漁區に對し落札三漁區といふ結果になつたが、在浦潮日魯社員より露水組合に到達した電報内容は左の通りであつた。
本日(三月十日)豫定の通り競賣執行せられし處入札参加者邦人側日魯及び佐野の二名、ソ聯側マリイボ・プロドクト及びフセコの二名にして提出バケット数は五個なり、而してその結果は左の如し

日魯漁區	一、二〇五	二五、五〇〇留
同	一、二〇六	一五、七〇〇留
同	一、二八八	一三、六〇〇留
計	三ヶ所	五二三
佐野漁區	一ヶ所	三二〇〇留
計	一ヶ所	三二〇〇留
マリイボ・プロドクト漁區	九ヶ所	
計	九ヶ所	
フセコ漁區	二ヶ所	
計	二ヶ所	

而して本年度競賣發表漁區は日本側七漁區(日魯六、佐野一)、ソ聯側一七漁區(内露領漁區三)であつたが、右落札の結果本年度新漁區は日本側四漁區に對しソ聯側二〇漁區となつた譯であり、日魯漁業が租借してゐたソボーチヌイ第六五〇、六七四、六七五の三漁區はフセコ及びマリイボ・プロドクトに取られ、其他には移動がなかつた。従つて本年度現在に於ける日ソ兩國漁區租借数は日本側三五に對しソ聯側三八八漁區となり、一九三一年迄日本側漁區が優勢を示してゐたが、次年度より逆にソ聯側が優勢となり、その傾

ソ聯邦通商日誌

四四

主側に要求提出中の處勞費の意見全く對立し遂にニューカズスル地方其他に莫大坑罷業勃發

△新支那中央政府生誕を控へて汪精衛宣言發表

米内首相之に呼應して聲明

△米國、六億五千五百萬弗に上る海軍擴張案下院を通過

△英丁職時通商條約締結

△英國軍備省、十二非鐵金屬に關し増産委員會設立

△英國商務相、議會に於て今後メリヤス以外のシャツ輸入は海國品を除外し、全部禁止する旨言明

三月十三日 (水)

向は依然として持續され、本年度實質に於いて更らに優劣の差が激しくなつた譯である。

●伊ソ通商交渉開始の氣運

ソ聯和平成立を契機として、ソ聯のバルカン政策並に之に伴ふ今後の伊ソ關係が注目されるに至つたが、イタリヤ官憲では十三日近くソ聯との間に新通商協定締結交渉が開始するとの見解を持し、ソ聯通商代表一行は過般米ミラノ市に滞在して伊ソ新通商關係樹立の準備を急いでゐたが、一行は近くローマに乘込みイタリヤ政府當局と新通商協定の締結交渉を開始する豫定である。このため一行の首席代表は本國政府の訓令を仰ぐ爲め既にモスクワに向け出發したと述べた。尙此の伊ソ接近を物語るものとして去る十日、十一日兩日に互リソソベントロップ獨外相のローマ訪問に次ぐこの伊ソ通商交渉の報道に對し當地政界に於いても異常の注目を拂つて居り、これを機會に或は伊ソ兩國關係を緊密化すべき何等かの決定的變化が齎らされるのではないかと成行を重視してゐる。

●道義的禁輸に關する國務省の見解

米國の對ソ聯モラル・エム・バーゴの效果に關し十三日附「クリスチャン・サイエンス・モニター」華府通信は國務省官員の言として次の如く報道した。モラル・エム・バーゴの目的達成に最も遺憾な點のあるのは錫であつて其の他のものの中にも中立國經由ソ聯に達したものが相當あるやうだが、モリブデンに就いては當業者中政府の方針に従はない者があつたと報せられてゐるとは言へ、客年十二月の輸出激増は既約品の積立を焦つた爲めで、之は二月中旬の八十超を最後として跡を斷ち、各會社とも政府に協力し新約品が殆んど無くなり、カナダがモリブデンの競争品たるニッケルの輸出を止めたのと相俟つて、ソ聯を困却させたものと認められる。又飛行機用良質ガソリン製造技術及び設備が幼稚な爲め、高オクタン價の油を要する最新飛行機の使用が制限される結果を來した。之は今次の對芬戰爭に反映して居り、米政府のモラル・エム・バーゴ措置は效果を収めたものと見られる。(ワシントン・R.)

四六

- △ソ聯・フィンランド間和平成立、軍事行動十三日停止とソ聯正式發表、その内容はカレリヤ地嶽全部芬蘭海の數島、リパテイ半島一部等をソ聯に割譲、ハンゲ半島を含む地域を租借並にソ聯軍事基地建設を芬蘭側承認す
- △ウエルズ米特使はロンドンに於いて英首相其他と會談
- △伊ソ通商協定交渉近く開始の運びと伊政府言明
- △獨逸・フィンランド間經濟協定成立
- △獨逸・エストニア經濟協定成立
- △芬蘭外相、敗戦理由は民主主義國の背信に在りと放送演説
- △伊太利政府、アルプス要峯綏靖完成を發表
- △英國、軍事費七億磅支出の擴充を政府に附與する法案を議會に提出
- △芬蘭外相タネルは瑞典及

三月十四日 (木)

●道義的禁輸ソ芬協和に關係なく續行

國務省は三月十四日の記者會見に於いて、現に實行中の重要物資のモラル・エム・バーゴ、殊に非鐵國會員途に對する飛行機用良質ガソリン製法及び設備の輸出差控措置は、ソ聯最終協定後にはソ聯に對して適用されるかとの質問に答へ、米政府のモラル・エム・バーゴはソ聯協和條約に依り何等影響を受けず且つ斯る政策は自動的に終了するものでないと言へ、之が續行の方針を明かにしたが、官憲に於いてはソ聯協和條約に依り何等影響を受けず且つ斯る政策は自動的に終了するものでないと言へ、モラル・エム・バーゴ適用を停止すればソ聯は今迄抑へられて居た物資を大量に買込むべく、且つソ聯が今後隣國を侵略しないとは保障し難いのに鑑み、再び侵略に乘出した時再び右措置を適用しても効果が無いとの考慮から、従前通り適用することに決したと述べられる。(ワシントン・R.)

△參考一芬紙、米ソ通商協定を怨恨

ソサイエト・フィンランド戰爭を契機としてアメリカ合衆國はソ聯に對して道義的禁輸の措置を講ずるとの聲明を成し、芬蘭に對しては援助を示して來たが、これは單に精神的援助に止まり遂に和平の氣運が見えるや俄かに積極的和平交渉を斡旋するなどの舉に出たが、一方、米ソ通商協和に對しては却て従前よりも増大の傾向を示したと言つて芬蘭側では不滿の意を表明してゐると傳へられた。即ち芬蘭社會民主主義黨機關紙「スウォーメン」ソチアル・デモクラチヤ紙は「米國輸出銀行が芬蘭に對して三千萬那のクレジットを供與したが、一方、ソ聯に對して飛行機用ガソリンを大量的に賣却して居り、このガソリンに依り芬蘭住民の都市住宅が空爆を受けて甚大な損害

四七

- 諸國三國間に近く防禦的軍事同盟締結すべしと發表
- △獨逸産石炭の伊太利供給に關する獨逸・伊太利通商協定成立、伊太利石炭消費量の殆んど全部が獨逸石炭に依ることとなる
- △漢洲政府、内閣を改造、メンジリス首相の下に組閣を完了
- △英國商務省、非鐵金屬輸出制限令公布、三月十八日發效、仕向地の如何を問はず殆んど全種類に互る非鐵金屬輸出は政府の許可を必要とする

三月十九日
(水)

進む積りかと思問したのに對して島田農相は「本協定を改訂して行くことについては兩國意志の疎通はあるが進行が捗らないのである」と答へ、更に有田外相から「昨年暫定協定を行つた際、本年中に本協定を取極めることになつたので、政府としてはその趣旨によつて條約案を準備し、それに基づいて交渉を開始しようとしてゐるのであるが實質的交渉には未だ入つてゐない」との答辯があつた。

三月二十日
(木)

●獨ソ關係の新展開豫想

駐獨ソ聯大使アレキサンダー・シユカルツェフ氏は二十日飛行機でモスクワに到着したが同氏はドイツ側からスターリン黨書記長へ宛てた重要文書を携行してゐるとの傳聞を呼んでゐる。同氏の出發は二十一日又は二十二日あたり獨ソ關係に更に一步を進めた重大展開が齎されるであらうと今週初め以來ベルリンで執拗に取沙汰されてゐた風説と關聯あるものと看做されてゐる。ドイツ各紙は競争激しく、ソ聯は政治上の利害關係上獨伊兩國と協同動作を執るであらうと宣傳し、特に出る十七日ソ聯人民委員會議長モロトフを主賓として駐ソ獨大使シユレンブルグ氏がモスクワに於いて開催せる招待會の記事は昨今のドイツ新聞紙上を特別に賑はしてゐる。或る筋では右招待會の催しはモロトフ氏のベルリン訪問を可能ならしむる幕開きとしてこれが重大意義を認めてゐる。

△參考—獨ソ通商問題に就て

獨ソ通商協定に關する大綱的發表があつたのは一九三九年十一月一日であ

五〇

商協定調印

△支那派遣軍總司令官は聲明を發表し、從來軍の管理下にあつた鑛山、工場等の支那財産を返還する旨を宣言

△獨逸政府ブレナー會談に關する和平説流布に對し正式に否定

△英國首相、下院に於て獨逸、瑞典を攻撃せば瑞典を援助すべしと演説

△新中國建國のため中央政治會議開始、中央政治會議組織要綱及び組織條例發表

△獨逸、軍需官新設、戰時に於ける軍需品生産關係の凡ゆる機關を一指導機構の下に統制しその能率を最高度に發揮せしめんとする目的のため設置されたもので、軍需相には自動車道路長官トッドを任命

△ダラチエ内閣総辭職

三月二十日
(木)

り、これに引續きベルリン及びモスクワには兩國の經濟代表團本部が設置されたのであつた。これと平行的にソ聯邦の經濟使節團はドイツ國內各工場を視察した。之はソ聯がその爲多額の機械製品を駐文せんとする準備であつたと思はれる。一方、ドイツ側は之と交換的にソ聯に對して小麦、ゴム、鑛石類の購入を申入れたのであつた。斯様に右獨ソ協定は現金精算を以てせず原則的にバーター制によつたのである。而して最初の獨逸側のソ聯製品購入高は約八千萬米弗であつたが、その後更に増額された。然るに同月十一日附ドイツ經濟紙「ゾット・ヘン・ブラット」紙は獨ソ經濟關係に就いて就説で述べてゐる大要は次の如くであつた。即ち

「ソ聯はドイツが比較的豊富に所有してゐる石炭及び鐵を輸出し得るが銅、亜鉛、ニッケル、鉛の如きドイツの最も必要とする軍需資材を供給し得る可能性が極めて少く、また石油資源はソ聯に豊富にも拘らず、尤大なる國內需要を充足し得ぬ現狀にあり、従つてその對獨輸出も自ら制限される譯であると言つて悲觀的な論評を擧げた。」

三月二十日
(金)

ソ聯邦通商協定目録

△支那中央政治會議第二日に於いて臨時維新政府、華北政務委員會の組織等を決定、新民會は存置することになつた。

△英國政府、全食料品(動物飼料、鰵油を除く)、油類を含む酒類、生魚、乾魚及生動物を除く)輸入禁止命令を公布

△佛國、左右兩派を包含するレイノール臨時内閣成立

△佛國下院は新内閣の信任投票を行ひ之を可決

五一

三月二十七日
(土)

三月二十四日
(日)

●ソ伊接近の範圍廣範ならず
獨、伊、ソ三國接近説が擧げられると共に、イタリヤの態度が注目されてゐるが、之についてオランダ各方面の意見を綜合すると、第一はイタリヤの根本的態度、第二には英佛との關係、第三にはローマ法王座との關係(このソ聯に對する關係は依然として悪い)の他に日本並にアメリカとの關係を考慮する必要がある。これらの諸條件を併せると、現在のイタリヤの根本的態度が重大なる變化を受けない限り、伊ソ諒解の範圍はそれ程廣くないものと見られ、精々獨ソ伊三國に依るバルカンの現狀維持か又は伊ソ聯間の貿易關係促進の程度ではないかと推察される。

●獨伊ソ關係に對する傳聞調査
パリに於ける外交消息筋では伊ソの援助を以てするバルカンに對するドイツの外交攻勢は必至であるといはれてゐる。しかし、その成功は疑問であるといふ一般に樂觀的見解を執つてゐるが、伊ソ通商協定交渉に關しては、「相當に進捗してゐる模様であるが、軍事同盟に關する交渉は全然將來性が無い」としてゐる。

●ソソイラン通商協定調印
ソソイラン聯邦、イラン兩國間に於て交渉が進められて居た通商航條條約は二十五日イランの首都テヘランに於て調印を了した。(ソ聯誌「世界經濟と世界政治」一九四〇年第四一五合併號)
●英佛、對伊接近に躍起
英伊通商關係は過般の石炭問題以來行詰りの状態になり、その後ローマに委

五二

△佛國首相、副總理、國防相、兵器相、植民相、鐵道、封鎖相の七閣僚を以て組織する軍事委員會の新設を決定

△レンングラード及ワイボルク間に鐵道の定期連絡開始

△ドイツ情報局はドイツがルーマニヤに對し經濟的要求を含む最後通牒を發するであらうといふロイツル通信を反駁した

△ノールウェー政府はイギリス軍艦に依つてノールウェーの中立が妨礙されたことに對してイギリスに抗議した

△ソ聯政府、佛國政府の要求に基き駐佛ソ聯大使の

三月二十七日
(水)

員會を設けて打開調整を計つたが成功せずそのまゝとなつてゐたが、今回英政府は特に英外務省で地中海經濟問題の専門家といはれるブレイフエア氏をローマに派遣し來り、英伊通商關係打開に努力せしめてゐる。ブ氏の來伊に依つて果して英伊通商問題が好轉するか否かは俄かに判斷できないが、ブレンネル會談後所謂ドイツの外交攻勢の具體化として伊、獨、ソ聯の通商接近が問題となつてゐる折、英政府がブ氏を特使したことは注目されてゐる。一方、佛國に於いてはブレンネル會談後獨、伊、ソ聯三國關係の展開殊に獨ソ間に介在するイタリヤの態度を重要視してゐる。

●對獨經濟封鎖に關する英經濟戰爭大臣の答辯
英國議會に於いては對獨經濟封鎖の實績に關し現在幾多の報道があり、其の實效が擧つてゐないといふので、政府攻撃の空氣が濃厚となつてゐるが、該問題の重要な點及び之に對する三月二十七日の英經濟戰爭大臣の答辯要旨は次の通りであつた。

一、米、ソ、伊其他獨逸隣接國を通し多量の物資が獨逸に流入して居り經濟封鎖の實效が擧つてゐないこと。
二、開戦後四ヶ月間米國より獨逸隣接國十三國中への輸出は前年同期の三千五百萬磅から五千七百萬磅に増加したこと。
三、ソ聯の軍需品の輸入は如何なるルートに依り如何なる國を經由し何國の船舶に依るか、又最終到着地は何處か。
四、最近米國より、戰前には無かつた浦潮向錫、石油、ゴム等の輸出が増加したこと。
右に關する答辯に據ると、ソ聯の軍需品輸入(獨逸を除く)は最近可成減少した模様である。米國より錫、ゴム、銅、モリブデンの輸入が激増してゐることを知るが、之は米國、メキシコ、フィリッピン、閩領印度よりソ聯、和蘭、日本、諸國等の船舶に依つて浦潮向輸送されてゐる由である。然し太平洋には現在英國の臨時禁制品「コントロール」が無いので之が防遏につき考慮中である。但し浦潮ルートの使用には制限があるもの如くである。
尚右に關し、二十七日、八兩日ロンドン發り通信は、下院に於いて經濟戰爭相は質問に答へ、米國其他より太平洋經由浦潮に運搬される物資中獨逸に

ソ聯邦通商戰日誌

召還を發表

△伊太利洪牙利首相會談、伊洪協調政策の一般方針樹立

△佛國首相、英佛兩國の結合は必ず最後勝利を確保すべしと放言演説

△獨逸油槽船「ダニエ」浦河

△獨逸油槽船「ダニエ」浦河

△レイノール佛首相、英國訪問の爲め出發

△芬蘭内閣更迭、舉國一致

△加察院政府爲替局、加察院に還流する加察院紙幣及磅貨に對する米ドル賣却を四月一日以降中止することに決定

五三

三月十八日
(木)

向けられるものが判然としないのに鑑み、加察院西岸を基地として戦時禁制品検査實施方を考慮中であると述べ、又ソ聯が輸送線路を太平洋に移したのには、ソ聯政府所有船が歐洲海面で一定の検査を受けるのを潔しと思はれるが、經濟戰爭中の答は對獨經濟封鎖が不完全であるとの議員の不滿を緩和するためデエスチュアに過ぎず、實際に浦潮近海に警戒網を張る餘裕の無いことは明らかであると報じた。(R)

●佛の對ソ態度硬化
フランス政府は去る三月十九日駐ソ、バイヤール代理大使を通じて、ソ聯政府に對しスリットツ駐佛ソ聯大使の召還を要請したことが判明したが、之はフランスの對ソ強硬方針を示唆するものとして識者の注目を惹いてゐる。尤も之より先フランス政府は、在佛ソ聯商務館事務所の家宅搜索を行ったことがあり、兩事件共にレイノール内閣成立前に起つたものであるが、レイノール新首相自身も去る二十二日組閣完了當日の午後下院に於ける施政演説で對ソ強硬方針を示唆してゐる。右に關聯して目下病氣の爲め醫國中のナチャール駐ソ大使の歸任如何が問題となつてゐるが、パリ・メディア紙によると「ナチャール大使の病氣は何時恢復するか不明である」とのことであり、斯くてフランスの對ソ態度は今後益々硬化の一途を辿るものと見られるに至つた。一方レイノール首相は近くボンセ駐伊大使に召還命令が發する模様であるが、之を契機として續々各國駐在の大公使を本國に召還し各任地の最近の状況を親しく聴取した上、ドイツの外交攻勢に對抗しフランス外交の一大刷新を企圖するものと見られてゐる。(P)

●對ソ懸案解決の前途猶ほ多難
ソ聯の對日動向に關して、東朝紙は第七十五議會終了後の外交展望と題する記事で左の如く述べてゐる。
ソ聯の對日動向は最近更に再轉した。ノモンハンンの停戰協定以來、日ソ關係の好轉が傳へられたが、今年初頭からソ聯獨特の權外交の本質を現はして、北極海の利權問題を筆頭に全面的國境確定問題も漁業本條約の交渉も一向に軌道に乗つてこない、ソ聯は昨年未漁業暫定交渉が進められた時「北極代償金さへ解決すれば漁業本條約の交渉も進めるつもりである」と確言し

- △日佛通商交渉パリに於いて再開
- △ウエルズ米特使歸米す
- △ブラジル銀行務員の取引を停止し廿九日より實施の旨發表
- △バラグワイ外務省はバラグワイ、ボリヴィア、プ

ソ聯邦通商戰日誌

てゐるにも拘らずその後獨特の遷延策を講じてゐる。フィンランドとの停戰はこの傾向を一層助長した。對ソ問題の中一番成績の良かったモスクワに於ける通商交渉も未だなく、松島通商代表は近くスエーデンの任地に赴くことになる模様で、對ソ懸案の解決は相變らず前途多難を思はせる。
●ソ聯商船査捕に關する倫敦タイムズの報道
ロンドン・タイムズ紙外交記者は、二十七日マイスキ駐英ソ聯大使がハリフアックス外相を訪問したのは、極東に於いて英國軍艦がソ聯商船「セルンガ」號及「ウラジミール・マヤコフスキー」號に對して香港回航を命じたことに關するものと想像されるが、前者はアンチモニー、錫、ウオルフラム等、後者は米國産銅を積載して居り浦潮近海へ輸入の嫌疑があつたものである。ソ聯側は之に對し該商船は固有船なるのみならず、是等の貨物はソ領内に於て消費せられるものと主張してゐる旨を報道した。(ロンドン・R)

- ラジル、アルゼンチン、ウルグワイの五ヶ國にて經濟交通調査會を開催する事に決定した旨發表
- △英佛第六次戰時最高會議、倫敦に於て開議、共同コミュニケ發表、英佛兩國政府は昨年十二月サイモン、レイノール英佛兩首相に依つて調印された兩國共通の利害並に安全分野に互る協定を擴大すべく左記の如き餘項を共同宣言した。
- 一、兩國政府は今次戰中兩國の合意ある場合を除き如何なる休戰又は和平條約交渉にも應諾せざる事
- 一、兩國政府は相互に兩國の安全に關する友好且つ家族的保障を確保するに必要な條件につき完全な意見の一致を見る迄和平條件討議には應ぜざる事
- 一、兩國は和平成立後、於いても兩國の安全を確保し同時に各國民援

三月二十日
(金)

●ソ聯邦最高會議に於けるモロトフの演説
三月廿九日ソ聯邦最高會議第六會期に於いて人民委員會議長兼モロトフ外務人民委員が外交演説を行つたが、そのうち對外經濟關係に關する點に言及して大要左の如く政府の方策を表明した。

對列強經濟關係

ソ聯邦と獨逸との關係の改善の急務は昨年八月締結せられた不侵條約に現はれた。此の良好なる新獨ソ關係は獨逸側に於ける事件により試練せられ、その確性を充分に示した。當時、即ち昨秋に於いて既に豫想せられた經濟關係の發展は、八月(一九三九年)及二月(一九四〇年)の通商協定の中に其の具體的表現を見た。獨逸及ソ聯邦間の商取引は相互の經濟的利益を基礎として増大し始め、將來に於けるその發展の根據が存する。英國及佛との我々の關係は若干變つて來た。ソ聯邦に對する佛國及英國の政策の敵性を示す他の事實も最近數ヶ月間に少くはなかつた。

佛國當局が二ヶ月前に巴里に在る我通商代表部に對して警察的襲撃を行ふこと以上の良策を持合はさなかつたことを指摘すれば充分である。通商代表部に於いて行はれた家宅搜索は總ての口實に拘らず、何等の結果も齎らさなかつた。

又米國及支那に於て吾人が購入した商品を購入して浦潮に向け航行中であつた我二隻の商船を極東に於て英佛軍艦が拿捕したるが如きソ聯邦に對する關係に於いて敵意ある實例を見るがよい。若し之に英國に於ける工業製品に對する從前の註文の履行拒絶、在佛通商代表部の金額に對する押收處分及び其の他多くの事實を附加するならば、ソ聯邦に對する英佛當局の敵性は一層

獨ソ通商に對する中傷

對獨貿易によつて吾人が獨逸の對英佛戰を援助してゐると、我對外貿易に對する右敵性行爲を證明せんとする試みが行はれた。斯る議論が何等の價値も無いことは納得し得る。これが爲めにはソ聯邦はルーマニヤとでも比較する必要がある。周知の如く、對獨貿易はルーマニヤの對外商品取引高總額の半額を占め、而かも例へば石油製品及穀物の如き主要物資については、對獨輸出中に於いてルーマニヤ國産品の占むる割合は、ソ聯邦の對獨輸出中に於いてソ聯邦國産品の占むる割合を遙かに凌駕してゐるのである。それにも拘らず、英國及佛國政府はルーマニヤに對して敵性行爲に訴へては居らず、又ルーマニヤに對し對獨貿易の中止を要求し得るとも認めてゐない。ソ聯邦に對する態度は全く異つてゐる。従つて英佛側の對ソ敵性行爲はソ聯邦に對し易によつて説明されるのではなくして、英佛兩國政府當局が對獨戰に於いてソ聯邦を利用せんとする計畫に失敗し、この爲め彼等がソ聯邦に對し報復政策を行つてゐることによつて説明されるのである。

對日關係に就いて

日本との關係には或る種の困難がないではないが、然しそれでも若干の問題は解決した。昨年十二月三十一日に締結せられた本年度の日ソ漁業協定は日本が長期間遲滞してゐた北鐵に對する最終撥込金の支拂ひに對する日本側の同意が之を物語つてゐる。然し日本との我國の關係に大なる満足を表することはできない。即ち今日に至るまでソ聯邦・日滿兩代表間に行はれた長期に亘る交渉にも拘らず、客年軍事紛争のあつた地方に於ける國境確定に關する重要問題は未解決に終つてゐる。日本により拂込まれたる北鐵最終撥込金の正常な利用に對する障害は日本當局に依つて續けられてゐる。多くの場合に於いて日本官憲の日本及滿洲に於けるソグイェト機關の勤務員に對する態度は全く正常なものではない。最後に日本に於いてはソ聯邦が如何なる場合に於いてもその利益の侵害を許容しないことを理解すべきである。日ソ關係に就いては斯かる理解ありてこそ初めて其の關係は圓滿に發展し得る。(モスクワ・R)

ソ聯邦通商戰日誌

五六

助の下に人民の自由保障法の嚴重並に歐洲平和の維持を確保すべき國際的秩序の再建に必要なる限り一切の部面に於いて共同動作を執る事

△ルーマニヤ、イタリヤ間通商協定(二十日調印)の内容發表、リラ對レイの換算率を一對九・五(暫七・一七)と公定



三月三十日
(土)

三月三十日
(日)

●對ソ策に關し英佛の意見一致

廿八日の英佛戰時最高會議の結果に關しては各方面種々の觀測が行はれてゐるが、二十九日タイムズ紙は右會議に關する外交記者の觀測を掲載しソ聯に關する英佛兩國の見透しは完全に一致してゐること左の如く論じてゐる。
佛ソ兩國ともスリットツ駐佛ソ大使召喚問題に關して極端な言辭を用ひてゐないが、現在佛ソ關係が危殆に瀕してゐることは疑ひない。昨年八月の裏切りを始めバルチック海諸島並に港灣の占據、フィンランド侵略等に見られる如くソ聯の政策は益々露骨となつて來た以上ソ聯に關する英佛今後の方針は完全に一致してゐる。フランス側代表はシベリヤ經由の對獨輸送路を特に重大視し就中ソ聯船に依る鑛物資源の對獨輸送は斷乎阻止せねばならぬと主張してゐる模様である。(ロンドン・同盟)

●倫敦タイムズ、對ソ關係悪化を豫言す

二月三十日附(倫敦タイムズ)紙は對ソ問題に關して詳細な説明を掲げてゐるが、その概要は左の通りであつた。
二十九日以來英國政府が佛國に對し、對ソ政策を緩和するより壓力を加へたといふ風説があるが、之は全然無根であつて、佛國よりはスリットツの召還要求、英國よりはマイスキー駐英ソ聯大使の申出につき報告があつただけで何等意見の相異が無く、余抽ソ聯船二隻は香港より佛領に移されたが、之は中立國船が濫檢の爲めジブラルタルよりマルセイユに移されるのと同様兩國協力の意味に過ぎず、マイスキーの通商交渉開始の私的提議に關してはソ聯の無誠意、過去の實績及對獨再輸出問題等の爲め實現が不可能であると思はれる。要するに獨ソ關係は英佛の對ソ關係を改善せしむる何等の理由も無く、對ソ關係は悪化を辭せないとの趣旨が外相からアトリー労働黨首に談ぜられたことである。(ロンドン・R)

△新中華民國政府成立、南京遷都式典舉行、新政府十大政綱を發表
△英國海相、對獨經濟戰爭完遂及び對ソ不宣戰を放送

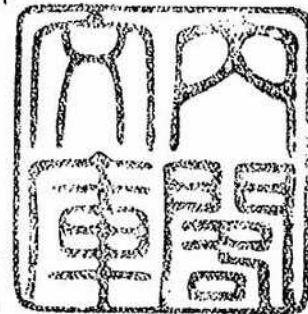
△第六回ソ聯邦最高會議開催
同會議に於いてカレリヤ自治共和國をカレロフイン共和國に改編する法律案を採擇

ソ聯邦通商戰日誌

△濱洲政府四月一日より輸入制限強化
△英國、和蘭間通商協定成立、右はオランダ中央輸入管理局宛品物の輸入を英國が正式に認めることを主眼とするもの

本日誌編纂上使用せる主要資料

- 一、企畫院外情資料
- 一、陸軍省主計課別項資料
- 一、外務省通商日報
- 一、露西亞月報(外務省)
- 一、ソヴェート聯邦事情(滿鐵)
- 一、同盟資料
- 一、朝日新聞
- 一、日ソ年鑑
- 一、日露年鑑



- 一、日ソ通信
- 一、歐亞通信
- 一、ブラウダ
- 一、イズウエスチヤ
- 一、トルード(労働新聞)
- 一、インドウイストリヤ(工業新聞)
- 一、ミロウオーエ・ハジヤイイスツウオ・イ・ミロウアーヤ・ボリーテイカ(世界經濟と世界經濟誌)
- 一、ウネーシニヤヤ・トルゴウリヤ(外國貿易雜誌)